

09/82/248



日本国特許庁

PATENT OFFICE
JAPANESE GOVERNMENT

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されて
る事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed
in this Office.

出願年月日
Date of Application:

2001年 3月14日

願番号
Application Number:

特願2001-073153

願人
Applicant(s):

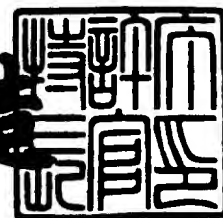
株式会社リコー

CERTIFIED COPY OF
PRIORITY DOCUMENT

2001年 4月 6日

特許庁長官
Commissioner,
Patent Office

及川耕造



出証番号 出証特2001-3027223

【書類名】 特許願

【整理番号】 0100918

【提出日】 平成13年 3月14日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 H04N 5/225

【発明の名称】 画像入力装置、コンピュータが実行するためのプログラム、および画像付き文書作成方法

【請求項の数】 60

【発明者】

【住所又は居所】 東京都大田区中馬込 1 丁目 3 番 6 号 株式会社リコー内

【氏名】 関 和之

【発明者】

【住所又は居所】 東京都大田区中馬込 1 丁目 3 番 6 号 株式会社リコー内

【氏名】 興石 隆保

【発明者】

【住所又は居所】 東京都大田区中馬込 1 丁目 3 番 6 号 株式会社リコー内

【氏名】 鈴木 啓一

【特許出願人】

【識別番号】 000006747

【氏名又は名称】 株式会社リコー

【代理人】

【識別番号】 100089118

【弁理士】

【氏名又は名称】 酒井 宏明

【先の出願に基づく優先権主張】

【出願番号】 特願2000-100126

【出願日】 平成12年 3月31日

【先の出願に基づく優先権主張】

【出願番号】 特願2000-100137

【出願日】 平成12年 3月31日

【先の出願に基づく優先権主張】

【出願番号】 特願2000-136406

【出願日】 平成12年 3月31日

【先の出願に基づく優先権主張】

【出願番号】 特願2000-109973

【出願日】 平成12年 4月11日

【先の出願に基づく優先権主張】

【出願番号】 特願2000-109974

【出願日】 平成12年 4月11日

【先の出願に基づく優先権主張】

【出願番号】 特願2000-109975

【出願日】 平成12年 4月11日

【先の出願に基づく優先権主張】

【出願番号】 特願2000-269419

【出願日】 平成12年 9月 5日

【先の出願に基づく優先権主張】

【出願番号】 特願2000-269420

【出願日】 平成12年 9月 5日

【先の出願に基づく優先権主張】

【出願番号】 特願2000-269421

【出願日】 平成12年 9月 5日

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 036711

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

特 2 0 0 1 - 0 7 3 1 5 3

【包括委任状番号】 9808514

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 画像入力装置、コンピュータが実行するためのプログラム、および画像付き文書作成方法

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 被写体像を結像するための光学系と、
結像された被写体像を画像データに変換する撮像手段と、
少なくとも、記録すべき 1 または複数の被記録対象のタイトルを各々示すカット名を含む撮影リストを入力するための撮影リスト入力手段と、
前記撮影リスト入力手段で入力された撮影リストを記憶する記憶手段と、
表示画面に情報を表示するための表示デバイスと、
前記記憶手段に記憶された撮影リストに含まれるカット名を前記表示デバイスの表示画面に表示させるカット名表示手段と、
を備えたことを特徴とする画像入力装置。

【請求項 2】 さらに、前記記憶手段に記憶されている撮影リストの一覧を前記表示デバイスの表示画面に表示する撮影リスト表示手段と、

前記表示画面に表示された撮影リストの一覧の中から 1 の撮影リストを選択する撮影リスト選択手段と、

を備え、

前記カット名表示手段は、前記撮影リスト選択手段で選択された撮影リストに含まれるカット名を表示することを特徴とする請求項 1 に記載の画像入力装置。

【請求項 3】 前記撮影リスト入力手段は、接続される情報処理装置から転送される前記撮影リストを受信するための通信手段を含むことを特徴とする請求項 1 に記載の画像入力装置。

【請求項 4】 前記撮影リスト入力手段は、

接続される Web サーバーのホームページをブラウジングして、前記ホームページ上の前記撮影リストをダウンロードする Web ブラウジング手段を含むことを特徴とする請求項 1 に記載の画像入力装置。

【請求項 5】 さらに、前記表示画面に表示されたカット名の中から 1 のカット名を選択するカット名選択手段を備え、

前記カット名選択手段により1のカット名が選択された場合に、記録モードに移行することを特徴とする請求項1に記載の画像入力装置。

【請求項6】 前記記録モードでは、前記被記録対象の静止画像、二値画像、および動画像、ならびに音声のうちのいずれかの記録データが記録されることを特徴とする請求項5に記載の画像入力装置。

【請求項7】 さらに、前記記録モードで記録した記録データをHTMLファイルに変換するHTML変換手段を備えたことを特徴とする請求項6に記載の画像入力装置。

【請求項8】 さらに、前記HTMLファイル変換手段で変換されたHTMLファイルをWebサーバーのホームページにアップロードするアップロード手段を備えたことを特徴とする請求項7に記載の画像入力装置。

【請求項9】 前記記録モードで記録した記録データの記録ファイルのパラメータ内に前記カット名選択手段で選択されたカット名を付加することを特徴とする請求項6に記載の画像入力装置。

【請求項10】 前記記録モードで記録した記録データの記録ファイルを、前記カット名選択手段で選択されたカット名に関連づけて記憶することを特徴とする請求項6に記載の画像入力装置。

【請求項11】 前記記録モードで記録した記録データの記録ファイルのファイル名は、少なくとも一部に前記選択手段で選択されたカット名を含むことを特徴とする請求項6に記載の画像入力装置。

【請求項12】 前記記録モードで記録した画像データに前記カット名選択手段で選択されたカット名を合成することを特徴とする請求項6に記載の画像入力装置。

【請求項13】 前記カット名表示手段は、前記カット名選択手段で撮影リストのカット名が選択された後に、記録データの記録が行われた場合には、当該カット名に対応した記録が行われた旨を表示することを特徴とする請求項6に記載の画像入力装置。

【請求項14】 前記カット名表示手段は、前記カット名毎に、撮影済み枚数を前記表示デバイスの表示画面に表示することを特徴とする請求項13に記載

の画像入力装置。

【請求項 1 5】 前記撮影リスト内のカット名の全ての撮影が終了した場合に、撮影リストの撮影が終了した旨を、指定される送信先に送信することを特徴とする請求項 1 に記載の画像入力装置。

【請求項 1 6】 前記カット名選択手段により 1 のカット名が選択された場合に、記録モードに移行し、被写体のモニタリング画像と共に前記選択手段で選択されたカット名を前記表示デバイスの表示画面に表示することを特徴とする請求項 1 に記載の画像入力装置。

【請求項 1 7】 前記カット名選択手段によりカット名が選択された場合に、記録モードに移行して、所定キーの操作に応じて、被写体の静止画像、二値画像、および動画像、ならびに音声のうちのいずれかの記録データの記録を行い、記録ファイルとして前記記憶手段に記録する記録制御手段と、

前記撮影リスト毎に、前記記録ファイルをグループ化するグループ化手段と、
を備えたことを特徴とする請求項 1 に記載の画像入力装置。

【請求項 1 8】 前記グループ化手段は、撮影リスト毎に前記記録ファイルをフォルダに登録してグループ化することを特徴とする請求項 1 7 に記載の画像入力装置。

【請求項 1 9】 前記撮影リストは、さらに、各カット名に各々対応し、かつ使用者に指示を与えるための撮影指示情報を含み、

前記カット名選択手段により 1 のカット名が選択された場合に、前記選択された撮影リストの対応する撮影指示情報の内容を報知することを特徴とする請求項 1 に記載の画像入力装置。

【請求項 2 0】 前記撮影指示情報の内容は、撮影の手順または撮影後の作業の指示であることを特徴とする請求項 1 9 に記載の画像入力装置。

【請求項 2 1】 前記撮影指示情報の属性は、テキスト文書、図面、音声、および動画のいずれか 1 つで構成されることを特徴とする請求項 1 9 に記載の画像入力装置。

【請求項 2 2】 前記撮影リストは、さらに、各カット名に各々対応し、かつ被記録対象を記録する際の設定条件の自動設定および／または記録後に実行す

べき自動処理の指示を与えるための自動処理指示情報を含み、

前記カット名選択手段によりカット名が選択された場合に、記録モードに移行して、前記カット名選択手段で選択されたカット名に対応する自動処理指示情報の内容に従って、被記録対象を記録する際の設定条件の自動設定および／または記録データの記録後に実行すべき自動処理を実行することを特徴とする請求項 1 に記載の画像入力装置。

【請求項 2 3】 さらに、外部とデータ通信するための通信手段を備え、

前記カット名選択手段で選択されたカット名に対応する自動処理指示情報の内容が、データ記録後のメール添付送信の指示である場合には、前記記録モードで記録した記録データをメールに添付して、前記通信手段を介して指定される送信先に送信することを特徴とする請求項 2 2 に記載の画像入力装置。

【請求項 2 4】 さらに、外部とデータ通信するための通信手段を備え、

前記カット名選択手段で選択されたカット名に対応する自動処理指示情報の内容が、データ記録後のサムネール添付送信の指示である場合には、前記記録モードで記録した画像データに対応するサムネール画像をメールに添付して、前記通信手段を介して指定される送信先に送信することを特徴とする請求項 2 2 に記載の画像入力装置。

【請求項 2 5】 さらに、外部とデータ通信するための通信手段を備え、

前記カット名選択手段で選択されたカット名に対応する自動処理指示情報の内容がデータ記録後の画像データの変倍メール添付送信の指示である場合には、前記記録モードで記録した画像データを指定される大きさに変倍してメールに添付して、前記通信手段を介して指定される送信先に送信することを特徴とする請求項 2 2 に記載の画像入力装置。

【請求項 2 6】 さらに、外部とデータ通信するための通信手段を備え、

前記カット名選択手段で選択されたカット名に対応する自動処理指示情報の内容が、データ記録後のホームページへのアップロードの指示である場合には、前記記録モードで記録した画像データを HTML ファイルに変換して、前記通信手段を介して指定されるホームページにアップロードすることを特徴とする請求項 2 2 に記載の画像入力装置。

【請求項 2 7】 さらに、外部とデータ通信するための通信手段を備え、

前記カット名選択手段で選択されたカット名に対応する自動処理指示情報の内容が、データ記録後のホームページへのアップロードおよび当該ホームページの URL アドレスの通知の指示である場合には、前記録モードで記録した画像データを HTML ファイルに変換し、前記通信手段を介して指定されるホームページにアップロードするとともに、アップロード先のホームページの URL アドレスを前記通信手段を介して指定される送信先に送信することを特徴とする請求項 2 に記載の画像入力装置。

【請求項 2 8】 さらに、メモ情報を入力するためのメモ入力手段を備え、

前記カット名選択手段で選択されたカット名に対応する自動処理指示情報の内容が、データ記録後のメモ情報の入力指示である場合には、前記記録モードでの記録後に、メモ入力モードに移行し、前記メモ入力手段から入力されるメモ情報のファイルを前記記録モードで記録した記録データの記録ファイルと関連づけて格納することを特徴とする請求項 2 に記載の画像入力装置。

【請求項 2 9】 さらに、メモ情報を入力するためのメモ入力手段を備え、

前記カット名選択手段で選択されたカット名に対応する自動処理指示情報の内容が、記録後のメモ情報の入力指示である場合には、前記記録モードでの記録後に、メモ入力モードに移行し、前記メモ入力手段から入力されるメモ情報を、前記記録モードで記録した画像データと合成することを特徴とする請求項 2 に記載の画像入力装置。

【請求項 3 0】 前記メモ情報は、テキスト文字または手書き文字であることを特徴とする請求項 2 9 に記載の画像入力装置。

【請求項 3 1】 前記メモ情報の前記撮影された画像に対する合成位置は任意に設定可能であることを特徴とする請求項 2 9 に記載の画像入力装置。

【請求項 3 2】 さらに、音声を入力する音声入力手段を備え、

前記カット名選択手段で選択されたカット名に対応する自動処理指示情報の内容が、記録後の音声入力の指示である場合には、前記記録モードでの記録後に、音声入力モードに移行し、前記音声入力手段から入力される音声のファイルを前記記録モードで記録した画像データの記録ファイルと関連づけて格納することを

特徴とする請求項 2 2 に記載の画像入力装置。

【請求項 3 3】 前記カット名選択手段で選択されたカット名に対応する自動処理指示情報の内容が、撮影画像に対する日付の合成の指示である場合には、前記記録モードで画像データを記録した後、当該画像データに日付を合成することを特徴とする請求項 2 2 に記載の画像入力装置。

【請求項 3 4】 前記カット名選択手段で選択されたカット名に対応する自動処理指示情報の内容が、撮影画像の解像度の設定指示である場合には、撮影する際の解像度を設定指示に応じて設定することを特徴とする請求項 2 2 に記載の画像入力装置。

【請求項 3 5】 前記撮影リストは、記録すべき被記録対象の 1 または複数のカット名と、当該カット名に対応する被合成情報とを含み、

前記選択手段により 1 のカット名が選択された場合に、記録モードに移行し、当該記録モードで撮影した画像に、前記撮影リストの前記選択手段で選択されたカット名に対応する被合成情報を合成することを特徴とする請求項 2 2 に記載の画像入力装置。

【請求項 3 6】 前記被合成情報の前記撮影した画像に対する合成位置は任意に設定可能であることを特徴とする請求項 2 2 に記載の画像入力装置。

【請求項 3 7】 前記撮影リストは、記録後に実行すべき自動処理の指示を与えるための自動処理指示情報を含み、

前記カット名選択手段によりカット名が選択された場合に、記録モードに移行して、所定キーの操作に応じて、カット名毎に撮影を行い、撮影した画像データを前記撮影リストの自動処理指示情報に従って処理することを特徴とする請求項 1 に記載の画像入力装置。

【請求項 3 8】 前記自動処理指示情報が、複数画像の合成の指示である場合には、前記カット名毎に撮影した複数の画像を合成することを特徴とする請求項 3 7 に記載の画像入力装置。

【請求項 3 9】 前記自動処理指示情報が、複数画像の補正指示である場合には、

前記カット名毎に撮影した複数の画像を補正することを特徴とする請求項 3 7

に記載の画像入力装置。

【請求項 4 0】 前記撮影リストは、さらに、機種名情報を含み、前記自動処理指示情報は前記機種に応じた内容であり、

前記入力手段により入力される前記撮影リストの機種名情報を読み出して、自機の機種名と前記撮影リストの機種名とが一致するか否かを判断する判断手段を備え、

前記判断手段により自機の機種名と前記撮影リストの機種名とが一致すると判断された場合に、前記撮影リストに基づいて撮影を行うことを特徴とする請求項 2 2 に記載の画像入力装置。

【請求項 4 1】 被写体像を結像するための光学系と、
結像した被写体像を画像データに変換する撮像手段と、
前記撮像手段から出力される画像データを一時的に格納するメモリと、
前記メモリに格納される画像データを所定のファイル形式で記録媒体に記憶する記憶制御手段と、

表示画面に情報を表示するための表示デバイスと、
Web サーバーのホームページの Web 情報を取り込んで、前記メモリに表示データとして格納し、前記メモリに格納した表示データを前記表示デバイスの表示画面に表示する Web ブラウジング手段と、
を備え、

前記メモリに格納された表示データを前記所定のファイル形式で前記記録媒体に記録することを特徴とする画像入力装置。

【請求項 4 2】 さらに、ズームレンズを移動させて、被写体像をズームするためのズームレバーを備え、

前記 Web ブラウジング手段は、前記ズームレバーの操作に応じて、前記メモリに格納される表示データを拡大または縮小して、前記 Web 情報の取り込み範囲を変更することを特徴とする請求項 4 1 に記載の画像入力装置。

【請求項 4 3】 さらに、撮影動作を指示するためのリリースキーを備え、
前記シャッターキーの操作に応じて、前記メモリに格納された表示データを前記所定形態で前記記録媒体に記録することを特徴とする請求項 4 1 に記載の画像

入力装置。

【請求項 4 4】 前記 W e b ブラウジング手段は、ブラウジングする画像の特定の U R L を定期的にアクセスして、W e b 情報の取り込みを行うことを特徴とする請求項 4 1 に記載の画像入力装置。

【請求項 4 5】 さらに、手書きメモ情報を入力するための手書きメモ情報入力手段を備え、

前記手書きメモ情報入力手段から入力される手書きメモ情報と前記 W e b サーバーから取り込んだ W e b 情報とを合成することを特徴とする請求項 4 1 に記載の画像入力装置。

【請求項 4 6】 さらに、音声メモ情報を入力するための音声メモ情報入力手段を備え、

前記 W e b サーバーから取り込んだ W e b 情報に音声メモ情報を付加することを特徴とする請求項 4 1 に記載の画像入力装置。

【請求項 4 7】 メモ情報を入力するためのメモ情報入力手段と、
予めメモ情報を記憶するためのメモ情報記憶手段と、
を備え、

前記ブラウジングした W e b 情報上の位置を指定し、前記メモ情報入力手段で入力した若しくは前記メモ情報記憶手段に予め記憶されたメモ情報を前記 W e b 情報の指定位置に合成することを特徴とする請求項 4 1 に記載の画像入力装置。

【請求項 4 8】 前記メモリに格納された表示データを前記所定のファイル形式で前記記録媒体に記録する際に、ファイルのヘッダ部に、対応する U R L またはメールアドレスを書き込むことを特徴とする請求項 4 1 に記載の画像入力装置。

【請求項 4 9】 前記所定のファイル形式のファイルを、U R L の内容に応じて、フォルダに分類することを特徴とする請求項 4 1 に記載の画像入力装置。

【請求項 5 0】 画像入力装置に伝送路を介して接続される装置上でコンピュータにより実行されるプログラムにおいて、

前記画像入力装置の表示デバイスの表示画面に表示され、かつ、撮影の際に使用される、記録すべき 1 または複数の被記録対象のタイトルを各々示すカット名

を含む撮影リストを作成する撮影リスト作成工程を
コンピュータが実行するためのプログラム。

【請求項 5 1】 前記撮影リスト工程では、接続される画像入力装置から前記機種名情報を読み出して、機種に応じた撮影リストを作成することを特徴とする請求項 5 0 に記載のコンピュータが実行するためのプログラム。

【請求項 5 2】 前記撮影リスト作成工程では、前記画像入力装置に格納されている記録ファイルのヘッダーから前記機種名情報を読み出して、機種に応じた前記撮影リストを作成することを特徴とする請求項 5 0 に記載のコンピュータが実行するためのプログラム。

【請求項 5 3】 前記撮影リスト作成工程では、複数の画像入力装置の機種毎の機種能力情報が登録されたテーブルを使用して、機種に応じた前記撮影リストを作成することを特徴とする請求項 5 0 に記載のコンピュータが実行するためのプログラム。

【請求項 5 4】 前記撮影リスト作成工程は、
複数セルからなる帳票形式の入力画面を表示する工程と、
前記入力画面のセルにカット名を入力する工程と、
前記カット名が入力されたセル位置の 1 または複数を指定する工程と、
前記指定されたセル位置のカット名を含む撮影リストを作成する工程と、
を含むことを特徴とする請求項 5 0 に記載のコンピュータが実行するためのプログラム。

【請求項 5 5】 前記撮影リスト作成工程は、
複数セルからなる帳票形式の入力画面を表示する工程と、
前記入力画面のセルにカット名および当該カット名に対応する撮影指示項目を入力する工程と、
前記カット名が入力されたセル位置の 1 または複数を指定する工程と、
前記指定されたセル位置のカット名および当該カット名に対応する撮影指示項目を含む撮影リストを作成する工程と、
を含むことを特徴とする請求項 5 0 に記載のコンピュータが実行するためのプ

プログラム。

【請求項 5 6】 前記撮影リスト作成工程は、
 複数セルからなる帳票形式の入力画面を表示する工程と、
 前記入力画面のセルにカット名を入力する工程と、
 前記入力画面の少なくとも一部のセルのサイズを変更する工程と、
 前記カット名が入力されたセル位置の 1 または複数を指定する工程と、
 カット名毎に画像を貼り付けるべきセル位置を指定する工程と、
 前記指定されたセル位置のカット名と指定されたセルのセルサイズを含む撮影
 リストを作成する工程と、

を含むことを特徴とする請求項 5 0 に記載のコンピュータが実行するためのプ
 ログラム。

【請求項 5 7】 前記撮影リスト作成工程は、
 複数セルからなる帳票形式の入力画面を表示する工程と、
 前記入力画面のセルにカット名を入力する工程と、
 前記入力画面の少なくとも一部のセルのサイズを変更する工程と、
 前記セルに画像を貼り付ける画像貼り付ける工程と、
 前記カット名が入力されたセル位置の 1 または複数を指定する工程と、
 カット名毎に画像が貼り付けられたセルのセル位置を指定する工程と、
 前記指定されたセル位置のカット名と前記指定されたセルに貼り付けられた画
 像の画像サイズを含む撮影リストを作成する工程と、

を含むことを特徴とする請求項 5 0 に記載のコンピュータが実行するためのプ
 ログラム。

【請求項 5 8】 前記画像入力装置で前記撮影リストに従って撮影された画
 像を当該撮影リストとともに入力する工程と、

複数セルからなる帳票形式の入力画面を表示する工程と、
 前記撮影リストのカット名をセルに表示すると共に、前記カット名に対応させ
 て撮影した画像を貼り付けるべきセルのサイズを読み出し、読み出したセルのサ
 イズに撮影した画像のサイズを変換し、前記撮影した画像を貼り付けるべきセル
 に貼り付ける工程と、

を含むことを特徴とする請求項 5 0 に記載のコンピュータが実行するためのプログラム。

【請求項 5 9】 前記貼り付ける工程では、前記画像が貼り付けられたセルのサイズが変更された場合には、変更されたセルのサイズに画像を変換することを特徴とする請求項 5 8 に記載のコンピュータが実行するためのプログラム。

【請求項 6 0】 第 1 の表示画面上で、少なくとも撮影したい被写体のタイトルを示す項目を含む項目リストを作成し、前記項目リストの中でカット名として書き出す範囲を選択して、カット名を含む撮影リストを作成する工程と、

第 2 の表示画面に前記撮影リストのカット名を表示し、カット名毎に被写体の撮影を行う工程と、

前記第 1 の表示画面上の前記項目リストの中で、撮影した画像を貼り付ける範囲を選択し、選択された範囲に前記撮影した画像を貼り付ける工程と、

を含むことを特徴とする画像付き文書作成方法。

【発明の詳細な説明】

【 0 0 0 1 】

【発明の属する技術分野】

本発明は、画像入力装置、コンピュータが実行するためのプログラム、および画像付き文書作成方法に関し、詳細には、撮影リストを使用した画像入力装置、コンピュータが実行するためのプログラム、および画像付き文書作成方法に関する。

【 0 0 0 2 】

【従来の技術】

デジタルカメラの原型は、電子スチルカメラであり、実用的には 1 9 8 1 年頃発売されたソニーのマビカから始まっている。その後、撮像デバイス C C D の高詳細化・低価格化、記録媒体カードメモリの大容量化・小型化、および静止画像圧縮符号方式である J P E G の半導体チップの出現などに伴い、現在のデジタルカメラは、小型化・低価格・高性能化が進んできている。

【 0 0 0 3 】

また、携帯電話の急激な普及やノートパーソナルコンピュータの小型化、シャ

ープのザウルスに代表されるPDAの普及によって、移動中に機器を使用する環境が整ってきた中で、画像入力手段として普及してきたデジタルカメラが、パソコンやネットワークに結合し、画像だけでなく、音声・動画などのあらゆるイメージ情報のキャプチャとして、マルチメディアシステムの重要な要素になってきている。

【0004】

また、デジタルカメラは、上述のキャプチャのみならず、近時研究が活発化してきている身につけるコンピュータ（ウェアラブル・コンピュータ）の候補としても、携帯電話・PDA・パットフォームパーソナルコンピュータとともに期待されている。さらに、デジタルカメラは、インターネットとの接続機能、個人情報の管理機能や、プレゼン機能等のより高機能なものへの対応が望まれている。とりわけ、デジタルカメラを使用して画像付きの文書を作成する簡易な方法が所望されている。また、インターネットとの接続機能を備えたデジタルカメラでは、ブラウジングしたホームページ等のWeb情報を撮像データと同様に扱って、Web情報のデータ処理やデータ管理を簡易化したいという要望もある。

【0005】

例えば、特開平10-341396号公報の「デジタルカメラの機能的付加方法」では、外部記録媒体に記録されているプログラムを受け取りデジタルカメラの記憶媒体に記録する第1のプロセスと、所望の時期に前記プログラムを前記カメラの記録媒体から読み出して実行する第2のプロセスとを有することにより、所望する機能を追加するために、外部からプログラムを導入可能とした技術が開示されている。

【0006】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、特開平10-341396号公報の「デジタルカメラの機能的付加方法」では、必要な被写体の取り忘れや作業漏れを防止できないという問題がある。

【0007】

本発明は、上記に鑑みてなされたものであり、必要な被写体の取り忘れや作業

漏れを防止可能な画像入力装置およびコンピュータが実行するためのプログラムを提供することを目的とする。

【 0 0 0 8 】

また、本発明は、上記に鑑みてなされたものであり、ブラウジングしたホームページ等の W e b 情報を撮像データと同様に扱って、W e b 情報のデータ処理やデータ管理を簡易化することが可能な画像入力装置を提供することを目的とする。

【 0 0 0 9 】

また、本発明は、上記に鑑みてなされたものであり、画像付きの文書を容易に作成することが可能な画像付き文書作成方法を提供することを目的とする。

【 0 0 1 0 】

【課題を解決するための手段】

上記課題を解決するために、請求項 1 にかかる発明は、被写体像を結像するための光学系と、結像された被写体像を画像データに変換する撮像手段と、少なくとも、記録すべき 1 または複数の被記録対象のタイトルを各々示すカット名を含む撮影リストを入力するための撮影リスト入力手段と、前記撮影リスト入力手段で入力された撮影リストを記憶する記憶手段と、表示画面に情報を表示するための表示デバイスと、前記記憶手段に記憶された撮影リストに含まれるカット名を前記表示デバイスの表示画面に表示させるカット名表示手段と、を備えたものである。

【 0 0 1 1 】

上記発明によれば、光学系は被写体像を結像し、撮像手段は結像された被写体像を画像データに変換し、撮影リスト入力手段は、少なくとも、記録すべき 1 または複数の被記録対象のタイトルを各々示すカット名を含む撮影リストを入力し、記憶手段は撮影リスト入力手段で入力された撮影リストを記憶し、カット名表示手段は、記憶手段に記憶された撮影リストに含まれるカット名を表示デバイスの表示画面に表示させる。

【 0 0 1 2 】

また、請求項 2 にかかる発明は、請求項 1 にかかる発明において、さらに、前

記記憶手段に記憶されている撮影リストの一覧を前記表示デバイスの表示画面に表示する撮影リスト表示手段と、前記表示画面に表示された撮影リストの一覧の中から1の撮影リストを選択する撮影リスト選択手段と、を備え、前記カット名表示手段は、前記撮影リスト選択手段で選択された撮影リストに含まれるカット名を表示するものである。

【 0 0 1 3 】

上記発明によれば、撮影リスト表示手段は、記憶手段に記憶されている撮影リストの一覧を表示デバイスの表示画面に表示し、撮影リスト選択手段は表示画面に表示された撮影リストの一覧の中から1の撮影リストを選択し、カット名表示手段は、撮影リスト選択手段で選択された撮影リストに含まれるカット名を表示する。

【 0 0 1 4 】

また、請求項3にかかる発明は、請求項1にかかる発明は、前記撮影リスト入力手段は、接続される情報処理装置から転送される前記撮影リストを受信するための通信手段を含むものである。上記発明によれば、撮影リストを情報処理装置から入力する。

【 0 0 1 5 】

また、請求項4にかかる発明は、請求項1にかかる発明において、前記撮影リスト入力手段は、接続されるWebサーバーのホームページをブラウジングして、前記ホームページ上の前記撮影リストをダウンロードするWebブラウジング手段を含むものである。上記発明によれば、Webサーバーのホームページから撮影リストを入力する。

【 0 0 1 6 】

また、請求項5にかかる発明は、請求項1にかかる発明において、さらに、前記表示画面に表示されたカット名の中から1のカット名を選択するカット名選択手段を備え、前記カット名選択手段により1のカット名が選択された場合に、記録モードに移行するものである。上記発明によれば、カット名選択手段は表示画面に表示されたカット名の中から1のカット名を選択し、カット名選択手段により1のカット名が選択された場合に、記録モードに移行する。

【 0 0 1 7 】

また、請求項 6 にかかる発明は、請求項 5 にかかる発明において、前記記録モードでは、前記被記録対象の静止画像、二値画像、および動画像、ならびに音声のうちのいずれかの記録データが記録されるものである。上記発明によれば、被記録対象の静止画像、二値画像、および動画像、ならびに音声記録可能である。

【 0 0 1 8 】

また、請求項 7 にかかる発明は、請求項 6 にかかる発明において、さらに、前記記録モードで記録した記録データを HTML ファイルに変換する HTML 変換手段を備えたものである。上記発明によれば、HTML ファイル変換手段は、記録モードで記録した記録データを HTML ファイルに変換する。

【 0 0 1 9 】

また、請求項 8 にかかる発明は、請求項 7 にかかる発明において、さらに、前記 HTML ファイル変換手段で変換された HTML ファイルを Web サーバーのホームページにアップロードするアップロード手段を備えたものである。上記発明によれば、アップロード手段は、HTML ファイル変換手段で変換された HTML ファイルを Web サーバーのホームページにアップロードする。

【 0 0 2 0 】

また、請求項 9 にかかる発明は、請求項 6 にかかる発明において、前記記録モードで記録した記録データの記録ファイルのパラメータ内に前記カット名選択手段で選択されたカット名を付加するものである。上記発明によれば、記録モードで記録した記録データの記録ファイルのパラメータ内にカット名選択手段で選択されたカット名を付加する。

【 0 0 2 1 】

また、請求項 1 0 にかかる発明は、請求項 6 にかかる発明において、前記記録モードで記録した記録データの記録ファイルを、前記カット名選択手段で選択されたカット名に関連づけて記憶するものである。上記発明によれば、記録モードで記録した記録データの記録ファイルを、カット名選択手段で選択されたカット名に関連づけて記憶する。

【 0 0 2 2 】

また、請求項 1 1 にかかる発明は、請求項 6 にかかる発明において、前記記録モードで記録した記録データの記録ファイルのファイル名は、少なくとも一部に前記カット名選択手段で選択されたカット名を含むものである。記録ファイルのファイル名にカット名選択手段で選択されたカット名を含むようにした。

【 0 0 2 3 】

また、請求項 1 2 にかかる発明は、請求項 6 にかかる発明において、前記記録モードで記録した画像データに前記カット名選択手段で選択されたカット名を合成するものである。上記発明によれば、記録モードで記録した画像データにカット名選択手段で選択されたカット名を合成する。

【 0 0 2 4 】

また、請求項 1 3 にかかる発明は、請求項 5 にかかる発明において、前記カット名表示手段は、前記カット名選択手段で撮影リストのカット名が選択された後に、記録データの記録が行われた場合には、当該カット名に対応した記録が行われた旨を表示するものである。上記発明によれば、カット名表示手段は、カット名選択手段で撮影リストのカット名が選択された後に、記録データの記録が行われた場合には、当該カット名に対応した記録が行われた旨を表示する。

【 0 0 2 5 】

また、請求項 1 4 にかかる発明は、請求項 5 にかかる発明において、前記カット名表示手段は、前記カット名毎に撮影済み枚数を前記表示デバイスの表示画面に表示するものである。上記発明によれば、カット名表示手段は、カット名毎に撮影済み枚数を表示デバイスの表示画面に表示する。

【 0 0 2 6 】

また、請求項 1 5 にかかる発明は、請求項 1 にかかる発明において、前記撮影リスト内のカット名の全ての撮影が終了した場合に、撮影リストの撮影が終了した旨を、指定される送信先に送信するものである。上記発明によれば、撮影リスト内のカット名の全ての撮影が終了した場合に、撮影リストの撮影が終了した旨を、指定される送信先に送信するものである。

【 0 0 2 7 】

また、請求項 1 6 にかかる発明は、請求項 1 にかかる発明において、前記カット名選択手段により 1 のカット名が選択された場合に、記録モードに移行し、被写体のモニタリング画像と共に前記選択手段で選択されたカット名を前記表示デバイスの表示画面に表示するものである。上記発明によれば、カット名選択手段により 1 のカット名が選択された場合に、記録モードに移行し、被写体のモニタリング画像と共にカット名選択手段で選択されたカット名を表示デバイスの表示画面に表示する。

【 0 0 2 8 】

また、請求項 1 7 にかかる発明は、請求項 1 にかかる発明において、前記カット名選択手段によりカット名が選択された場合に、記録モードに移行して、所定キーの操作に応じて、被写体の静止画像、二値画像、および動画像、ならびに音声のうちのいずれかの記録データの記録を行い、記録ファイルとして前記記憶手段に記録する記録制御手段と、前記撮影リスト毎に、前記記録ファイルをグループ化するグループ化手段と、を備えたものである。上記発明によれば、記憶制御手段は、カット名選択手段によりカット名が選択された場合に、記録モードに移行して、所定キーの操作に応じて、被写体の静止画像、二値画像、および動画像、ならびに音声のうちのいずれかの記録データの記録を行い、記録ファイルとして記憶手段に記録し、グループ化手段は、撮影リスト毎に記録ファイルをグループ化する。

【 0 0 2 9 】

また、請求項 1 8 にかかる発明は、請求項 1 7 にかかる発明において、前記グループ化手段は、撮影リスト毎に前記記録ファイルをフォルダに登録してグループ化するものである。上記発明によれば、グループ化手段は、撮影リスト毎に前記記録ファイルをフォルダに登録してグループ化する。

【 0 0 3 0 】

また、請求項 1 9 にかかる発明は、請求項 1 にかかる発明において、前記撮影リストは、さらに、各カット名に各々対応し、かつ使用者に指示を与えるための撮影指示情報を含み、前記カット名選択手段により 1 のカット名が選択された場合に、前記選択された撮影リストの対応する撮影指示情報の内容を報知するもの

である。上記発明によれば、撮影リストは、さらに、各カット名に各々対応し、かつ使用者に指示を与えるための撮影指示情報を含み、カット名選択手段により 1 のカット名が選択された場合に、選択された撮影リストの対応する撮影指示情報の内容を報知する。

【 0 0 3 1 】

また、請求項 2 0 にかかる発明は、請求項 1 9 にかかる発明において、前記撮影指示情報の内容は、撮影の手順または撮影後の作業の指示であることとした。上記発明によれば、撮影指示情報の内容は、撮影の手順または撮影後の作業の指示とする。

【 0 0 3 2 】

また、請求項 2 1 にかかる発明は、請求項 1 9 にかかる発明において、前記撮影指示情報の属性は、テキスト文書、図面、音声、および動画のいずれか 1 つで構成されることとした。上記発明によれば、撮影指示情報の属性は、テキスト文書、図面、音声、および動画のいずれかとする。

【 0 0 3 3 】

また、請求項 2 2 にかかる発明は、請求項 1 にかかる発明において、前記撮影リストは、さらに、各カット名に各々対応し、かつ被記録対象を記録する際の設定条件の自動設定および／または記録後に実行すべき自動処理の指示を与えるための自動処理指示情報を含み、前記カット名選択手段によりカット名が選択された場合に、記録モードに移行して、前記カット名選択手段で選択されたカット名に対応する自動処理指示情報の内容に従って、被記録対象を記録する際の設定条件の自動設定および／または記録データの記録後に実行すべき自動処理を実行するものである。

【 0 0 3 4 】

上記発明によれば、撮影リストは、さらに、各カット名に各々対応し、かつ被記録対象を記録する際の設定条件の自動設定および／または記録後に実行すべき自動処理の指示を与えるための自動処理指示情報を含み、カット名選択手段によりカット名が選択された場合に、記録モードに移行して、カット名選択手段で選択されたカット名に対応する自動処理指示情報の内容に従って、被記録対象を記

録する際の設定条件の自動設定および／または記録データの記録後に実行すべき自動処理を実行する。

【 0 0 3 5 】

また、請求項 2 3 にかかる発明は、請求項 2 2 にかかる発明において、さらに、外部とデータ通信するための通信手段を備え、前記カット名選択手段で選択されたカット名に対応する自動処理指示情報の内容が、データ記録後のメール添付送信の指示である場合には、前記記録モードで記録した記録データをメールに添付して、前記通信手段を介して指定される送信先に送信するものである。上記発明によれば、カット名選択手段で選択されたカット名に対応する自動処理指示情報の内容が、データ記録後のメール添付送信の指示である場合には、記録モードで記録した記録データをメールに添付して、通信手段を介して指定される送信先に送信する。

【 0 0 3 6 】

また、請求項 2 4 にかかる発明は、請求項 2 2 にかかる発明において、さらに、外部とデータ通信するための通信手段を備え、前記カット名選択手段で選択されたカット名に対応する自動処理指示情報の内容が、データ記録後のサムネール添付送信の指示である場合には、前記記録モードで記録した画像データに対応するサムネール画像をメールに添付して、前記通信手段を介して指定される送信先に送信するものである。上記発明によれば、カット名選択手段で選択されたカット名に対応する自動処理指示情報の内容が、データ記録後のサムネール添付送信の指示である場合には、記録モードで記録した画像データに対応するサムネール画像をメールに添付して、通信手段を介して指定される送信先に送信する。

【 0 0 3 7 】

また、請求項 2 5 にかかる発明は、請求項 2 2 にかかる発明において、さらに、外部とデータ通信するための通信手段を備え、前記カット名選択手段で選択されたカット名に対応する自動処理指示情報の内容がデータ記録後の画像データの変倍メール添付送信の指示である場合には、前記記録モードで記録した画像データを指定される大きさに変倍してメールに添付して、前記通信手段を介して指定される送信先に送信するものである。上記発明によれば、カット名選択手段で選

択されたカット名に対応する自動処理指示情報の内容がデータ記録後の画像データの変倍メール添付送信の指示である場合には、記録モードで記録した画像データを指定される大きさに変倍してメールに添付して、通信手段を介して指定される送信先に送信する。

【 0 0 3 8 】

また、請求項 2 6 にかかる発明は、請求項 2 2 にかかる発明において、さらに、外部とデータ通信するための通信手段を備え、前記カット名選択手段で選択されたカット名に対応する自動処理指示情報の内容が、データ記録後のホームページへのアップロードの指示である場合には、前記記録モードで記録した画像データを HTML ファイルに変換して、前記通信手段を介して指定されるホームページにアップロードするものである。上記発明によれば、カット名選択手段で選択されたカット名に対応する自動処理指示情報の内容が、データ記録後のホームページへのアップロードの指示である場合には、記録モードで記録した画像データを HTML ファイルに変換して、通信手段を介して指定されるホームページにアップロードする。

【 0 0 3 9 】

また、請求項 2 7 にかかる発明は、請求項 2 2 にかかる発明において、さらに、外部とデータ通信するための通信手段を備え、前記カット名選択手段で選択されたカット名に対応する自動処理指示情報の内容が、データ記録後のホームページへのアップロードおよび当該ホームページの URL アドレスの通知の指示である場合には、前記録モードで記録した画像データを HTML ファイルに変換し、前記通信手段を介して指定されるホームページにアップロードするとともに、アップロード先のホームページの URL アドレスを前記通信手段を介して指定される送信先に送信するものである。上記発明によれば、カット名選択手段で選択されたカット名に対応する自動処理指示情報の内容が、データ記録後のホームページへのアップロードおよび当該ホームページの URL アドレスの通知の指示である場合には、記録モードで記録した画像データを HTML ファイルに変換し、通信手段を介して指定されるホームページにアップロードするとともに、アップロード先のホームページの URL アドレスを通信手段を介して指定される送信先に

送信する。

【 0 0 4 0 】

また、請求項 2 8 にかかる発明は、請求項 2 2 にかかる発明において、さらに、メモ情報を入力するためのメモ入力手段を備え、前記カット名選択手段で選択されたカット名に対応する自動処理指示情報の内容が、データ記録後のメモ情報の入力指示である場合には、前記記録モードでの記録後に、メモ入力モードに移行し、前記メモ入力手段から入力されるメモ情報のファイルを前記記録モードで記録した記録データの記録ファイルと関連づけて格納するものである。上記発明によれば、カット名選択手段で選択されたカット名に対応する自動処理指示情報の内容が、データ記録後のメモ情報の入力指示である場合には、記録モードでの記録後に、メモ入力モードに移行し、前記メモ入力手段から入力されるメモ情報のファイルを前記記録モードで記録した記録データの記録ファイルと関連づけて格納する。

【 0 0 4 1 】

また、請求項 2 9 にかかる発明は、請求項 2 2 にかかる発明において、さらに、メモ情報を入力するためのメモ入力手段を備え、前記カット名選択手段で選択されたカット名に対応する自動処理指示情報の内容が、記録後のメモ情報の入力指示である場合には、前記記録モードでの記録後に、メモ入力モードに移行し、前記メモ入力手段から入力されるメモ情報を、前記記録モードで記録した画像データと合成するものである。上記発明によれば、カット名選択手段で選択されたカット名に対応する自動処理指示情報の内容が、記録後のメモ情報の入力指示である場合には、記録モードでの記録後に、メモ入力モードに移行し、前記メモ入力手段から入力されるメモ情報を、記録モードで記録した画像データと合成する。

【 0 0 4 2 】

また、請求項 3 0 にかかる発明は、請求項 2 9 にかかる発明において、前記メモ情報は、テキスト文字または手書き文字であることとした。上記発明によれば、メモ情報をテキスト文字または手書き文字とする。

【 0 0 4 3 】

また、請求項 3 1 にかかる発明は、請求項 2 9 にかかる発明において、前記メモ情報の前記撮影された画像に対する合成位置は任意に設定可能であることとした。上記発明によれば、メモ情報の前記撮影された画像に対する合成位置を任意に設定可能とする。

【 0 0 4 4 】

また、請求項 3 2 にかかる発明は、請求項 2 2 にかかる発明において、さらに、音声を入力する音声入力手段を備え、前記カット名選択手段で選択されたカット名に対応する自動処理指示情報の内容が、記録後の音声入力の指示である場合には、前記記録モードでの記録後に、音声入力モードに移行し、前記音声入力手段から入力される音声のファイルを前記記録モードで記録した画像データの記録ファイルと関連づけて格納するものである。上記発明によれば、カット名選択手段で選択されたカット名に対応する自動処理指示情報の内容が、記録後の音声入力の指示である場合には、記録モードでの記録後に、音声入力モードに移行し、前記音声入力手段から入力される音声のファイルを記録モードで記録した画像データの記録ファイルと関連づけて格納する。

【 0 0 4 5 】

また、請求項 3 3 にかかる発明は、請求項 2 2 にかかる発明において、前記カット名選択手段で選択されたカット名に対応する自動処理指示情報の内容が、撮影画像に対する日付の合成の指示である場合には、前記記録モードで画像データを記録した後、当該画像データに日付を合成するものである。上記発明によれば、カット名選択手段で選択されたカット名に対応する自動処理指示情報の内容が、撮影画像に対する日付の合成の指示である場合には、記録モードで画像データを記録した後、当該画像データに日付を合成する。

【 0 0 4 6 】

また、請求項 3 4 にかかる発明は、請求項 2 2 にかかる発明において、前記カット名選択手段で選択されたカット名に対応する自動処理指示情報の内容が、撮影画像の解像度の設定指示である場合には、撮影する際の解像度を設定指示に応じて設定するものである。上記発明によれば、カット名選択手段で選択されたカット名に対応する自動処理指示情報の内容が、撮影画像の解像度の設定指示であ

る場合には、撮影する際の解像度を設定指示に応じて設定する。

【 0 0 4 7 】

また、請求項 3 5 にかかる発明は、請求項 2 2 にかかる発明において、前記撮影リストは、記録すべき被記録対象の 1 または複数のカット名と、当該カット名に対応する被合成情報とを含み、前記選択手段により 1 のカット名が選択された場合に、記録モードに移行し、当該記録モードで撮影した画像に、前記撮影リストの前記選択手段で選択されたカット名に対応する被合成情報を合成するものである。上記発明によれば、撮影リストは、記録すべき被記録対象の 1 または複数のカット名と、当該カット名に対応する被合成情報とを含み、選択手段により 1 のカット名が選択された場合に、記録モードに移行し、当該記録モードで撮影した画像に、撮影リストのカット名選択手段で選択されたカット名に対応する被合成情報を合成する。

【 0 0 4 8 】

また、請求項 3 6 にかかる発明において、請求項 3 5 にかかる発明において、前記被合成情報の前記撮影した画像に対する合成位置は任意に設定可能であることとした。上記発明によれば、被合成情報の撮影した画像に対する合成位置を任意に設定可能とする。

【 0 0 4 9 】

また、請求項 3 7 にかかる発明は、請求項 1 にかかる発明において、前記撮影リストは、記録後に実行すべき自動処理の指示を与えるための自動処理指示情報を含み、前記カット名選択手段によりカット名が選択された場合に、記録モードに移行して、所定キーの操作に応じて、カット名毎に撮影を行い、撮影した画像データを前記撮影リストの自動処理指示情報に従って処理するものである。上記発明によれば、撮影リストは、記録後に実行すべき自動処理の指示を与えるための自動処理指示情報を含み、カット名選択手段によりカット名が選択された場合に、記録モードに移行して、所定キーの操作に応じて、カット名毎に撮影を行い、撮影した画像データを撮影リストの自動処理指示情報に従って処理する。

【 0 0 5 0 】

また、請求項 3 8 にかかる発明は、請求項 3 7 にかかる発明において、前記自

動処理指示情報が、複数画像の合成の指示である場合には、前記カット名毎に撮影した複数の画像を合成するものである。上記発明によれば、自動処理指示情報が、複数画像の合成の指示である場合には、カット名毎に撮影した複数の画像を合成する。

【 0 0 5 1 】

また、請求項 3 9 にかかる発明は、請求項 3 7 にかかる発明において、前記自動処理指示情報が、複数画像の補正指示である場合には、前記カット名毎に撮影した複数の画像を補正するものである。上記発明によれば、自動処理指示情報が、複数画像の補正指示である場合には、カット名毎に撮影した複数の画像を補正する。

【 0 0 5 2 】

また、請求項 4 0 にかかる発明は、請求項 2 2 にかかる発明において、前記撮影リストは、さらに、機種名情報を含み、前記自動処理指示情報は前記機種に応じた内容であり、前記入力手段により入力される前記撮影リストの機種名情報を読み出して、自機の機種名と前記撮影リストの機種名とが一致するか否かを判断する判断手段を備え、前記判断手段により自機の機種名と前記撮影リストの機種名とが一致すると判断された場合に、前記撮影リストに基づいて撮影を行うものである。上記発明によれば、撮影リストは、さらに、機種名情報を含み、前記自動処理指示情報は前記機種に応じた内容であり、判断手段は、撮影り入力手段により入力される前記撮影リストの機種名情報を読み出して、自機の機種名と前記撮影リストの機種名とが一致するか否かを判断し、判断手段により自機の機種名と前記撮影リストの機種名とが一致すると判断された場合に、撮影リストに基づいて撮影を行う。

【 0 0 5 3 】

また、請求項 4 1 にかかる発明は、被写体像を結像するための光学系と、結像した被写体像を画像データに変換する撮像手段と、前記撮像手段から出力される画像データを一時的に格納するメモリと、前記メモリに格納される画像データを所定のファイル形式で記録媒体に記憶する記憶制御手段と、表示画面に情報を表示するための表示デバイスと、W e b サーバーのホームページのW e b 情報を取

り込んで、前記メモリに表示データとして格納し、前記メモリに格納した表示データを前記表示デバイスの表示画面に表示するWebブラウジング手段と、を備え、前記メモリに格納された表示データを前記所定のファイル形式で前記記録媒体に記録するものである。

【 0 0 5 4 】

上記発明によれば、光学系は被写体像を結像し、撮像手段は結像した被写体像を画像データに変換し、メモリは撮像手段から出力される画像データを一時的に格納し、記憶制御手段はメモリに格納される画像データを所定のファイル形式で記録媒体に記憶し、Webブラウジング手段はWebサーバーのホームページのWeb情報を取り込んで、メモリに表示データとして格納し、メモリに格納された表示データを上述の所定のファイル形式で記録媒体に記録する。

【 0 0 5 5 】

また、請求項42にかかる発明は、請求項41にかかる発明において、さらに、ズームレンズを移動させて、被写体像をズーミングするためのズームレバーを備え、前記Webブラウジング手段は、前記ズームレバーの操作に応じて、前記メモリに格納される表示データを拡大または縮小して、前記Web情報の取り込み範囲を変更するものである。上記発明によれば、Webブラウジング手段は、ズームレバーの操作に応じて、メモリに格納される表示データを拡大または縮小して、Web情報の取り込み範囲を変更する。

【 0 0 5 6 】

また、請求項43にかかる発明は、請求項41にかかる発明において、さらに、撮影動作を指示するためのリリースキーを備え、前記シャッターキーの操作に応じて、前記メモリに格納された表示データを前記所定形態で前記記録媒体に記録するものである。上記発明によれば、シャッターキーの操作に応じて、メモリに格納された表示データを所定のファイル形式で記録媒体に記録する。

【 0 0 5 7 】

また、請求項44にかかる発明は、請求項41にかかる発明において、前記Webブラウジング手段は、ブラウジングする画像の特定のURLを定期的にアクセスして、Web情報の取り込みを行うものである。上記発明によれば、Web

ブラウジング手段は、ブラウジングする画像の特定のURLを定期的にアクセスして、Web情報の取り込みを行う。

【0058】

また、請求項45にかかる発明は、請求項43にかかる発明において、さらに、手書きメモ情報を入力するための手書きメモ情報入力手段を備え、前記手書きメモ情報入力手段から入力される手書きメモ情報と前記Webサーバーから取り込んだWeb情報とを合成するものである。上記発明によれば、手書きメモ情報入力手段から入力される手書きメモ情報とWebサーバーから取り込んだWeb情報とを合成する。

【0059】

また、請求項46にかかる発明は、請求項41にかかる発明において、さらに、音声メモ情報を入力するための音声メモ情報入力手段を備え、前記Webサーバーから取り込んだWeb情報に音声メモ情報を付加するものである。上記発明によれば、Webサーバーから取り込んだWeb情報に音声メモ情報を付加する。

【0060】

また、請求項47にかかる発明は、請求項41にかかる発明において、メモ情報を入力するためのメモ情報入力手段と、予めメモ情報を記憶するためのメモ情報記憶手段と、を備え、前記ブラウジングしたWeb情報上の位置を指定し、前記メモ情報入力手段で入力した若しくは前記メモ情報記憶手段に予め記憶されたメモ情報を前記Web情報の指定位置に合成するものである。上記発明によれば、ブラウジングしたWeb情報上の位置を指定し、メモ情報入力手段で入力した若しくはメモ情報記憶手段に予め記憶されたメモ情報をWeb情報の指定位置に合成する。

【0061】

また、請求項48にかかる発明は、請求項41にかかる発明において、前記メモリに格納された表示データを前記所定のファイル形式で前記記録媒体に記録する際に、ファイルのヘッダ部に、対応するURLまたはメールアドレスを書き込むものである。上記発明によれば、メモリに格納された表示データを所定のファ

イル形式で記録媒体に記録する際に、ファイルのヘッダ部に、対応するURLまたはメールアドレスを書き込む。

【 0 0 6 2 】

また、請求項49にかかる発明は、請求項41にかかる発明において、前記所定のファイル形式のファイルを、URLの内容に応じて、フォルダに分類するものである。上記発明によれば、所定のファイル形式のファイルを、URLの内容に応じて、フォルダに分類する。

【 0 0 6 3 】

また、請求項50にかかる発明は、画像入力装置に伝送路を介して接続される装置上でコンピュータにより実行されるプログラムにおいて、前記画像入力装置の表示デバイスの表示画面に表示され、かつ、撮影の際に使用される、記録すべき1または複数の被記録対象のタイトルを各々示すカット名を含む撮影リストを作成する撮影リスト作成工程をコンピュータでプログラムを実行することにより実現する。上記発明によれば、コンピュータでプログラムを実行することにより、画像入力装置の表示デバイスの表示画面に表示され、かつ、撮影の際に使用される、記録すべき1または複数の被記録対象のタイトルを各々示すカット名を含む撮影リストを作成する。

【 0 0 6 4 】

また、請求項51にかかる発明は、請求項50にかかる発明において、前記撮影リスト作成工程では、接続される画像入力装置から前記機種名情報を読み出して、機種に応じた撮影リストを作成するものである。上記発明によれば、コンピュータでプログラムを実行することにより、接続される画像入力装置から前記機種名情報を読み出して、機種に応じた撮影リストを作成する。

【 0 0 6 5 】

また、請求項52にかかる発明は、請求項50にかかる発明において、前記撮影リスト作成工程では、前記画像入力装置に格納されている記録ファイルのヘッダーから前記機種名情報を読み出して、機種に応じた前記撮影リストを作成するものである。上記発明によれば、コンピュータでプログラムを実行することにより、画像入力装置に格納されている記録ファイルのヘッダーから前記機種名情報

を読み出して、機種に応じた前記撮影リストを作成する。

【 0 0 6 6 】

また、請求項 5 3 にかかる発明は、請求項 5 0 にかかる発明において、前記撮影リスト作成工程では、複数の画像入力装置の機種毎の機種能力情報が登録されたテーブルを使用して、機種に応じた前記撮影リストを作成するものである。上記発明によれば、コンピュータでプログラムを実行することにより、複数の画像入力装置の機種毎の機種能力情報が登録されたテーブルを使用して、機種に応じた撮影リストを作成する。

【 0 0 6 7 】

また、請求項 5 4 にかかる発明は、請求項 5 0 にかかる発明において、前記撮影リスト作成工程は、複数セルからなる帳票形式の入力画面を表示する工程と、前記入力画面のセルにカット名を入力する工程と、前記カット名が入力されたセル位置の 1 または複数を指定する工程と、前記指定手段で指定されたセル位置のカット名を含む撮影リストを作成する工程と、を含むものである。上記発明によれば、コンピュータでプログラムを実行することにより、複数セルからなる帳票形式の入力画面を表示し、入力画面のセルにカット名を入力し、カット名が入力されたセル位置の 1 または複数を指定し、指定されたセル位置のカット名を含む撮影リストを作成する。

【 0 0 6 8 】

また、請求項 5 5 にかかる発明は、請求項 5 0 にかかる発明において、前記撮影リスト作成工程は、複数セルからなる帳票形式の入力画面を表示する工程と、前記入力画面のセルにカット名および当該カット名に対応する撮影指示項目を入力する工程と、前記カット名が入力されたセル位置の 1 または複数を指定する工程と、前記指定手段で指定されたセル位置のカット名および当該カット名に対応する撮影指示項目を含む撮影リストを作成する工程と、を含むものである。

【 0 0 6 9 】

上記発明によれば、コンピュータでプログラムを実行することにより、複数セルからなる帳票形式の入力画面を表示し、入力画面のセルにカット名および当該カット名に対応する撮影指示項目を入力し、カット名が入力されたセル位置の 1

または複数を指定し、指定されたセル位置のカット名および当該カット名に対応する撮影指示項目を含む撮影リストを作成する。

【 0 0 7 0 】

また、請求項 5 6 にかかる発明は、請求項 5 0 にかかる発明において、前記撮影リスト作成工程は、複数セルからなる帳票形式の入力画面を表示する工程と、前記入力画面のセルにカット名を入力する工程と、前記入力画面の少なくとも一部のセルのサイズを変更する工程と、前記カット名が入力されたセル位置の 1 または複数を指定する工程と、カット名毎に画像を貼り付けるべきセル位置を指定する工程と、前記指定されたセル位置のカット名と指定されたセルのセルサイズを含む撮影リストを作成する工程と、を含むものである。

【 0 0 7 1 】

上記発明によれば、コンピュータでプログラムを実行することにより、複数セルからなる帳票形式の入力画面を表示し、入力画面のセルにカット名を入力し、入力画面の少なくとも一部のセルのサイズを変更し、カット名が入力されたセル位置の 1 または複数を指定し、カット名毎に画像を貼り付けるべきセル位置を指定し、指定されたセル位置のカット名と指定されたセルのセルサイズを含む撮影リストを作成する。

【 0 0 7 2 】

また、請求項 5 7 にかかる発明は、請求項 5 0 にかかる発明において、前記撮影リスト作成工程は、複数セルからなる帳票形式の入力画面を表示する工程と、前記入力画面のセルにカット名を入力する工程と、前記入力画面の少なくとも一部のセルのサイズを変更する工程と、前記セルに画像を貼り付ける画像貼り付ける工程と、前記カット名が入力されたセル位置の 1 または複数を指定する工程と、カット名毎に画像が貼り付けられたセルのセル位置を指定する工程と、前記指定されたセル位置のカット名と前記指定されたセルに貼り付けられた画像の画像サイズを含む撮影リストを作成する工程と、を含むものである。

【 0 0 7 3 】

上記発明によれば、コンピュータでプログラムを実行することにより、複数セルからなる帳票形式の入力画面を表示し、入力画面のセルにカット名を入力し、

入力画面の少なくとも一部のセルのサイズを変更し、セルに画像を貼り付ける画像貼り付け、カット名が入力されたセル位置の1または複数を指定し、カット名毎に画像が貼り付けられたセルのセル位置を指定し、指定されたセル位置のカット名と指定されたセルに貼り付けられた画像の画像サイズを含む撮影リストを作成する。

【 0 0 7 4 】

また、請求項58にかかる発明は、請求項50にかかる発明において、前記画像入力装置で前記撮影リストに従って撮影された画像を当該撮影リストとともに入力する工程と、複数セルからなる帳票形式の入力画面を表示する工程と、前記撮影リストのカット名をセルに表示すると共に、前記カット名に対応させて撮影した画像を貼り付けるべきセルのサイズを読み出し、読み出したセルのサイズに撮影した画像のサイズを変換し、前記撮影した画像を貼り付けるべきセルに貼り付ける工程と、を含むものである。

【 0 0 7 5 】

上記発明によれば、コンピュータでプログラムを実行することにより、画像入力装置で前記撮影リストに従って撮影された画像を当該撮影リストとともに入力し、複数セルからなる帳票形式の入力画面を表示し、撮影リストのカット名をセルに表示すると共に、カット名に対応させて撮影した画像を貼り付けるべきセルのサイズを読み出し、読み出したセルのサイズに撮影した画像のサイズを変換し、撮影した画像を貼り付けるべきセルに貼り付ける。

【 0 0 7 6 】

また、請求項59にかかる発明は、請求項58にかかる発明において、前記貼り付ける工程では、前記画像が貼り付けられたセルのサイズが変更された場合には、変更されたセルのサイズに画像を変換するものである。上記発明によれば、コンピュータでプログラムを実行することにより、画像が貼り付けられたセルのサイズが変更された場合には、変更されたセルのサイズに画像を変換する。

【 0 0 7 7 】

また、請求項60にかかる発明は、第1の表示画面上で、少なくとも撮影したい被写体のタイトルを示す項目を含む項目リストを作成し、前記項目リストの中

でカット名として書き出す範囲を選択して、カット名を含む撮影リストを作成する工程と、第2の表示画面に前記撮影リストのカット名を表示し、カット名毎に被写体の撮影を行う工程と、前記第1の表示画面上の前記項目リストの中で、撮影した画像を貼り付ける範囲を選択し、選択された範囲に前記撮影した画像を貼り付ける工程と、を含むものである。上記発明によれば、第1の表示画面上で、少なくとも撮影したい被写体のタイトルを示す項目を含む項目リストを作成し、前記項目リストの中でカット名として書き出す範囲を選択して、カット名を含む撮影リストを作成し、第2の表示画面に撮影リストのカット名を表示し、カット名毎に被写体の撮影を行い、第1の表示画面上の項目リストの中で、撮影した画像を貼り付ける範囲を選択し、選択された範囲に撮影した画像を貼り付ける。

【 0 0 7 8 】

【発明の実施の形態】

以下、本発明にかかる画像入力装置、コンピュータが実行するためのプログラム、および画像付き文書作成方法の好適な実施の形態を、[本実施の形態にかかるデジタルカメラシステムの構成]、[本実施の形態にかかるデジタルカメラの構成]、[本実施の形態にかかるパーソナルコンピュータの構成]、[本実施の形態にかかるデジタルカメラの記録動作の実施例]、「本実施の形態にかかるデジタルカメラの撮影リストの実施例」、「本実施の形態にかかるデジタルカメラのブラウザ機能の実施例」、および「本実施の形態にかかるパーソナルコンピュータの実施例」の順に詳細に説明する。

【 0 0 7 9 】

[本実施の形態にかかるデジタルカメラシステムの構成]

図1は、本実施の形態にかかるデジタルカメラシステムの概略構成例を示している。同図において、100はデジタルカメラ（画像入力装置）を示し、200はパーソナルコンピュータ、300はWebサーバーを示す。デジタルカメラ100はパーソナルコンピュータ200に直接またはネットワーク400を介して接続される。また、デジタルカメラ100は、ネットワーク（例えば、インターネット）400を介してWebサーバー300に接続されている。

【 0 0 8 0 】

パーソナルコンピュータ 2 0 0 では、撮影リストを作成し撮影リストファイルとしてデジタルカメラ 1 0 0 に転送する。デジタルカメラ 1 0 0 では、撮影リストファイルを使用して撮影を行う。そして、デジタルカメラ 1 0 0 は、撮影した画像をパーソナルコンピュータ 2 0 0 に転送したり、Web サーバー 3 0 0 にアップロードする。また、デジタルカメラ 1 0 0 は、Web サーバー 3 0 0 のホームページ上の撮影リストファイルをダウンロードして、撮影リストファイルを使用して撮影を行う。

【 0 0 8 1 】

上記デジタルカメラシステムの基本動作の概略を図 2 ～図 3 を参照して説明する。図 2 は、デジタルカメラシステムの基本動作の概略を説明するためのフローチャート、図 3 は項目リストの具体例を示している。図 2 において、まず、パーソナルコンピュータ 2 0 0 では、ユーザーが、撮影したい写真の項目リストを作成する（ステップ S 1）。図 3（A）は、項目リストの具体例を示している。同図に示す項目リストは、商品名、価格、および写真の項目から構成されている。項目リストの中で撮影リストのカット名として書き出す範囲を選択し、さらに、撮影リストのタイトル名および撮影リストのファイル名を設定して撮影リストファイルを作成する（ステップ S 2）。例えば、図 3（A）の項目リストの中で、ユーザーが、撮影リストのカット名（デジタルカメラにおける被記録対象のタイトル）として書き出す範囲として、例えば、商品名の B 3 ～ B 1 5 のセル（”バック” ～ ”システム手帳”）を選択する。そして、ユーザーにより、撮影リストのタイトル名として、例えば、”商品カタログ”が入力され、さらに、撮影リストのファイル名として、例えば、”E x l i s t”が入力されると、撮影リストファイル名を”E x l i s t”とし、撮影リストのタイトル名（撮影リスト名）を”商品カタログ”、カット名を”バック” ～ ”システム手帳”とする撮影リストファイルが作成される。この後、パーソナルコンピュータ 2 0 0 は、この撮影リストファイルをデジタルカメラ 1 0 0 に転送する（ステップ S 3）。

【 0 0 8 2 】

デジタルカメラ 1 0 0 では、パーソナルコンピュータ 2 0 0 から撮影リストファイルを受信する（ステップ S 4）。デジタルカメラ 1 0 0 は、表示部の液晶モ

ニターで撮影リストのカット名を見ながらカット名毎に撮影を行う（ステップS5）。そして、デジタルカメラ100は、撮影した写真を撮影リストファイルに登録して、撮影した写真の撮影リストファイルをパーソナルコンピュータ200に転送する（ステップS6）。パーソナルコンピュータ100では、撮影した写真の撮影リストファイルを受信する（ステップS7）。そして、パーソナルコンピュータ200では、項目リストの中で写真を貼り付ける範囲を選択し、選択された範囲に写真を自動的に貼り付ける（ステップS8）。例えば、図3（A）の項目リストで、ユーザーにより、写真を貼り付ける範囲として、D2～D15が選択された場合には、図3（B）に示すように、D2～D15に写真が自動的に貼り付けられる。

【0083】

なお、パーソナルコンピュータ200では、撮影リストファイルをカードスロット部に挿入されたメモ리카ードに記憶し、他方、デジタルカメラ100では、この撮影リストファイルが記録されたメモ리카ードを自機のカードスロット部に挿入して、撮影リストファイルを読み出すことも可能となっている。

【0084】

また、パーソナルコンピュータ200では、デジタルカメラ100の発信するホームページ上で撮影リストファイルを作成して、デジタルカメラ100に撮影リストファイルに登録することが可能となっている。また、パーソナルコンピュータ200では、撮影した写真が登録された撮影リストファイルを、デジタルカメラが発信するホームページからダウンロードすることが可能となっている。図4は、デジタルカメラ100が発するホームページのフロント画面の一例を示している。

【0085】

また、デジタルカメラ100では、撮影リストファイルをWebサーバーのホームページからダウンロードして入力したり、直接またはネットワーク400を介して接続される機器からEメールに添付された撮影リストファイルを受信して撮影リストファイルを入力することが可能となっている。

【0086】

[本実施の形態にかかるデジタルカメラの構成]

図5は、デジタルカメラの外観構成を示す図である。同図に示すデジタルカメラは、開閉可能な表示部104を備えており、この表示部104は360°回転可能に構成されている。同図において、10はファインダー、11はタッチペン、12はスピーカー、110はカードスロット部、20は電源キー、21は撮影（記録）指示を与えるためのレリーズキー、22はズームレンズの倍率を設定するためのズームレバー、23は各モードを選択するためのモードダイヤル、24は撮影リストモードを選択するためのJOBNA BIボタン、25はDISPLAYキー、26はMENUキー、27はスクロールキー、28はSELECTキー、29はENTERキー、30はCANCELキー、31はストロボキー、32は撮影画質を設定するためのPICキーを示す。また、同図の背面側には、不図示のレンズやマイクが設けられている。

【0087】

モードダイヤル23は、①カメラの設定を変更したり、確認するためのSETUPモード、②動画を記録するための動画モード、③レリーズキー21を押している間、連続した撮影を行う連写モード、④文字を撮影するためのモードであり、階調を無くして2値データとして記録する文字モード、⑤音声を録音するための音声モード、⑥記録したファイルを再生するための再生モード、⑦パソコンと接続して、パソコンにファイルを送ったり、パソコンからカメラ操作するためのPCモード、および⑧撮影した画像の送信やインターネット機能を利用するための通信モードを選択するためのものである。

【0088】

図6は、図1のデジタルカメラ100の構成を示すブロック図である。同図において、100は、デジタルカメラを示している。デジタルカメラ100は、同図に示す如く、デジタルカメラの全体の制御を行うシステム制御部101と、被写体を撮像して画像データを出力するカメラ部102と、カメラ部102から出力される画像データに対して画像処理等を行う画像データ記録・再生部103と、画像データ等の表示を行う表示部104と、音声データの記録・再生を行うための音声データ記録・再生部105と、ユーザがデジタルカメラに動作指示を与

えるための操作部 1 0 6 およびタッチパネル操作部 1 0 7 と、画像データ等の各種データが格納される記録部 1 0 8 と、P C / I F 部 1 0 9 と、カードスロット部 1 1 0 と、並びに電源部 1 1 1 とを備えている。

【 0 0 8 9 】

上記カメラ部 1 0 2 は、上述したように被写体を撮像して画像データを出力するためのものであり、被写体像を結像するためのレンズ（ズームレンズ、フォーカスレンズ）、シャッター、およびアイリスや、レンズ（ズームレンズ、フォーカスレンズ）、シャッター、およびアイリス等を駆動するためのモータと、モータを駆動するためのモータドライバ、結像された被写体像を電気信号（アナログの画像データ）に変換する C C D、該 C C D を駆動するための C C D 駆動回路、C C D から出力される画像データの低雑音化のための C D S 回路、C C D から出力されるアナログの画像データをデジタル信号（デジタル画像データ）に変換する A / D 変換器等を備える。

【 0 0 9 0 】

画像データ記録・再生部 1 0 3 は、I P P 1 1 5 とフレームメモリ 1 1 6 からなり、カメラ部 1 0 2 の C C D 駆動回路を制御して C C D 駆動タイミングやレンズ駆動モータを制御してフォーカシングや露出調整、画像信号の圧縮伸長、画像信号を表示部 1 0 4 の L C D に表示するための信号処理を行い、また、ユーザインターフェースのための種々のグラフィック画像を生成し、表示部 1 0 4 の L C D に表示するためのものである。表示部 1 0 4 は、L C D を備え、画像を表示し、また、ユーザインターフェースのためのグラフィックを表示するためのものである。

【 0 0 9 1 】

上記記録部 1 0 8 には、画像データ、サムネイル画像データ、メールデータ、手書きデータ、音声データや、その他のデータが記録される。P C / I F 部 1 0 9 は、R S 2 3 2 C や U S B 等で外部装置（例えば、パソコン）とデータ通信するためのインターフェースである。カードスロット部 1 1 0 は、P C M C I A 規格に準拠した P C カードを差し込むためのアダプターである。P C カードとしては、無線若しくは有線でデータ通信を行うための通信カードやメモリカード等が

カードスロット部 110 に差し込まれる。

【0092】

操作部 106 は、ユーザがデジタルカメラに動作指示を与えるためのものであり、上記図 5 に示した操作ボタン（電源キー 20、リリースキー 21、ズームレバー 22、JOBNA BI ボタン 24、DISPLAY キー 25、MENU キー 26、スクロールキー 27、SELECT キー 28、ENTER キー 29、CANCEL キー 30、ストロボキー 31、PIC キー 32）やモードダイヤル 21、および、操作ボタンやモードダイヤル 21 の状態を検出してシステム制御部 101 に通知するキー制御部等を備えている。

【0093】

タッチパネル操作部 107 は、表示部 104 の LCD に貼り付けられたタッチパネル部と、タッチパネル部からの入力を CPU 112 に通知するパネル制御部とを備えている。

【0094】

音声データ記録・再生部 105 は、マイク、アンプ、A/D 変換器、D/A 変換器等を備えており、マイクを介して入力される音声を A/D 変換して音声データとしてシステム制御部 101 に出力し、また、システム制御部 101 から入力される音声データを D/A 変換して、スピーカーから出力する。

【0095】

上記システム制御部 101 は、上述したように、デジタルカメラの全体を制御するユニットであり、FLASH_ROM 114 に格納されたプログラムに従って、SD-RAM 113 をワークエリアとして使用してデジタルカメラの各種の制御を行う CPU 112 と、制御プログラムやフォント、アイコン等が記録された FLASH_ROM 114 と、CPU 112 のワークエリアとして使用される SD-RAM 113 とを備えている。また、システム制御部 101 は、AE・AF・AWB 処理、画像編集／合成処理（レタッチ・上書き文字等の処理）、撮影リスト処理（リスト作成／フォルダ管理）、暗号化／電子すかし処理、および表示部 104 の表示の制御等、メモリ制御、並びにデータ通信の制御を実行する。また、システム制御部 101 は、各モード（SETUP モード、静止画撮影モ-

ド、動画モード、連写モード、文字モード、撮影リストモード、撮影リスト撮影モード、音声モード、再生モード、P Cモード、通信モード)を備えており、各モードの実行を制御する。

【0096】

上述のデジタルカメラ100は、静止画撮影、動画撮影、音声記録、二値画像記録が可能となっており、さらに、Eメールの送受信機能、Webブラウジング機能、自動HTML作成機能、ホームページサーバー機能を備えている。これら各機能は、CPU112が、FLASH-ROM114に格納されたプログラムを実行することにより実現される。また、上述のシステム制御部101は、撮影リストを使用して撮影を行う撮影リストモードを備えており、この撮影リストモードでは、モード保持機能を有しており、モード情報をSD-RAM113に格納しておき、撮影リストモードの実行中に、他のモードに切り替えられた場合や電源がOFFされた場合に、前回の撮影リストモードを引継ぎ、中断したところから作業を行うことが可能となっている。また、デジタルカメラ100では、自機で撮影リストファイルの作成が可能となっており、この撮影リストファイルは記憶部108に記憶される。

【0097】

つぎに、上述の①撮影リストモード、②通信モード、③メモ入力モードの表示部104の表示画面について説明する。

【0098】

①撮影リストモード

撮影リストモードの表示部104の表示画面例を図7を参照して説明する。操作部106のJOBNAVIボタン24が押下されると、撮影リストモードとなり、記録部108に記録されている撮影リストファイルの撮影リスト名(タイトル名)の一覧が表示部104に表示される。図7(A)は、表示部104に表示される撮影リスト名の一覧の表示例を示している。ここで、操作者による操作部106の操作(スクロールキー、SELECTキー)やタッチパネル操作部107の操作(タッチペン)で撮影リスト名の一覧の中から撮影リスト名が選択される。そして、撮影リスト名が選択されると、選択された撮影リストのカット名の

一覧が表示部 1 0 4 に表示される。図 7 (B) は、図 7 (A) で、撮影リスト”ビジネスショー 9 8”が選択された場合の撮影リスト”ビジネスショー 9 8”のカット名の一覧の表示例を示している。さらに、操作者の操作部 1 0 7 やタッチパネル操作部 1 0 7 の操作でカット名の一覧の中からカット名が選択されると、撮影リスト撮影モード（記録モード）となり撮影可能状態となる。なお、撮影リストモードで撮影可能となる状態を撮影リスト撮影モードと称する。デジタルカメラ 1 0 0 では、撮影リスト毎にフォルダが作成され、同一の撮影リストで撮影された画像ファイルは同一のフォルダに登録される（図 5 5 参照）。

【 0 0 9 9 】

②通信モード

通信モードの表示部 1 0 4 の表示画面例を図 8 および図 9 を参照して説明する。操作部 1 0 6 のモードダイヤルで通信モードが選択されると、通信モードとなり、図 8 に示す通信モードの初期選択画面が表示される。この初期選択画面では、メールモード、ダイレクト送信モード、FAXモード、Webモード、FTPアップロードモードの選択が行われる。ここで、Webモードが選択されると、Webモードとなり、図 9 に示す接続情報の設定・確認画面が表示される。この接続情報の設定・確認画面で接続情報の設定・確認が行われ、「接続」が選択されると、インターネットへの接続が開始され、ブラウザ画面が表示される。

【 0 1 0 0 】

③メモ入力モード

メモ入力モードの表示部 1 0 4 の表示画面例を図 1 0 ～図 1 8 を参照して説明する。メモ情報としては、文字情報（テキスト文字、手書き文字）および音声情報が入力可能となっている。再生モードの画像再生画面で、タッチパネル操作部 1 0 7 の操作（タッチペン）でメモ入力モードが選択されると、例えば、図 1 0 に示すメモ入力選択画面を表示する。図 1 0 に示すメモ入力選択画面では、メモの入力モードの選択を促すメッセージ”編集作業を選択して下さい”とともに、メモ入力モードとして、”テキストメモ編集 A 1”、”アフレコ A 2”、”手書きメモ単独編集 A 3”、”手書きメモ合成編集 A 4”、”手書きメモ関連編集 A 5”が表示されている。そして、図 1 0 で”テキストメモ編集 A 1”が選択され

ると、図 1 1 に示すテキストメモの画面が表示される。そして、テキストメモの画面でタップ A 1 0 が選択されると、図 1 2 に示すソフトウェアキーボードの画面が表示される。ユーザは、このソフトウェアキーボードの画面でテキスト文字を入力する。システム制御部 1 0 1 は、この入力されたテキスト文字をメモファイルとして記録部 1 0 8 に記録する。

【 0 1 0 1 】

また、図 1 0 に示すメモ入力選択画面で” アフレコ A 2 ” が選択されると、図 1 3 に示すアフレコの入力画面が表示される。そして、アフレコの画面で” O K B 1 ” が選択されると、図 1 4 に示すアフレコの入力を促すメッセージの画面が表示される。そして、リリースキー 2 1 が押下されると、図 1 5 に示す録音中の画面が表示される。ユーザはリリースキー 2 1 が押下されている間にアフレコを音声で入力する。そして、図 1 5 の画面で” 終了 B 2 ” が選択されると、アフレコを終了して、図 1 6 に示す画面が表示され、システム制御部 1 0 1 は、この画面が表示されている間に、入力されたアフレコを音声ファイルとして記録部 1 0 8 に記録する。

【 0 1 0 2 】

また、図 1 0 に示すメモ入力選択画面で” 手書きメモ単独編集 A 3 ” が選択されると、図 1 7 に示す手書きメモ単独編集画面が表示される。ユーザはこの単独編集画面で、タップ選択領域 S 2 でタップを選択し、選択したタップを使用して描画領域 S 1 で手書き文字を入力する。また、図 1 7 のタップ選択領域 S 2 でパレットタップが選択されると、図 1 8 に示す色パレットの画面が表示され、ユーザは所望のパレットを選択する。これにより、手書き文字の色を選択することが可能となる。図 1 7 または図 1 8 の画面で” 保存 P 1 ” が選択されると、システム制御部 1 0 1 は、この入力された手書き文字をメモファイルとして記録部 1 0 8 に記録する。

【 0 1 0 3 】

つぎに、上記構成のデジタルカメラ 1 0 0 の撮影の基本動作の概略を説明する。カメラ部 1 0 2 において、レンズを介して C C D 上に結像された被写体像が画像データ（電気信号）に変換された後、C D S 回路でノイズが除去され、A / D

変換器でデジタル画像データに変換される。このデジタル画像データは、I P P 1 1 5に入力され、フレームメモリ（S D - R A M）1 1 6に保持された後、I P P 1 1 5により、ホワイトバランス調整、アパーチャ補正、階調補正等の画像処理およびデータ圧縮処理され、フレームメモリ（S D - R A M）1 1 6に書き込まれる。フレームメモリ（S D - R A M）1 1 6に書き込まれたデータは、C P U 1 1 2により、所定のファイル形式（例えば、E X I F等のフォーマット形式）で記録部1 0 8に記録される。

【0 1 0 4】

つぎに、デジタルカメラ1 0 0がW e bサーバーのホームページをブラウジングする場合の動作の概略を説明する。まず、操作部1 0 2およびタッチパネル操作部1 0 7の操作でW e bモードが選択されて所定の操作が行われると、C P U 1 2 1は、W e bサーバーからネットワーク4 0 0を経由して、カードスロット部1 1 0の通信カードを介して取り込んだW e b情報を、フレームメモリ1 1 6内に表示用データとして書き込む。フレームメモリ1 1 2に書き込まれた表示用データは、I P P 1 1 5により、表示部1 0 4に表示される。そして、操作部1 0 6のリリースキー2 1が押下されると、I P P 1 1 5でフレームメモリ1 1 6内の表示用データの圧縮処理が行われた後、C P U 1 2 1により、撮影データのファイル形式（例えば、E X I F等のフォーマット形式）で記録部1 0 8に書き込まれる。また、操作部1 0 6からズームレバー2 2の入力を検出すると、C P U 1 1 2は、フレームメモリ1 1 6内の表示データの拡大／縮小処理を行い、それに応じて表示部1 0 4の表示が変更（拡大／縮小）される（図6 6～図6 8参照）。

【0 1 0 5】

[本実施の形態にかかるパーソナルコンピュータの構成]

図1 9は、図1のパーソナルコンピュータ2 0 0を示しており、パーソナルコンピュータ2 0 0は、操作指示を与える入力部2 0 1と、表示部2 0 2と、装置全体の制御を司るC P U 2 0 3と、外部装置とデータ通信を行うためのデータ通信部2 0 4と、記録媒体2 0 6のデータのリード／ライトを行う記録媒体ドライバ装置2 0 5と、C P U 2 0 3を動作させるプログラム等を格納した記録媒体2

06と、およびCPU203のワークエリアとして使用されるRAM207と、を備えている。各部は、バスを介して互いに接続されている。

【0106】

上記入力部201は、カーソルキー、数字入力キーおよび各種機能キー等を備えたキーボード、マウス、並びに画像を読みとるスキャナ等からなる。この入力部201は、必ずしもパーソナルコンピュータ200にローカルに接続される必要はなく、PHS・リモートターミナル（例えば、Personal Digital Assistant）等のリモート装置や、当該パーソナルコンピュータ200と双方向でデータ通信が可能な装置等を入力手段として使用しても良い。また、入力部201は、CPU203に操作コマンドを与えて動作させるためのユーザーインターフェースである。なお、入力部201としては、上記したものに限られるものではなく、タッチパネル、トラックボールや音声認識機構等を用いても良い。

【0107】

上記表示部202は、CRT (Cathod Ray Tube) LCD (Liquid Crystal Display) や、プラズマディスプレイ等により構成され、CPU203から入力される表示データに応じた表示が行われる。

【0108】

上記CPU203は、例えば、32ビットマイクロプロセッサ、他のマイクロプロセッサ、DSP (Digital Signal Processor) や、プログラマブルロジック等からなる。また、CPU203は、必ずしもシングルプロセッサである必要はなく、分散処理をするタイプのものでも良い。このCPU203は、記録媒体206に格納されているプログラムに従って、装置全体を制御する中央制御ユニットであり、このCPU203は、入力部201、表示部202、データ通信部204、記録媒体ドライブ装置205、およびRAM207が接続されており、データ通信、メモリへのアクセスによるアプリケーションプログラムの読み出しや各種データのリード／ライト、データ／コマンド入力、カラー表示等を制御する。

【0109】

上記データ通信部204は、電話回線、ISDN (Integrated Services Di

gital Network)、LAN (Local Area Network) や、WAN (Wide Area Network) 等のネットワークに接続され、内蔵したモデム (図示せず) を経て電話回線を介してデータ通信を行う。また、データ通信部 2 0 4 は、RS 2 3 2 C インターフェースや IrDA インターフェースを備えており、デジタルカメラ等の外部機器と前述の RS 2 3 2 C インターフェースを介してケーブル (有線) によるデータ通信や前述の IrDA インターフェースを介して赤外線 (無線) によるデータ通信を行う。

【0 1 1 0】

上記記録媒体 2 0 6 は、CPU 2 0 3 が実行可能な OS プログラム (例えば、WINDOWS) やアプリケーションプログラム等の各種プログラムやデータを格納する。アプリケーションプログラムとしては、例えば、上述したデジタルカメラの撮影リスト等の作成を行うためのデジタルカメラ用プログラム等がある。また、記録媒体 2 0 6 には、デジタルカメラの機種毎の使用可能な機能が登録された機種テーブルが記憶されている。具体的には、この機種テーブルには、機種コードに対応させて各機種が使用可能な機能 (機種能力情報) が登録されている。図 7 0 は、機種テーブルの一例を示す。同図に示す如く、機種テーブルには、機種コード (i 7 0 0、i 8 0 0、i 9 0 0) 毎に各項目の機種能力情報が登録されている。上述の記録媒体 2 0 6 は、例えば、フロッピーディスク、ハードディスク、CD-ROM、DVD-ROM、MO や PC カード等の光学的・磁氣的・電氣的な記録媒体からなる。上記各種プログラムは、CPU 2 0 3 が直接または間接に解釈可能なオブジェクトコードやソースコード等の形態で記録媒体 2 0 6 に格納されている。記録媒体 2 0 6 に格納されたプログラムはネットワークを介して配信可能である。

【0 1 1 1】

上記 RAM 2 0 7 は、指定されたプログラム、入力指示、入力データおよび処理結果等を格納するワークメモリと、表示部 2 0 2 の表示画面に表示する表示データを一時的に格納する表示メモリとを備えている。カードスロット部 2 0 8 は、PCMCIA 規格に準拠した PC カード等を差し込むためのアダプターである。PC カードとしては、メモリカード等がカードスロット部 1 1 0 に差し込まれ

る。

【 0 1 1 2 】

パーソナルコンピュータ 2 0 0 では、記録媒体 2 0 6 に格納されているデジタルカメラ用プログラムを起動して、撮影リストファイルを作成し、作成した撮影リストファイルをデジタルカメラ 1 0 0 に転送する。

【 0 1 1 3 】

[本実施の形態にかかるデジタルカメラの記録動作の実施例]、

つぎに、上記デジタルカメラの記録動作の（実施例 1）～（実施例 9）を説明する。

【 0 1 1 4 】

（実施例 1）

実施例 1 を図 2 0 ～図 2 2 を参照して説明する。図 2 0 は実施例 1 におけるデジタルカメラ 1 0 0 側の動作を説明するためのフローチャート、図 2 1 は撮影リストファイルの一例、図 2 2 は画像ファイルのフォーマットの一例を示している。実施例 1 では、撮影リストのカット名の一覧を表示し、表示されたカット名の一覧の中からカット名が選択されると撮影リスト撮影モード（記録モード）に移行し、ユーザーによりリリースキー 2 1 が押下されると、撮影を行って撮影した画像データの画像ファイルに選択されたカット名を付加させる場合の動作を説明する。

【 0 1 1 5 】

図 2 0 において、まず、デジタルカメラ 1 0 0 では、パーソナルコンピュータ 2 0 0 と接続して撮影リストを読み込み、記録部 1 0 8 に格納する（ステップ S 1 0 1）。図 2 1 は、撮影リストの一例を示している。撮影リストには、タイトル名（撮影リスト名）と、記録すべき被記録対象のカット名が記載されている。つづいて、システム制御部 1 0 1 は、操作部 1 0 6 の J O B N A V I ボタン 2 4 が押されたか否かを判断し（ステップ S 1 0 2）、操作部 1 0 6 の J O B N A V I ボタン 2 4 が押された場合には、撮影リストモードに入り、記録部 1 0 8 に格納されている撮影リストの撮影リスト名の一覧を表示部 1 0 4 に表示する（ステップ S 1 0 3）。図 7 の（A）は、表示部 1 0 4 に表示される撮影リスト名の一

覧表示の表示例を示している。ここで、操作者のタッチパネル操作部 1 0 7 の操作で撮影リスト名の一覧の中から撮影リストが選択される。

【 0 1 1 6 】

システム制御部 1 0 1 は、撮影リストの一覧の中から撮影リストが選択されたか否かを判断する（ステップ S 1 0 4）。そして、撮影リストが選択されると、選択された撮影リストのカット名の一覧を表示部 1 0 4 に表示する（ステップ S 1 0 5）。図 7（B）は、図 7（A）で、撮影リスト”ビジネスショー 9 8”が選択された場合の撮影リスト”ビジネスショー 9 8”のカット名の表示例を示している。ここで、操作者のタッチパネル操作部 1 0 7 の操作でカット名の一覧の中からカット名が選択される。

【 0 1 1 7 】

システム制御部 1 0 1 は、カット名の一覧の中からカット名が選択されたか否かを判断する（ステップ S 1 0 6）。システム制御部 1 0 1 は、カット名が選択されると撮影リスト撮影モード（記録モード）に移行し、撮影可能状態とする（ステップ S 1 0 7）。ここで、操作者はカット名に対応する被写体を選択し、撮影を行うことになる。

【 0 1 1 8 】

つづいて、システム制御部 1 0 1 は、操作部 1 0 6 のレリーズキー 2 1 が押下されると、被写体を撮影する（ステップ S 1 0 8）。撮影後、“カット名を撮影した画像の E X I F ファイル（画像ファイル）内に記録するか否か”の選択を促すメッセージを表示部 1 0 4 に表示し、操作者のタッチパネル部 1 0 7 の操作で、“カット名を撮影した画像の E X I F ファイル（画像ファイル）内に記録する”が選択されたか否かを判断する（ステップ S 1 0 9）。“カット名を撮影した画像の E X I F ファイル（画像ファイル）内に記録する”が選択された場合には、システム制御部 1 0 1 は、カット名を E X I F ファイル（画像ファイル）のヘッダー（パラメータ）内にカット名を付加し（ステップ S 1 1 0）、撮影した画像データを記録部 1 0 8 に E X I F ファイル（画像ファイル）として格納する（ステップ S 1 1 1）。

【 0 1 1 9 】

図 2 2 は、E X I F ファイルのフォーマットの一例を示している。同図に示す如く、E X I F ファイルは、ヘッダー領域と、画像データ領域とからなり、ヘッダーにカット名を記録する。

【 0 1 2 0 】

他方、ステップ S 1 0 9 で、“ カット名を撮影した画像の E X I F ファイル内に記録しない” が選択された場合には、システム制御部 1 0 1 は、カット名を E X I F ファイルのパラメータ（ヘッダー）内に付加しないで、記録部 1 0 8 に撮影した画像データを E X I F ファイル（画像ファイル）として格納する（ステップ S 1 1 1）。

【 0 1 2 1 】

なお、デジタルカメラ 1 0 0 では、撮影リストと撮影リストを使用して記録した記録ファイルを、パーソナルコンピュータ 2 0 0 に転送する。これにより、撮影リストを作成したパーソナルコンピュータ 2 0 0 の使用者は、撮影リストを使用して撮影した画像等を利用（報告書の作成等）することができ、撮影リストの作成者の使い勝手が良くなる。

【 0 1 2 2 】

以上説明したように、上記動作例 1 によれば、撮影リストのカット名の一覧を表示し、表示されたカット名の一覧の中からカット名が選択されると記録モード（撮影リスト撮影モード）に移行し、リリースキー 2 1 が押下されると撮影を行い、撮影した画像データの画像ファイルのパラメータ内に選択されたカット名を付加することとしたので、使用者は、撮影リストを使用して、撮影の段階では必要なカットの取り忘れを防止でき、また、撮影後の段階では、どの画像がどのカット名に対応するかを間違えることを防止でき、使用者の使い勝手が良くなる。

【 0 1 2 3 】

（実施例 2）

実施例 2 を図 2 3 および図 2 4 を参照して説明する。図 2 3 は実施例 2 におけるデジタルカメラ 1 0 0 側の動作を説明するためのフローチャート、図 2 4 は撮影後の撮影リストを示している。実施例 2 では、撮影リストファイルのカット名の一覧を表示し、表示されたカット名の一覧の中からカット名が選択された後、

記録（静止画撮影、動画撮影、音声記録、二値画像記録）されたデータ（静止画、動画、音声、二値画像）のファイルを、選択されたカット名に関連づけて記憶する場合の動作を説明する。

【 0 1 2 4 】

図 2 3 において、まず、デジタルカメラ 1 0 0 では、パーソナルコンピュータ 2 0 0 と接続して撮影リストを読み込み、記録部 1 0 8 に格納する（ステップ S 1 2 1）。上記図 2 1 は撮影リストのフォーマットの一例である。撮影リストには、記録すべき被記録対象のカット名が記載されている。

【 0 1 2 5 】

そして、システム制御部 1 0 1 は、操作部 1 0 6 の J O B N A V I ボタン 2 4 が押されたか否かを判断し（ステップ S 1 2 2）、操作部 1 0 6 の J O B N A V I ボタン 2 4 が押された場合には、撮影リストモードに移行し、記録部 1 0 8 に格納されている撮影リストの撮影リスト名の一覧を表示部 1 0 4 に表示する（ステップ S 1 2 3）。上記図 7 の（A）は、撮影リスト名の一覧表示の表示例を示している。ここで、操作者のタッチパネル操作部 1 0 7 の操作で撮影リスト名の一覧の中から撮影リストが選択される。

【 0 1 2 6 】

システム制御部 1 0 1 は、撮影リストの一覧の中から撮影リストが選択されたか否かを判断し（ステップ S 1 2 4）、撮影リストが選択されると、選択された撮影リストのカット名の一覧を表示部 1 0 4 に表示する（ステップ S 1 2 5）。上記図 7（B）は、上記図 7（A）で、撮影リスト”ビジネスショー 9 8”が選択された場合の撮影リスト”ビジネスショー 9 8”のカット名の表示例を示している。ここで、操作者のタッチパネル操作部 1 0 7 の操作でカット名の一覧の中からカット名が選択される。

【 0 1 2 7 】

システム制御部 1 0 1 は、カット名の一覧の中からカット名が選択されたか否かを判断する（ステップ S 1 2 6）。システム制御部 1 0 1 は、カット名が選択されると撮影リスト撮影モード（記録モード）に移行し、記録可能状態とする（ステップ S 1 2 7）。そして、操作者の操作部 1 0 6 の操作で記録が指示される

と（ステップ S 1 2 8）、システム制御部 1 0 1 は、関連ファイルの作成を行うか否かの選択を促すメッセージを表示部 1 0 4 に表示する。

【 0 1 2 8 】

そして、システム制御部 1 0 1 は、操作者のタッチパネル操作部 1 0 7 の操作で、“関連ファイルの作成を行う”が選択されたか否かを判断する（ステップ S 1 2 9）。“関連ファイルの作成を行う”が選択されたか場合には、システム制御部 1 0 1 は、記録指示が静止画の記録である場合には（ステップ S 1 3 0）、静止画撮影を行い（ステップ S 1 3 4）、動画の記録である場合には（ステップ S 1 3 1）、動画撮影を行い（ステップ S 1 3 5）、音声の記録である場合には（ステップ S 1 3 2）、音声記録処理を行い（ステップ S 1 3 6）、二値画である場合には（ステップ S 1 3 3）、二値画像を記録し（ステップ 1 3 7）、ステップ S 1 3 8 に移行する。

【 0 1 2 9 】

さて、ステップ S 1 3 8 では、関連ファイル保存処理を実行し、取り込んだ記録データを EXIF ファイルとして記録部 1 0 8 に格納すると共に、取り込んだ記録データのファイルを撮影リストに、選択されたカット名に関連させて登録する。他方、ステップ S 1 2 9 で、関連ファイルを作成しないが選択された場合には、記録指示に従って記録を行い取り込んだ記録データを EXIF ファイルとして格納する（ステップ S 1 3 9）。

【 0 1 3 0 】

図 2 4 は、上記図 2 1 の撮影リスト（未撮影）の撮影後のフォーマットの一例を示す。同図に示すように、カット名が選択された後に記録された記録データの記録ファイルのファイル名がカット名の下に登録される。

【 0 1 3 1 】

なお、デジタルカメラ 1 0 0 では、撮影リストと撮影リストを使用して記録した記録ファイルを、パーソナルコンピュータ 2 0 0 に転送する。これにより、撮影リストを作成したパーソナルコンピュータ 2 0 0 の使用者は、撮影リストを使用して撮影した画像等を利用（報告書の作成等）することができ、撮影リストの作成者の使い勝手が良くなる。

【 0 1 3 2 】

以上説明したように、動作例 2 によれば、撮影リストのカット名が選択された後に、記録した記録データの記録ファイルを選択されたカット名に関連づけて撮影リストに登録することとしたので、使用者は、撮影の段階では、撮影リストを使用して、必要なカットの取り忘れを防止でき、また、撮影後の段階では、どの画像がどのカット名に対応するかを間違えることを防止でき、使用者の使い勝手が良くなる。

【 0 1 3 3 】

(実施例 3)

実施例 3 を図 2 5 を参照して説明する。図 2 5 は実施例 3 におけるデジタルカメラ 1 0 0 側の動作を説明するためのフローチャートを示している。実施例 3 では、撮影リストのカット名が選択された後に、撮影した画像データの画像ファイルのファイル名を選択されたカット名を含むようにする場合の動作を説明する。

【 0 1 3 4 】

図 2 5 において、まず、デジタルカメラ 1 0 0 では、パーソナルコンピュータ 2 0 0 と接続して撮影リストを読み込み、記録部 1 0 8 に格納する（ステップ S 1 4 1）。上記図 2 1 は撮影リストの一例を示している。撮影リストには、撮影リストのタイトル名（撮影リスト名）、記録すべき被記録対象のカット名が含まれている。つづいて、システム制御部 1 0 1 は、操作部 1 0 6 の J O B N A V I ボタン 2 4 が押されたか否かを判断し（ステップ S 1 4 2）、操作部 1 0 6 の J O B N A V I ボタン 2 4 が押された場合には、撮影リストモードに入り、記録部 1 0 8 に格納されている撮影リストの撮影リスト名の一覧を表示部 1 0 4 に表示する（ステップ S 1 4 3）。

【 0 1 3 5 】

上記図 7 の（A）は、撮影リスト名の一覧表示の表示例を示している。ここで、操作者のタッチパネル操作部 1 0 7 の操作で撮影リスト名の一覧の中から撮影リストが選択される。システム制御部 1 0 1 は、撮影リストの一覧の中から撮影リストが選択されたか否かを判断する（ステップ S 1 4 4）。そして、撮影リストが選択されると、システム制御部 1 0 1 は、選択された撮影リストのカット名

の一覧を表示部 1 0 4 に表示する（ステップ S 1 4 5）。上記図 7（B）は、上記図 7（A）で、撮影リスト”ビジネスショー 9 8”が選択された場合の撮影リスト”ビジネスショー 9 8”のカット名の表示例を示している。ここで、操作者のタッチパネル操作部 1 0 7 の操作でカット名の一覧の中からカット名が選択される。

【 0 1 3 6 】

システム制御部 1 0 1 は、カット名の一覧の中からカット名が選択されたか否かを判断する（ステップ S 1 4 6）。システム制御部 1 0 1 は、カット名が選択されると撮影リスト撮影モード（記録モード）に移行し、撮影可能状態とする（ステップ S 1 4 7）。これにより、使用者はカット名に対応する被写体の取り忘れを防止できる。そして、操作部 1 0 6 のリリースキー 2 1 の操作に応じて撮影を行う（ステップ S 1 4 8）。

【 0 1 3 7 】

撮影後、システム制御部 1 0 1 は、”ファイル名をカット名にするか否か”の選択を促すメッセージを表示部 1 0 4 に表示し、操作者のタッチパネル部 1 0 7 の操作で、”ファイル名をカット名にする”が選択されたか否かを判断する（ステップ S 1 4 9）。操作者のタッチパネル操作部 1 0 7 の操作で、”ファイル名をカット名にする”が選択された場合には、ステップ S 1 5 0 に移行し、システム制御部 1 0 1 は、画像が複数あるか否かを判断する。この判断の結果、画像が複数ない場合にはステップ S 1 5 2 に移行する一方、画像が複数ある場合には、ステップ S 1 5 1 に移行して、ファイル名を連番処理してステップ S 1 5 2 に移行する。具体的には、連番処理では、例えば、”写真 1”が 3 枚ある場合には、”写真 1 ～ 1”、”写真 1 ～ 2”、”写真 1 ～ 3”のような処理を行う。

【 0 1 3 8 】

さて、ステップ S 1 5 2 では、選択したカット名を読み出して画像ファイルのファイル名をカット名を含むファイル名とし（ステップ S 1 5 2）、撮影した画像ファイルを記録部 1 0 8 に EXIF ファイルとして格納する（ステップ S 1 5 3）。

【 0 1 3 9 】

他方、ステップ S 1 4 9 で、” ファイル名をカット名を含むファイル名にする” が選択されなかった場合には、カット名を含まない通常のファイル名で撮影した画像ファイルを EXIF ファイルとして格納する（ステップ S 1 5 3）。

【 0 1 4 0 】

ここで、カット名を含むファイル名の具体例を説明する。例えば、カット名” R I C O H ” が選択され、撮影された画像が 1 枚の場合には、ファイル名を、” R I C O H . j p g ” とする。また、例えば、カット名” C A M O N ” が選択され、撮影された画像が 3 枚の場合には、各ファイル名は、” C A M O N 0 1 . j p g ”、” C A M O N 0 2 . j p g ”、” C A M O N 0 3 . j p g ” と連番とする。

【 0 1 4 1 】

なお、デジタルカメラ 1 0 0 では、撮影リストと撮影リストを使用して記録した記録ファイルを、パーソナルコンピュータ 2 0 0 に転送する。これにより、撮影リストを作成したパーソナルコンピュータ 2 0 0 の使用者は、撮影リストを使用して撮影した画像等を利用（報告書の作成等）することができ、撮影リストの作成者の使い勝手が良くなる。

【 0 1 4 2 】

以上説明したように、上記実施例 3 によれば、撮影リストのカット名の一覧を表示部 1 0 4 に表示し、表示されたカット名の中からカット名を選択し、その後撮影されて得られる画像データのファイル名の少なくとも一部にカット名を含むようにしたので、使用者は、撮影の段階では、撮影リストを使用して、必要なカットの取り忘れを防止でき、また、撮影後の段階では、どの画像がどのカット名に対応するかを間違えることを防止でき、使用者の使い勝手が良くなる。

【 0 1 4 3 】

（実施例 4）

実施例 4 を図 2 6 および図 2 7 を参照して説明する。図 2 6 は実施例 4 におけるデジタルカメラ 1 0 0 側の動作を説明するためのフローチャート、図 2 7 は画像データに選択されたカット名を合成する場合を説明するための説明図を示す。実施例 4 では、撮影リストのカット名が選択された後に、撮影した画像データに

カット名を合成する場合の動作を説明する。

【0144】

図26において、まず、デジタルカメラ100では、パーソナルコンピュータ200と接続して撮影リストを読み込み、記録部108に格納する（ステップS161）。上記図21は撮影リストの一例を示している。撮影リストには、記録すべき被記録対象のタイトルを示すカット名が含まれている。つづいて、システム制御部101は、操作部106のJOBNAVIボタン24が押されたか否かを判断し（ステップS162）、操作部106のJOBNAVIボタン24が押された場合には、撮影リストモードに入り、記録部108に格納されている撮影リストの撮影リスト名の一覧を表示部104に表示する（ステップS163）。

【0145】

図7の（A）は、表示部104の撮影リスト名の一覧表示の表示例を示している。ここで、操作者のタッチパネル操作部107の操作で撮影リスト名の一覧の中から撮影リストが選択される。システム制御部101は、撮影リストの一覧の中から撮影リストが選択されたか否かを判断する（ステップS164）。そして、システム制御部101は、撮影リストが選択されると、選択された撮影リストのカット名の一覧を表示部104に表示する（ステップS165）。

【0146】

上記図7（B）は、上記図7（A）で、撮影リスト”ビジネスショー98”が選択された場合の撮影リスト”ビジネスショー98”のカット名の表示例を示している。ここで、操作者のタッチパネル操作部107の操作でカット名の一覧の中からカット名が選択される。

【0147】

システム制御部101は、カット名の一覧の中からカット名が選択されたか否かを判断する（ステップS166）。システム制御部101は、カット名が選択されると撮影リスト撮影モード（記録モード）に移行し、撮影可能状態となる（ステップS167）。これにより、使用者はカット名の被写体の取り忘れを防止できる。そして、操作部106のリリースキー21の操作に応じて撮影を行う（ステップS168）。

【 0 1 4 8 】

撮影後、システム制御部 1 0 1 は、カット名を撮影した画像に合成するか否かの選択を促すメッセージを表示部 1 0 4 に表示する。システム制御部 1 0 1 は、操作者の操作部 1 0 6 の操作で” カット名を撮影した画像に合成する” が選択されたか否かを判断する（ステップ S 1 6 9）。そして、操作者の操作部 1 0 6 の操作で、カット名を撮影した画像に合成するが選択された場合には、システム制御部 1 0 1 は、撮影した画像にカット名を合成し、合成画像の画像ファイルを作成する（ステップ S 1 7 0）。そして、この画像ファイルを記録部 1 0 8 に E X I F ファイルとして格納する（ステップ S 1 7 1）。他方、ステップ S 1 6 9 で、” カット名を撮影した画像に合成する” が選択されなかった場合には、撮影した画像の E X I F ファイルを記録部 1 0 8 に格納する（ステップ S 1 7 1）。

【 0 1 4 9 】

図 2 7 は撮影した画像にカット名を合成した合成画像を説明するための図である。例えば、カット名として、” R I C O H ” が選択された後、図 2 7 の（A）に示す画像が撮影された場合に、カット名” R I C O H ” を図 2 7 の（A）に示す撮影画像に合成して、図 2 7 の（B）に示すような合成画像を作成する。

【 0 1 5 0 】

なお、デジタルカメラ 1 0 0 では、撮影リストと撮影リストを使用して記録した記録ファイルを、パーソナルコンピュータ 2 0 0 に転送する。これにより、撮影リストを作成したパーソナルコンピュータ 2 0 0 の使用者は、撮影リストを使用して撮影した画像等を利用（報告書の作成等）することができ、撮影リストの作成者の使い勝手が良くなる。

【 0 1 5 1 】

以上説明したように、上記実施例 4 によれば、撮影リストを表示部 1 0 4 に表示し、表示された撮影リストの中からカット名を選択し、その後撮影されて得られる画像データにカット名を合成することとしたので、使用者は、撮影の段階では撮影リストを使用して、必要なカットの取り忘れを防止でき、また、撮影後の段階では、どの画像がどのカット名に対応するかを間違えることを防止でき、使用者の使い勝手が良くなる。

【 0 1 5 2 】

(実施例 5)

実施例 5 を図 2 8 および図 2 9 を参照して説明する。図 2 8 は実施例 5 におけるデジタルカメラ 1 0 0 側の動作を説明するためのフローチャート、図 2 9 は表示部 1 0 4 の表示例を示す。実施例 5 では、撮影リストを表示部 1 0 4 に表示し、ユーザが表示された撮影リストの中からカット名を選択し、選択されたカット名を見ながら撮影を行う場合の動作を説明する。

【 0 1 5 3 】

図 2 8 において、まず、デジタルカメラ 1 0 0 では、パーソナルコンピュータ 2 0 0 と接続して撮影リストを読み込み、記録部 1 0 8 に格納する（ステップ S 1 8 1）。上記図 2 1 は撮影リストの一例を示している。撮影リストには、記録すべき被記録対象のタイトルを示すカット名が記載されている。つづいて、システム制御部 1 0 1 は、操作部 1 0 6 の J O B N A V I ボタン 2 4 が押されたか否かを判断し（ステップ S 1 8 2）、操作部 1 0 6 の J O B N A V I ボタン 2 4 が押された場合には、撮影リストモードに入り、記録部 1 0 8 に格納されている撮影リストの撮影リスト名の一覧を表示部 1 0 4 に表示する（ステップ S 1 8 3）。

【 0 1 5 4 】

上記図 7（A）は表示部 1 0 4 に表示される撮影リスト名の一覧表示の表示例を示している。ここで、操作者のタッチパネル操作部 1 0 7 の操作で撮影リスト名の一覧の中から撮影リストが選択される。システム制御部 1 0 1 は、撮影リストの一覧の中から撮影リストが選択されたか否かを判断する（ステップ S 1 8 4）。そして、撮影リストが選択されると、選択された撮影リストのカット名の一覧を表示部 1 0 4 に表示する（ステップ S 1 8 5）。図 7（B）は、図 7（A）で、撮影リスト” 9 8 ビジネスショー” が選択された場合の撮影リスト” 9 8 ビジネスショー” のカット名の表示例を示している。ここで、操作者のタッチパネル操作部 1 0 7 の操作でカット名の一覧の中からカット名が選択される。

【 0 1 5 5 】

システム制御部 1 0 1 は、カット名の一覧の中からカット名が選択されたか否

かを判断する（ステップS 1 8 6）。カット名が選択されると撮影リスト撮影モード（記録モード）に入り、表示部1 0 4に被写体のモニタリング画像を表示する（ステップS 1 8 7）。この場合、被写体のモニタリング画像と共に、表示部1 0 4の一部に選択されたカット名を併せて表示する。図2 9は、図7（B）でカット名”入り口の写真”が選択された場合の画面の表示例を示している。図2 9に示すように、表示部1 0 4には、被写体のモニタリング画像とカット名”入り口の写真”が表示されている。

【0 1 5 6】

そして、操作部1 0 6のリリースキー2 1が押下されると、撮影を行い撮影した画像をE X I F形式の画像ファイルとして記録部1 0 8に格納する（ステップS 1 8 8）。そして、システム制御部1 0 1は、カット名の撮影が全て終了したか否かを判断し（ステップS 1 8 9）、カット名を全て撮影した場合にはリターンする一方、カット名を全て撮影していない場合にはステップS 1 8 5に戻り、カット名を全て撮影するまで同じ処理を繰り返す（ステップS 1 8 5～ステップS 1 8 9）。

【0 1 5 7】

なお、デジタルカメラ1 0 0では、撮影リストと撮影リストを使用して記録した記録ファイルを、パーソナルコンピュータ2 0 0に転送する。これにより、撮影リストを作成したパーソナルコンピュータ2 0 0の利用者は、撮影リストを使用して撮影した画像等を利用（報告書の作成等）することができ、撮影リストの作成者の使い勝手が良くなる。

【0 1 5 8】

以上説明したように、実施例5によれば、撮影リストを表示部1 0 4に表示し、ユーザが表示された撮影リストの中からカット名を選択し、選択されたカット名をモニタリング画像とともに表示することとしたので、利用者は、カット名を見ながら撮影を行うことができ、必要なカットの取り忘れを防止することが可能となり、利用者の使い勝手が良くなる。

【0 1 5 9】

（実施例6）

実施例 6 を図 3 0 を参照して説明する。図 3 0 は実施例 6 におけるデジタルカメラ 1 0 0 側の動作を説明するためのフローチャートを示す。実施例 6 では、撮影リストのカット名を表示部 1 0 4 に表示し、カット名が選択された場合に選択された後、撮影が行われた場合にカット名の横にチェックマークを入れ、さらに、カット名の撮影枚数を表示する場合の動作を説明する。

【 0 1 6 0 】

図 3 0 において、まず、デジタルカメラ 1 0 0 では、パーソナルコンピュータ 2 0 0 と接続して撮影リストを読み込み、記録部 1 0 8 に格納する（ステップ S 1 9 1）。撮影リストには、記録すべき被記録対象のタイトルを示すカット名が記載されている。つづいて、システム制御部 1 0 1 は、操作部 1 0 6 の J O B N A V I ボタン 2 4 が押されたか否かを判断し（ステップ S 1 9 2）、操作部 1 0 6 の J O B N A V I ボタン 2 4 が押された場合には、撮影リストモードに入り、記録部 1 0 8 に格納されている撮影リストの撮影リスト名の一覧を表示部 1 0 4 に表示する（ステップ S 1 9 3）。

【 0 1 6 1 】

上記図 7（A）は表示部 1 0 4 に表示される撮影リスト名の一覧表示の表示例を示している。ここで、操作者のタッチパネル操作部 1 0 7 の操作で撮影リスト名の一覧の中から撮影リストが選択される。システム制御部 1 0 1 は、撮影リストの一覧の中から撮影リストが選択されたか否かを判断する（ステップ S 1 9 4）。そして、撮影リストが選択されると、選択された撮影リストのカット名の一覧を表示部 1 0 4 に表示する（ステップ S 1 9 5）。図 7（B）は、図 7（A）で、撮影リスト” 9 8 ビジネスショー” が選択された場合の撮影リスト” 9 8 ビジネスショー” のカット名の表示例を示している。ここで、操作者のタッチパネル操作部 1 0 7 の操作でカット名の一覧の中からカット名が選択される。そして、システム制御部 1 0 1 は、カット名の一覧の中からカット名が選択されたか否かを判断する（ステップ S 1 9 6）。

【 0 1 6 2 】

その後、撮影リスト撮影モード（記録モード）に入り、撮影可能状態となり（ステップ S 1 9 7）、表示部 1 0 4 にモニタリング画像を表示する。そして、操

作部 1 0 6 のリリースキー 2 1 が押下されると、撮影を行い（ステップ S 1 9 8）、撮影した画像を撮影した画像を E X I F 形式の画像ファイルとして記録部 1 0 8 に格納する。カット名が選択されると、システム制御部 1 0 1 は、選択されたカット名にチェックを入れて、撮影済み枚数を表示させる（ステップ S 1 9 9）。

【 0 1 6 3 】

そして、システム制御部 1 0 1 は、表示されたカット名の撮影が全て終了したか否かを判断し（ステップ S 2 0 0）、表示されたカット名を全て撮影した場合にはリターンする一方、表示されたカット名を全て撮影していない場合にはステップ S 1 9 5 に戻り、カット名を全て撮影するまで同じ処理を繰り返す（ステップ S 1 9 5 ～ステップ S 2 0 0）。

【 0 1 6 4 】

図 3 1 を参照して、実施例 6 における表示部 1 0 4 の具体的な表示例を説明する。上記図 7（B）は撮影リストのカット名の選択画面を示している。上記図 7（B）では、撮影リストのカット名の選択を促すメッセージ”撮影リストのカット名を選択して下さい。”と共に、撮影リスト”9 8 ビジネスショー”と、そのカット名の一覧”入り口の写真”、”キャモン”、”セロックス”、”NCC”が表示されている。また、カット名の右横には各カット名の撮影済み枚数が表示される。同図において、ユーザにより、カット名が選択された後、撮影が行われると、図 3 1 に示すように、選択されたカット名にチェックマーク（左の○の色を変える）を入れ、また、カット名の右横には各カット名の撮影済み枚数を表示する。図 3 1 に示す例では、カット名として、”入り口の写真”が選択されて 1 枚撮影された場合を示している。システム制御部 1 0 1 は、タッチパネル操作部 1 0 6 の操作（タッチペン）でこのチェックマークが再度選択されると、チェックマークを消去する。

【 0 1 6 5 】

なお、デジタルカメラ 1 0 0 では、撮影リストと撮影リストを使用して記録した記録ファイルを、パーソナルコンピュータ 2 0 0 に転送する。これにより、撮影リストを作成したパーソナルコンピュータ 2 0 0 の使用者は、撮影リストを使

用して撮影した画像等を利用（報告書の作成等）することができ、撮影リストの作成者の使い勝手が良くなる。

【0166】

以上説明したように、実施例6によれば、撮影リストのカット名を表示部104に表示し、カット名が選択されて撮影が行われた場合に、選択されたカット名にチェックマークおよび撮影枚数を入れることとしたので、使用者は、撮影リストを使用して、必要なカットの取り忘れを防止でき、使用者の使い勝手が良くなる。

【0167】

（実施例7）

実施例7を図32を参照して説明する。図32は実施例7におけるデジタルカメラ100側の動作を説明するためのフローチャートを示す。上記図8は通信モードの選択画面を示しており、上記図9はWebモードの設定画面を示している。実施例8では、デジタルカメラ100は、Webブラウザで、Webサーバー300のホームページから撮影リストファイルを取り込み、取り込んだ撮影リストファイルに従って撮影を行う場合の動作例を説明する。

【0168】

図32において、まず、デジタルカメラでは、Webモードであるか否かを判断し（ステップS211）、Webモードである場合には、ホームページからファイルを読み込むモードであるか否かを判断する（ステップS212）。ホームページからファイルを読み込むモードである場合には、ホームページ上の撮影リストが機種に応じたリストであるか否かを判断する（ステップS213）。具体的には、機種に応じた撮影リストファイルであるか否かは、例えば、撮影リストファイルの拡張子で判断する。機種に応じたリストである場合には、ステップS214に移行し、撮影リストとしてホームページ上の添付ファイルをダウンロードする。そして、撮影リストモードであるか否かを判断し（ステップS215）、撮影リストモードである場合には、撮影リストの内容（カット名、貼り付けサイズ等）を読み込む（ステップS216）。

【0169】

そして、撮影リストの指示に従って、撮影を行う（ステップ S 2 1 7）。そして、撮影が全て終了したか否かを判断し（ステップ S 2 1 8）、撮影が全て終了していない場合にはステップ S 2 1 4 に移行して、撮影が全て終了するまで同じ処理を繰り返す（ステップ S 2 1 4 ～ S 2 1 8）。

【 0 1 7 0 】

以上説明したように、実施例 7 によれば、デジタルカメラ 1 0 0 では、Web ブラウザで、Web サーバーのホームページから撮影リストファイルを取り込み、取り込んだ撮影リストファイルに従って撮影を行うこととしたので、撮影リストを容易に取得して、撮影リストに従って撮影を行うことができ、必要なカットの取り忘れ等を防止することができ、指示者（撮影リストの作成者）の指示に従った撮影を行うことが可能となる。

【 0 1 7 1 】

（実施例 8）

実施例 8 を図 3 3 を参照して説明する。図 3 3 は実施例 8 におけるデジタルカメラ 1 0 0 側の動作を説明するためのフローチャートを示す。実施例 8 では、デジタルカメラ 1 0 0 はネットワークを介して E メールで撮影リストファイルを受信し、撮影リストファイルに従って撮影を行う場合の動作例を説明する。

【 0 1 7 2 】

図 3 3 において、まず、デジタルカメラでは、E - M A I L（E メール）を受信したか否かを判断し（ステップ S 2 2 1）、E - M A I Lを受信した場合には、ステップ S 2 2 2 に移行し、受信した E - M A I Lの内容が撮影リストであるか否かを判断する。この判断の結果、受信した E - M A I Lの内容が撮影リストである場合には、自機の機種に対応した撮影リストであるか否かを判断し（ステップ S 2 2 3）、自機の機種に対応した撮影リストである場合には、撮影リストとして添付ファイルを読み込む（ステップ S 2 2 4）。そして、撮影リスト撮影モードであるか否かを判断する（ステップ S 2 2 5）。具体的には、機種に応じた撮影リストファイルであるか否かは、例えば、撮影リストファイルの拡張子で判断する。撮影リスト撮影モードである場合には、撮影リストの内容（カット名、貼り付けサイズ等）を読み込む（ステップ S 2 2 6）。

【 0 1 7 3 】

そして、撮影リストの指示に従って、撮影を行う（ステップ S 2 2 7）。この後、撮影が全て終了したか否かを判断し（ステップ S 2 2 8）、撮影が全て終了していない場合にはステップ S 2 2 4 に移行して、撮影が全て終了するまで同じ処理を繰り返す（ステップ S 2 2 4 ～ S 2 2 8）。

【 0 1 7 4 】

以上説明したように、実施例 8 によれば、デジタルカメラ 1 0 0 では、Eメールで撮影リストを受信して、撮影リストに従って撮影を行うこととしたので、撮影リストを容易に取得して、撮影リストに従って撮影を行うことができ、必要なカットの取り忘れ等を防止することができ、指示者（撮影リストの作成者）の指示に従った撮影を行うことが可能となる。

【 0 1 7 5 】

（実施例 9）

実施例 9 を図 3 4 を参照して説明する。図 3 4 は実施例 9 におけるデジタルカメラ 1 0 0 側の動作を説明するためのフローチャートを示している。実施例 9 では、撮影リストのカット名の一覧を表示し、表示されたカット名の一覧の中からカット名が選択されると記録モード（撮影リスト撮影モード）に移行し、リリースキー 2 1 が押下されると撮影を行い、撮影した画像データの HTML ファイルを自動で作成する場合の動作を説明する。

【 0 1 7 6 】

図 3 4 において、まず、デジタルカメラ 1 0 0 では、パーソナルコンピュータ 2 0 0 と接続して撮影リストを読み込み、記録部 1 0 8 に格納する（ステップ S 2 3 1）。図 2 1 は、撮影リストの一例を示している。撮影リストには、記録すべき被記録対象のカット名が記載されている。つづいて、システム制御部 1 0 1 は、操作部 1 0 6 の J O B N A V I ボタン 2 4 が押されたか否かを判断し（ステップ S 2 3 2）、操作部 1 0 6 の J O B N A V I ボタン 2 4 が押された場合には、撮影リストモードに入り、記録部 1 0 8 に格納されている撮影リストの撮影リスト名の一覧を表示部 1 0 4 に表示する（ステップ S 2 3 3）。図 7 の（A）は、表示部 1 0 4 に表示される撮影リスト名の一覧表示の表示例を示している。こ

ここで、操作者のタッチパネル操作部 1 0 7 の操作で撮影リスト名の一覧の中から撮影リストが選択される。

【 0 1 7 7 】

システム制御部 1 0 1 は、撮影リストの一覧の中から撮影リストが選択されたか否かを判断する（ステップ S 2 3 4）。そして、撮影リストが選択されると、選択された撮影リストのカット名の一覧を表示部 1 0 4 に表示する（ステップ S 2 3 5）。図 7（B）は、図 7（A）で、撮影リスト”ビジネスショー 9 8”が選択された場合の撮影リスト”ビジネスショー 9 8”のカット名の表示例を示している。ここで、操作者のタッチパネル操作部 1 0 7 の操作でカット名の一覧の中からカット名が選択される。

【 0 1 7 8 】

システム制御部 1 0 1 は、カット名の一覧の中からカット名が選択されたか否かを判断する（ステップ S 2 3 6）。システム制御部 1 0 1 は、カット名が選択されると撮影モードに移行し、撮影可能状態とする（ステップ S 2 3 7）。ここで、操作者はカット名に対応する被写体を選択し、撮影を行うことになる。

【 0 1 7 9 】

つづいて、システム制御部 1 0 1 は、操作部 1 0 6 のリリースキー 2 1 が押下されると、被写体を撮影し（ステップ S 2 3 8）、撮影した画像データを記録部 1 0 8 に E X I F ファイル（画像ファイル）として格納する（ステップ S 2 3 9）。

【 0 1 8 0 】

そして、システム制御部 1 0 1 は、撮影した画像データを HTML ファイルに変換する HTML ファイルを作成し（ステップ S 2 4 0）、作成した HTML ファイルを記録部 1 0 8 に保存する（ステップ S 2 4 1）。この後、システム制御部 1 0 1 は、ユーザの操作部 1 0 6 の操作により、HTML ファイルの Web サーバーへのアップロードの指示があるか否かを判断し（ステップ S 2 4 2）、HTML ファイルの Web サーバーへのアップロードの指示がある場合には、HTML ファイルを Web サーバーへアップロードする（ステップ S 2 4 3）。

【 0 1 8 1 】

なお、デジタルカメラ 1 0 0 では、撮影リストと撮影リストを使用して記録した記録ファイルを、パーソナルコンピュータ 2 0 0 に転送する。これにより、撮影リストを作成したパーソナルコンピュータ 2 0 0 の使用者は、撮影リストを使用して撮影した画像等を利用（報告書の作成等）することができ、撮影リストの作成者の使い勝手が良くなる。

【 0 1 8 2 】

以上説明したように、上記動作例 9 によれば、撮影リストのカット名の一覧を表示し、表示されたカット名の一覧の中からカット名が選択されると記録モード（撮影リスト撮影モード）に移行し、リリースキー 2 1 が押下されると撮影を行い、撮影した画像データの HTML ファイルを自動で作成することとしたので、使用者は、撮影リストを使用して、撮影の段階では必要なカットの取り忘れを防止でき、また、撮影後の段階では、自動的に HTML ファイルを作成することができ、使用者の使い勝手が良くなる。

【 0 1 8 3 】

「本実施の形態にかかるデジタルカメラの撮影リストの実施例」

デジタルカメラ 1 0 0 の撮影リストの（実施例 1）～（実施例 2 0）を説明する。上記の説明では、撮影リストには、撮影リストのタイトル名と被記録対象のタイトルを示すカット名が含まれていたが、さらに、撮影リストに、カット名に対応させて、撮影者に撮影手順や作業指示を与えるための撮影指示情報（テキスト、音声、図面等）や、カット名に対応した被記録対象を記録する際の設定条件の自動設定や記録後に実行すべき処理の指示を与えるための自動処理指示情報（操作指示コマンド）を付加することにしても良い。

【 0 1 8 4 】

（実施例 1）

実施例 1 を図 3 5 ～図 3 7 を参照して説明する。図 3 5 ～図 3 7 は実施例 1 におけるデジタルカメラ 1 0 0 側の動作を説明するためのフローチャートを示す。実施例 1 では、撮影リストのカット名を表示し、そして撮影リスト中のカット名を選択し、選択されたカット名に対応する撮影指示情報（撮影方法の指示や撮影後の処理の指示）の表示を行い、ユーザが表示される撮影方法に従って撮影し、

また、表示される撮影後の処理の指示に従って処理を行う場合の動作を説明する。

【 0 1 8 5 】

撮影前の撮影指示情報および撮影後の撮影指示情報を識別するために、カット名の後ろに識別子を付加する。識別子「A」は、撮影前の撮影指示情報を示し、識別子「B」は、撮影後の撮影指示情報を示す。システム制御部 1 0 1 は、カット名に付加された識別子を判断し、識別子「A」が付加されている場合には、撮影前に撮影指示情報の報知を行い、また、識別子「B」が付加されている場合には、撮影後に撮影後の撮影指示情報の報知を行う。

【 0 1 8 6 】

例えば、図 3 6 に示すような撮影リストの場合には、カット名として” バック 1 ” が選択された場合には、撮影後に” 撮影者の氏名をメモ情報として入力してください ” と表示部 1 0 4 に表示する。また、カット名として” バック 2 ” が選択された場合には、撮影前に、” おしゃれな感じで撮影してください ” を表示部 1 0 4 に表示する。

【 0 1 8 7 】

図 8 9 は、パーソナルコンピュータ 2 0 0 の項目リストの一例を示している。図 8 9 において、パーソナルコンピュータ 2 0 0 では、カット名として、” 商品名 ” の範囲を選択し、さらに、撮影指示情報として、” 撮影指示（撮影前の指示である） ” の範囲を選択する。そして、撮影リストのカット名と撮影指示情報の間に、上述した撮影前の撮影指示情報（撮影方法の指示）であることを示す識別子「A」を挿入して撮影リストファイルを作成する。なお、撮影リストファイルを作成する場合には、上述したような、タイトル名やファイル名の設定も必要である。

【 0 1 8 8 】

図 3 5 において、まず、デジタルカメラ 1 0 0 では、パーソナルコンピュータ 2 0 0 と接続して撮影リストを読み込み、記録部 1 0 8 に格納する（ステップ S 3 0 1）。撮影リストには、記録すべき被記録対象のタイトルを示すカット名が含まれており、さらに、カット名に対応させて撮影指示情報（撮影方法の指示や

撮影後の処理の指示) がテキスト文書で登録されている。

【 0 1 8 9 】

つづいて、システム制御部 1 0 1 は、操作部 1 0 6 の NOBNAVI ボタンが押されたか否かを判断し (ステップ S 3 0 2)、操作部 1 0 6 の NOBNAVI ボタンが押された場合には、撮影リストモードに入り、記録部 1 0 8 に格納されている撮影リストの撮影リスト名の一覧を表示部 1 0 4 に表示する (ステップ S 3 0 3)。ここで、操作者のタッチパネル操作部 1 0 7 の操作で撮影リスト名の一覧の中から撮影リストが選択される。システム制御部 1 0 1 は、撮影リストの一覧の中から撮影リストが選択されたか否かを判断する (ステップ S 3 0 4)。

【 0 1 9 0 】

そして、撮影リストが選択されると、システム制御部 1 0 1 は、選択された撮影リストのカット名の一覧を表示部 1 0 4 に表示する (ステップ S 3 0 5)。そして、システム制御部 1 0 1 は、カット名の一覧の中からカット名が選択されたか否かを判断する (ステップ S 3 0 6)。システム制御部 1 0 1 は、カット名が選択されると、撮影リスト撮影モード (記録モード) に移行し、撮影可能状態とする。そして、システム制御部 1 0 1 は、撮影リストに選択されたカット名に対応する撮影指示情報があるか否かを判断する (ステップ S 3 0 7)。

【 0 1 9 1 】

システム制御部 1 0 1 は、撮影リストに選択されたカット名に対応する撮影指示情報があると判断した場合には、撮影指示情報として撮影方法の指示があるか否かを判断し (ステップ S 3 0 8)、撮影方法の指示でないと判断した場合には、ステップ S 3 1 0 に移行する一方、撮影方法の指示であると判断した場合には、ステップ S 3 0 9 に移行する。ステップ S 3 0 9 では、システム制御部 1 0 1 は、選択されたカット名に対応する撮影方法の指示 (撮影指示情報) を表示部 1 0 4 に表示する。これにより、ユーザーは、カット名に対応する被写体を選択し、さらに、表示される撮影方法の指示に従って撮影を行うことが可能となる。

【 0 1 9 2 】

そして、システム制御部 1 0 1 は、操作部 1 0 6 のレリーズキー 2 1 の押下に応じて撮影を行う (ステップ S 3 1 0)。ここでは、撮影ポイントが複数ある場

合には、複数回の撮影が行われる。そして、システム制御部 1 0 1 は、撮影が終了したか否かを判断し（ステップ S 3 1 1）、撮影が終了した場合には、選択されたカット名に対応する撮影指示情報として撮影後の処理の指示があるか否かを判断し（ステップ S 3 1 2）、撮影後の処理の指示がないと判断した場合には、ステップ S 3 1 5 に移行して、撮影した画像を画像ファイルとして記録部 1 0 8 に保存する。

【 0 1 9 3 】

他方、ステップ S 3 1 2 で、システム制御部 1 0 1 は、選択されたカット名に対応する撮影指示情報として撮影後の処理の指示があると判断した場合には、ステップ S 3 1 3 に移行し、撮影後の処理の指示（撮影指示情報）を表示部 1 0 4 に表示する。これにより、ユーザは、撮影後の処理の指示に従った処理を行うことが可能となる。

【 0 1 9 4 】

操作者は、指示される撮影後の処理を実行するための指示を操作部 1 0 6 を介してシステム制御部 1 0 1 に与え、システム制御部 1 0 1 は、指示される撮影後の処理を実行する（ステップ S 3 1 4）。ここで、撮影後の処理の指示としては、例えば、メモの記入等の指示がある。そして、指示通りに処理した画像を画像ファイルとして記録部 1 0 8 に保存する（ステップ S 3 1 5）。

【 0 1 9 5 】

他方、ステップ S 3 0 7 で、撮影リストに選択されたカット名に対応する撮影指示情報がないと判断した場合には、ステップ S 3 1 6 に移行し、通常の撮影リストモードで撮影を行って、撮影した画像を画像ファイルとして記録部 1 0 8 に格納する（ステップ S 3 1 7）。

【 0 1 9 6 】

なお、デジタルカメラ 1 0 0 では、撮影リストと撮影リストを使用して記録した記録ファイルを、パーソナルコンピュータ 2 0 0 に転送する。これにより、撮影リストを作成したパーソナルコンピュータ 2 0 0 の使用者は、撮影リストを使用して撮影した画像等を利用（報告書の作成等）することができ、撮影リストの作成者の使い勝手が良くなる。

【 0 1 9 7 】

図 8 9 は、パーソナルコンピュータ 2 0 0 の項目リストの一例を示している。図 8 9 において、パーソナルコンピュータ 2 0 0 では、カット名として、“商品名”の範囲を選択し、さらに、撮影指示情報として、“撮影指示（撮影前の指示である）”の範囲を選択する。そして、カット名と撮影指示情報の間に、上述した撮影前の撮影指示情報であることを示す識別子「A」を挿入して撮影リストファイルを作成する。なお、撮影リストファイルを作成する場合には、上述したような、タイトル名やファイル名の設定も必要である。

【 0 1 9 8 】

なお、撮影指示情報は、上述したテキスト文書に限らず、例えば、図面を使用することにしても良い。図 3 7 は図面の撮影指示情報の一例を示しており、特に、撮影の方法（撮影のポイント）のガイダンス図面を示している。これによれば、使用者は、この図面の撮影の方法（撮影のポイント）の指示に従って被写体を選択して撮影することが可能となる。また、ここでは、撮影指示情報として、撮影後の処理の指示を示したが、撮影指示情報としては、撮影と同時に行う処理（例えば、測距処理）の指示でも良い。撮影と同時に行う処理の指示の場合は、撮影前に表示する。これにより、使用者は、撮影と同時に行う処理を実行するための指示をデジタルカメラに与えることが可能となる。

【 0 1 9 9 】

以上説明したように、上記実施例 1 によれば、撮影リストのカット名を表示し、そして撮影リスト中のカット名を選択し、選択されたカット名に対応する撮影指示情報（撮影方法の指示や撮影後の処理の指示）の表示を行い、ユーザが表示される撮影方法に従って撮影し、また、表示される撮影後の処理の指示に従って処理を行うこととしたので、使用者は、表示される撮影指示情報に従って撮影や撮影後の処理を行うことができ、撮影リストの作成者（指示者）の指示に従った撮影や撮影後の処理を行うことが可能となる。

【 0 2 0 0 】

（実施例 2）

実施例 2 を図 3 8 を参照して説明する。図 3 8 は実施例 2 におけるデジタルカ

メラ 1 0 0 側の動作を説明するためのフローチャートを示す。実施例 2 では、撮影リストの選択されたカット名に対応する撮影指示情報（撮影方法の指示や撮影後の処理の指示）を音声で出力し、ユーザが音声で出力される撮影方法の指示に従って撮影し、また、音声で出力される撮影後の処理の指示に従って処理を行う場合の動作を説明する。

【 0 2 0 1 】

図 3 8 において、まず、デジタルカメラ 1 0 0 では、パーソナルコンピュータ 2 0 0 と接続して撮影リストを読み込み、記録部 1 0 8 に格納する（ステップ S 3 2 1）。撮影リストには、記録すべき被記録対象のカット名が含まれており、さらに、カット名に対応させて撮影指示情報（撮影方法の指示や撮影後の処理の指示）が音声情報で登録されている。

【 0 2 0 2 】

つづいて、システム制御部 1 0 1 は、操作部 1 0 6 の J O B N A V I ボタン 2 4 が押されたか否かを判断し（ステップ S 3 2 2）、操作部 1 0 6 の J O B N A V I ボタン 2 4 が押された場合には、撮影リストモードに入り、記録部 1 0 8 に格納されている撮影リストの撮影リスト名の一覧を表示部 1 0 4 に表示する（ステップ S 3 2 3）。ここで、操作者のタッチパネル操作部 1 0 7 の操作で撮影リスト名の一覧の中から撮影リストが選択される。システム制御部 1 0 1 は、撮影リストの一覧の中から撮影リストが選択されたか否かを判断する（ステップ S 3 2 4）。

【 0 2 0 3 】

そして、撮影リストが選択されると、選択された撮影リストのカット名の一覧を表示部 1 0 4 に表示する（ステップ S 3 2 5）。ここで、操作者のタッチパネル操作部 1 0 7 の操作でカット名の一覧の中からカット名が選択される。システム制御部 1 0 1 は、カット名の一覧の中からカット名が選択されたか否かを判断する（ステップ S 3 2 6）。システム制御部 1 0 1 は、カット名が選択されると撮影モードに入り、撮影可能状態とする。そして、システム制御部 1 0 1 は、撮影リストに選択されたカット名に対応する撮影指示情報があるか否かを判断する（ステップ S 3 2 7）。

【 0 2 0 4 】

システム制御部 1 0 1 は、撮影リストに選択されたカット名に対応する撮影指示情報があると判断した場合には、撮影指示情報として撮影方法の指示があるか否かを判断し（ステップ S 3 2 8）、撮影方法の指示でないと判断した場合には、ステップ S 3 3 0 に移行する一方、撮影方法の指示であると判断した場合には、ステップ S 3 2 9 に移行する。ステップ S 1 0 9 では、システム制御部 1 0 1 は、撮影リストの選択されたカット名に対応する撮影方法の指示（撮影指示情報）を音声データ記録・再生部 1 0 5 から音声で出力する（ステップ S 3 2 9）。これにより、ユーザーは、カット名に対応する被写体を選択し、撮影方法の指示に従って撮影を行うことが可能となる。

【 0 2 0 5 】

そして、操作部 1 0 6 のリリースキー 2 1 の押下に応じて撮影を行う（ステップ S 3 3 0）。ここで、撮影ポイントが複数ある場合には、複数回の撮影が行われる。そして、システム制御部 1 0 1 は撮影が終了したか否かを判断し（ステップ S 3 3 1）、撮影が終了すると、選択されたカット名に対応する撮影指示情報として撮影後の処理の指示があるか否かを判断し（ステップ S 3 3 2）、撮影後の処理の指示がないと判断した場合には、ステップ S 3 3 5 に移行して、撮影した画像を画像ファイルとして記録部 1 0 8 に保存する。

【 0 2 0 6 】

他方、ステップ S 3 3 5 で、システム制御部 1 0 1 は、選択されたカット名に対応する撮影指示情報として撮影後の処理の指示があると判断した場合には、ステップ S 3 3 3 に移行し、撮影後の処理の指示（撮影指示情報）を音声記録・再生部から音声で出力する。これにより、ユーザーは、撮影後の処理の指示に従った処理を行うことが可能となる。

【 0 2 0 7 】

操作者は、指示される撮影後の処理を実行するための指示を操作部 1 0 6 を介してシステム制御部 1 0 1 に与え、システム制御部 1 0 1 は、指示される撮影後の処理を実行する（ステップ S 3 3 4）。ここで、撮影後の処理の指示としては、例えば、メモの記入等の指示がある。そして、指示通りに処理した画像を画像

ファイルとして記録部 1 0 8 に保存する（ステップ S 3 3 5）。

【 0 2 0 8 】

他方、ステップ S 3 2 7 で、撮影リストに選択されたカット名に対応する撮影指示情報がないと判断した場合には、ステップ S 3 3 6 に移行し、通常の撮影リストモードで撮影を行って（ステップ S 3 3 6）、撮影した画像を画像ファイルとして記録部 1 0 8 に格納する（ステップ S 3 3 7）。

【 0 2 0 9 】

なお、ここでは、撮影指示情報として、撮影後の処理の指示を示したが、撮影指示情報としては、撮影と同時に行う処理（例えば、測距処理）の指示でも良い。撮影と同時に行う処理の指示の場合は、撮影前に音声で出力する。これにより、使用者は、撮影と同時に行う処理を実行するための指示をデジタルカメラに与えることが可能となる。

【 0 2 1 0 】

なお、デジタルカメラ 1 0 0 では、撮影リストと撮影リストを使用して記録した記録ファイルを、パーソナルコンピュータ 2 0 0 に転送する。これにより、撮影リストを作成したパーソナルコンピュータ 2 0 0 の使用者は、撮影リストを使用して撮影した画像等を利用（報告書の作成等）することができ、撮影リストの作成者の使い勝手が良くなる。

【 0 2 1 1 】

以上説明したように、上記実施例 2 によれば、ユーザが撮影リストのカット名を選択し、撮影リストの選択されたカット名に対応する撮影指示情報（撮影方法の指示や撮影後の処理の指示）を音声で出力し、ユーザが音声で出力される撮影方法に従って撮影し、また、音声で出力される撮影後の処理の指示に従って処理を行うこととしたので、使用者は、音声で出力される撮影指示情報に従って撮影や撮影後の処理を行うことができ、撮影リストの作成者（指示者）の指示に従った撮影や撮影後の処理を行うことが可能となる。

【 0 2 1 2 】

（実施例 3）

実施例 3 を図 3 9 を参照して説明する。図 3 9 は、実施例 3 におけるデジタル

カメラ 1 0 0 側の動作を説明するためのフローチャートを示す。実施例 3 では、撮影リストの選択されたカット名に対応する撮影指示情報（撮影方法の指示や撮影後の処理の指示）を動画で再生し、ユーザが動画で再生される撮影方法の指示に従って撮影し、また、動画で再生される撮影後の処理の指示に従って処理を行う場合の動作を説明する。

【 0 2 1 3 】

図 3 9 において、まず、デジタルカメラ 1 0 0 では、パーソナルコンピュータ 2 0 0 と接続して撮影リストを読み込み、記録部 1 0 8 に格納する（ステップ S 3 4 1）。撮影リストには、タイトル名、記録すべき被記録対象のカット名、さらに、カット名に対応させて撮影指示情報（撮影方法の指示や撮影後の処理の指示）が動画で登録されている。

【 0 2 1 4 】

つづいて、システム制御部 1 0 1 は、操作部 1 0 6 の J O B N A V I ボタン 2 4 が押されたか否かを判断し（ステップ S 3 4 2）、操作部 1 0 6 の J O B N A V I ボタン 2 4 が押された場合には、撮影リストモードに入り、記録部 1 0 8 に格納されている撮影リストの撮影リスト名の一覧を表示部 1 0 4 に表示する（ステップ S 3 4 3）。ユーザにより撮影リスト名の一覧の中から撮影リストが選択される。システム制御部 1 0 1 は、撮影リストの一覧の中から撮影リストが選択されたか否かを判断する（ステップ S 3 4 4）。

【 0 2 1 5 】

そして、撮影リストが選択されると、選択された撮影リストのカット名の一覧を表示部 1 0 4 に表示する（ステップ S 3 4 5）。そして、ユーザのタッチパネル操作部 1 0 7 の操作によりカット名の一覧の中からカット名が選択される。システム制御部 1 0 1 は、カット名の一覧の中からカット名が選択されたか否かを判断する（ステップ S 3 4 6）。システム制御部 1 0 1 は、カット名が選択されると撮影リスト撮影モード（記録モード）に入り、撮影可能状態とする。そして、システム制御部 1 0 1 は、撮影リストに選択されたカット名に対応する撮影指示情報があるか否かを判断する（ステップ S 3 4 7）。

【 0 2 1 6 】

システム制御部 1 0 1 は、撮影リストに選択されたカット名に対応する撮影指示情報があると判断した場合には、撮影指示情報として撮影方法の指示があるか否かを判断し（ステップ S 3 4 8）、撮影方法の指示でないと判断した場合には、ステップ S 3 5 0 に移行する一方、撮影方法の指示であると判断した場合には、ステップ S 3 4 9 に移行する。ステップ S 3 4 9 では、システム制御部 1 0 1 は、撮影リストの選択されたカット名に対応する撮影方法の指示（撮影指示情報）を表示部 1 0 4 で動画で再生する。これにより、ユーザーは、カット名に対応する被写体を選択し、撮影方法の指示に従って撮影を行うことが可能となる。

【 0 2 1 7 】

ステップ S 1 3 0 では、操作部 1 0 6 のリリースキー 2 1 の押下に応じて撮影を行う。ここで、撮影ポイントが複数ある場合には、複数回の撮影が行われる。そして、システム制御部 1 0 1 は、撮影が終了したか否かを判断し（ステップ S 3 5 1）、撮影が終了した場合には、選択されたカット名に対応する撮影指示情報として撮影後の処理の指示があるか否かを判断し（ステップ S 3 5 2）、撮影後の処理の指示がないと判断した場合には、ステップ S 3 5 5 に移行して、撮影した画像を画像ファイルとして記録部 1 0 8 に保存する。他方、ステップ S 1 3 2 で、システム制御部 1 0 1 は、選択されたカット名に対応する撮影指示情報として撮影後の処理の指示があると判断した場合には、ステップ S 3 5 4 に移行し、撮影後の処理の指示（撮影指示情報）を表示部 1 0 4 で動画で再生する。これにより、ユーザーは、撮影後の処理の指示に従った処理を行うことが可能となる。

【 0 2 1 8 】

操作者は、指示される撮影後の処理を実行するための指示を操作部 1 0 6 を介してシステム制御部 1 0 1 に与え、システム制御部 1 0 1 は、指示される撮影後の処理を実行する（ステップ S 3 5 4）。ここで、撮影後の処理の指示としては、例えば、メモの記入等の指示がある。そして、指示通りに処理した画像を画像ファイルとして記録部 1 0 8 に保存する（ステップ S 3 5 5）。

【 0 2 1 9 】

他方、ステップ S 3 4 7 で、撮影リストに選択されたカット名に対応する撮影指示情報がないと判断した場合には、ステップ S 3 5 6 に移行し、通常の撮影リ

ストモードで撮影を行って、撮影した画像を画像ファイルとして記録部 1 0 8 に格納する（ステップ S 3 5 7）。

【 0 2 2 0 】

なお、ここでは、撮影指示情報として、撮影後の処理の指示を示したが、撮影指示情報としては、撮影と同時に行う処理（例えば、測距処理）の指示でも良い。撮影と同時に行う処理の指示の場合は、撮影前に動画で表示部 1 0 4 に出力する。これにより、使用者は、撮影と同時に行う処理を実行するための指示をデジタルカメラに与えることが可能となる。

【 0 2 2 1 】

なお、デジタルカメラ 1 0 0 では、撮影リストと撮影リストを使用して記録した記録ファイルを、パーソナルコンピュータ 2 0 0 に転送する。これにより、撮影リストを作成したパーソナルコンピュータ 2 0 0 の使用者は、撮影リストを使用して撮影した画像等を利用（報告書の作成等）することができ、撮影リストの作成者の使い勝手が良くなる。

【 0 2 2 2 】

以上説明したように、上記実施例 3 によれば、ユーザが撮影リストのカット名を選択し、撮影リストの選択されたカット名に対応する撮影指示情報（撮影方法の指示や撮影後の処理の指示）を動画で出力し、ユーザが動画で出力される撮影方法の指示に従って撮影し、また、動画で出力される撮影後の処理の指示に従って処理を行うこととしたので、使用者は、動画で出力される撮影指示情報に従って撮影や撮影後の処理を行うことができ、撮影リストの作成者（指示者）の指示に従った撮影や撮影後の処理を行うことが可能となる。

【 0 2 2 3 】

（実施例 4）

実施例 4 を図 4 0 を参照して説明する。図 4 0 は実施例 4 におけるデジタルカメラ 1 0 0 側の動作を説明するためのフローチャートを示す。実施例 4 では、撮影リストのカット名の一覧を表示し、カット名が選択された後に、記録モードに移行し、当該記録モードで記録した記録データを、撮影リストの選択されたカット名に対応する自動処理指示情報（記録後の指示）に従って自動的に処理する場

合の実施例を説明する。

【0224】

図40において、まず、デジタルカメラ100では、パーソナルコンピュータ200と接続して撮影リストを読み込み、記録部108に格納する（ステップS361）。撮影リストには、タイトル名、記録すべき被記録対象のカット名、および各カット名に関連づけて自動処理指示情報（記録後の指示）が登録されている。この自動処理指示情報（記録後の指示）には、例えば、図41に示す操作指示コマンドが使用される。

【0225】

つづいて、システム制御部101は、操作部106のJOBNAVIボタン24が押されたか否かを判断し（ステップS362）、操作部106のJOBNAVIボタン24が押された場合には、撮影リストモードに入り、記録部108に格納されている撮影リストの撮影リスト名の一覧を表示部104に表示する（ステップS363）。ここで、操作者のタッチパネル操作部107の操作で撮影リスト名の一覧の中から撮影リストが選択される。システム制御部101は、撮影リストの一覧の中から撮影リストが選択されたか否かを判断する（ステップS364）。

【0226】

そして、撮影リストが選択されると、選択された撮影リストのカット名の一覧を表示部104に表示する（ステップS365）。ここで、操作者のタッチパネル操作部107の操作でカット名の一覧の中からカット名が選択される。システム制御部101は、カット名の一覧の中からカット名が選択されたか否かを判断する（ステップS366）。システム制御部101は、カット名が選択されると撮影リスト撮影モード（記録モード）に入り、撮影可能状態とする（ステップS367）。これにより、ユーザーは、カット名に対応する被写体を選択して撮影を行うことが可能となる。

【0227】

そして、システム制御部101は、操作部106のリリースキー21が押下されると撮影を行う（ステップS368）。つづいて、システム制御部101は、

選択されたカット名に対応する自動処理指示情報（記録後の指示）があるか否かを判断し（ステップ S 3 6 9）、撮影リストに選択されたカット名に対応する自動処理指示情報（記録後の指示）があると判断した場合には、当該選択されたカット名に対応する自動処理指示情報（記録後の指示）に従って撮影した画像を処理する（ステップ S 3 7 0）。処理した画像を画像ファイルとして記録部 1 0 8 に保存する（ステップ S 3 7 1）。

【 0 2 2 8 】

なお、デジタルカメラ 1 0 0 では、撮影リストと撮影リストを使用して記録した記録ファイルを、パーソナルコンピュータ 2 0 0 に転送する。これにより、撮影リストを作成したパーソナルコンピュータ 2 0 0 の使用者は、撮影リストを使用して撮影した画像等を利用（報告書の作成等）することができ、撮影リストの作成者の使い勝手が良くなる。

【 0 2 2 9 】

以上説明したように、上記実施例 4 によれば、撮影リストのカット名の一覧を表示し、カット名が選択された後に、記録モードに移行し、当該記録モードで記録した記録データを、撮影リストの選択されたカット名に対応する自動処理指示情報（記録後の指示）に従って処理することとしたので、使用者は、撮影リストを使用して、撮影の段階では必要なカットの取り忘れを防止でき、また、撮影後の段階では撮影後の処理を自動化することができ、使用者の使い勝手が良くなる。

【 0 2 3 0 】

（実施例 5）

実施例 5 を図 4 2 を参照して説明する。図 4 2 は実施例 5 におけるデジタルカメラ 1 0 0 側の動作を説明するためのフローチャートを示す。実施例 5 では、撮影リストのカット名の一覧が表示され、撮影リストの選択したカット名に対応する自動処理指示情報（記録後の指示）がメール添付送信の場合には、メールに記録した記録データを添付して指定される送信先に送信する場合の動作を説明する。

【 0 2 3 1 】

図 4 2 において、まず、デジタルカメラ 1 0 0 では、パーソナルコンピュータ 2 0 0 と接続して撮影リストを読み込み、記録部 1 0 8 に格納する（ステップ S 3 8 1）。撮影リストには、記録すべき被記録対象のカット名が含まれており（図 6 参照）、さらに、各カット名に関連づけて自動処理指示情報（記録後の指示）が登録されている。この自動処理指示情報（記録後の指示）には、図 4 1 に示す操作指示コマンドが使用される。図 4 3 は撮影の後処理として画像をメールで送るコマンドの例を示す。

【 0 2 3 2 】

つづいて、システム制御部 1 0 1 は、操作部 1 0 6 の J O B N A V I ボタン 2 4 が押されたか否かを判断し（ステップ S 3 8 2）、操作部 1 0 6 の J O B N A V I ボタン 2 4 が押された場合には、撮影リストモードに入り、記録部 1 0 8 に格納されている撮影リストの撮影リスト名の一覧を表示部 1 0 4 に表示する（ステップ S 3 8 3）。ここで、操作者のタッチパネル操作部 1 0 7 の操作で撮影リスト名の一覧の中から撮影リストが選択される。システム制御部 1 0 1 は、撮影リストの一覧の中から撮影リストが選択されたか否かを判断する（ステップ S 3 8 4）。

【 0 2 3 3 】

そして、撮影リストが選択されると、選択された撮影リストのカット名の一覧を表示部 1 0 4 に表示する（ステップ S 3 8 5）。ここで、操作者のタッチパネル操作部 1 0 7 の操作でカット名の一覧の中からカット名が選択される。システム制御部 1 0 1 は、カット名の一覧の中からカット名が選択されたか否かを判断する（ステップ S 3 8 6）。システム制御部 1 0 1 は、カット名が選択されると撮影リストモードに入り、撮影可能状態とする（ステップ S 3 8 7）。これにより、ユーザーは、カット名に対応する被写体を選択して撮影を行うことが可能となる。

【 0 2 3 4 】

そして、システム制御部 1 0 1 は、撮影リストの選択されたカット名に対応する記録後の指示を記録部 1 0 8 から読み出し（ステップ S 3 8 8）、自動処理指示情報（記録後の指示）がメール添付転送であるか否かを判断する（ステップ S

3 8 9)。

【 0 2 3 5 】

システム制御部 1 0 1 は、自動処理指示情報（記録後の指示）がメール添付転送である場合には、記録モードが、静止画、動画、2 値画、音声のいずれであるかを判断し（ステップ S 3 9 0 ～ S 3 9 3）、記録した静止画、動画、2 値画、および音声のいずれかのメール添付ファイルを作成する（ステップ S 3 9 4）。そして、通信モードに移行し、指定される送信先にメール添付ファイルを送信する（ステップ S 3 9 5）。他方、ステップ S 3 8 9 で、自動処理指示情報（記録後の指示）がメール添付転送でないと判断した場合には、通常の撮影リストモードで撮影を行い（ステップ S 3 9 6）、撮影した画像のファイルを記録部 1 0 8 に記憶する（ステップ S 3 9 7）。

【 0 2 3 6 】

なお、デジタルカメラ 1 0 0 では、撮影リストと撮影リストを使用して記録した記録ファイルを、パーソナルコンピュータ 2 0 0 に転送する。これにより、撮影リストを作成したパーソナルコンピュータ 2 0 0 の使用者は、撮影リストを使用して撮影した画像等を利用（報告書の作成等）することができ、撮影リストの作成者の使い勝手が良くなる。

【 0 2 3 7 】

以上説明したように、上記実施例 5 によれば、撮影リストのカット名の一覧が表示され、撮影リストの選択したカット名に対応する自動処理指示情報（記録後の指示）がメール添付送信の場合には、メールに記録した記録データを添付して指定される送信先に送信することとしたので、使用者は、撮影リストを使用して、撮影の段階では必要なカットの取り忘れを防止でき、また、撮影後の段階では撮影した画像等をメールに添付して送信先に自動的に転送することができ、使用者の使い勝手が良くなる。

【 0 2 3 8 】

（実施例 6）

実施例 6 を図 4 4 を参照して説明する。図 4 4 は実施例 6 におけるデジタルカメラ 1 0 0 側の動作を説明するためのフローチャートを示す。実施例 6 では、撮

影リストのカット名の一覧が表示され、撮影リストの選択したカット名に対応する自動処理指示情報（記録後の指示）がサムネール添付転送の場合には、撮影した画像のサムネール画像をメールに添付して指定される送信先に送信する場合の動作を説明する。

【 0 2 3 9 】

図 4 4 において、まず、デジタルカメラ 1 0 0 では、パーソナルコンピュータ 2 0 0 と接続して撮影リストを読み込み、記録部 1 0 8 に格納する（ステップ S 4 0 1）。撮影リストには、記録すべき被記録対象のカット名が含まれており、さらに、各カット名に関連づけて自動処理指示情報（記録後の指示）が登録されている。この自動処理指示情報（記録後の指示）には、図 3 2 に示す操作指示コマンドが使用される。図 4 3 は記録後の処理として画像をメールで送るコマンドの例を示す。

【 0 2 4 0 】

つづいて、システム制御部 1 0 1 は、操作部 1 0 6 の J O B N A V I ボタン 2 4 が押されたか否かを判断し（ステップ S 4 0 2）、操作部 1 0 6 の J O B N A V I ボタン 2 4 が押された場合には、撮影リストモードに入り、記録部 1 0 8 に格納されている撮影リストの撮影リスト名の一覧を表示部 1 0 4 に表示する（ステップ S 4 0 3）。ここで、操作者のタッチパネル操作部 1 0 7 の操作で撮影リスト名の一覧の中から撮影リストが選択される。システム制御部 1 0 1 は、撮影リストの一覧の中から撮影リストが選択されたか否かを判断する（ステップ S 4 0 4）。

【 0 2 4 1 】

そして、撮影リストが選択されると、選択された撮影リストのカット名の一覧を表示部 1 0 4 に表示する（ステップ S 4 0 5）。ここで、操作者のタッチパネル操作部 1 0 7 の操作でカット名の一覧の中からカット名が選択される。システム制御部 1 0 1 は、カット名の一覧の中からカット名が選択されたか否かを判断する（ステップ S 4 0 6）。システム制御部 1 0 1 は、カット名が選択されると撮影リスト撮影モードに入り、撮影可能状態とする（ステップ S 4 0 7）。これにより、ユーザーは、カット名に対応する被写体を選択して撮影を行うことが可

能となる。

【 0 2 4 2 】

この後、システム制御部 1 0 1 は、撮影リストの選択されたカット名に対応する自動処理指示情報（記録後の指示）を記録部 1 0 8 から読み出し（ステップ S 4 0 8）、記録後の指示がメール添付転送であるか否かを判断する（ステップ S 4 0 9）。

【 0 2 4 3 】

つづいて、システム制御部 1 0 1 は、自動処理指示情報（記録後の指示）がメール添付転送である場合には、さらに、サムネール添付転送か否かを判断する（ステップ S 4 1 0）。記録後の指示がサムネール添付転送である場合には、システム制御部 1 0 1 は、撮影した画像データのサムネール画像を作成し、サムネール画像をメールに添付したメール添付ファイルを作成する（ステップ S 4 1 1）。その後、通信モードに移行し、指定される送信先にメール添付ファイルを送信する（ステップ S 4 1 2）。他方、ステップ S 4 0 9 で記録後の指示がメール転送でないと判断した場合およびステップ S 4 1 0 でサムネール添付転送でないと判断した場合には、ステップ S 4 1 3 に移行し、通常の撮影リストモードで撮影を行い、撮影した画像を記録部 1 0 8 に画像ファイルとして格納する（ステップ S 4 1 4）。

【 0 2 4 4 】

なお、デジタルカメラ 1 0 0 では、撮影リストと撮影リストを使用して記録した記録ファイルを、パーソナルコンピュータ 2 0 0 に転送する。これにより、撮影リストを作成したパーソナルコンピュータ 2 0 0 の使用者は、撮影リストを使用して撮影した画像等を利用（報告書の作成等）することができ、撮影リストの作成者の使い勝手が良くなる。

【 0 2 4 5 】

以上説明したように、上記実施例 6 によれば、撮影リストのカット名の一覧が表示され、撮影リストの選択したカット名に対応する自動処理指示情報（記録後の指示）がサムネール添付転送の場合には、撮影した画像のサムネール画像をメールに添付して指定される送信先に送信することとしたので、使用者は、撮影リ

ストを使用して、撮影の段階では必要なカットの取り忘れを防止でき、また、撮影後の段階では撮影した画像のサムネイル画像をメールに添付して送信先に自動的に転送することができ、使用者の使い勝手が良くなる。

【 0 2 4 6 】

（実施例 7）

実施例 7 を図 4 5 を参照して説明する。図 4 5 は実施例 7 におけるデジタルカメラ 1 0 0 側の動作を説明するためのフローチャートを示す。実施例 7 では、撮影リストのカット名の一覧が表示され、撮影リストの選択したカット名に対応する自動処理指示情報（記録後の指示）が画像変倍送信である場合に、撮影した画像データを指定される大きさに変倍してメールに添付して、指定される送信先に送信する場合の動作を説明する。

【 0 2 4 7 】

図 4 5 において、まず、デジタルカメラ 1 0 0 では、パーソナルコンピュータ 2 0 0 と接続して撮影リストを読み込み、記録部 1 0 8 に格納する（ステップ S 5 0 1）。撮影リストには、記録すべき被記録対象のカット名が含まれており（図 6 参照）、さらに、各カット名に関連づけて自動処理指示情報（記録後の指示）が登録されている。この記録後の指示には、図 4 1 に示す操作指示コマンドが使用される。

【 0 2 4 8 】

つづいて、システム制御部 1 0 1 は、操作部 1 0 6 の J O B N A V I ボタン 2 4 が押されたか否かを判断し（ステップ S 5 0 2）、操作部 1 0 6 の N O B N A V I ボタンが押された場合には、撮影リストモードに入り、記録部 1 0 8 に格納されている撮影リストの撮影リスト名の一覧を表示部 1 0 4 に表示する（ステップ S 5 0 3）。ここで、操作者のタッチパネル操作部 1 0 7 の操作で撮影リスト名の一覧の中から撮影リストが選択される。システム制御部 1 0 1 は、撮影リストの一覧の中から撮影リストが選択されたか否かを判断する（ステップ S 5 0 4）。

【 0 2 4 9 】

そして、撮影リストが選択されると、システム制御部 1 0 1 は、選択された撮

影リストのカット名の一覧を表示部 1 0 4 に表示する（ステップ S 5 0 5）。ここで、操作者のタッチパネル操作部 1 0 7 の操作でカット名の一覧の中からカット名が選択される。システム制御部 1 0 1 は、カット名の一覧の中からカット名が選択されたか否かを判断する（ステップ S 5 0 6）。システム制御部 1 0 1 は、カット名が選択されると撮影リスト撮影モードに入り、撮影可能状態とする（ステップ S 5 0 7）。これにより、ユーザーは、カット名に対応する被写体を選択して撮影を行うことが可能となる。

【 0 2 5 0 】

この後、システム制御部 1 0 1 は、撮影リストの選択されたカット名に対応する自動処理指示情報（記録後の指示）を記録部 1 0 8 から読み出し（ステップ S 5 0 8）、自動処理指示情報（記録後の指示）が画像変倍送信であるか否かを判断する（ステップ S 5 0 9）。自動処理指示情報（記録後の指示）が画像変倍送信指示である場合には、撮影した画像をデータ記録再生部で指定された倍率で変倍し（ステップ S 5 1 0）、システム制御部 1 0 1 は変倍した画像をメールに添付してメール添付ファイルを作成する（ステップ S 5 1 1）。その後、通信モードに移行し、指定される送信先にメール添付ファイルを送信する（ステップ S 5 1 2）。他方、ステップ S 5 0 9 で自動処理指示情報（記録後の指示）が画像変倍送信でないと判断した場合には、ステップ S 5 1 3 に移行し、通常の撮影リストモードで撮影を行い、撮影した画像を記録部 1 0 8 に画像ファイルとして格納する（ステップ S 5 1 4）。

【 0 2 5 1 】

なお、デジタルカメラ 1 0 0 では、撮影リストと撮影リストを使用して記録した記録ファイルを、パーソナルコンピュータ 2 0 0 に転送する。これにより、撮影リストを作成したパーソナルコンピュータ 2 0 0 の使用者は、撮影リストを使用して撮影した画像等を利用（報告書の作成等）することができ、撮影リストの作成者の使い勝手が良くなる。

【 0 2 5 2 】

以上説明したように、上記実施例 7 によれば、撮影リストのカット名の一覧が表示され、撮影リストの選択したカット名に対応する自動処理指示情報（記録後

の指示)が画像変倍送信である場合に、撮影した画像データを指定される大きさに変倍してメールに添付して、指定される送信先に送信することとしたので、使用者は、撮影リストを使用して、撮影の段階では必要なカットの取り忘れを防止でき、また、撮影後の段階では撮影した画像を指定される倍率で変倍しメールに添付して送信先に自動的に転送することができ、使用者の使い勝手が良くなる。

【 0 2 5 3 】

(実施例 8)

実施例 8 を図 4 6 を参照して説明する。図 4 6 は実施例 8 におけるデジタルカメラ 1 0 0 側の動作を説明するためのフローチャートを示す。実施例 8 では、撮影リストの選択されたカット名に対応する自動処理指示情報(記録後の指示)が、画像のホームページへのアップロードである場合に、撮影した画像の HTML ファイルを作成して、指定されるホームページにアップロードする場合の動作を説明する。

【 0 2 5 4 】

図 4 6 において、まず、デジタルカメラ 1 0 0 では、パーソナルコンピュータ 2 0 0 と接続して撮影リストを読み込み、記録部 1 0 8 に格納する(ステップ S 5 2 1)。撮影リストには、記録すべき被記録対象のカット名が含まれており(図 6 参照)、さらに、各カット名に関連づけて自動処理指示情報(記録後の指示)が登録されている。この記録後の指示には、上記図 4 1 に示す操作指示コマンドが使用される。図 4 7 は、記録後の指示として画像を Web サーバ 3 0 0 にアップロードするコマンドの例を示す。

【 0 2 5 5 】

つづいて、システム制御部 1 0 1 は、操作部 1 0 6 の JOB NAVI ボタン 2 4 が押されたか否かを判断し(ステップ S 5 2 2)、操作部 1 0 6 の NOB NAVI ボタンが押された場合には、撮影リストモードに入り、記録部 1 0 8 に格納されている撮影リストの撮影リスト名の一覧を表示部 1 0 4 に表示する(ステップ S 5 2 3)。ここで、操作者のタッチパネル操作部 1 0 7 の操作で撮影リスト名の一覧の中から撮影リストが選択される。システム制御部 1 0 1 は、撮影リストの一覧の中から撮影リストが選択されたか否かを判断する(ステップ S 5 2 4

）。

【0256】

そして、撮影リストが選択されると、選択された撮影リストのカット名の一覧を表示部104に表示する（ステップS525）。ここで、操作者のタッチパネル操作部107の操作でカット名の一覧の中からカット名が選択される。システム制御部101は、カット名の一覧の中からカット名が選択されたか否かを判断する（ステップS526）。システム制御部101は、カット名が選択されると撮影リスト撮影モードに入り、撮影可能状態とする（ステップS527）。これにより、ユーザーは、カット名に対応する被写体を選択して撮影を行うことが可能となる。

【0257】

そして、システム制御部101は、撮影リストの選択されたカット名に対応する自動処理指示情報（記録後の指示）を記録部108から読み出す（ステップS528）。そして、操作部106のリリースキー21の操作に応じて撮影を行う（ステップS529）。つづいて、システム制御部101は、読み出した自動処理指示情報（記録後の指示）がホームページへのアップロードであるか否かを判断し（ステップS530）、自動処理指示情報（記録後の指示）が画像のホームページへのアップロードである場合には、撮影画像をHTMLファイルにまとめてアップロード可能な形式にする（ステップS531）。そして、通信モードに移行して、HTMLファイルを指定されるホームページにアップロードする（ステップS532）。

【0258】

他方、ステップS530で、自動処理指示情報（記録後の指示）が画像のホームページアップへのロードでない場合には、ステップS533に移行し、通常の撮影リストモードで撮影を行い、撮影した画像を記録部108に画像ファイルとして格納する（ステップS534）。

【0259】

なお、デジタルカメラ100では、撮影リストと撮影リストを使用して記録した記録ファイルを、パーソナルコンピュータ200に転送する。これにより、撮

影リストを作成したパーソナルコンピュータ 2 0 0 の使用者は、撮影リストを使用して撮影した画像等を利用（報告書の作成等）することができ、撮影リストの作成者の使い勝手が良くなる。

【 0 2 6 0 】

以上説明したように、上記実施例 8 によれば、撮影リストの選択されたカット名に対応する自動処理指示情報（記録後の指示）が、画像のホームページへのアップロードである場合に、撮影した画像の HTML ファイルを作成して、指定されるホームページにアップロードすることとしたので、使用者は、撮影リストを使用して、撮影の段階では必要なカットの取り忘れを防止でき、また、撮影後の段階では撮影した画像をホームページに自動的にアップロードすることができ、使用者の使い勝手が良くなる。

【 0 2 6 1 】

（実施例 9）

実施例 9 を図 4 8 を参照して説明する。図 4 8 は実施例 9 におけるデジタルカメラ 1 0 0 側の動作を説明するためのフローチャートを示す。実施例 9 では、撮影リストの選択されたカット名に対応する記録後の指示が、画像のホームページへのアップロードおよびそのホームページの URL の通知の場合に、撮影した画像を指定されるホームページにアップロードし、かつ、当該ホームページの URL をメールにて指定される宛先に送信する場合の動作を説明する。

【 0 2 6 2 】

図 4 8 において、まず、デジタルカメラ 1 0 0 では、パーソナルコンピュータ 2 0 0 と接続して撮影リストを読み込み、記録部 1 0 8 に格納する（ステップ S 5 4 1）。撮影リストには、記録すべき被記録対象のカット名が含まれており（図 6 参照）、さらに、各カット名に関連づけて自動処理指示情報（記録後の指示）が登録されている。この記録後の指示には、例えば、図 4 1 に示す操作指示コマンドが使用される。図 4 7 は記録後の指示として画像を Web サーバーにアップロードするコマンドの例を示す。

【 0 2 6 3 】

つづいて、システム制御部 1 0 1 は、操作部 1 0 6 の J O B N A V I ボタン 2

4 が押されたか否かを判断し（ステップ S 5 4 2）、操作部 1 0 6 の J O B N A V I ボタン 2 4 が押された場合には、撮影リストモードに入り、記録部 1 0 8 に格納されている撮影リストの撮影リスト名の一覧を表示部 1 0 4 に表示する（ステップ S 5 4 3）。ここで、操作者のタッチパネル操作部 1 0 7 の操作で撮影リスト名の一覧の中から撮影リストが選択される。システム制御部 1 0 1 は、撮影リストの一覧の中から撮影リストが選択されたか否かを判断する（ステップ S 5 4 4）。

【 0 2 6 4 】

そして、撮影リストが選択されると、選択された撮影リストのカット名の一覧を表示部 1 0 4 に表示する（ステップ S 5 4 5）。ここで、操作者のタッチパネル操作部 1 0 7 の操作でカット名の一覧の中からカット名が選択される。システム制御部 1 0 1 は、カット名の一覧の中からカット名が選択されたか否かを判断する（ステップ S 5 4 6）。システム制御部 1 0 1 は、カット名が選択されると撮影リスト撮影モードに入り、撮影可能状態とする（ステップ S 5 4 7）。これにより、ユーザーは、カット名に対応する被写体を選択して撮影を行うことが可能となる。

【 0 2 6 5 】

システム制御部 1 0 1 は、撮影リストの選択されたカット名に対応する自動処理指示情報（記録後の指示）を記録部 1 0 8 から読み出す（ステップ S 5 4 8）。そして、操作部 1 0 6 のリリースキー 2 1 の操作に応じて撮影を行う（ステップ S 5 4 9）。つづいて、システム制御部 1 0 1 は、読み出した自動処理指示情報（記録後の指示）がホームページへのアップロードであるか否かを判断し（ステップ S 5 5 0）、読み出した自動処理指示情報（記録後の指示）がホームページへのアップロードである場合には、システム制御部 1 0 1 は、撮影画像を HTML ファイルにまとめてアップロード可能な形式にする（ステップ S 5 5 1）。

【 0 2 6 6 】

つづいて、システム制御部 1 0 1 は、自動処理指示情報（記録後の指示）がメールによる URL 通知があるか否かを判断し（ステップ S 5 5 2）、自動処理指示情報（記録後の指示）にメールによる URL 通知がない場合にはステップ S 5

5 4 に移行する一方、自動処理指示情報（記録後の指示）にメールによる URL 通知指示がある場合には、本文中にアップロード先の URL を挿入したメールファイルを作成して（ステップ S 5 5 3）、ステップ S 5 5 4 に移行する。ステップ S 5 5 4 では、HTML ファイルを指定されるホームページにアップロードし、また、ステップ S 5 5 3 でメールファイルを作成した場合には、指定される宛先にメールファイルを送信する。

【 0 2 6 7 】

他方、ステップ S 5 5 0 で、自動処理指示情報（記録後の指示）がホームページへのアップロードでない場合には、ステップ S 5 5 5 に移行し、通常の撮影リストモードで撮影を行い、撮影した画像を記録部 1 0 8 に画像ファイルとして格納する（ステップ S 5 5 6）。

【 0 2 6 8 】

なお、デジタルカメラ 1 0 0 では、撮影リストと撮影リストを使用して記録した記録ファイルを、パーソナルコンピュータ 2 0 0 に転送する。これにより、撮影リストを作成したパーソナルコンピュータ 2 0 0 の使用者は、撮影リストを使用して撮影した画像等を利用（報告書の作成等）することができ、撮影リストの作成者の使い勝手が良くなる。

【 0 2 6 9 】

以上説明したように、上記実施例 9 によれば、撮影リストを表示部 1 0 4 に表示し、表示された撮影リストの中からカット名を選択し、選択されたカット名に対応する自動処理指示情報（記録後の指示）が、画像のホームページへのアップロードおよびそのホームページの URL の通知の場合に、撮影した画像を指定されるホームページにアップロードし、かつ、当該ホームページの URL をメールにて指定される宛先に送信することとしたので、使用者は、撮影リストを使用して、撮影の段階では必要なカットの取り忘れを防止でき、また、撮影後の段階では撮影した画像をホームページに自動的にアップロードできるとともに、当該ホームページの URL をメールにて指定される宛先に自動的に送信することができ、使用者の使い勝手が良くなる。

【 0 2 7 0 】

なお、実施例 4～実施例 9 では、撮影リストでは、カット名毎に自動処理情報（記録後（撮影後）の指示）を登録しているが、撮影リストで、カット名毎の指示ではなく、撮影リスト全体としての指示を与える形式にしても良い。例えば、全てのカット名の記録（撮影）が終了した場合に指示を与える形式にしても良い。例えば、上述の実施例 8 および実施例 9 では、撮影リストにより、撮影リストの全てのカット名の記録が終了した場合に、記録した画像を纏めてホームページにアップロードすることを指示することにしても良い。

【 0 2 7 1 】

（実施例 1 0）

実施例 1 0 を図 4 9 を参照して説明する。図 4 9 は実施例 1 0 におけるデジタルカメラ 1 0 0 側の動作を説明するためのフローチャートを示す。実施例 1 4 では、撮影リストのカット名が選択され、選択されたカット名に対応する自動処理指示情報（記録後の指示）がメモ入力である場合には、撮影後、自動的にメモ入力モードに移行し、入力されるメモのファイルを撮影した画像データの画像ファイルの関連ファイルとして保存する場合の動作を説明する。

【 0 2 7 2 】

図 4 9 において、まず、デジタルカメラ 1 0 0 では、パーソナルコンピュータ 2 0 0 と接続して撮影リストを読み込み、記録部 1 0 8 に格納する（ステップ S 5 6 1）。撮影リストには、タイトル名、記録すべき被記録対象のカット名、および各カット名に関連づけて自動処理指示情報（記録後の指示）が登録されている。この自動処理指示情報（記録後の指示）には、図 4 1 に示す操作指示コマンドが使用される。

【 0 2 7 3 】

つづいて、システム制御部 1 0 1 は、操作部 1 0 6 の J O B N A V I ボタン 2 4 が押されたか否かを判断し（ステップ S 5 6 2）、操作部 1 0 6 の J O B N A V I ボタン 2 4 が押された場合には、撮影リストモードに入り、記録部 1 0 8 に格納されている撮影リストの撮影リスト名の一覧を表示部 1 0 4 に表示する（ステップ S 5 6 3）。ここで、操作者のタッチパネル操作部 1 0 7 の操作で撮影リスト名の一覧の中から撮影リストが選択される。システム制御部 1 0 1 は、撮影

リストの一覧の中から撮影リストが選択されたか否かを判断する（ステップ S 5 6 4）。

【 0 2 7 4 】

そして、撮影リストが選択されると、システム制御部 1 0 1 は、選択された撮影リストのカット名の一覧を表示部 1 0 4 に表示する（ステップ S 5 6 5）。ここで、操作者のタッチパネル操作部 1 0 7 の操作でカット名の一覧の中からカット名が選択される。システム制御部 1 0 1 は、カット名の一覧の中からカット名が選択されたか否かを判断する（ステップ S 5 6 6）。システム制御部 1 0 1 は、カット名が選択されると撮影リスト撮影モードに入り、撮影可能状態とする（ステップ S 5 6 7）。これにより、ユーザーは、カット名に対応する被写体を選択して撮影を行うことが可能となる。

【 0 2 7 5 】

そして、撮影リストの選択されたカット名に対応する記録後の指示を記録部 1 0 8 から読み出し（ステップ S 5 6 8）、自動処理指示情報（記録後の指示）が、メモ入力の指示であるか否かを判断する（ステップ S 5 6 9）。選択されたカット名に対応する撮影後指示がメモ入力の指示である場合には、ステップ S 5 7 0 に移行し、操作部 1 0 6 のリリースキー 2 1 の押下に応じて被写体を撮影する。撮影した被写体の画像データは記録部 1 0 8 に画像ファイルとして格納する（ステップ S 5 7 0）。

【 0 2 7 6 】

この後、システム制御部 1 0 1 は、メモ入力モードに移行し（ステップ S 5 7 1）、タッチパネル操作部 1 0 7 上でソフトキーボード入力を選択するキーが選択されたか否かを判断し（ステップ S 5 7 2）、ソフトキーボード入力を選択するキーが選択された場合には、使用者により、ソフトウェアキーボードでテキスト文字が入力され（ステップ S 5 7 3）、入力されたテキスト文字を関連ファイルとして記録部 1 0 8 に保存する（ステップ S 5 7 4）。他方、ステップ S 5 7 2 で、タッチパネル操作部 1 0 7 上でソフトキーボード入力を選択するキーが選択されなかった場合には、使用者により、タッチパネル操作部 1 0 7 上でタッチペンを使用して手書き文字が入力され（ステップ S 5 7 5）、入力された手書き

文字を関連ファイルとして記録部 1 0 8 に保存する（ステップ S 5 7 4）。

【 0 2 7 7 】

他方、ステップ S 5 6 9 で、自動処理指示情報（撮影後の指示）がメモの入力指示でないと判断した場合には、ステップ S 2 7 6 に移行し、通常撮影リストモードで撮影を行い、撮影した画像を記録部 1 0 8 に E X I F 形式の画像ファイルとして格納する（ステップ S 5 7 7）。

【 0 2 7 8 】

なお、デジタルカメラ 1 0 0 では、撮影リストと撮影リストを使用して記録した記録ファイルを、パーソナルコンピュータ 2 0 0 に転送する。これにより、撮影リストを作成したパーソナルコンピュータ 2 0 0 の使用者は、撮影リストを使用して撮影した画像等を利用（報告書の作成等）することができ、撮影リストの作成者の使い勝手が良くなる。

【 0 2 7 9 】

以上説明したように、実施例 1 0 によれば、撮影リストに撮影後にメモを入力する旨の指示がある場合には、撮影後にメモ入力モードを実行することとしたので、撮影した画像のメモ情報を入力することができ、撮影後、写真を間違えることを防止することが可能となり、操作者の使い勝手が良くなる。

【 0 2 8 0 】

以上説明したように、実施例 1 0 によれば、撮影リストのカット名が選択され、選択されたカット名に対応する自動処理指示情報（記録後の指示）がメモ入力である場合には、メモ入力モードになり、入力されるメモのファイルを撮影した画像ファイルの関連ファイルとして保存することとしたので、使用者は、撮影リストを使用して、撮影の段階では必要なカットの取り忘れを防止でき、また、撮影後の段階では、撮影に関係するメモを関連ファイルとして保存することができ、使用者の作業をスムーズに進行させることが可能となる。

【 0 2 8 1 】

（実施例 1 1）

実施例 1 1 を図 5 0 を参照して説明する。図 5 0 は実施例 1 1 におけるデジタルカメラ 1 0 0 側の動作を説明するためのフローチャートを示す。実施例 1 1 で

は、撮影リストのカット名が選択され、選択されたカット名に対応する自動処理指示情報（記録後の指示）がメモ入力画像合成の指示である場合には、撮影後、メモ入力モードになり、入力されるメモ情報を、撮影した画像に合成して保存する場合の動作を説明する。

【 0 2 8 2 】

図 5 0 において、まず、デジタルカメラ 1 0 0 では、パーソナルコンピュータ 2 0 0 と接続して撮影リストを読み込み、記録部 1 0 8 に格納する（ステップ S 5 8 1）。撮影リストには、タイトル名、記録すべき被記録対象のカット名、および、各カット名に関連づけて自動処理指示情報（記録後の指示）が登録されている。

【 0 2 8 3 】

つづいて、システム制御部 1 0 1 は、操作部 1 0 6 の J O B N A V I ボタン 2 4 が押されたか否かを判断し（ステップ S 5 8 2）、操作部 1 0 6 の J O B N A V I ボタン 2 4 が押された場合には、撮影リストモードに入り、記録部 1 0 8 に格納されている撮影リストの撮影リスト名の一覧を表示部 1 0 4 に表示する（ステップ S 5 8 3）。ここで、操作者のタッチパネル操作部 1 0 7 の操作で撮影リスト名の一覧の中から撮影リストが選択される。システム制御部 1 0 1 は、撮影リストの一覧の中から撮影リストが選択されたか否かを判断する（ステップ S 5 8 4）。

【 0 2 8 4 】

そして、撮影リストが選択されると、選択された撮影リストのカット名の一覧を表示部 1 0 4 に表示する（ステップ S 5 8 5）。ここで、操作者のタッチパネル操作部 1 0 7 の操作でカット名の一覧の中からカット名が選択される。システム制御部 1 0 1 は、カット名の一覧の中からカット名が選択されたか否かを判断する（ステップ S 5 8 6）。システム制御部 1 0 1 は、カット名が選択されると撮影リスト撮影モードに入り、撮影可能状態とする（ステップ S 5 8 7）。そして、モニタリング画像を表示部 1 0 4 に表示する。これにより、ユーザは、カット名に対応する被写体を選択して撮影を行うことが可能となる。

【 0 2 8 5 】

続いて、システム制御部 1 0 1 は、撮影リストの選択されたカット名に対応する自動処理指示情報（記録後の指示）を記録部 1 0 8 から読み出し（ステップ S 5 8 8）、自動処理指示情報（記録後の指示）が、メモ入力画像合成の指示であるか否かを判断する（ステップ S 5 8 9）。選択されたカット名に対応する記録後の指示がメモ入力画像合成の指示である場合には、ステップ S 5 9 0 に移行し、操作部 1 0 6 のリリースキー 2 1 の操作に応じて、被写体を撮影する。この場合、表示部 1 0 4 には撮影された画像が表示される。

【 0 2 8 6 】

この後、メモ入力モードに移行し（ステップ S 5 9 1）、タッチパネル操作部 1 0 7 上でソフトキーボード入力を選択するキーが選択されたか否かを判断し（ステップ S 5 9 2）、ソフトキーボード入力を選択するキーが選択された場合には、使用者により、ソフトキーボードでテキスト文字が入力され（ステップ S 5 9 3）、また、ステップ S 5 9 2 で、タッチパネル操作部 1 0 7 上でソフトキーボード入力を選択するキーが選択されなかった場合には、使用者により、タッチパネル操作部 1 0 7 上でタッチペンを使用して手書き文字が入力される（ステップ S 5 9 6）。そして、入力されたメモ情報（テキスト文字または手書き文字）を、選択当該撮影した画像に重ねて表示し、さらに、タッチパネル操作部 1 0 7 の操作で、撮影した画像に対するメモ情報の重ね位置を指定する（ステップ S 5 9 4）。これにより、使用者は撮影画像を見ながらメモ情報の重ね合わせ位置を確認することができる。

【 0 2 8 7 】

システム制御部 1 0 1 は、撮影した画像と重ね位置が指定されたメモ情報を合成して、合成画像を作成し、この合成画像を画像ファイルとして記録部 1 0 8 に保存する（ステップ S 5 9 5）。

【 0 2 8 8 】

一方、ステップ S 5 8 9 で、記録後の指示がメモ入力画像合成の指示でないと判断した場合には、ステップ S 5 9 7 に移行し、通常の撮影リストモードで撮影を行い、撮影した画像を記録部 1 0 8 に画像ファイルとして格納する（ステップ S 5 9 8）。

【 0 2 8 9 】

なお、デジタルカメラ 1 0 0 では、撮影リストと撮影リストを使用して記録した記録ファイルを、パーソナルコンピュータ 2 0 0 に転送する。これにより、撮影リストを作成したパーソナルコンピュータ 2 0 0 の使用者は、撮影リストを使用して撮影した画像等を利用（報告書の作成等）することができ、撮影リストの作成者の使い勝手が良くなる。

【 0 2 9 0 】

以上説明したように、実施例 1 1 によれば、撮影リストのカット名が選択され、選択されたカット名に対応する自動処理指示情報（記録後の指示）がメモ入力の画像合成である場合には、撮影後、メモ入力モードになり、入力されるメモ情報を、撮影した画像に合成して保存することとしたので、使用者は、撮影の段階では撮影リストを使用して、必要なカットの取り忘れを防止でき、また、撮影後の段階では、撮影に関係するメモを、撮影した画像に合成して保存することができ、使用者の作業をスムーズに進行させることが可能となる。

【 0 2 9 1 】

（実施例 1 2）

実施例 1 2 を図 5 1 を参照して説明する。図 5 1 は実施例 1 2 におけるデジタルカメラ 1 0 0 側の動作を説明するためのフローチャートを示す。実施例 1 2 では、撮影リストのカット名が選択され、選択されたカット名に対応する自動処理指示情報（記録後の指示）が、音声入力である場合には、撮影後、音声入力モードになり、入力される音声を撮影した画像ファイルの関連ファイルとして保存する場合の動作を説明する。

【 0 2 9 2 】

図 5 1 において、まず、デジタルカメラ 1 0 0 では、パーソナルコンピュータ 2 0 0 と接続して撮影リストを読み込み、記録部 1 0 8 に格納する（ステップ S 6 0 1）。撮影リストには、タイトル名、記録すべき被記録対象のカット名、および各カット名に関連づけて自動処理指示情報（記録後の指示）が登録されている。この自動処理指示情報（記録後の指示）には、図 4 1 に示す操作指示コマンドが使用される。

【 0 2 9 3 】

つづいて、システム制御部 1 0 1 は、操作部 1 0 6 の J O B N A V I ボタン 2 4 が押されたか否かを判断し（ステップ S 6 0 2）、操作部 1 0 6 の J O B N A V I ボタン 2 4 が押された場合には、撮影リストモードに入り、記録部 1 0 8 に格納されている撮影リストの撮影リスト名の一覧を表示部 1 0 4 に表示する（ステップ S 6 0 3）。ここで、操作者のタッチパネル操作部 1 0 7 の操作で撮影リスト名の一覧の中から撮影リストが選択される。システム制御部 1 0 1 は、撮影リストの一覧の中から撮影リストが選択されたか否かを判断する（ステップ S 6 0 4）。

【 0 2 9 4 】

そして、撮影リストが選択されると、システム制御部 1 0 1 は、選択された撮影リストのカット名の一覧を表示部 1 0 4 に表示する（ステップ S 6 0 5）。ここで、操作者のタッチパネル操作部 1 0 7 の操作でカット名の一覧の中からカット名が選択される。システム制御部 1 0 1 は、カット名の一覧の中からカット名が選択されたか否かを判断する（ステップ S 6 0 6）。システム制御部 1 0 1 は、カット名が選択されると撮影リスト撮影モードに入り、撮影可能状態とする（ステップ S 6 0 7）。これにより、ユーザーは、カット名に対応する被写体を選択して撮影を行うことが可能となる。

【 0 2 9 5 】

そして、システム制御部 1 0 1 は、撮影リストの選択されたカット名に対応する自動処理指示情報（記録後の指示）を記録部 1 0 8 から読み出し（ステップ S 6 0 8）、自動処理指示情報（記録後の指示）が、音声入力の指示であるか否かを判断する（ステップ S 6 0 9）。自動処理指示情報（記録後の指示）が音声入力の指示である場合には、ステップ S 6 1 0 に移行する。ステップ S 6 1 0 では、操作部 1 0 6 のリリースキー 2 1 の操作に応じて、被写体を撮影する。撮影した画像データは画像ファイルとして記録部 1 0 8 に格納する。その後、システム制御部 1 0 1 は、音声入力モードに移行し（ステップ S 6 1 1）、音声データ記録・再生部 1 0 5 を介して入力される音声の音声ファイルを撮影した画像の画像ファイルの関連ファイルとして記録部 1 0 8 に保存する（ステップ S 6 1 2）。

【 0 2 9 6 】

他方、ステップ S 6 0 9 で、自動処理指示情報（記録後の指示）が、音声の入力指示でないと判断した場合には、ステップ S 6 1 3 に移行し、通常の撮影リストモードで撮影を行い、撮影した画像を記録部 1 0 8 に画像ファイルとして格納する（ステップ S 6 1 4）。

【 0 2 9 7 】

なお、デジタルカメラ 1 0 0 では、撮影リストと撮影リストを使用して記録した記録ファイルを、パーソナルコンピュータ 2 0 0 に転送する。これにより、撮影リストを作成したパーソナルコンピュータ 2 0 0 の使用者は、撮影リストを使用して撮影した画像等を利用（報告書の作成等）することができ、撮影リストの作成者の使い勝手が良くなる。

【 0 2 9 8 】

以上説明したように、実施例 1 2 によれば、撮影リストのカット名が選択され、選択されたカット名に対応する自動処理指示情報（記録後の指示）が音声入力である場合には、音声入力モードになり、入力される音声の音声ファイルを撮影した画像の画像ファイルの関連ファイルとして保存することとしたので、使用者は、撮影リストを使用して、撮影の段階では必要なカットの取り忘れを防止でき、また、撮影後の段階では、撮影に関係する音声を関連ファイルとして保存することができ、使用者の作業をスムーズに進行させることが可能となる。

【 0 2 9 9 】

なお、実施例 4 ～実施例 1 2 では、撮影リストに、カット名毎に自動処理情報（記録後（撮影後）の指示）を付加することとしているが、カット名毎の指示ではなく、撮影リスト全体としての指示を与える形式にしても良い。撮影リスト全体の自動処理指示情報を付加した場合について、（実施例 1 3）～（実施例 1 8）を説明する。

【 0 3 0 0 】

（実施例 1 3）

実施例 1 3 を図 5 2 を参照して説明する。図 5 2 は実施例 1 3 におけるデジタルカメラ 1 0 0 側の動作を説明するためのフローチャートを示す。実施例 1 3 で

は、デジタルカメラで、撮影リストのカット名の撮影が全て終了した場合に、その旨をパーソナルコンピュータ 2 0 0 に送信する場合の動作を説明する。

【0301】

まず、デジタルカメラは、パーソナルコンピュータ 2 0 0 から転送されてくる撮影リストファイルを記録部 1 0 8 に格納しているものとする。そして、図 5 2 において、システム制御部 1 0 1 は、操作部 1 0 6 の J O B N A V I ボタン 2 4 が押下されると、撮影リストモードとなり、記録部 1 0 8 に格納されている撮影リストのカット名を読み出し、表示部 1 0 4 に表示する（ステップ S 6 2 1）。そして、システム制御部 1 0 1 は、撮影リストの自動処理指示情報（記録後の指示）を読み出し（ステップ S 6 2 2）、自動処理指示情報（記録後の指示）が撮影終了の自動報告指示であるか否かを判断する（ステップ S 6 2 3）。

【0302】

システム制御部 1 0 1 は、自動処理指示情報（記録後の指示）が、自動報告指示である場合には、ステップ S 6 2 4 に移行する。ステップ S 6 2 4 では、カット名が選択されて撮影が行われる。そして、システム制御部 1 0 1 は、撮影リストのカット名の撮影が全て終了したか否かを判断する（ステップ S 6 2 5）。撮影リストのカット名の撮影が全て終了していない場合には、ステップ S 6 2 4 に戻る一方、撮影リストのカット名の撮影が全て終了した場合には、ステップ S 6 2 6 に移行して、システム制御部 1 0 1 は、撮影リストのカット名の撮影が全て終了した旨を示す撮影終了メールファイルを作成する。

【0303】

そして、通信モードに移行し、パーソナルコンピュータ 2 0 0 に撮影終了メールファイルを送信し、撮影終了報告を行う（ステップ S 6 2 7）。他方、ステップ S 6 2 8 で、自動処理指示情報（記録後の指示）が撮影終了の自動報告でないと判断した場合には、通常の撮影リストモードで撮影を行い（ステップ S 6 2 8）、撮影した画像を記録部 1 0 8 に画像ファイルとして格納する（ステップ S 6 2 9）。

【0304】

なお、デジタルカメラ 1 0 0 では、撮影リストと撮影リストを使用して記録し

た記録ファイルを、パーソナルコンピュータ 2 0 0 に転送する。これにより、撮影リストを作成したパーソナルコンピュータ 2 0 0 の使用者は、撮影リストを使用して撮影した画像等を利用（報告書の作成等）することができ、撮影リストの作成者の使い勝手が良くなる。

【 0 3 0 5 】

以上説明したように、実施例 1 3 によれば、デジタルカメラで、撮影リストのカット名に対応した撮影が全て終了した場合に、その旨をパーソナルコンピュータ 2 0 0 に転送することとしたので、撮影リストの作業を終了したか否かを指示者が把握することが可能となる。

【 0 3 0 6 】

なお、ここでは、撮影リストに、カット名の撮影が全て終了した場合に撮影終了の報告を指示する自動処理指示情報が含まれている場合に、撮影終了を報告することとしたが、撮影終了の報告を指示する自動処理指示情報の有無に拘わらず撮影終了の自動報告を行うことにしても良い。

【 0 3 0 7 】

（実施例 1 4）

実施例 1 4 を図 5 3 を参照して説明する。図 5 3 は実施例 1 4 におけるデジタルカメラ 1 0 0 側の動作を説明するためのフローチャートを示す。実施例 1 4 では、デジタルカメラ 1 0 0 で、撮影リストのカット名の撮影が自動報告ポイントまで終了した場合に、その旨をパーソナルコンピュータ 2 0 0 に通知する場合の動作を説明する。

【 0 3 0 8 】

まず、デジタルカメラ 1 0 0 は、パーソナルコンピュータ 2 0 0 から転送されてくる撮影リストファイルを記録部 1 0 8 に格納しているものとする。そして、図 5 3 において、システム制御部 1 0 1 は、操作部 1 0 6 の J O B N A V I ボタン 2 4 が押下されると、撮影リストモードとなり、記録部 1 0 8 に格納されている撮影リストのカット名を読み出し、表示部 1 0 4 に表示する（ステップ S 6 3 1）。そして、システム制御部 1 0 1 は、撮影リストの自動処理指示情報（記録後の指示）を読み出し（ステップ S 6 3 2）、記録後の指示が撮影終了の自動報

告指示であるか否かを判断する（ステップ S 6 3 3）。

【 0 3 0 9 】

システム制御部 1 0 1 は、自動処理指示情報（記録後の指示）が、自動報告指示である場合には、ステップ S 6 3 4 に移行する。ステップ S 6 3 4 では、カット名が選択されて撮影が行われる。そして、システム制御部 1 0 1 は、撮影リストのカット名の撮影が自動報告ポイントまで終了したか否かを判断する（ステップ S 6 3 5）。ここで、自動報告ポイントとしては、撮影リストの撮影が所定枚数終了した場合や、所定数のカット名の撮影が終了した場合などとすることができ

【 0 3 1 0 】

撮影リストのカット名の撮影が自動報告ポイントまで終了していない場合にはステップ S 6 3 4 に戻る一方、撮影リストのカット名の撮影が自動報告終了ポイントまで終了した場合には、ステップ S 6 3 6 に移行して、システム制御部 1 0 1 は、撮影リストのカット名の撮影が自動報告終了ポイントまで終了した旨を示す報告メールファイルを作成する（ステップ S 6 3 6）。つづいて、通信モードに移行し、パーソナルコンピュータ 2 0 0 に報告メールファイルを送信する（ステップ S 6 3 7）。

【 0 3 1 1 】

他方、ステップ S 6 3 3 で、自動処理指示情報（記録後の指示）が撮影終了の自動報告指示でない場合には、ステップ S 6 3 8 に移行して通常の撮影リストモードで撮影を行い、撮影した画像を記録部 1 0 8 に画像ファイルとして格納する（ステップ S 6 3 9）。

【 0 3 1 2 】

なお、デジタルカメラ 1 0 0 では、撮影リストと撮影リストを使用して記録した記録ファイルを、パーソナルコンピュータ 2 0 0 に転送する。これにより、撮影リストを作成したパーソナルコンピュータ 2 0 0 の使用者は、撮影リストを使用して撮影した画像等を利用（報告書の作成等）することができ、撮影リストの作成者の使い勝手が良くなる。

【 0 3 1 3 】

以上説明したように、実施例 1 4 によれば、デジタルカメラで、撮影リストのカット名の撮影が自動報告ポイントまで終了した場合に、その旨をパーソナルコンピュータ 2 0 0 に転送することとしたので、撮影リストの作業の進行状況を指示者が把握することが可能となる。

【 0 3 1 4 】

なお、ここでは、撮影リストに、カット名の撮影が自動報告ポイントまで終了した場合にその旨の報告を指示する自動処理指示情報が含まれている場合に、撮影終了を報告することとしたが、カット名の撮影が自動報告ポイントまで終了した場合にその旨の報告を指示する自動処理指示情報の有無に拘わらず報告を行うこととしても良い。

【 0 3 1 5 】

(実施例 1 5)

実施例 1 5 を図 5 4 を参照して説明する。図 5 4 は実施例 1 5 におけるデジタルカメラ 1 0 0 側の動作を説明するためのフローチャートである。実施例 1 5 では、撮影リストに自動処理指示情報としてグループ化の指示がある場合に、撮影した画像をグループ化して保存する場合の動作を説明する。

【 0 3 1 6 】

図 5 4 において、まず、デジタルカメラ 1 0 0 は、パーソナルコンピュータ 2 0 0 から転送されてくる撮影リストファイルを記録部 1 0 8 に格納しているものとする。そして、システム制御部 1 0 1 は、操作部 1 0 6 の J O B N A V I ボタン 2 4 が押下されると、撮影リストモードとなり、記録部 1 0 8 に格納されている撮影リストのカット名を読み出し、表示部 1 0 4 に表示する（ステップ S 6 4 1）。そして、システム制御部 1 0 1 は、撮影リストの自動処理指示情報（記録後の指示）を読み出し（ステップ S 6 4 2）、自動処理指示情報（記録後の指示）がグループ化の指示であるか否かを判断する（ステップ S 6 4 3）。撮影リストにグループ化の指示がある場合には、ステップ S 6 4 4 に移行する。ステップ S 6 4 4 では、カット名が選択された後、撮影が行われる。

【 0 3 1 7 】

そして、システム制御部 1 0 1 は、撮影リスト上のカット名の撮影が全て終了

したか否かを判断する（ステップ S 6 4 5）。撮影リスト上のカット名の撮影が全て終了していない場合には、ステップ S 6 4 4に戻る一方、撮影リスト上のカット名の撮影が全て終了した場合には、グループ化の処理を行う（ステップ S 6 4 6）。つづいて、システム制御部 1 0 1 は、同一フォルダに入れるか否かの選択を促すメッセージが表示部 1 0 4 に表示する。使用者の操作部 1 0 6 の操作で同一フォルダに入れるが選択された場合には（ステップ S 6 4 7）、撮影リストのフォルダを指定して、撮影リスト内の全カット名に対応する記録ファイルを登録する（ステップ S 6 4 8）。他方、ステップ S 6 4 7 で使用者の操作部 1 0 6 の操作で同一のフォルダに入れるが選択されなかった場合には、撮影リストのフォルダの下層にカット名毎のフォルダを作成し（ステップ S 6 4 9）、対応するカット名のフォルダに画像ファイルを登録し（ステップ S 6 5 0）、すべてのカットのグループ保存が終了するまで同じ処理を繰り返す（ステップ S 6 4 9 ～ ステップ S 6 5 1）。

【 0 3 1 8 】

他方、ステップ S 6 4 3 で、撮影リストにグループ化の指示がない場合には、ステップ S 6 5 2 に移行し、通常の撮影リストモードで撮影を行い、撮影した画像を記録部 1 0 8 に画像ファイルとして格納する（ステップ S 6 5 3）。

【 0 3 1 9 】

図 5 5 は、撮影済み撮影画像のフォルダ構成の一例を示す図である。同図では、撮影リストごとにフォルダが生成されて、その中に撮影済み撮影リストファイルと、撮影画像が登録されている例を示す。

【 0 3 2 0 】

なお、デジタルカメラ 1 0 0 では、撮影リストと撮影リストを使用して記録した記録ファイルを、パーソナルコンピュータ 2 0 0 に転送する。これにより、撮影リストを作成したパーソナルコンピュータ 2 0 0 の使用者は、撮影リストを使用して撮影した画像等を利用（報告書の作成等）することができ、撮影リストの作成者の使い勝手が良くなる。

【 0 3 2 1 】

以上説明したように、実施例 1 5 によれば、撮影リストにグループ化の指示が

ある場合には、撮影した画像ファイルをグループ化してフォルダに登録することとしたので、ファイル管理が容易となる。

【 0 3 2 2 】

なお、ここでは、撮影リストにグループ化を指示する自動処理指示情報がある場合に、撮影した画像ファイルをグループ化してフォルダに登録することとしたが、グループ化を指示する自動処理指示情報の有無に拘わらず、撮影リストで撮影した画像ファイルをグループ化してフォルダに登録することにしても良い。

【 0 3 2 3 】

(実施例 1 6)

実施例 1 6 を図 5 6 を参照して説明する。図 5 6 は実施例 1 6 におけるデジタルカメラ 1 0 0 側の動作を説明するためのフローチャートを示す。実施例 1 6 では、撮影リストにグループ化の指示がある場合には、撮影リストに従って記録した、静止画、動画、音声、二値化画像等を、静止画、動画、音声、二値化画像別にグループ化して保存する場合の動作を説明する。

【 0 3 2 4 】

図 5 6 において、まず、デジタルカメラ 1 0 0 は、パーソナルコンピュータ 2 0 0 から転送されてくる撮影リストファイルを記録部 1 0 8 に格納しているものとする。そして、システム制御部 1 0 1 は、操作部 1 0 6 の J O B N A V I ボタン 2 4 が押下されると、撮影リストモードとなり、記録部 1 0 8 に格納されている撮影リストのカット名を読み出し、表示部 1 0 4 に表示する（ステップ S 6 6 1）。そして、システム制御部 1 0 1 は、撮影リストの自動処理指示情報（記録後の指示）を読み出し（ステップ S 6 6 2）、自動処理指示情報（記録後の指示）がグループ化の指示であるか否かを判断する（ステップ S 6 6 3）。撮影リストにグループ化の指示がある場合には、ステップ S 6 6 4 に移行する。ステップ S 6 6 4 では、カット名が選択された後、撮影が行われる。そして、システム制御部 1 0 1 は、撮影リスト上のカット名の撮影が全て終了したか否かを判断する（ステップ S 6 6 5）。

【 0 3 2 5 】

撮影リスト上のカット名の撮影が全て終了していない場合には、ステップ S 6

64に戻る一方、撮影リスト上のカット名の撮影が全て終了した場合には、グループ化の処理を行う（ステップS666）。つづいて、システム制御部101は、同一のフォルダに入れるか否かの選択を促すメッセージが表示部104に表示する。使用者の操作部106の操作で同一グループに入れるが選択された場合には（ステップS667）、撮影リストのフォルダを指定して、撮影リスト内の全カット名に対応する記録ファイルを登録する（ステップS668）。

【0326】

他方、使用者の操作部106の操作で同一グループに入れるが選択されなかった場合には（ステップS667）、記録ファイルのモード（静止画、動画、音声、二値画）別に整理し（ステップS669）、撮影リストのフォルダの下層にモード（静止画、動画、音声、二値画）別のフォルダを作成して、フォルダ別に対応する記録ファイルを登録し（ステップS670）、グループ保存が終了するまで同じ処理を繰り返す（ステップS671）。

【0327】

また、ステップS663で、撮影リストにグループ化の指示がない場合には、ステップS672に移行し、通常の撮影リストモードで撮影を行い、撮影した画像を記録部108に画像ファイルとして格納する（ステップS673）。

【0328】

なお、デジタルカメラ100では、撮影リストと撮影リストを使用して記録した記録ファイルを、パーソナルコンピュータ200に転送する。これにより、撮影リストを作成したパーソナルコンピュータ200の使用者は、撮影リストを使用して撮影した画像等を利用（報告書の作成等）することができ、撮影リストの作成者の使い勝手が良くなる。

【0329】

以上説明したように、実施例16によれば、撮影リストにグループ化の指示がある場合には、撮影リストに従って記録した、静止画、動画、音声、二値化画像等を、静止画、動画、音声、二値化画像別にグループ化して保存することとしたので、ファイル管理が容易となる。

【0330】

(実施例 1 7)

実施例 1 7 を図 5 7 を参照して説明する。図 5 7 は実施例 1 7 におけるデジタルカメラ 1 0 0 側の動作を説明するためのフローチャートを示す。実施例 1 7 では、撮影リストの自動処理指示情報（記録後の指示）が複数枚の画像の組み合わせである場合には、所定枚数の撮影後、撮影リストの各カットの組み合わせ情報に応じて複数枚の画像を組み合わせ、1 つの画像ファイルを作成する場合の動作を説明する。

【0 3 3 1】

図 5 7 において、まず、デジタルカメラ 1 0 0 は、パーソナルコンピュータ 2 0 0 から転送されてくる撮影リストを記録部 1 0 8 に格納しているものとする。そして、システム制御部 1 0 1 は、操作部 1 0 6 の J O B N A V I ボタン 2 4 が押下されると、撮影リストモードとなり、記録部 1 0 8 に格納されている撮影リストのカット名を読み出し、表示部 1 0 4 に表示する（ステップ S 6 8 1）。そして、システム制御部 1 0 1 は、撮影リストの自動処理指示情報（記録後の指示）を読み出し（ステップ S 6 8 2）、自動処理指示情報（記録後の指示）が複数画像の組み合わせであるか否かを判断する（ステップ S 6 8 3）。この判断の結果、自動処理指示情報（記録後の指示）が複数画像の組み合わせである場合には、ステップ S 6 8 4 に移行する。

【0 3 3 2】

ステップ S 6 8 4 では、カット名が選択されて撮影が行われる。システム制御部 1 0 1 は、所定枚数の撮影が終了したか否かを判断する（ステップ S 6 8 5）。所定枚数の撮影が終了していない場合には、ステップ S 6 8 4 に戻る一方、所定枚数の撮影が終了した場合には、システム制御部 1 0 1 は、撮影リストから各カットの組み合わせ情報（画像の大きさや並べ順の情報）を読み込み（ステップ S 6 8 6）、各カットの組み合わせ情報に従って、撮影した複数枚の画像を合成し（ステップ S 6 8 7）、合成した画像を 1 つの画像ファイルとして記録部 1 0 8 に保存する（ステップ S 6 8 8）。

【0 3 3 3】

他方、ステップ S 6 8 3 で、自動処理指示情報（記録後の指示）が複数画像の

組み合わせでない場合には、ステップ S 6 8 9 に移行し、通常の撮影リストモードで撮影した画像を画像ファイルとして記録部 1 0 8 に格納する（ステップ S 6 9 0）。

【 0 3 3 4 】

なお、デジタルカメラ 1 0 0 では、撮影リストと撮影リストを使用して記録した記録ファイルを、パーソナルコンピュータ 2 0 0 に転送する。これにより、撮影リストを作成したパーソナルコンピュータ 2 0 0 の使用者は、撮影リストを使用して撮影した画像等を利用（報告書の作成等）することができ、撮影リストの作成者の使い勝手が良くなる。

【 0 3 3 5 】

ここで、撮影リストで複数画像の合成を指示する自動処理指示情報（コマンド）の例を説明する。画像を合成する場合のコマンドの形態は、`comp: {(pair=a, ...), (base=0/not base=1,2,3...), (size=w x h), (when not base, position=x,y)}` となる。

【 0 3 3 6 】

`pair` : 画像の組み合わせを示す。

アルファベットで、`a, b, c...` と表し、同一の場合に組み合わせ画像で有ることを示す。

`base` : 1, 0 で表し、`base=0` が、合成されるベース画像を表す。

`base=1` が、合成する画像を表す。

なお、合成画像が複数ある場合は、数字の大きい方がより上位に上書きされる。

`size` : `w x h` で表し、`w` ; 横 `x h` ; 縦の画素数で表す。

サイズを変えない場合は省略可能である。（例 ; 370x170）

`position` : `x, y` 座標で表し、合成される画像を 100 分割したときの、合成する画像の左上角の位置座標を表す。

【 0 3 3 7 】

例えば、図 5 8 に示すような、リコーの画像にミノロタの画像を合成する場合の撮影リストの記述例を図 5 9 に示す。図 5 8 では、ベース画像は、撮影画像を

そのままの画素数とし、合成画像は、340×170サイズで合成される。

【0338】

以上説明したように、上記実施例17によれば、撮影リストの記録後の指示が、複数枚の画像の組み合わせである場合には、複数枚の画像を組み合わせで1つの画像ファイルを作成することとしたので、撮影後に、自動的に複数枚の画像を合成することができ、使用者の使い勝手が良くなる。

【0339】

(実施例18)

実施例18を図60を参照して説明する。図60は実施例18におけるデジタルカメラ100側の動作を説明するためのフローチャートを示す。実施例18では、撮影リストの自動処理指示情報（記録後の指示）が複数画像の補正処理である場合には、撮影後、複数画像に対して補正処理を行う場合の動作を説明する。

【0340】

図60において、まず、デジタルカメラ100は、パーソナルコンピュータ200から転送されてくる撮影リストを記録部108に格納しているものとする。そして、システム制御部101は、操作部106のJOBNAVIボタン24が押下されると、撮影リストモードとなり、記録部108に格納されている撮影リストのカット名を読み出し、表示部104に表示する（ステップS701）。そして、システム制御部101は、撮影リストの自動処理指示情報（記録後の指示）を読み出し（ステップS702）、自動処理指示情報（記録後の指示）が複数画像の補正処理の指示であるか否かを判断する（ステップS703）。この判断の結果、自動処理指示情報（記録後の指示）が複数画像の補正指示である場合には、ステップS704に移行する。

【0341】

ステップS704では、カット名が選択されて、撮影が行われる。つづいて、システム制御部101は、撮影リストの自動処理指示情報（記録後の指示）が、撮影中の補正指示である場合には（ステップS705）、撮影パラメータを補正（例えば、露出の調整）する（ステップS706）。そして、システム制御部101は、所定枚数の撮影が終了したか否かを判断し（ステップS707）、所定

枚数の撮影が終了していない場合には、ステップ S 7 0 4 に戻る一方、所定枚数の撮影が終了した場合には、撮影した複数の画像に対して、撮影終了後の補正処理（色補正、レンズの歪み補正等）を行う（ステップ S 7 0 8）。そして、補正処理された画像を記録部 1 0 8 に格納する（ステップ S 7 0 9）。

【 0 3 4 2 】

他方、ステップ S 7 0 3 で、撮影リストの記録後の指示が複数画像の補正処理でない場合には、ステップ S 7 1 0 に移行し、通常の撮影リストモードで撮影し、撮影した画像を画像ファイルとして記録部 1 0 8 に格納する（ステップ S 7 1 1）。

【 0 3 4 3 】

なお、デジタルカメラ 1 0 0 では、撮影リストと撮影リストを使用して記録した記録ファイルを、パーソナルコンピュータ 2 0 0 に転送する。これにより、撮影リストを作成したパーソナルコンピュータ 2 0 0 の使用者は、撮影リストを使用して撮影した画像等を利用（報告書の作成等）することができ、撮影リストの作成者の使い勝手が良くなる。

【 0 3 4 4 】

以上説明したように、上記実施例 1 8 によれば、撮影リストの自動処理指示情報（記録後の指示）が複数画像の補正処理である場合には、撮影後、複数画像に対して同一の補正処理を自動的に行うことができ、使用者の使い勝手が良くなる。複数の画像に対して、同一の補正処理を行いたい場合に有用である。

【 0 3 4 5 】

（実施例 1 9）

実施例 1 9 を図 6 1 を参照して説明する。図 6 1 は実施例 1 9 におけるデジタルカメラ 1 0 0 側の動作を説明するためのフローチャートを示す。実施例 1 9 では、撮影リストの選択されるカット名に対応する撮影条件指示に従って撮影を行う場合の動作を説明する。

【 0 3 4 6 】

図 6 1 において、まず、デジタルカメラ 1 0 0 では、パーソナルコンピュータ 2 0 0 と接続して撮影リストを読み込み、記録部 1 0 8 に格納する（ステップ S

7 2 1)。撮影リストには、タイトル名、記録すべき被記録対象のカット名および各カット名に関連づけて自動処理指示情報（撮影条件指示）が登録されている。

【 0 3 4 7 】

つづいて、システム制御部 1 0 1 は、操作部 1 0 6 の J O B N A V I ボタン 2 4 が押されたか否かを判断し（ステップ S 7 2 2）、操作部 1 0 6 の J O B N A V I ボタン 2 4 が押された場合には、撮影リストモードに入り、記録部 1 0 8 に格納されている撮影リストの撮影リスト名の一覧を表示部 1 0 4 に表示する（ステップ S 7 2 3）。ここで、操作者のタッチパネル操作部 1 0 7 の操作で撮影リスト名の一覧の中から撮影リストが選択される。システム制御部 1 0 1 は、撮影リストの一覧の中から撮影リストが選択されたか否かを判断する（ステップ S 7 2 4）。そして、撮影リストが選択されると、選択された撮影リストのカット名の一覧を表示部 1 0 4 に表示する（ステップ S 7 2 5）。ここで、操作者のタッチパネル操作部 1 0 7 の操作でカット名の一覧の中からカット名が選択される。システム制御部 1 0 1 は、カット名の一覧の中からカット名が選択されたか否かを判断する（ステップ S 7 2 6）。システム制御部 1 0 1 は、カット名が選択されると撮影リスト撮影モードに入り、撮影可能状態とする（ステップ S 7 2 7）。これにより、ユーザーは、カット名に対応する被写体を選択して撮影を行うことが可能となる。

【 0 3 4 8 】

そして、システム制御部 1 0 1 は、撮影リスト内に選択されたカット名に対応する自動処理指示情報（撮影条件指示）があるか否かを判別して（ステップ S 7 2 8）、自動処理指示情報（撮影条件指示）がある場合には、撮影条件を自動処理指示情報（当該撮影条件指示）に従って設定する（ステップ S 7 2 9）。そして、設定した撮影条件で撮影を実行する（ステップ S 7 3 0）。つづいて、撮影した画像を記録部 1 0 8 に格納する（ステップ S 7 3 1）。他方、ステップ S 7 2 8 で撮影リスト内に選択されたカット名に対応する自動処理指示情報（撮影条件指示）がない場合には、ステップ S 7 3 2 に移行して、通常の撮影リストモードの撮影を行い、撮影した画像を画像ファイルとして記録部 1 0 8 に格納する（

ステップ S733)。

【0349】

なお、撮影リストに含まれる自動処理指示情報（撮影条件指示）としては、記録モードの指示（音声、動画等）、日付、撮影時間、カメラの姿勢（方角、回転角度）、連写、絞り、シャッター速度、フラッシュ ON/OFF、赤目防止 ON/OFF、白黒モード、セピアモード、文字原稿撮影モード（エッジを強調した文字をはっきりと、際立たせるモード）、画素数、圧縮率、オートフォーカス、マニュアルフォーカス、距離固定、手ぶれ補正 ON/OFF、ホワイトバランス設定、画像スタンプ合成、カット枚数、縦横サイズ、アスペクト比、露出モード、解像度、暗号化の有無、電子すかしの有無等がある。

【0350】

なお、デジタルカメラ 100 では、撮影リストと撮影リストを使用して記録した記録ファイルを、パーソナルコンピュータ 200 に転送する。これにより、撮影リストを作成したパーソナルコンピュータ 200 の使用者は、撮影リストを使用して撮影した画像等を利用（報告書の作成等）することができ、撮影リストの作成者の使い勝手が良くなる。

【0351】

以上説明したように、上記実施例 19 によれば、撮影リストを表示部 104 に表示し、表示された撮影リストの中からカット名を選択し、選択したカット名に対応した撮影条件指示に従って撮影を行うこととしたので、使用者は、撮影リストを使用して、撮影の段階では必要なカットの取り忘れを防止でき、また、設定される撮影条件指示で自動的に撮影を行うことができ、撮影リストの作成者（指示者）の指示に従った撮影を行うことが可能となる。

【0352】

（実施例 20）

実施例 20 を図 62 を参照して説明する。図 62 は実施例 20 におけるデジタルカメラ 100 側の動作を説明するためのフローチャートを示す。実施例 20 では、撮影リストでカット名を選択し、選択されたカット名に対応する被合成情報を撮影した画像に合成する場合の動作を説明する。

【 0 3 5 3 】

図 6 2 において、まず、デジタルカメラ 1 0 0 では、パーソナルコンピュータ 2 0 0 と接続して撮影リストを読み込み、記録部 1 0 8 に格納する（ステップ S 7 4 1）。撮影リストには、記録すべき被記録対象のカット名が含まれており（図 6 参照）、さらに、各カット名に関連づけて被合成情報（画像、テキスト文字、手書き文字等）が登録されている。

【 0 3 5 4 】

つづいて、システム制御部 1 0 1 は、操作部 1 0 6 の J O B N A V I ボタン 2 4 が押されたか否かを判断し（ステップ S 7 4 2）、操作部 1 0 6 の J O B N A V I ボタン 2 4 が押された場合には、撮影リストモードに入り、記録部 1 0 8 に格納されている撮影リストの撮影リスト名の一覧を表示部 1 0 4 に表示する（ステップ S 7 4 3）。ここで、操作者のタッチパネル操作部 1 0 7 の操作で撮影リスト名の一覧の中から撮影リストが選択される。システム制御部 1 0 1 は、撮影リストの一覧の中から撮影リストが選択されたか否かを判断する（ステップ S 7 4 4）。

【 0 3 5 5 】

そして、撮影リストが選択されると、選択された撮影リストのカット名の一覧を表示部 1 0 4 に表示する（ステップ S 7 4 5）。ここで、操作者のタッチパネル操作部 1 0 7 の操作でカット名の一覧の中からカット名が選択される。システム制御部 1 0 1 は、カット名の一覧の中からカット名が選択されたか否かを判断する（ステップ S 7 4 6）。システム制御部 1 0 1 は、カット名が選択されると撮影モードに入り、撮影可能状態とする（ステップ S 7 4 7）。そして、表示部 1 0 4 にモニタリング画像を表示する。これにより、ユーザは、カット名に対応する被写体を選択して撮影を行うことが可能となる。

【 0 3 5 6 】

この後、システム制御部 1 0 1 は、撮影リストの選択されたカット名に対応する被合成情報があるか否かを判断し（ステップ S 7 4 8）、被合成情報がある場合には、リリースキー 2 1 の操作に応じて、撮影を行い、撮影した画像を表示部 1 0 4 に表示するとともに、選択されたカット名に対応する被合成情報を、当該

撮影した画像に重ねて表示する（ステップ S 7 4 9）。そして、タッチパネル操作部 1 0 7 の操作で、撮影した画像に対する被合成情報の重ね位置を指定する（ステップ S 7 5 0）。これにより、使用者は撮影画像を見ながら被合成情報の重ね合わせ位置を確認することができる。

【 0 3 5 7 】

システム制御部 1 0 1 は、撮影した画像と重ね位置が指定された被合成情報を合成して、合成画像を作成し、この合成画像を画像ファイルとして記録部 1 0 8 に保存する（ステップ S 7 5 1）。

【 0 3 5 8 】

一方、ステップ S 7 4 8 で、撮影リストの選択されたカット名に対応する被合成情報がない場合には、ステップ S 7 5 2 に移行し、通常の撮影リストモードで撮影を行い、撮影した画像を記録部 1 0 8 に画像ファイルとして格納する（ステップ S 7 5 3）。

【 0 3 5 9 】

なお、デジタルカメラ 1 0 0 では、撮影リストと撮影リストを使用して記録した記録ファイルを、パーソナルコンピュータ 2 0 0 に転送する。これにより、撮影リストを作成したパーソナルコンピュータ 2 0 0 の使用者は、撮影リストを使用して撮影した画像等を利用（報告書の作成等）することができ、撮影リストの作成者の使い勝手が良くなる。

【 0 3 6 0 】

以上説明したように、実施例 2 0 によれば、撮影リストでカット名を選択し、選択されたカット名に対応する被合成情報を撮影した画像に合成することとしたので、使用者は、撮影の段階では撮影リストを使用して、必要なカットの取り忘れを防止でき、また、撮影後の段階では、撮影に係する被合成情報を撮影した画像に合成して保存することができ、使用者の作業をスムーズに進行させることが可能となる。

【 0 3 6 1 】

「本実施の形態にかかるデジタルカメラのブラウザ機能の実施例」

つぎに、デジタルカメラ 1 0 0 のブラウザ機能を使用した場合の実施例 1 ～実

施例 3 を説明する。デジタルカメラ 1 0 0 では、ブラウザ機能を使用して、Web サーバーのホームページから撮影リストをダウンロードしたり、Web サーバーのホームページの web 情報の取り込み等を行う。

【 0 3 6 2 】

(実施例 1)

実施例 1 を図 6 3 ～図 6 5 を参照して説明する。図 6 3 は実施例 1 におけるデジタルカメラ 1 0 0 側の動作を説明するためのフローチャートを示す。図 6 4 および図 6 5 は、実施例 1 における表示部 1 0 4 の LCD の表示例を示す。実施例 1 では、Web サーバー 3 0 0 から画像データを取り込む場合の動作を説明する。

【 0 3 6 3 】

図 6 3 において、まず、デジタルカメラ 1 0 0 では、操作部 1 0 6 のモードダイヤルを”通信モード”に設定すると(ステップ S 1 0 0 1)、表示部 1 0 4 の LCD には、選択メニューが表示される(ステップ S 1 0 0 2)。図 8 は、選択メニューの表示例を示している。

【 0 3 6 4 】

そして、表示部 1 0 4 の LCD で、「Web」が選択された後、「OK/ENTER」が押下されると(ステップ S 1 0 0 3)、接続情報の設定・確認画面が表示される(ステップ S 1 0 0 4)。図 9 は、接続情報の設定・確認画面を示している。この接続情報の設定・確認画面で、接続情報の変更または確認が行われる(ステップ S 1 0 0 5)。そして、接続情報の設定・確認画面で、「接続」が選択されると(ステップ S 1 0 0 6)、インターネットに接続して、ブラウザ画面を表示する(ステップ S 1 0 0 7)。図 6 4 は、ブラウザ画面の表示例を示している。そして、ブラウザ画面のアドレス情報入力エリア A 1 に URL アドレスを入力すると(ステップ S 1 0 0 8)、指定した URL アドレスのホームページがブラウザ画面に表示される(ステップ S 1 0 0 9)。図 6 5 は、ブラウザ画面のホームページの画像の表示例を示している。このブラウザ画面では、上下、左右のスクロールバー SC 1, SC 2 をタッチペンでタッチして、画面表示を左右、上下に変更可能となっている。表示部 1 0 4 の LCD は、ホームページの一部

分が表示される。表示されていない部分を見る場合は、画面右側と下側のスクロールバーSC1、SC2を使用して画面の表示を変更することができる。そして、操作部106のリリースキー21が押下されると（ステップS1010）、表示されている画面全体の画像データを記録部108に、撮像データと同様の所定のフォーマット形式（例えば、GIF、TIFF、JPEG等のフォーマット形式）で記録する（ステップS1011）。

【0365】

具体的には、CPU121は、Webサーバーからネットワーク400を経由して、カードスロット部110の通信カードを介して取り込んだWeb情報を、フレームメモリ116内に表示用データとして書き込む。フレームメモリ112に書き込まれた表示用データは、IPP115により、表示部104に表示される。そして、操作部106のリリースキー21が押下されると、IPP115でフレームメモリ116内の表示用データの圧縮処理が行われた後、CPU121により、撮影データのファイル形式（例えば、EXIF等のフォーマット形式）で記録部108に書き込まれる。すなわち、ブラウジングしたWeb情報を、撮像手段で取り込んだ撮像データ（例えば、GIF、TIFF、JPEG等のフォーマット形式）と同じ画像データとして扱う。

【0366】

なお、Web画像を記録する際に、操作部106のズームレバー22によって、ブラウジング画像の取り込み範囲（LCDの表示範囲）を拡大または縮小して、拡大または縮小したブラウジング画像を取り込むことが可能となっている。すなわち、被写体の大きさを調整するためのカメラ部（光学系、撮像手段）のズーム機能に用いるズームレバー22を、取り込むWeb情報の画面の大きさを調整するために用いる。具体的には、操作部106からズームレバー22の入力を検出すると、CPU112は、フレームメモリ116内の表示データの拡大／縮小処理を行い、それに応じて表示部104の表示が変更（拡大／縮小）される。

【0367】

ここで、操作部106のズームレバー22によって、ブラウジング画像の取り込み範囲（LCDの表示範囲）を拡大または縮小する場合を図66～図68を参

照して説明する。実際のホームページの画面は、図 6 6 (A) のようになっている。デジタルカメラ 1 0 0 では、表示部 1 0 4 の L C D 画面が小さいので、図 6 6 (B) に示すように、実際の画面の 1 / 4 程度しか表示できない。そこで、図 6 7 に示すように、ズームレバー 2 2 を<<側に操作すると、画像を縮小して広範囲に細部まで表示する。他方、図 6 8 に示すように、ズームレバー 2 2 を<<側に操作すると、画像を縮小して広範囲に細部まで表示する。さらに、スクロールキー 2 7 を用いて、範囲を画像を見たい表示まで移動させることができる。

【 0 3 6 8 】

また、静止画を連写モード（シャッターを押している間撮影する）で撮影する機能を利用して、ブラウジングする画像を L C D に表示される範囲で、W e b 全体をオーバーラップさせながらスクロールさせて、W e b ページを複数の画像に分割して連続して取り込むことにしても良い。この際、取り込みのスクロールの仕方は例えば、時計回り、反時計回り、N 型、逆 N 型等の指定を可能として、その都度撮影している領域を L C D に表示する。

【 0 3 6 9 】

また、ブラウジングする画像の特定の U R L アドレスに定期的にアクセスして、そのデータの取り込みを行うことにしても良い。この場合、W e b 情報のアクセスに時間を要する（つまり、時間間隔をアクセス時間以下には設定できない）ので、このアクセス時間をシャッター時間前に設定できるものとする。

【 0 3 7 0 】

図 6 9 は、W e b キャプチャ条件設定画面を示している。同図に示す W e b キャプチャ条件設定画面では、“ U R L ”、“キャプチャ間隔”、“キャプチャ範囲”の設定を行う。まず、キャプチャ先の U R L の設定を行う。つぎに、キャプチャ間隔の設定を行う。ここで、「0」は定期的にアクセスしないで 1 回限りの場合を示している。つづいて、キャプチャ範囲の設定を行う。画面全部を選択したい場合には、U R L にアクセスした W e b ページ全体をキャプチャする。一部を選択した場合には、設定範囲ボタンを有効とする。範囲設定ボタンを押すと、ブラウザが立ち上がり、キャプチャーしたい範囲の部分を表示（拡大縮小を含めて）する。表示後、「登録」と押すと条件の設定が行われる。

【 0 3 7 1 】

以上説明したように、上記実施例 1 によれば、ブラウジングで取り込んだ Web 情報を、撮像手段で取り込んだ撮像データ（例えば、GIF、TIFF、JPEG等のフォーマット形式）と同じ画像データとして扱うこととしたので、ブラウジングしたホームページ等の Web 情報を、光学系、撮像手段で撮影したと同じ撮影データとして取り込むことができ、処理やデータ管理が容易になる。

【 0 3 7 2 】

また、被写体の大きさを調整するためのカメラ部（光学系、撮像手段）のズーム機能に用いるズームレバーを、取り込む Web 情報の画面の大きさを調整するために用いることとしたので、ズームレバーを用いることでカメラでの撮影と同じ感覚で、取り込みデータのキャプチャ範囲を自由に設定することが可能となる。

【 0 3 7 3 】

また、Web 情報の取り込みにシャッターを使うこととしたので、ブラウジングしたホームページ等の Web 情報をシャッターを押下して取り込むことができ、デジタルカメラの撮影と同じ感覚でデータの取り込みができ、ユーザーが使用し易いユーザインターフェースを提供することが可能となる。

【 0 3 7 4 】

また、ブラウジングする画像を LCD に表示させる範囲で、Web 情報全体をオーバーラップさせながらスクロールさせて、Web ページを複数の画像に分割して連続して取り込むこととしたので、連写モードで撮影するカメラ機能の連写感覚で、Web ページのデータ取り込みを容易にすることが可能となる。

【 0 3 7 5 】

また、ブラウジングする画像の特定の URL に定期的にアクセスして、その画像データの取り込みを行うこととしたので、カメラのインターバル撮影感覚で、Web ページのデータの定期的な取り込みを容易にすることが可能となる。

【 0 3 7 6 】

また、Web サーバ 3 0 0 から取り込んだ画像データと手書きメモ情報とを合成することとしたので、ブラウジングしたホームページ等の Web 情報上に手

書きメモ情報を合成するができ、画像等に関連する情報等の合成が可能となり、使用者の意図の強調等が容易に実現できる。

【 0 3 7 7 】

また、ブラウジング画像の取り込みデータに音声メモ情報を追加することとしたので、カメラでの撮影感覚で取り込んだブラウジングしたホームページ等の Web 情報上に、容易に関連する音声メモを追加することが可能となる。

【 0 3 7 8 】

【実施例 2】

実施例 2 を図 7 0 を参照して説明する。図 7 0 は実施例 2 におけるデジタルカメラ 1 0 0 側の動作を説明するためのフローチャートを示す。上記図 3 8 ～図 4 1 は、実施例 2 における表示部 1 0 4 の LCD の表示例を示す。実施例 2 では、Web サーバー 3 0 0 から Web 情報を取り込み、取り込んだ Web 情報の画像ファイルのヘッダー部に URL アドレスやメールアドレスを書き込む場合の動作を説明する。

【 0 3 7 9 】

図 7 0 において、まず、デジタルカメラ 1 0 0 では、操作部 1 0 6 のモードダイヤルを”通信モード”に設定すると（ステップ S 1 0 1 1）、表示部 1 0 4 の LCD には、選択メニューが表示される（ステップ S 1 0 1 2）。上記図 8 は、選択メニューの表示例を示している。

【 0 3 8 0 】

そして、表示部 1 0 4 の LCD で、「Web」が選択された後、「OK/ENTER」が押下されると（ステップ S 1 0 1 3）、接続情報の設定・確認画面が表示される（ステップ S 1 0 1 4）。上記図 9 は、接続情報の設定・確認画面を示している。この接続情報の設定・確認画面で、接続情報の変更または確認が行われる（ステップ S 1 0 1 5）。そして、接続情報の設定・確認画面で、「接続」が選択されると（ステップ S 1 0 1 6）、インターネットに接続して、ブラウザ画面を表示する（ステップ S 1 0 1 7）。上記図 4 0 は、ブラウザ画面の表示例を示している。そして、ブラウザ画面のアドレス情報入力エリア A 1 に URL アドレスを入力すると（ステップ S 1 0 1 8）、指定した URL アドレスのホー

ムページがブラウザ画面に表示される（ステップ S 1 0 1 9）。上記図 4 1 は、ブラウザ画面のホームページの画像の表示例を示している。このブラウザ画面では、左右のスクロールバー S C 1、S C 2 をタッチペンでタッチして、画面表示を左右、上下に変更可能となっている。表示部 1 0 4 の L C D は、ホームページの一部分が表示される。表示されていない部分を見る場合は、画面右側と下側のスクロールバー S C 1、S C 2 を使用して画面の表示を変更することができる。そして、操作部 1 0 6 のリリースキー 2 1 が押下されると（ステップ S 1 0 2 0）、表示されている画面全体の画像データを記録部 1 0 8 に、撮像データと同様の所定のフォーマット形式（例えば、E X I F 等のフォーマット形式）で、かつ、ファイルのヘッダー部にキャプチャした時の U R L またはメールアドレスを書き込んで記録部 1 0 8 に記録する（ステップ S 1 0 2 1）。すなわち、ブラウジングした W e b 情報を、撮像手段で取り込んだ撮像データ（例えば E X I F 等のフォーマット形式）と同じ画像データとして扱う。

【 0 3 8 1 】

なお、上記実施例 2 では、撮影した静止画をフォルダ管理する機能およびブラウジングする U R L を解析（階層化）する機能を用いることにより、ブラウジングした画像の画像ファイルを、U R L の内容によって（例えば、U R L アドレス毎に）、フォルダを分類することにしても良い。

【 0 3 8 2 】

また、再生した画像データの画像ファイルのヘッダー部に U R L またはメールアドレスが記録されている場合には、画像データがクリックされた場合に、ブラウザ画面またはメール送信画面を表示することにしても良い。これによれば、取り込んだ W e b 情報の U R L または、その情報に添付されているメールアドレスがある場合には、画像をクリックするだけで U R L がある場合には、W e b ブラウザを立ち上がり、また、メールアドレスがある場合には、メール送信画面を立ち上げることになる。また、メールアドレスが複数のメーリングリスト構造をしている場合には、自動的にアドレス帳の代わりとして、アドレスの選択、指定を可能とすることにしても良い。

【 0 3 8 3 】

以上説明したように、上記実施例 2 によれば、取り込んだ Web 情報の URL または、添付されているメールアドレスをその画像ファイル（例えば、EXIF ファイル）のヘッダ部に書き込むこととしたので、カメラでの撮影感覚で取り込んだブラウジングしたホームページ等の Web 情報の URL 等を容易に確認することができ、そのアクセスが可能になる。

【 0 3 8 4 】

また、撮影した静止画をフォルダ管理する機能を利用して、ブラウジングする URL を解析する機能を有することによって、ブラウジングした画像の取り込みデータを、URL の内容によって、フォルダに分類することとしたので、取り込んだホームページ等の Web 情報を例えばホームページ毎にフォルダに分類することが可能となる。

【 0 3 8 5 】

また、取り込んだ Web 情報の URL または、その情報に添付されているメールアドレスがある場合には、画像をクリックするだけで URL がある場合には、Web ブラウザが立ち上がり、また、メールアドレスがある場合には、メール送信画面が立ち上がることとしたので、キャプチャ画像の中に URL またはメールアドレスが記録されている場合には、画像をクリックするだけでブラウザ画面またはメール送信画面が立ち上げることができ、ユーザーインターフェースを向上させることが可能となる。

【 0 3 8 6 】

〔実施例 3〕

実施例 3 を図 7 1 を参照して説明する。図 7 1 は実施例 3 におけるデジタルカメラ 1 0 0 側の動作を説明するためのフローチャートを示す。上記図 6 4 および 3 8 ～図 4 2 は、実施例 3 0 における表示部 1 0 4 の LCD の表示例を示す。実施例 6 では、Web サーバ 3 0 0 から Web 情報を取り込み、取り込んだ Web 情報にメモ情報を合成する場合の動作を説明する。

【 0 3 8 7 】

図 7 1 において、まず、デジタルカメラ 1 0 0 では、操作部 1 0 6 のモードダイヤルを”通信モード”に設定すると（ステップ S 1 0 3 1）、表示部 1 0 4 の

LCDには、選択メニューが表示される（ステップS1032）。上記図8は、選択メニューの表示例を示している。

【0388】

そして、表示部104のLCDで、「Web」が選択された後、「OK/ENTER」が押下されると（ステップS1033）、接続情報の設定・確認画面が表示される（ステップS1034）。上記図9は、接続情報の設定・確認画面を示している。この接続情報の設定・確認画面で、接続情報の変更または確認が行われる（ステップS1035）。そして、接続情報の設定・確認画面で、「接続」が選択されると（ステップS1036）、インターネットに接続して、ブラウザ画面を表示する（ステップS1037）。図40は、ブラウザ画面の表示例を示している。そして、ブラウザ画面のアドレス情報入力エリアA1にURLアドレスを入力すると（ステップS1038）、指定したURLアドレスのホームページがブラウザ画面に表示される（ステップS1039）。図41は、ブラウザ画面のホームページの画像の表示例を示している。このブラウザ画面では、左右のスクロールバーSC1、SC2をタッチペンでタッチして、画面表示を左右、上下に変更可能となっている。表示部104のLCDは、ホームページの一部が表示される。表示されていない部分を見る場合は、画面右側と下側のスクロールバーSC1、SC2を使用して画面の表示を変更することができる。そして、操作部106のリリースキー21が押下されると（ステップS1040）、”メモ情報を合成するか否か”を選択するための不図示の選択画面が表示される（ステップS1041）。つづいて、この選択画面で、”メモ情報を合成するか否か”の選択が行われ（ステップS1042）、メモ情報を合成しないが選択された場合には、表示されている画面全体の画像データを記録部108に、撮像データと同様の所定のフォーマット形式（例えば、GIF、TIFF、JPEG等のフォーマット形式）で記録する（ステップS1043）。

【0389】

他方、ステップT1012で、”メモ情報を合成する”が選択された場合には、画面上で合成位置を指定し（ステップS1044）、ソフトウェアキーボードでメモ情報（テキスト文字）を入力し（ステップS1045）、画面上の画像デ

ータの指定される合成位置に入力したメモ情報を合成して、記録部108に、撮像データと同様の所定のフォーマット形式（例えば、GIF、TIFF、JPEG等のフォーマット形式）で記録する（ステップS1046）。図72は、取り込んだ画像にメモ情報（テキスト文字）を合成した場合の表示部104の表示例を示している。

【0390】

なお、上記実施例3では、メモ情報としてソフトウェアキーボードで入力したテキスト文字を画像データの指定位置に合成することとしたが、予め記録部108に記憶された定型文等のメモ情報を画像データの指定位置に合成することにしても良い。

【0391】

また、メモ情報として、指定位置を特定するための記号（例えば、丸印、星印、矢印等を、BMPフォーマットやテキスト文字の形態で）を予め記録部108に記憶しておき、取り込んだWeb情報の所定位置または指定される合成位置に合成することにしても良い。また、撮影した静止画に日付を入れる機能を利用して、ブラウジング画像の取り込み時に指定位置に日付けまたは日時を合成することにしても良い。

【0392】

以上説明したように、上記実施例3によれば、ブラウジングしたWeb情報上の位置を自由に指定し、当該指定された位置にテキスト文字によるメモ情報、もしくは予め記録部108に記憶された定型文等のメモ情報をWeb情報の指定された合成位置に合成することとしたので、必要な情報をWeb情報に合成することができ、使用者は意図の強調等が容易に実現できる。

【0393】

また、メモ情報として、指定位置を特定するための記号（例えば、丸印、星印、矢印等を、BMPフォーマットやテキスト文字の形態で）を予め記録部108に記憶しておき、取り込んだWeb情報の所定位置または指定される合成位置に合成することとしたので、メモ情報として位置を特定するための記号を合成することが可能となる。

【 0 3 9 4 】

また、撮影した静止画に日付を入れる機能を利用して、ブラウジング画像の取り込み時に指定位置に取り込んだ日付を合成することとしたので、カメラでの撮影感覚で取り込んだブラウジングしたホームページ等のWeb情報に、容易に日付データを合成することが可能となる。

【 0 3 9 5 】

「本実施の形態にかかるパーソナルコンピュータの実施例」

つぎに、パソコンで撮影リストを作成する場合、およびデジタルカメラでパーソナルコンピュータで作成した撮影リストを使用して撮影を行い、この撮影画像をパーソナルコンピュータで利用する場合の（実施例1）～（実施例11）を説明する。

【 0 3 9 6 】

（実施例1）

実施例1を図73を参照して説明する。図73は実施例1におけるデジタルカメラ100側の動作を説明するためのフローチャートを示す。実施例1では、パーソナルコンピュータ200で、撮影リストフォーマットのMODELを定義して、装置のモデルを記載した撮影リストをデジタルカメラ100に転送し、デジタルカメラ100が、撮影リストの機種と一致する場合に撮影リストに基づいて撮影を行う場合の動作を説明する。

【 0 3 9 7 】

まず、パーソナルコンピュータ200では、デジタルカメラの機種コードを含む撮影リストを作成する（具体的な撮影リストの作成方法については、実施例2～実施例5参照）。撮影リストには、記録すべき被記録対象のカット名が含まれており、さらに、各カット名に関連づけて撮影指示内容が登録されている。デジタルカメラ100は、パーソナルコンピュータ200と接続して撮影リストを読み込み、記録部108に格納する。

【 0 3 9 8 】

そして、図73において、システム制御部101は、記録部108から撮影リストを読み出して（ステップS2001）、撮影指示内容を読み込む（ステップ

S 2 0 0 2)。つづいて、システム制御部 1 0 1 は、機種名（モデル名）を撮影リスト内から読み込み（ステップ S 2 0 0 3）、自機の機種名と撮影リストの機種名が一致しているか否かを判断する（ステップ S 2 0 0 4）。この判断の結果、自機の機種名と撮影リストの機種名が一致していない場合にはリターンする一方、自機の機種名と撮影リストの機種名が一致している場合には、対応する撮影リストを読み込む（ステップ S 2 0 0 5）。つづいて、撮影リストに基づいて撮影が行われる（ステップ S 2 0 0 6）。

【 0 3 9 9 】

以上説明したように、実施例 1 によれば、パーソナルコンピュータ 2 0 0 では、撮影リストでデジタルカメラの機種名（MODEL）を定義して、機種名（MODEL）を記載した撮影リストをデジタルカメラ 1 0 0 に転送する一方、デジタルカメラ 1 0 0 は、自機の機種が撮影リストの機種と一致する場合に撮影リストに基づいて撮影を行うこととしたので、デジタルカメラでは、撮影リストに基づいて撮影を行って必要なカットの取り忘れ等を防止でき、指示者（撮影リストの作成者）の指示に従った撮影を行うことが可能となる。

【 0 4 0 0 】

なお、デジタルカメラ 1 0 0 では、撮影リストと撮影リストを使用して記録した記録ファイル（例えば、撮影した画像の画像ファイル）を、パーソナルコンピュータ 2 0 0 に転送する。これにより、撮影リストを作成したパーソナルコンピュータ 2 0 0 の使用者は、撮影リストを使用して撮影した画像等を利用（報告書の作成等）することができ、撮影リストの作成者の使い勝手が良くなる。

【 0 4 0 1 】

（実施例 2）

実施例 2 を図 7 4 を参照して説明する。図 7 4 は実施例 2 におけるパーソナルコンピュータ 2 0 0 側の動作を説明するためのフローチャートを示す。実施例 2 では、パーソナルコンピュータ 2 0 0 で、デジタルカメラの機種に対応した撮影リストを作成して、デジタルカメラ 1 0 0 に転送する場合の動作を説明する。

【 0 4 0 2 】

図 7 4 において、まず、パーソナルコンピュータ 2 0 0 では、上述のデジタル

カメラ用プログラムを起動させ、使用者の入力部 2 0 1 の操作で、撮影リストのパラメータとしてデジタルカメラの機種名の指定を行う（ステップ S 2 0 1 1）。つづいて、上述の機種テーブルを使用して、指定された機種に対応した撮影リストを作成する（ステップ S 2 0 1 2）。なお、機種が指定された場合に、マクロプログラムを起動して、機種テーブルを使用して、指定された機種に対応する撮影リストを自動的に作成することにしても良い。上述の撮影リストには、記録すべき被記録対象のカット名と、各カット名に対応した撮影指示内容が記載される。

【 0 4 0 3 】

つづいて、接続されたデジタルカメラ 1 0 0 の機種名（機種コード）を読み込む（ステップ S 2 0 1 3）。撮影リスト中で指定した機種と接続された機種の機種名が一致するか否かを判断する（ステップ S 2 0 1 4）。

【 0 4 0 4 】

この判断の結果、撮影リスト中で指定した機種と接続された機種の機種名が一致する場合には、作成した撮影リストをデジタルカメラ 1 0 0 に転送する（ステップ S 2 0 1 5）一方、撮影リスト中で指定した機種と接続された機種の機種名が一致しない場合には、表示部に撮影リスト転送エラーの表示を行う（ステップ S 2 0 1 6）。

【 0 4 0 5 】

以上説明したように、実施例 2 によれば、パーソナルコンピュータ 2 0 0 で、デジタルカメラの機種に応じた撮影リストを作成して、デジタルカメラに転送することとしたので、接続されるデジタルカメラの機種に応じた撮影リストを作成して転送することができ、撮影リスト作成・転送の作業効率およびデジタルカメラ側の作業効率を向上させることが可能となり、使用者の使い勝手が良くなる。

【 0 4 0 6 】

なお、ここでは、パーソナルコンピュータ 2 0 0 は、接続されるデジタルカメラの機種コードを取得し、デジタルカメラの機種毎の使用可能な機能が登録された機種テーブルを使用して、接続されるデジタルカメラの機種に対応した撮影指示リストを作成することとしたが、接続されるデジタルカメラから機種コードお

よび使用可能な機能の情報を取得し、接続されるデジタルカメラの機種に対応した撮影リストを作成することにも良い。

【 0 4 0 7 】

(実施例 3)

実施例 3 を図 7 5 を参照して説明する。図 7 5 は実施例 3 におけるパーソナルコンピュータ側の動作を説明するためのフローチャートを示す。実施例 3 では、パーソナルコンピュータ 2 0 0 で、デジタルカメラの機種に応じた撮影リストを作成して、デジタルカメラ 1 0 0 に転送する場合の動作を説明する。

【 0 4 0 8 】

図 7 5 において、まず、パーソナルコンピュータ 2 0 0 では、上述のデジタルカメラ用プログラムを起動させ、接続されるデジタルカメラ 1 0 0 の機種名（機種コード）をデジタルカメラ 1 0 0 から読み込む（ステップ S 2 0 2 1）。そして、上述の機種テーブルを使用して、読み込んだ機種に対応した撮影リストを作成する（ステップ S 2 0 2 2）。なお、マクロプログラムを起動して、機種テーブルを参照し、読み込んだ機種に対応した撮影リストを自動的に作成することにも良い。上述の撮影リストには、記録すべき被記録対象のカット名と、各カット名に対応する撮影指示内容が記載される。そして、作成した撮影リストをデジタルカメラ 1 0 0 に転送する（ステップ S 2 0 2 3）。

【 0 4 0 9 】

以上説明したように、実施例 3 によれば、パーソナルコンピュータ 2 0 0 で、接続したデジタルカメラの機種を読み出し、当該読み出した機種に応じた撮影リストを作成して、デジタルカメラに転送することとしたので、接続されるデジタルカメラの機種に応じた撮影リストを作成して転送することができ、撮影リスト作成・転送の作業効率およびデジタルカメラ側の作業効率を向上させることが可能となり、使用者の使い勝手が良くなる。

【 0 4 1 0 】

なお、ここでは、パーソナルコンピュータ 2 0 0 は、接続されるデジタルカメラの機種コードを取得し、デジタルカメラの機種毎の使用可能な機能が登録された機種テーブルを使用して、接続されるデジタルカメラの機種に対応した撮影リ

ストを作成することとしたが、接続されるデジタルカメラから機種コードおよび使用可能な機能の情報を取得し、接続されるデジタルカメラの機種に対応した撮影リストを作成することにしても良い。

【0411】

（実施例4）

実施例4を図76を参照して説明する。図76は実施例4におけるパーソナルコンピュータ側の動作を説明するためのフローチャートを示す。実施例4では、パーソナルコンピュータ200で、接続されるデジタルカメラから機種名（モデル）等が記載されたファイルを読み出し、読み出したファイル中の機種名（モデル）に対応した撮影リストを作成して、デジタルカメラ100に転送する場合の動作を説明する。

【0412】

図76において、まず、パーソナルコンピュータ200では、上述のデジタルカメラ用プログラムを起動させ、接続されるデジタルカメラ100から、当該デジタルカメラの機種名（機種コード）が記載されたファイルを読み込む（ステップS2031）。つづいて、上述の機種テーブルを使用して、読み込んだファイル中の機種に対応した撮影リストを作成する（ステップS2032）。なお、マクロプログラムを起動して、機種テーブルを参照し、読み込んだ機種に対応した撮影リストを自動的に作成することにしても良い。上述の撮影リストには、記録すべき被記録対象のカット名と、各カット名に対応する撮影指示内容が記載される。そして、作成した撮影リストをデジタルカメラ100に転送する（ステップS2033）。

【0413】

以上説明したように、実施例4によれば、パーソナルコンピュータ200で、接続したデジタルカメラから、当該デジタルカメラの機種名が記載されたファイルを読み出し、当該読み出した機種に応じた撮影リストを作成して、デジタルカメラに転送することとしたので、接続されるデジタルカメラの機種に応じた撮影リストを作成して転送することができ、撮影リスト作成・転送の作業効率およびデジタルカメラ側の作業効率を向上させることが可能となり、使用者の使い勝手

が良くなる。

【0414】

なお、ここでは、パーソナルコンピュータ200は、接続されるデジタルカメラの機種コードを取得し、デジタルカメラの機種毎の使用可能な機能が登録された機種テーブルを使用して、接続されるデジタルカメラの機種に対応した撮影指示リストを作成することとしたが、接続されるデジタルカメラから機種コードおよび使用可能な機能の情報を取得し、接続されるデジタルカメラの機種に対応した撮影リストを作成することにしても良い。

【0415】

(実施例5)

実施例5を図77を参照して説明する。図77は実施例5におけるパーソナルコンピュータ側の動作を説明するためのフローチャートを示す。実施例5では、パーソナルコンピュータで、接続されるデジタルカメラの記録ファイルのヘッダーを読み出し、ヘッダーに格納されている機種コード（機種名）に応じた撮影リストを作成して、デジタルカメラに転送する場合の実施例を説明する。

【0416】

図77において、まず、パーソナルコンピュータ200では、上述のデジタルカメラ用プログラムを起動させ、接続されたデジタルカメラの記録部108またはカードスロット部110に格納されている記録ファイル（例えば、EXIF形式のファイル）のヘッダーを読み込む（ステップS2041）。EXIF形式のファイルではヘッダーに機種コード等の情報が格納されている。つづいて、上述の機種テーブルを使用して、読み込んだヘッダー内の機種コード（機種名）に対応した撮影リストを作成する（ステップS2042）。なお、マクロプログラムを起動して、機種テーブルを参照し、読み込んだ機種コードに対応した撮影リストを自動的に作成することにしても良い。上述の撮影リストには、記録すべき被記録対象のカット名と、各カット名に対応する撮影指示内容が記載される。そして、作成した撮影リストをデジタルカメラ100に転送する（ステップS2043）。

【0417】

以上説明したように、実施例 5 によれば、パーソナルコンピュータ 2 0 0 では、接続したデジタルカメラの記録ファイルのヘッダーを読み出し、当該読み出したヘッダー内の機種コード（機種）に応じた撮影リストを作成して、デジタルカメラに転送することとしたので、接続されるデジタルカメラの機種に応じた撮影リストを作成して転送することができ、撮影リスト作成・転送の作業効率およびデジタルカメラ側の作業効率を向上させることが可能となり、使用者の使い勝手が良くなる。

【0 4 1 8】

なお、ここでは、パーソナルコンピュータ 2 0 0 は、接続されるデジタルカメラの機種コードを取得し、デジタルカメラの機種毎の使用可能な機能が登録された機種テーブルを使用して、接続されるデジタルカメラの機種に対応した撮影指示リストを作成することとしたが、機種テーブルを使用しないで、接続されるデジタルカメラから機種コードおよび使用可能な機能の情報を取得し、当該使用可能な機能の情報に基づいて接続されるデジタルカメラの機種に対応した撮影リストを作成することにしても良い。

【0 4 1 9】

（実施例 6）

実施例 6 を図 7 8 を参照して説明する。図 7 8 は実施例 6 におけるパーソナルコンピュータ側の動作を説明するためのフローチャートを示す。実施例 6 では、パーソナルコンピュータで、予めテンプレートのマクロプログラムにカット名として取り出すセルの位置の情報を埋め込んでおき、マクロプログラムを駆動して、自動的に撮影リストを作成して、デジタルカメラに転送する場合の実施例を説明する。

【0 4 2 0】

図 7 8 において、まず、パーソナルコンピュータ 2 0 0 では、撮影リスト書き出しマクロがスタートすると、帳票形式の画面を表示し、撮影リスト書き出しボタンが押下されたか否かを判断し（ステップ S 2 0 5 1）、撮影リスト書き出しボタンが押下された場合には、選択されたセル内に記載された項目（カット名）をリストの形式に並べ（ステップ S 2 0 5 2）、撮影リストファイルを作成する

(ステップ S 2 0 5 3)。図 7 9 は帳票形式の画面の一例を示している。同図において、マクロプログラムには、カット名を取り出すセルの位置情報として、予め B 3 ～ B 7 のセルの位置の情報が埋め込まれており、使用者の入力部 2 0 1 の操作で、B 3 ～ B 7 のセルにカット名” カット 1 ”、” カット 2 ”、” カット 3 ”、” カット 4 ”、” カット 5 ” が入力される。そして、撮影リスト書き出しボタンが押下されると、B 3 ～ B 7 のセルのカット名” カット 1 ”、” カット 2 ”、” カット 3 ”、” カット 4 ”、” カット 5 ” が読み出されて撮影リストファイルが作成される。

【 0 4 2 1 】

つづいて、デジタルカメラが接続されているか否かを判断し (ステップ S 2 0 5 4)、デジタルカメラが接続されている場合には、ステップ S 2 0 5 5 に移行して、デジタルカメラ 1 0 0 に撮影リストファイルを転送する。

【 0 4 2 2 】

以上説明したように、実施例 6 によれば、パーソナルコンピュータ 2 0 0 では、予めテンプレートのマクロプログラムにカット名として取り出すセルの位置の情報が埋め込まれており、当該マクロを駆動して、自動的に撮影リストを作成して、デジタルカメラに転送することとしたので、撮影リスト作成・転送の作業効率およびデジタルカメラ側の作業効率を向上させることが可能となり、使用者の使い勝手が良くなる。

【 0 4 2 3 】

(実施例 7)

実施例 7 を図 8 0 を参照して説明する。図 8 0 は実施例 7 におけるパーソナルコンピュータ側およびデジタルカメラ側の動作を説明するためのフローチャートを示す。実施例 7 では、パーソナルコンピュータで、セルの位置を指定し、マクロを駆動して、自動的に撮影リストを作成して、デジタルカメラに転送する場合の実施例を説明する。

【 0 4 2 4 】

図 8 0 において、まず、パーソナルコンピュータ 2 0 0 では、撮影リスト書き出しマクロがスタートすると、帳票形式の画面を表示部 2 0 2 に表示する。そし

て、帳票形式の画面で、セルにカット名を入力する。そして、撮影リスト書き出しボタンが押下されたか否かを判断し（ステップ S 2 0 6 1）、撮影リスト書き出しボタンが押下された場合には、セルの位置を指定し、選択されたセル内に記載された項目をリストの形式に並べ（ステップ S 2 0 6 2）、撮影リストファイルを作成する（ステップ S 2 0 6 3）。つづいて、デジタルカメラが接続されているか否かを判断し（ステップ S 2 0 6 4）、デジタルカメラが接続されている場合には、ステップ S 2 0 6 5に移行して、デジタルカメラに撮影リストファイルを転送する。

【 0 4 2 5 】

上記図 7 9 は帳票形式の画面の一例を示している。同図において、使用者の入力部 2 0 1 の操作で、例えば、B 3 ～ B 7 のセルにカット名” カット 1 ”、” カット 2 ”、” カット 3 ”、” カット 4 ”、” カット 5 ” が入力される。そして、使用者の入力部 2 0 1 の操作で、B 3 ～ B 7 のセルが選択され、撮影リスト書き出しボタンが押下されると、B 3 ～ B 7 のセルのカット名” カット 1 ”、” カット 2 ”、” カット 3 ”、” カット 4 ”、および” カット 5 ”を読み出して、” カット 1 ”、” カット 2 ”、” カット 3 ”、” カット 4 ”、および” カット 5 ”をリスト形式に並べた撮影リストファイルを作成する。

【 0 4 2 6 】

他方、デジタルカメラ 1 0 0 では、パーソナルコンピュータ（PC）2 0 0 と接続されているか否かを判断する（ステップ S 2 0 7 1）。パーソナルコンピュータ 2 0 0 が接続されている場合には、ステップ S 2 0 7 2 に移行し、パーソナルコンピュータ 2 0 0 から撮影リストが転送されてきたか否かを判断し、パーソナルコンピュータ 2 0 0 から撮影リストが転送されてきた場合には、自機の機種に応じた撮影リストであるか否かを判断し（ステップ S 2 0 7 3）、自機の機種に応じた撮影リストである場合には、撮影リストを読み込む（ステップ S 2 0 7 4）。つづいて、撮影リスト撮影モードであるか否かを判断し（ステップ S 2 0 7 5）、撮影リスト撮影モードである場合には、撮影リスト内のカット名に応じた撮影を行う（ステップ S 2 0 7 6）。

【 0 4 2 7 】

以上説明したように、実施例 7 によれば、パーソナルコンピュータ 2 0 0 で、予使用者によって、カット名として取り出すセルの位置を指示し、マクロを駆動して、自動的に選択されたセルのカット名を読み出して撮影リストを作成して、デジタルカメラに転送することとしたので、撮影リスト作成・転送の作業効率およびデジタルカメラ側の作業効率を向上させることが可能となり、使用者の使い勝手が良くなる。

【 0 4 2 8 】

(実施例 8)

実施例 8 を図 8 1 を参照して説明する。図 8 1 は実施例 8 におけるパーソナルコンピュータ側およびデジタルカメラ側の動作を説明するためのフローチャートを示す。実施例 8 では、パーソナルコンピュータで、セルの位置を指定し、マクロを駆動して、撮影指示項目も含んだ撮影リストを自動的に作成して、デジタルカメラに転送する場合の実施例を説明する。

【 0 4 2 9 】

まず、パーソナルコンピュータ 2 0 0 では、撮影リスト書き出しマクロがスタートすると、帳票形式の画面を表示部 2 0 2 に表示し、撮影リスト書き出しボタンが押下されたか否かを判断し（ステップ S 2 0 8 1）、撮影リスト書き出しボタンが押下された場合には、セルの位置を指定し、選択されたセル内に記載されたカット名および当該カット名に対応する撮影指示項目を読み込む（ステップ S 2 0 8 2）。そして、カット名および当該カット名に対応する撮影指示項目を含んだ撮影リストファイルを作成する（ステップ S 2 0 8 3）。

【 0 4 3 0 】

図 8 2 は帳票形式の画面の一例を示している。同図において、使用者の入力部 2 0 1 の操作で、B 3 ～ B 7 のセルにカット名” カット 1 ”、” カット 2 ”、” カット 3 ”、” カット 4 ”、” カット 5 ” が入力され、さらに、C 3 ～ C 7 のセルに、撮影指示項目” A さんを撮影 ”、” B さんを撮影 ”、” C さんを撮影 ”、” D さんを撮影 ”、” E さんを撮影 ” が入力される。そして、使用者の入力部 2 0 1 の操作で、B 3 ～ B 7 のセルが選択され、撮影リスト書き出しボタンが押下されると、B 3 ～ B 7 のセルのカット名” カット 1 ”、” カット 2 ”、” カット

3”、“カット4”、“カット5”と、当該カット名”カット1”、“カット2”、“カット3”、“カット4”、“カット5”に各々対応する撮影指示項目”Aさんを撮影”、“Bさんを撮影”、“Cさんを撮影”、“Dさんを撮影”、“Eさんを撮影”が読み出され、これらカット名および撮影指示項目（撮影指示情報）を含む撮影リストファイルが作成される。

【0431】

つづいて、デジタルカメラ100が接続されているか否かを判断し（ステップS2084）、デジタルカメラ100が接続されていると判断した場合には、ステップS2085に移行して、デジタルカメラ100に撮影リストファイルを転送する。

【0432】

他方、デジタルカメラ100では、パーソナルコンピュータ（PC）と接続されているか否かを判断し（ステップS2091）、パーソナルコンピュータが接続されている場合には、ステップS2092に移行し、パーソナルコンピュータ200から撮影リストが転送されてきたか否かを判断し、パーソナルコンピュータ200から撮影リストが転送されてきた場合には、自機の機種に応じた撮影リストであるか否かを判断し（ステップS2093）、自機の機種に応じた撮影リストである場合には、撮影リスト内に記載された撮影指示項目を読み込む（ステップS2094）。つづいて、撮影リスト撮影モードであるか否かを判断し（ステップS2095）、撮影リスト撮影モードである場合には、撮影リスト内のカット名に応じた撮影を行う（ステップS2096）。

【0433】

以上説明したように、実施例8によれば、パーソナルコンピュータ200で、予使用者によって、カット名として取り出すセルの位置を指示し、マクロを駆動して、自動的に撮影指示項目を含む撮影リストファイルを作成して、デジタルカメラに転送することとしたので、撮影リスト作成・転送の作業効率およびデジタルカメラ側の作業効率を向上させることが可能となり、使用者の使い勝手が良くなる。

【0434】

(実施例 9)

実施例 9 を図 8 3 を参照して説明する。図 8 3 は実施例 9 におけるパーソナルコンピュータ側およびデジタルカメラ側の動作を説明するためのフローチャートを示す。実施例 9 では、パーソナルコンピュータで、カット名として取り出すセルの位置と、画像を貼り付けるセルの位置を指示し、カット名と画像を貼り付けるセルのサイズを読み出して、自動的に撮影リストを作成して、デジタルカメラに転送する場合の実施例を説明する。

【0 4 3 5】

図 8 3 において、まず、パーソナルコンピュータ 2 0 0 では、撮影リスト書き出しマクロがスタートすると、帳票形式の画面を表示部 2 0 2 に表示し、撮影リスト書き出しボタンが押下されたか否かを判断し（ステップ S 2 1 0 1）、撮影リスト書き出しボタンが押下された場合には、選択されたセルの位置に記載された項目（カット名）をリストの形式に並べる（ステップ S 2 1 0 2）。そして、画像を貼り付けるセルの位置を指定し、指定されたセルのセルサイズを読み込んで、カット名と画像貼り付けサイズを含んだ撮影リストファイルを作成する（ステップ S 2 1 0 3）。

【0 4 3 6】

図 8 4 は帳票形式の画面の一例を示している。同図において、使用者の入力部 2 0 1 の操作で、B 4 ～ B 7 のセルにカット名” カット 1 ”、” カット 2 ”、” カット 3 ”、” カット 4 ” が入力される。そして、使用者の入力部 2 0 1 の操作で、撮影リスト書き出しボタンが押下され、カット名として取り出す B 4 ～ B 7 のセルが選択されると B 4 ～ B 7 のセルのカット名” カット 1 ”、” カット 2 ”、” カット 3 ”、” カット 4 ” が読み出され、さらに、画像を貼り付けるセル C 4 ～ C 7 が選択されると、セル C 4 ～ C 7 のセルサイズを読み出し、カット名” カット 1 ”、” カット 2 ”、” カット 3 ”、” カット 4 ” に、” セル C 4 のセルサイズ”、セル C 5 のセルサイズ”、” セル C 6 のセルサイズ”、” セル C 7 のセルサイズ” を各々対応させた撮影リストファイルが作成される。

【0 4 3 7】

つづいて、デジタルカメラが接続されているか否かを判断し（ステップ S 2 1

04)、デジタルカメラが接続されていると判断した場合には、ステップS2105に移行して、デジタルカメラ100にカット名および貼り付けサイズを含んだ撮影リストファイルを転送する。

【0438】

他方、デジタルカメラ100では、パーソナルコンピュータ(PC)と接続されているか否かを判断し(ステップS2111)、パーソナルコンピュータが接続されている場合には、ステップS2112に移行し、パーソナルコンピュータ200から撮影リストが転送されてきたか否かを判断し、パーソナルコンピュータ200から撮影リストが転送されてきた場合には、自機の機種に応じた撮影リストであるか否かを判断し(ステップS2113)、自機の機種に応じた撮影リストである場合には、撮影リスト内に記載された撮影項目を読み込む(ステップS2114)。

【0439】

つづいて、撮影リスト撮影モードであるか否かを判断し(ステップS2115)、撮影リスト撮影モードである場合には、撮影リスト内の貼り付けサイズを読み込む(ステップS2116)。そして、貼り付けサイズに応じた画像の撮影を行う(ステップS2117)。具体的には、撮影した画像データを貼り付けサイズに応じた大きさに変倍する。撮影後、撮影が全て終了したか否かを判断し、撮影が全て終了していない場合にはステップS2116に移行して、撮影が全て終了するまで同じ処理を繰り返す(ステップS2118)。

【0440】

以上説明したように、実施例9によれば、パーソナルコンピュータ200で、カット名として取り出すセルの位置と、画像を貼り付けるセルの位置を指定し、カット名と画像を貼り付けるセルのサイズを読み出して、自動的に撮影リストを作成して、デジタルカメラに転送することとしたので、撮影リスト作成・転送の作業効率およびデジタルカメラ側の作業効率を向上させることが可能となり、使用者の使い勝手が良くなる。

【0441】

(実施例10)

実施例 10 を図 8 5 を参照して説明する。図 8 5 は実施例 10 におけるパーソナルコンピュータ側およびデジタルカメラ側の動作を説明するためのフローチャートを示す。実施例 10 では、パーソナルコンピュータで、文書に予めダミーの画像を貼り付けておいて、その画像のサイズを読み出して、自動的に画像サイズを含んだ撮影リストを作成し、デジタルカメラに転送する場合の実施例を説明する。

【0442】

図 8 5 において、まず、パーソナルコンピュータ 200 では、撮影リスト書き出しマクロがスタートすると、帳票形式の画面を表示部 202 に表示し、画像を貼り付けたい位置にダミー画像を貼り付ける（ステップ S 2 1 2 1）。つづいて、撮影リスト書き出しボタンが押下されたか否かを判断し（ステップ S 2 1 2 2）、撮影リスト書き出しボタンが押下された場合には、選択されたセルの位置に記載されたカット名をリストの形式に並べる（ステップ S 2 1 2 3）。そして、貼り付ける位置に入っているダミーの画像を読み込み、ダミー画像のサイズ（貼り付けサイズ）を計算し、カット名と当該カット名に対応するダミー画像のサイズ（貼り付けサイズ）を含んだ撮影リストファイルを作成する（ステップ S 2 1 2 4）。

【0443】

図 8 6 は帳票形式の画面の一例を示している。同図において、使用者の入力部 201 の操作で、例えば、B 4 ～ B 7 のセルにカット名” カット 1 ”、” カット 2 ”、” カット 3 ”、” カット 4 ” が入力され、さらに、C 4 ～ C 7 のセルに” ダミー画像 1 ”、” ダミー画像 2 ”、” ダミー画像 3 ”、” ダミー画像 4 ” を貼り付ける。そして、使用者の入力部 201 の操作で、撮影リスト書き出しボタンが押下され、カット名として取り出す B 4 ～ B 7 のセルが選択されると B 4 ～ B 7 のセルのカット名” カット 1 ”、” カット 2 ”、” カット 3 ”、” カット 4 ” が読み出され、さらに、ダミー画像が貼り付けられたセル C 4 ～ C 7 が選択されると、セル C 4 ～ C 7 のセルに貼り付けられたダミー画像のサイズを各々計算し、カット名” カット 1 ”、” カット 2 ”、” カット 3 ”、” カット 4 ” に、” ダミー画像 1 のサイズ”、” ダミー画像 2 のサイズ”、” ダミー画像 3 のサイズ”、

”ダミー画像４のサイズ”を各々対応させた撮影リストファイルが作成される。

【 0 4 4 4 】

つづいて、デジタルカメラが接続されているか否かを判断し（ステップ S 2 1 2 5）、デジタルカメラが接続されていると判断した場合には、ステップ S 2 1 2 6に移行して、カット名および貼り付けサイズを含んだ撮影リストファイルを送送する。

【 0 4 4 5 】

他方、デジタルカメラ 1 0 0 では、パーソナルコンピュータ（P C）と接続されているか否かを判断し（ステップ S 2 1 3 1）、パーソナルコンピュータが接続されている場合には、ステップ S 2 1 3 2に移行し、パーソナルコンピュータ 2 0 0 から撮影リストが送送されてきたか否かを判断し、パーソナルコンピュータ 2 0 0 から撮影リストが送送されてきた場合には、自機の機種に応じた撮影リストであるか否かを判断し（ステップ S 2 1 3 3）、自機の機種に応じた撮影リストである場合には、撮影リスト内に記載された撮影項目を読み込む（ステップ S 2 1 3 4）。

【 0 4 4 6 】

つづいて、撮影リスト撮影モードであるか否かを判断し（ステップ S 2 1 3 5）、撮影リスト撮影モードである場合には、撮影リスト内の貼り付けサイズを読み込む（ステップ S 2 1 3 6）。そして、貼り付けサイズに応じた画像の撮影を行う（ステップ S 2 1 3 7）。撮影後、撮影が全て終了したか否かを判断し（ステップ S 2 1 3 8）、撮影が全て終了していない場合にはステップ S 2 1 3 6に移行して、撮影が全て終了するまで同じ処理を繰り返す（ステップ S 2 1 3 6 ～ S 2 1 3 8）。

【 0 4 4 7 】

以上説明したように、実施例 1 0 によれば、パーソナルコンピュータ 2 0 0 では、画面内に予めダミーの画像を貼り付けておいて、そのダミー画像のサイズを読み出し、画像サイズを含んだ撮影リストファイルを作成して、デジタルカメラに送送することとしたので、撮影リスト作成・送送の作業効率およびデジタルカメラ側の作業効率を向上させることが可能となり、使用者の使い勝手が良くなる

【 0 4 4 8 】

(実施例 1 1)

実施例 1 1 を図 8 7 を参照して説明する。図 8 7 は実施例 1 1 におけるパーソナルコンピュータ 2 0 0 側の動作を説明するためのフローチャートを示す。実施例 1 1 では、パーソナルコンピュータで、デジタルカメラによって撮影リストに従って撮影した画像ファイルを取り込んで、撮影リストに撮影画像を貼り付ける動作を説明する。

【 0 4 4 9 】

図 8 7 において、まず、パーソナルコンピュータ 2 0 0 では、撮影リスト読み込みモードが否かを判断し（ステップ S 2 1 4 1）、撮影リスト読み込みモードである場合には、デジタルカメラと接続されているか否かを判断する（ステップ S 2 1 4 2）。デジタルカメラと接続されていると判断した場合には、接続されるデジタルカメラ内の撮影済みの撮影リストを画像ファイルとともに読み込む（ステップ S 2 1 4 3）。

【 0 4 5 0 】

そして、読み込みが終了したか否かを判断し（ステップ S 2 1 4 4）、読み込みが終了した場合には、セルの貼り付け位置に応じたサイズを読み込む（ステップ S 2 1 4 5）。読み込んだ画像をセルのサイズに併せて画像サイズを変換する（ステップ S 2 1 4 6）。そして、画像サイズの変換が終了したか否かを判断して（ステップ S 2 1 4 7）、画像サイズの変換が終了した場合には、セルの指定位置に変換された画像を貼り付ける（ステップ S 2 1 4 8）。

【 0 4 5 1 】

上記図 8 4 は帳票形式の画面を示しており、図 8 4 において、画像を貼り付けるセル C 4 ～ C 7 を選択し、当該セル C 4 ～ C 7 のセルサイズを読み込み、デジタルカメラの撮影済み画像 1 ～ 4 を当該セルサイズに変換し、図 8 8 に示すように、セル C 4 ～ C 7 に貼り付ける。

【 0 4 5 2 】

以上説明したように、実施例 1 1 によれば、パーソナルコンピュータ 2 0 0 で

は、デジタルカメラによって撮影リストに従って撮影した画像ファイルを取り込んで、撮影リストに撮影画像を貼り付けることとしたので、撮影リストに従って撮影した画像の編集が容易となり、使用者の使い勝手が良くなる。

【0453】

本発明は上記した実施の形態に限定されるものではなく、発明の要旨を変更しない範囲で適宜変形して実行可能である。例えば、本実施の形態においては、本発明にかかる画像入力装置をデジタルカメラに適用した例を説明したが、本発明はこれに限られるものではなく、PDA等の情報携帯入力装置等にも適用可能である。

【0454】

【発明の効果】

以上説明したように、請求項1にかかる発明によれば、光学系は被写体像を結像し、撮像手段は結像された被写体像を画像データに変換し、撮影リスト入力手段は、少なくとも、記録すべき1または複数の被記録対象のタイトルを各々示すカット名を含む撮影リストを入力し、記憶手段は撮影リスト入力手段で入力された撮影リストを記憶し、カット名表示手段は、記憶手段に記憶された撮影リストに含まれるカット名を表示デバイスの表示画面に表示させることとしたので、撮影リストのカット名を確認しながら撮影を行うことができ、必要なカットの取り忘れを防止することが可能となり、使用者の使い勝手が良くなる。

【0455】

また、請求項2にかかる発明によれば、請求項1にかかる発明において、撮影リスト表示手段は、記憶手段に記憶されている撮影リストの一覧を表示デバイスの表示画面に表示し、撮影リスト選択手段は表示画面に表示された撮影リストの一覧の中から1の撮影リストを選択し、カット名表示手段は、撮影リスト選択手段で選択された撮影リストに含まれるカット名を表示することとしたので、請求項1にかかる発明の効果に加えて、複数の撮影リストの中から所望の撮影リストを選択することが可能となる。

【0456】

また、請求項3にかかる発明によれば、請求項1にかかる発明において、撮影

リストを情報処理装置から入力することとしたので、請求項 1 にかかる発明の効果に加えて、情報処理装置から撮影リストを入力することが可能となる。

【 0 4 5 7 】

また、請求項 4 にかかる発明によれば、請求項 1 にかかる発明において、Web サーバーのホームページから撮影リストを入力することとしたので、請求項 1 にかかる発明の効果に加えて、Web サーバーのホームページから撮影リストを入力することが可能となる。

【 0 4 5 8 】

また、請求項 5 にかかる発明によれば、請求項 1 にかかる発明において、カット名選択手段は表示画面に表示されたカット名の中から 1 のカット名を選択し、カット名選択手段により 1 のカット名が選択された場合に、記録モードに移行することとしたので、請求項 1 にかかる発明の効果に加えて、カット名を選択した後に撮影可能状態とすることができ、カット名と対応させた撮影が容易となる。

【 0 4 5 9 】

また、請求項 6 にかかる発明によれば、請求項 5 にかかる発明において、被記録対象の静止画像、二値画像、および動画像、ならびに音声記録可能であることとしたので、請求項 1 にかかる発明の効果に加えて、被写体の静止画像、二値画像、および動画像、ならびに音声等を記録することが可能となる。

【 0 4 6 0 】

また、請求項 7 にかかる発明によれば、請求項 6 にかかる発明において、HTML ファイル変換手段は、記録モードで記録した記録データを HTML ファイルに変換することとしたので、請求項 6 にかかる発明の効果に加えて、記録した記録データの HTML ファイルを作成することが可能となる。

【 0 4 6 1 】

また、請求項 8 にかかる発明によれば、請求項 7 にかかる発明において、アップロード手段は、HTML ファイル変換手段で変換された HTML ファイルを Web サーバーのホームページにアップロードすることとしたので、請求項 6 にかかる発明の効果に加えて、記録データの HTML ファイルを Web サーバーにアップロードすることが可能となる。

【 0 4 6 2 】

また、請求項 9 にかかる発明によれば、請求項 6 にかかる発明において、記録モードで記録した記録データの記録ファイルのパラメータ内にカット名選択手段で選択されたカット名を付加することとしたので、請求項 6 にかかる発明の効果に加えて、撮影した画像等とカット名とを対応させることができ、どの画像等がどのカット名に対応するかを間違えることを防止することが可能となる。

【 0 4 6 3 】

また、請求項 1 0 にかかる発明によれば、請求項 6 にかかる発明において、記録モードで記録した記録データの記録ファイルを、カット名選択手段で選択されたカット名に関連づけて記憶することとしたので、請求項 6 にかかる発明の効果に加えて、撮影した画像等とカット名とを対応させることができ、どの画像等がどのカット名に対応するかを間違えることを防止することが可能となる。

【 0 4 6 4 】

また、請求項 1 1 にかかる発明によれば、請求項 6 にかかる発明において、記録ファイルのファイル名にカット名選択手段で選択されたカット名を含むようにしたので、請求項 6 にかかる発明において、撮影した画像等とカット名とを対応させることができ、どの画像等がどのカット名に対応するかを間違えることを防止することが可能となる。

【 0 4 6 5 】

また、請求項 1 2 にかかる発明によれば、請求項 6 にかかる発明において、記録モードで記録した画像データにカット名選択手段で選択されたカット名を合成することとしたので、請求項 6 にかかる発明において、撮影した画像等とカット名とを対応させることができ、どの画像等がどのカット名に対応するかを間違えることを防止することが可能となる。

【 0 4 6 6 】

また、請求項 1 3 にかかる発明によれば、請求項 5 にかかる発明において、カット名表示手段は、カット名選択手段で撮影リストのカット名が選択された後に、記録データの記録が行われた場合には、当該カット名に対応した記録が行われた旨を表示することとしたので、請求項 1 にかかる発明の効果に加えて、記録し

たカット名を使用者が視認することが可能となる。

【 0 4 6 7 】

また、請求項 1 4 にかかる発明によれば、請求項 5 にかかる発明において、カット名表示手段は、カット名毎に撮影済み枚数を表示デバイスの表示画面に表示することとしたので、カット名毎の撮影済み枚数を確認することが可能となる。

【 0 4 6 8 】

また、請求項 1 5 にかかる発明によれば、請求項 1 にかかる発明において、撮影リスト内のカット名の全ての撮影が終了した場合に、撮影リストの撮影が終了した旨を、指定される送信先に送信することとしたので、請求項 1 にかかる発明の効果に加えて、撮影リストの作業を終了したか否かを送信先（指示者）で把握することが可能となる。

【 0 4 6 9 】

また、請求項 1 6 にかかる発明によれば、請求項 1 にかかる発明において、カット名選択手段により 1 のカット名が選択された場合に、記録モードに移行し、被写体のモニタリング画像と共にカット名選択手段で選択されたカット名を表示デバイスの表示画面に表示することとしたので、請求項 1 にかかる発明の効果に加えて、被写体のモニタリング画像とカット名を見ながら撮影を行うことが可能となる。

【 0 4 7 0 】

また、請求項 1 7 にかかる発明によれば、請求項 1 にかかる発明において、記憶制御手段は、カット名選択手段によりカット名が選択された場合に、記録モードに移行して、所定キーの操作に応じて、被写体の静止画像、二値画像、および動画画像、ならびに音声のうちのいずれかの記録データの記録を行い、記録ファイルとして憶手段に記録し、グループ化手段は、撮影リスト毎に記録ファイルをグループ化することとしたので、請求項 1 にかかる発明の効果に加えて、撮影リスト毎に、撮影した記録ファイルをグループ化することができ、撮影リスト毎のファイル管理が容易となる。

【 0 4 7 1 】

また、請求項 1 8 にかかる発明によれば、請求項 1 7 にかかる発明において、

グループ化手段は、撮影リスト毎に前記記録ファイルをフォルダに登録してグループ化することとしたので、請求項 17 にかかる発明の効果に加えて、フォルダでファイル管理することが可能となる。

【0472】

また、請求項 19 にかかる発明によれば、請求項 1 にかかる発明において、撮影リストは、さらに、各カット名に各々対応し、かつ使用者に指示を与えるための撮影指示情報を含み、カット名選択手段により 1 のカット名が選択された場合に、選択された撮影リストの対応する撮影指示情報の内容を報知することとしたので、請求項 1 にかかる発明の効果に加えて、撮影リストの作成者（指示者）の指示に従った撮影や撮影後の処理を行うことが可能となる。

【0473】

また、請求項 20 にかかる発明によれば、請求項 19 にかかる発明において、撮影指示情報の内容は、撮影の手順または撮影後の作業の指示とすることとしたので、請求項 19 にかかる発明の効果に加えて、カット名に対応する撮影の手順等で撮影を行うことが可能となる。

【0474】

また、請求項 21 にかかる発明によれば、請求項 19 にかかる発明において、撮影指示情報の属性は、テキスト文書、図面、音声、および動画のいずれかとするので、請求項 19 にかかる発明の効果に加えて、テキスト文書、図面、音声、および動画で撮影の指示等を受けることが可能となる。

【0475】

また、請求項 22 にかかる発明によれば、請求項 1 にかかる発明において、撮影リストは、さらに、各カット名に各々対応し、かつ被記録対象を記録する際の設定条件の自動設定および／または記録後に実行すべき自動処理の指示を与えるための自動処理指示情報を含み、カット名選択手段によりカット名が選択された場合に、記録モードに移行して、カット名選択手段で選択されたカット名に対応する自動処理指示情報の内容に従って、被記録対象を記録する際の設定条件の自動設定および／または記録データの記録後に実行すべき自動処理を実行することとしたので、請求項 1 にかかる発明の効果に加えて、撮影リストの作成者の意図

に従った、被記録対象を記録する際の設定条件の自動設定および／または記録後に実行すべき自動処理を行うことが可能となる。

【 0 4 7 6 】

また、請求項 2 3 にかかる発明によれば、請求項 2 1 にかかる発明において、カット名選択手段で選択されたカット名に対応する自動処理指示情報の内容が、データ記録後のメール添付送信の指示である場合には、記録モードで記録した記録データをメールに添付して、通信手段を介して指定される送信先に送信することとしたので、請求項 2 2 にかかる発明の効果に加えて、記録した記録データを自動的にメール添付送信することが可能となる。

【 0 4 7 7 】

また、請求項 2 4 にかかる発明によれば、請求項 2 2 にかかる発明において、カット名選択手段で選択されたカット名に対応する自動処理指示情報の内容が、データ記録後のサムネール添付送信の指示である場合には、記録モードで記録した画像データに対応するサムネール画像をメールに添付して、通信手段を介して指定される送信先に送信することとしたので、請求項 2 2 にかかる発明の効果に加えて、撮影した画像データのサムネール画像を自動的にメール添付転送することが可能となる。

【 0 4 7 8 】

また、請求項 2 5 にかかる発明によれば、請求項 2 2 にかかる発明において、カット名選択手段で選択されたカット名に対応する自動処理指示情報の内容がデータ記録後の画像データの変倍メール添付送信の指示である場合には、記録モードで記録した画像データを指定される大きさに変倍してメールに添付して、通信手段を介して指定される送信先に送信することとしたので、請求項 2 2 にかかる発明の効果に加えて、撮影した画像データを所望の大きさに変倍してメール添付送信することが可能となる。

【 0 4 7 9 】

また、請求項 2 6 にかかる発明によれば、請求項 2 2 にかかる発明において、カット名選択手段で選択されたカット名に対応する自動処理指示情報の内容が、データ記録後のホームページへのアップロードの指示である場合には、記録モー

ドで記録した画像データをHTMLファイルに変換して、通信手段を介して指定されるホームページにアップロードすることとしたので、請求項22にかかる発明の効果に加えて、撮影した画像データを自動的にホームページにアップロードすることが可能となる。

【0480】

また、請求項27にかかる発明によれば、請求項22にかかる発明において、カット名選択手段で選択されたカット名に対応する自動処理指示情報の内容が、データ記録後のホームページへのアップロードおよび当該ホームページのURLアドレスの通知の指示である場合には、記録モードで記録した画像データをHTMLファイルに変換し、通信手段を介して指定されるホームページにアップロードするとともに、アップロード先のホームページのURLアドレスを通信手段を介して指定される送信先に送信することとしたので、請求項22にかかる発明の効果に加えて、撮影した画像データを自動的にホームページにアップロードできるとともに、アップロード先のホームページのURLアドレスを指定される送信先に自動的に送信することが可能となる。

【0481】

また、請求項28にかかる発明によれば、請求項22にかかる発明において、カット名選択手段で選択されたカット名に対応する自動処理指示情報の内容が、データ記録後のメモ情報の入力指示である場合には、記録モードでの記録後に、メモ入力モードに移行し、前記メモ入力手段から入力されるメモ情報のファイルを記録モードで記録した記録データの記録ファイルと関連づけて格納することとしたので、請求項22にかかる発明の効果に加えて、撮影に係るメモを関連ファイルとして保存することができ、使用者の作業をスムーズに進行させることが可能となる。

【0482】

また、請求項29にかかる発明によれば、請求項22にかかる発明において、カット名選択手段で選択されたカット名に対応する自動処理指示情報の内容が、記録後のメモ情報の入力指示である場合には、記録モードでの記録後に、メモ入力モードに移行し、前記メモ入力手段から入力されるメモ情報を、記録モードで

記録した画像データと合成することとしたので、請求項 2 2 にかかる発明の効果に加えて、撮影に係るメモを撮影画像に合成することができ、使用者の作業をスムーズに進行させることが可能となる。

【 0 4 8 3 】

また、請求項 3 0 にかかる発明によれば、請求項 2 9 にかかる発明において、メモ情報をテキスト文字または手書き文字とすることとしたので、請求項 2 9 にかかる発明の効果に加えて、メモ情報をテキスト文字または手書き文字を入力することが可能となる。

【 0 4 8 4 】

また、請求項 3 1 にかかる発明によれば、請求項 2 9 にかかる発明において、メモ情報の前記撮影された画像に対する合成位置を任意に設定可能とする。

【 0 4 8 5 】

また、請求項 3 2 にかかる発明によれば、請求項 2 2 にかかる発明において、カット名選択手段で選択されたカット名に対応する自動処理指示情報の内容が、記録後の音声入力の指示である場合には、記録モードでの記録後に、音声入力モードに移行し、前記音声入力手段から入力される音声のファイルを記録モードで記録した画像データの記録ファイルと関連づけて格納することとしたので、請求項 2 2 にかかる発明の効果に加えて、音声ファイルを画像ファイルと関連づけて格納することが可能となる。

【 0 4 8 6 】

また、請求項 3 3 にかかる発明によれば、請求項 2 2 にかかる発明において、カット名選択手段で選択されたカット名に対応する自動処理指示情報の内容が、撮影画像に対する日付の合成の指示である場合には、記録モードで画像データを記録した後、当該画像データに日付を合成することとしたので、請求項 2 2 にかかる発明の効果に加えて、画像データに日付を合成することが可能となる。

【 0 4 8 7 】

また、請求項 3 4 にかかる発明によれば、請求項 2 2 にかかる発明において、カット名選択手段で選択されたカット名に対応する自動処理指示情報の内容が、撮影画像の解像度の設定指示である場合には、撮影する際の解像度を設定指示に

応じて設定することとしたので、請求項 2 2 にかかる発明の効果に加えて、解像度を自動設定することが可能となる。

【 0 4 8 8 】

また、請求項 3 5 にかかる発明によれば、請求項 2 2 にかかる発明において、撮影リストは、記録すべき被記録対象の 1 または複数のカット名と、当該カット名に対応する被合成情報とを含み、選択手段により 1 のカット名が選択された場合に、記録モードに移行し、当該記録モードで撮影した画像に、撮影リストのカット名選択手段で選択されたカット名に対応する被合成情報を合成することとしたので、請求項 2 2 にかかる発明の効果に加えて、撮影画像に関する被合成情報を撮影した画像に合成して保存することが可能となる。

【 0 4 8 9 】

また、請求項 3 6 にかかる発明によれば、請求項 3 5 にかかる発明において、被合成情報の撮影した画像に対する合成位置を任意に設定可能としたので、請求項 3 5 にかかる発明の効果に加えて、撮影した画像に対して所望の位置に被合成情報を合成することが可能となる。

【 0 4 9 0 】

また、請求項 3 7 にかかる発明によれば、請求項 1 にかかる発明において、撮影リストは、記録後に実行すべき自動処理の指示を与えるための自動処理指示情報を含み、カット名選択手段によりカット名が選択された場合に、記録モードに移行して、所定キーの操作に応じて、カット名毎に撮影を行い、撮影した画像データを撮影リストの自動処理指示情報に従って処理することとしたので、請求項 1 にかかる発明の効果に加えて、カット名毎に撮影を行い、撮影した画像データを自動的に処理することが可能となる。

【 0 4 9 1 】

また、請求項 3 8 にかかる発明によれば、請求項 3 7 にかかる発明において、自動処理指示情報が、複数画像の合成の指示である場合には、カット名毎に撮影した複数の画像を合成することとしたので、請求項 3 7 にかかる発明の効果に加えて、カット名毎に撮影した複数の画像を合成することが可能となる。

【 0 4 9 2 】

また、請求項 3 9 にかかる発明によれば、請求項 3 7 にかかる発明において、前記自動処理指示情報が、複数画像の補正指示である場合には、前記カット名毎に撮影した複数の画像を補正することとしたので、請求項 3 7 にかかる発明の効果に加えて、カット名毎に撮影した複数の画像を補正することが可能となる。

【 0 4 9 3 】

また、請求項 4 0 にかかる発明によれば、請求項 2 2 にかかる発明において、撮影リストは、さらに、機種名情報を含み、前記自動処理指示情報は前記機種に応じた内容であり、判断手段は、撮影り入力手段により入力される前記撮影リストの機種名情報を読み出して、自機の機種名と前記撮影リストの機種名とが一致するか否かを判断し、判断手段により自機の機種名と前記撮影リストの機種名とが一致すると判断された場合に、撮影リストに基づいて撮影を行うこととしたので、請求項 2 2 にかかる発明の効果に加えて、自機の機種に対応した撮影リストを使用して撮影することが可能となる。

【 0 4 9 4 】

また、請求項 4 1 にかかる発明によれば、光学系は被写体像を結像し、撮像手段は結像した被写体像を画像データに変換し、メモリは撮像手段から出力される画像データを一時的に格納し、記憶制御手段はメモリに格納される画像データを所定のファイル形式で記録媒体に記憶し、W e b ブラウジング手段はW e b サーバーのホームページのW e b 情報を取り込んで、メモリに表示データとして格納し、メモリに格納された表示データを上述の所定のファイル形式で記録媒体に記録することとしたので、ブラウジングしたホームページ等のW e b 情報を、光学系および撮像手段で撮影した撮影データと同じデータ形態で取り込むことができ、データ処理やデータ管理が容易になる。

【 0 4 9 5 】

また、請求項 4 2 にかかる発明によれば、請求項 4 1 にかかる発明において、W e b ブラウジング手段は、ズームレバーの操作に応じて、メモリに格納される表示データを拡大または縮小して、W e b 情報の取り込み範囲を変更することとしたので、請求項 4 1 にかかる発明の効果に加えて、ズームレバーを用いることで、画像入力装置における撮影と同じ感覚で、取り込みデータのキャプチャ範囲

を自由に設定することが可能となる。

【 0 4 9 6 】

また、請求項 4 3 にかかる発明によれば、請求項 4 1 にかかる発明において、シャッターキーの操作に応じて、メモリに格納された表示データを所定のファイル形式で記録媒体に記録することとしたので、請求項 4 1 にかかる発明の効果に加えて、ブラウジングしたホームページ等の Web 情報をシャッターを押下して取り込むことができ、デジタルカメラの撮影と同じ感覚でデータの取り込みができ、ユーザーが使用し易いユーザインターフェースを提供することが可能となる。

【 0 4 9 7 】

また、請求項 4 4 にかかる発明によれば、請求項 4 1 にかかる発明において、Web ブラウジング手段は、ブラウジングする画像の特定の URL を定期的にアクセスして、Web 情報の取り込みを行うこととしたので、請求項 4 1 にかかる発明の効果に加えて、画像入力装置のインターバル撮影感覚で、Web ページのデータの定期的な取り込みを容易にすることが可能となる。

【 0 4 9 8 】

また、請求項 4 5 にかかる発明によれば、請求項 4 1 にかかる発明において、手書きメモ情報入力手段から入力される手書きメモ情報と Web サーバーから取り込んだ Web 情報とを合成することとしたので、請求項 4 1 にかかる発明の効果において、ブラウジングしたホームページ等の Web 情報上に手書きメモ情報を合成するができ、画像等に関連する情報等の合成が可能となり、使用者の意図の強調等が容易に実現できる。

【 0 4 9 9 】

また、請求項 4 6 にかかる発明は、請求項 4 1 にかかる発明において、Web サーバーから取り込んだ Web 情報に音声メモ情報を付加することとしたので、請求項 4 1 にかかる発明の効果に加えて、カメラでの撮影感覚で取り込んだブラウジングしたホームページ等の Web 情報上に、容易に関連する音声メモを追加することが可能となる。

【 0 5 0 0 】

また、請求項 4 7 にかかる発明によれば、請求項 4 1 にかかる発明において、ブラウジングした W e b 情報上の位置を指定し、メモ情報入力手段で入力した若しくはメモ情報記憶手段に予め記憶されたメモ情報を W e b 情報の指定位置に合成することとしたので、請求項 4 1 にかかる発明の効果に加えて、請求項 4 1 にかかる発明の効果において、ブラウジングしたホームページ等の W e b 情報の指定位置に、手書きメモ情報を合成するができ、画像等に関連する情報等の合成が可能となり、使用者の意図の強調等が容易に実現できる。

【 0 5 0 1 】

また、請求項 4 8 にかかる発明によれば、請求項 4 1 にかかる発明において、メモリに格納された表示データを所定のファイル形式で記録媒体に記録する際に、ファイルのヘッダ部に、対応する U R L またはメールアドレスを書き込むこととしたので、請求項 4 1 にかかる発明の効果に加えて、W e b 情報の U R L 等を容易に確認することができ、そのアクセスが可能になる。

【 0 5 0 2 】

また、請求項 4 9 にかかる発明によれば、請求項 4 1 にかかる発明において、所定のファイル形式のファイルを、U R L の内容に応じて、フォルダに分類することとしたので、請求項 4 1 にかかる発明の効果に加えて、取り込んだホームページ等の W e b 情報を例えばホームページ毎にフォルダに分類することが可能となる。

【 0 5 0 3 】

また、請求項 5 0 にかかる発明によれば、コンピュータでプログラムを実行することにより、画像入力装置の表示デバイスの表示画面に表示され、かつ、撮影の際に使用される、記録すべき 1 または複数の被記録対象のタイトルを各々示すカット名を含む撮影リストを作成することとしたので、画像入力装置では、撮影リストのカット名を確認しながら撮影を行うことができ、必要なカットの取り忘れを防止することが可能となり、使用者の使い勝手が良くなる。

【 0 5 0 4 】

また、請求項 5 1 にかかる発明によれば、請求項 5 0 にかかる発明において、コンピュータでプログラムを実行することにより、接続される画像入力装置から

機種名情報を読み出して、機種に応じた撮影リストを作成することとしたので、請求項 5 0 にかかる発明の効果に加えて、接続される画像入力装置の機種名を容易に取得することができ、機種に応じた撮影リストを容易に作成することが可能となる。

【 0 5 0 5 】

また、請求項 5 2 にかかる発明によれば、請求項 5 0 にかかる発明において、コンピュータでプログラムを実行することにより、画像入力装置に格納されている記録ファイルのヘッダーから前記機種名情報を読み出して、機種に応じた撮影リストを作成することとしたので、請求項 5 0 にかかる発明の効果に加えて、より簡単に機種名情報を読み出すことが可能となる。

【 0 5 0 6 】

また、請求項 5 3 にかかる発明によれば、請求項 5 0 にかかる発明において、コンピュータでプログラムを実行することにより、複数の画像入力装置の機種毎の機種能力情報が登録されたテーブルを使用して、機種に応じた撮影リストを作成することとしたので、請求項 5 0 にかかる発明の効果に加えて、機種に応じた撮影リストの作成がより容易となる。

【 0 5 0 7 】

また、請求項 5 4 にかかる発明によれば、請求項 5 0 にかかる発明において、コンピュータでプログラムを実行することにより、複数セルからなる帳票形式の入力画面を表示し、入力画面のセルにカット名を入力し、カット名が入力されたセル位置の 1 または複数を指定し、指定されたセル位置のカット名を含む撮影リストを作成することとしたので、請求項 5 0 にかかる発明の効果に加えて、撮影リスト作成の作業効率を向上させることが可能となる。

【 0 5 0 8 】

また、請求項 5 5 にかかる発明によれば、請求項 5 0 にかかる発明において、コンピュータでプログラムを実行することにより、複数セルからなる帳票形式の入力画面を表示し、入力画面のセルにカット名および当該カット名に対応する撮影指示項目を入力し、カット名が入力されたセル位置の 1 または複数を指定し、指定されたセル位置のカット名および当該カット名に対応する撮影指示項目を含

む撮影リストを作成することとしたので、請求項 5 0 にかかる発明の効果に加えて、撮影リスト作成の作業効率を向上させることが可能となる。

【 0 5 0 9 】

また、請求項 5 6 にかかる発明によれば、請求項 5 0 にかかる発明において、コンピュータでプログラムを実行することにより、複数セルからなる帳票形式の入力画面を表示し、入力画面のセルにカット名を入力し、入力画面の少なくとも一部のセルのサイズを変更し、カット名が入力されたセル位置の 1 または複数を指定し、カット名毎に画像を貼り付けるべきセル位置を指定し、指定されたセル位置のカット名と指定されたセルのセルサイズを含む撮影リストを作成することとしたので、請求項 5 0 にかかる発明の効果に加えて、撮影リスト作成の作業効率を向上させることが可能となる。

【 0 5 1 0 】

また、請求項 5 7 にかかる発明によれば、請求項 5 0 にかかる発明において、コンピュータでプログラムを実行することにより、複数セルからなる帳票形式の入力画面を表示し、入力画面のセルにカット名を入力し、入力画面の少なくとも一部のセルのサイズを変更し、セルに画像を貼り付ける画像貼り付け、カット名が入力されたセル位置の 1 または複数を指定し、カット名毎に画像が貼り付けられたセルのセル位置を指定し、指定されたセル位置のカット名と指定されたセルに貼り付けられた画像の画像サイズを含む撮影リストを作成することとしたので、請求項 5 0 にかかる発明の効果に加えて、撮影リスト作成の作業効率を向上させることが可能となる。

【 0 5 1 1 】

また、請求項 5 8 にかかる発明によれば、請求項 5 0 にかかる発明において、コンピュータでプログラムを実行することにより、画像入力装置で前記撮影リストに従って撮影された画像を当該撮影リストとともに入力し、複数セルからなる帳票形式の入力画面を表示し、撮影リストのカット名をセルに表示すると共に、カット名に対応させて撮影した画像を貼り付けるべきセルのサイズを読み出し、読み出したセルのサイズに撮影した画像のサイズを変換し、撮影した画像を貼り付けるべきセルに貼り付けることとしたので、請求項 5 0 にかかる発明の効果に

加えて、撮影リストに従って撮影した画像の編集が容易となり、使用者の使い勝手が良くなる。

【0512】

また、請求項59にかかる発明によれば、請求項58にかかる発明において、コンピュータでプログラムを実行することにより、画像が貼り付けられたセルのサイズが変更された場合には、変更されたセルのサイズに画像を変換することとしたので、請求項59にかかる発明の効果に加えて、撮影リストに従って撮影した画像の編集が容易となる。

【0513】

また、請求項60にかかる発明によれば、第1の表示画面上で、少なくとも撮影したい被写体のタイトルを示す項目を含む項目リストを作成し、前記項目リストの中でカット名として書き出す範囲を選択して、カット名を含む撮影リストを作成し、第2の表示画面に撮影リストのカット名を表示し、カット名毎に被写体の撮影を行い、第1の表示画面上の項目リストの中で、撮影した画像を貼り付ける範囲を選択し、選択された範囲に撮影した画像を貼り付けることとしたので、所望の画像が貼り付けられた文書を容易に作成することが可能となる。

【図面の簡単な説明】

【図1】

本実施の形態にかかるデジタルカメラシステムの概略構成例を示す図である。

【図2】

図1のデジタルカメラシステムの基本動作の概略を説明するためのフローチャートである。

【図3】

項目リストの一例を示す図である。

【図4】

項目リストの一例を示す図である。

【図5】

図1のデジタルカメラの外観構成を示す図である。

【図6】

図 1 のデジタルカメラの構成を示すブロック図である。

【図 7】

撮影リストモードの画面の表示例を示す図である。

【図 8】

通信モードの画面の表示例を示す図である。

【図 9】

通信モードの画面の表示例を示す図である。

【図 1 0】

メモ入力モードの画面の表示例を示す図である。

【図 1 1】

メモ入力モードの画面の表示例を示す図である。

【図 1 2】

メモ入力モードの画面の表示例を示す図である。

【図 1 3】

メモ入力モードの画面の表示例を示す図である。

【図 1 4】

メモ入力モードの画面の表示例を示す図である。

【図 1 5】

メモ入力モードの画面の表示例を示す図である。

【図 1 6】

メモ入力モードの画面の表示例を示す図である。

【図 1 7】

メモ入力モードの画面の表示例を示す図である。

【図 1 8】

メモ入力モードの画面の表示例を示す図である。

【図 1 9】

図 1 のパーソナルコンピュータの構成を示すブロック図である。

【図 2 0】

デジタルカメラの記録動作の実施例 1 を説明するためのフローチャートである

【図 2 1】

撮影リストの一例を示す図である。

【図 2 2】

画像ファイルのフォーマットの一例を示す図である。

【図 2 3】

デジタルカメラの記録動作の実施例 2 を説明するためのフローチャートである

【図 2 4】

図 2 1 の撮影リスト（未撮影）の撮影後の撮影リストのフォーマットの一例を示す図である。

【図 2 5】

デジタルカメラの記録動作の実施例 3 を説明するためのフローチャートである

【図 2 6】

デジタルカメラの記録動作の実施例 4 を説明するためのフローチャートである

【図 2 7】

画像データに選択されたカット名を合成する場合を説明するための説明図である。

【図 2 8】

デジタルカメラの記録動作の実施例 5 を説明するためのフローチャートである

【図 2 9】

デジタルカメラの表示部の表示例を示す図である。

【図 3 0】

デジタルカメラの記録動作の実施例 6 を説明するためのフローチャートである

【図 3 1】

デジタルカメラの表示部の表示例を示す図である。

【図 3 2】

デジタルカメラの記録動作の実施例 7 を説明するためのフローチャートである。

【図 3 3】

デジタルカメラの記録動作の実施例 8 を説明するためのフローチャートである。

【図 3 4】

デジタルカメラの記録動作の実施例 9 を説明するためのフローチャートである。

【図 3 5】

デジタルカメラの撮影リストの実施例 1 を説明するためのフローチャートである。

【図 3 6】

撮影指示情報を説明するための図である。

【図 3 7】

撮影指示情報を説明するための図である。

【図 3 8】

デジタルカメラの撮影リストの実施例 2 を説明するためのフローチャートである。

【図 3 9】

デジタルカメラの撮影リストの実施例 3 を説明するためのフローチャートである。

【図 4 0】

デジタルカメラの撮影リストの実施例 4 を説明するためのフローチャートである。

【図 4 1】

操作指示コマンドの一例を示す図である。

【図 4 2】

デジタルカメラの撮影リストの実施例 5 を説明するためのフローチャートである。

【図 4 3】

撮影の後処理として画像をメールで送るコマンドの例を示す図である。

【図 4 4】

デジタルカメラの撮影リストの実施例 6 を説明するためのフローチャートである。

【図 4 5】

デジタルカメラの撮影リストの実施例 7 を説明するためのフローチャートである。

【図 4 6】

デジタルカメラの撮影リストの実施例 8 を説明するためのフローチャートである。

【図 4 7】

記録後の指示として、画像を W e b サーバーにアップロードするコマンドの一例を示す図である。

【図 4 8】

デジタルカメラの撮影リストの実施例 9 を説明するためのフローチャートである。

【図 4 9】

デジタルカメラの撮影リストの実施例 1 0 を説明するためのフローチャートである。

【図 5 0】

デジタルカメラの撮影リストの実施例 1 1 を説明するためのフローチャートである。

【図 5 1】

デジタルカメラの撮影リストの実施例 1 2 を説明するためのフローチャートである。

【図 5 2】

デジタルカメラの撮影リストの実施例 1 3 を説明するためのフローチャートである。

【図 5 3】

デジタルカメラの撮影リストの実施例 1 4 を説明するためのフローチャートである。

【図 5 4】

デジタルカメラの撮影リストの実施例 1 5 を説明するためのフローチャートである。

【図 5 5】

撮影済み撮影画像のフォルダ構成の一例を示す図である。

【図 5 6】

デジタルカメラの撮影リストの実施例 1 6 を説明するためのフローチャートである。

【図 5 7】

デジタルカメラの撮影リストの実施例 1 7 を説明するためのフローチャートである。

【図 5 8】

合成画像の一例を示す図である。

【図 5 9】

撮影リストの記述例を示す図である。

【図 6 0】

デジタルカメラの撮影リストの実施例 1 8 を説明するためのフローチャートである。

【図 6 1】

デジタルカメラの撮影リストの実施例 1 9 を説明するためのフローチャートである。

【図 6 2】

デジタルカメラの撮影リストの実施例 2 0 を説明するためのフローチャートである。

【図 6 3】

デジタルカメラのブラウザ機能の実施例 1 を説明するためのフローチャートである。

【図 6 4】

ブラウザ画面の一例を示す図である。

【図 6 5】

ブラウザ画面の一例を示す図である。

【図 6 6】

ブラウジング画像の取り込み範囲を拡大または縮小する場合を説明するための図である。

【図 6 7】

ブラウジング画像の取り込み範囲を拡大または縮小する場合を説明するための図である。

【図 6 8】

ブラウジング画像の取り込み範囲を拡大または縮小する場合を説明するための図である。

【図 6 9】

Web キャプチャー条件設定画面の一例を示す図である。

【図 7 0】

デジタルカメラのブラウザ機能の実施例 2 を説明するためのフローチャートである。

【図 7 1】

デジタルカメラのブラウザ機能の実施例 3 を説明するためのフローチャートである。

【図 7 2】

ブラウザ画面の一例を示す図である。

【図 7 3】

パーソナルコンピュータの実施例 1 を説明するためのフローチャートである。

【図 7 4】

パーソナルコンピュータの実施例 2 を説明するためのフローチャートである。

【図 7 5】

パーソナルコンピュータの実施例 3 を説明するためのフローチャートである。

【図 7 6】

パーソナルコンピュータの実施例 4 を説明するためのフローチャートである。

【図 7 7】

パーソナルコンピュータの実施例 5 を説明するためのフローチャートである。

【図 7 8】

パーソナルコンピュータの実施例 6 を説明するためのフローチャートである。

【図 7 9】

帳票形式の画面の一例を示す図である。

【図 8 0】

パーソナルコンピュータの実施例 7 を説明するためのフローチャートである。

【図 8 1】

パーソナルコンピュータの実施例 8 を説明するためのフローチャートである。

【図 8 2】

帳票形式の画面の一例を示す図である。

【図 8 3】

パーソナルコンピュータの実施例 9 を説明するためのフローチャートである。

【図 8 4】

帳票形式の画面の一例を示す図である。

【図 8 5】

パーソナルコンピュータの実施例 1 0 を説明するためのフローチャートである。

【図 8 6】

帳票形式の画面の一例を示す図である。

【図 8 7】

パーソナルコンピュータの実施例 1 1 を説明するためのフローチャートである。

【図 8 8】

帳票形式の画面の一例を示す図である。

【図 8 9】

項目リストの一例を示す図である。

【図 9 0】

機種テーブルの一例を示す図である。

【符号の説明】

- 1 0 0 デジタルカメラ
- 1 0 1 システム制御部
- 1 0 2 カメラ部
- 1 0 3 画像データ記録・再生部
- 1 0 4 表示部
- 1 0 5 音声データ記録・再生部
- 1 0 6 操作部
- 1 0 7 タッチパネル操作部
- 1 0 8 記録部
- 1 0 9 PC/I F 部
- 1 1 0 カードスロット部
- 1 1 1 電源部
- 1 1 2 CPU
- 1 1 3 FLASH_ROM
- 1 1 4 SD-RAM
- 1 1 5 IPP
- 1 1 6 フレームメモリ
- 2 0 0 パーソナルコンピュータ
- 2 0 1 入力部
- 2 0 2 表示部
- 2 0 3 CPU
- 2 0 4 データ通信部

2 0 5 記録媒体ドライブ装置

2 0 6 記録媒体

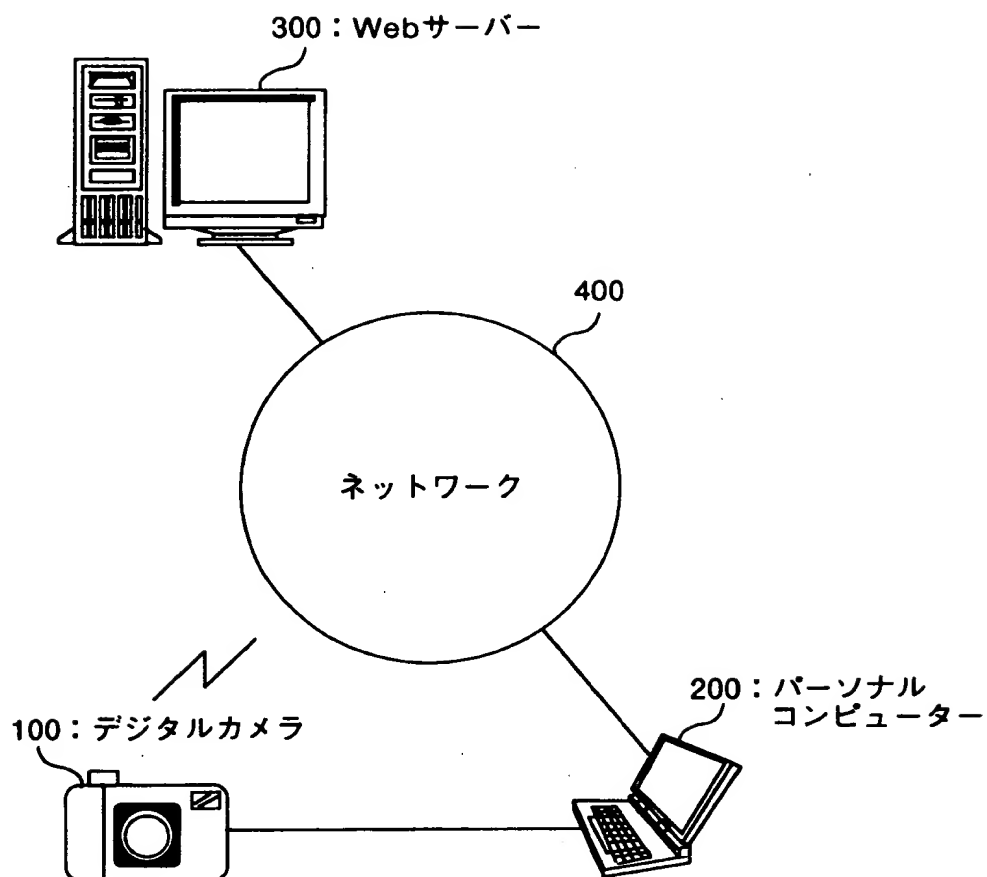
2 0 7 R A M

3 0 0 W e b サーバー

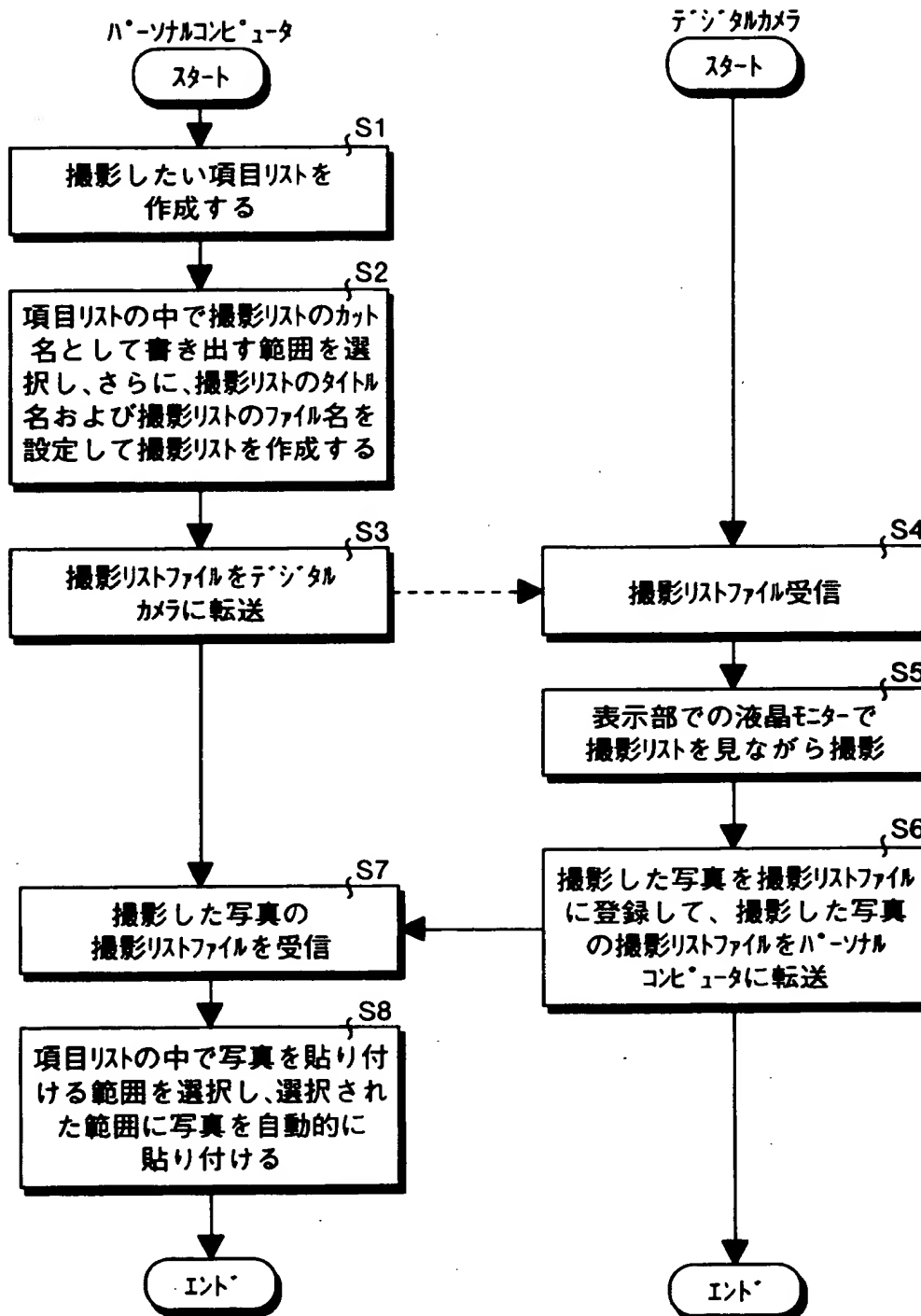
4 0 0 ネットワーク

【書類名】 図面

【図 1】



【図 2】







【図 3】

(a)

A	B	C	D
1	No 商品名	価格	写真
2	1 バック	72000	
3	2 バック	98000	
4	3 女性用ミニバック	39000	
5	4 手提げバック	118000	
6	5 名刺入れ	7000	
7	6 ペントレー	16000	
8	7 札入れ	15000	
9	8 ペンケース	14000	
10	9 バスケース	4900	
11	10 札入れ	10000	
12	11 ブリーフケース	15000	
13	12 トートバック	49000	
14	13 女性用ミニバック	32000	
15	14 システム手帳	45000	
16			
17			
18			

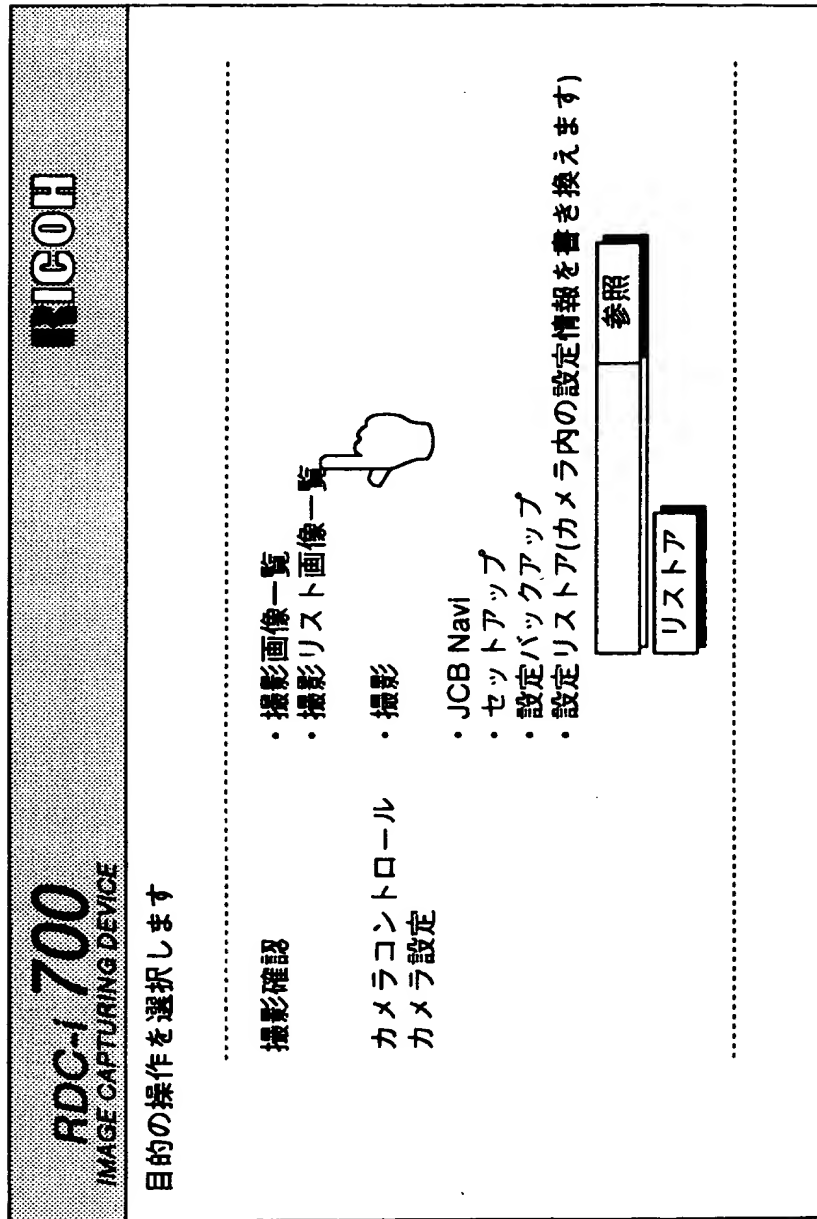
Sheet1 / Sheet1

(b)

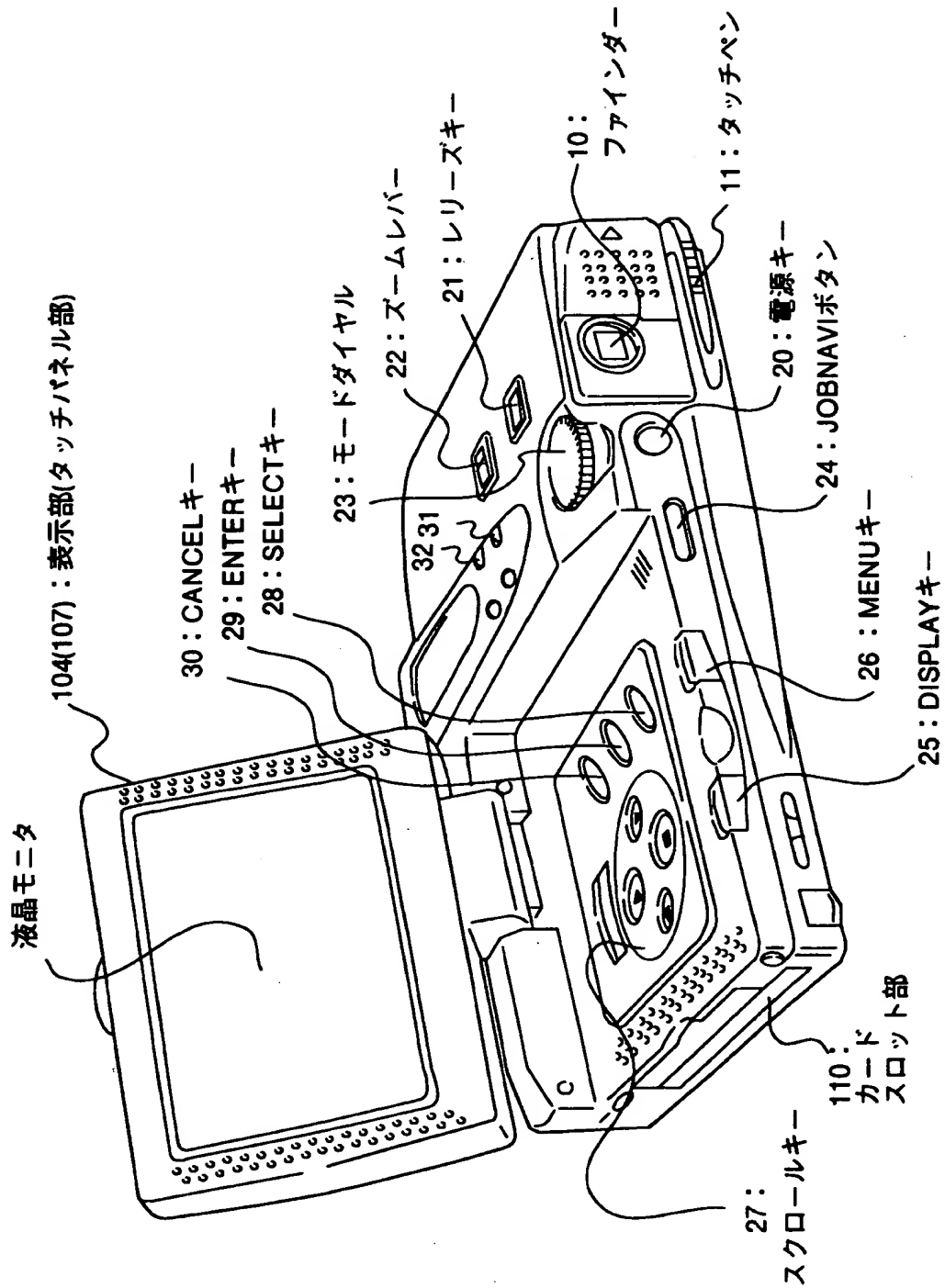
A	B	C	D
1	No 商品名	価格	写真
2	1 バック	72000	
3	2 バック	98000	
4	3 女性用ミニバック	39000	
5	4 手提げバック	118000	

Sheet1 / Sheet2 / S

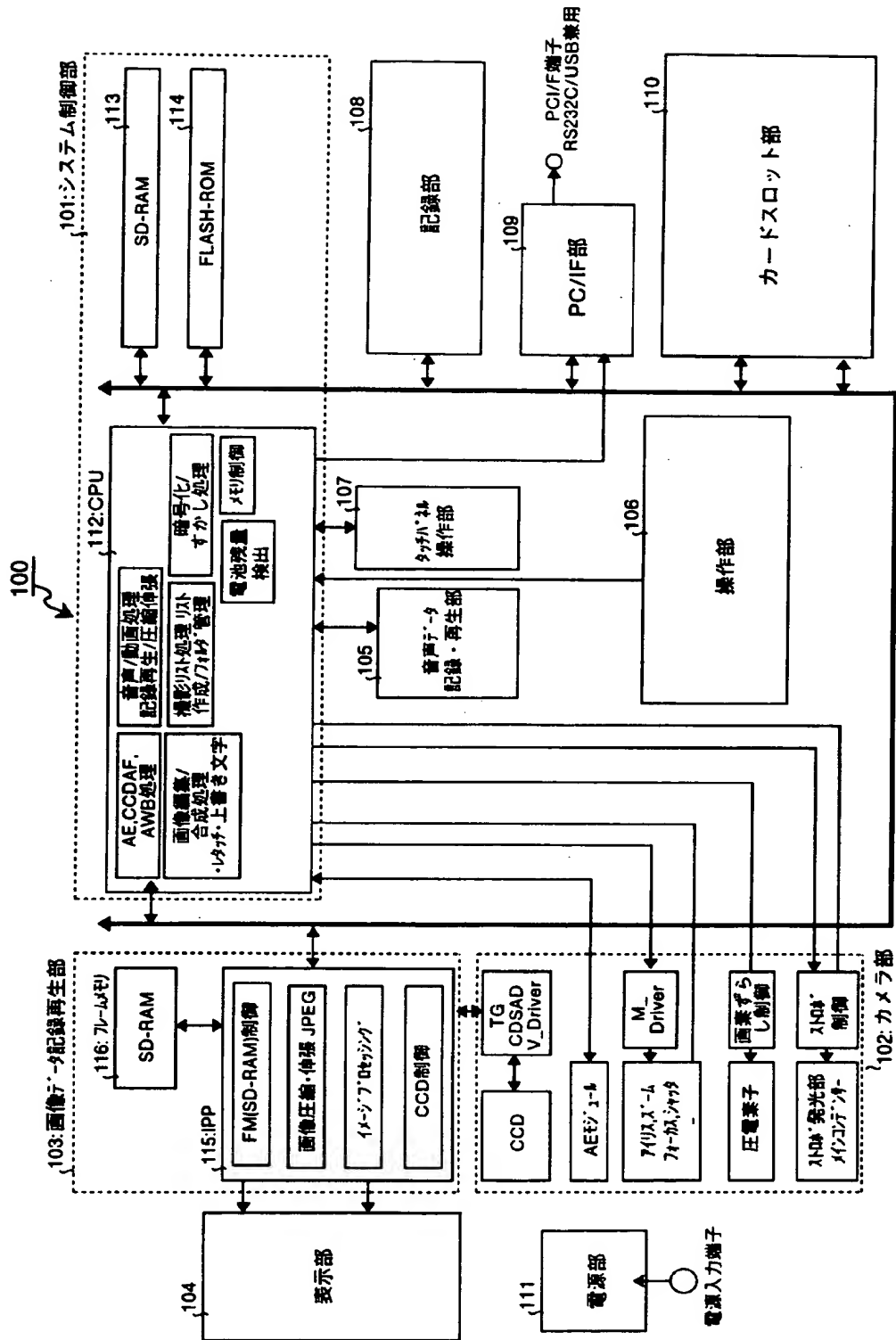
【図 4】



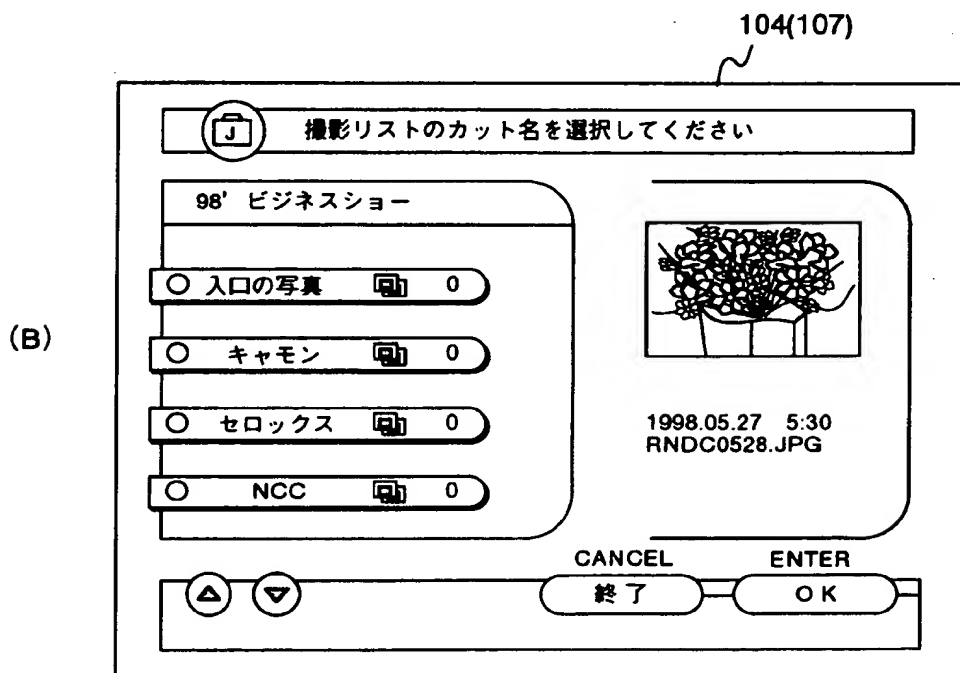
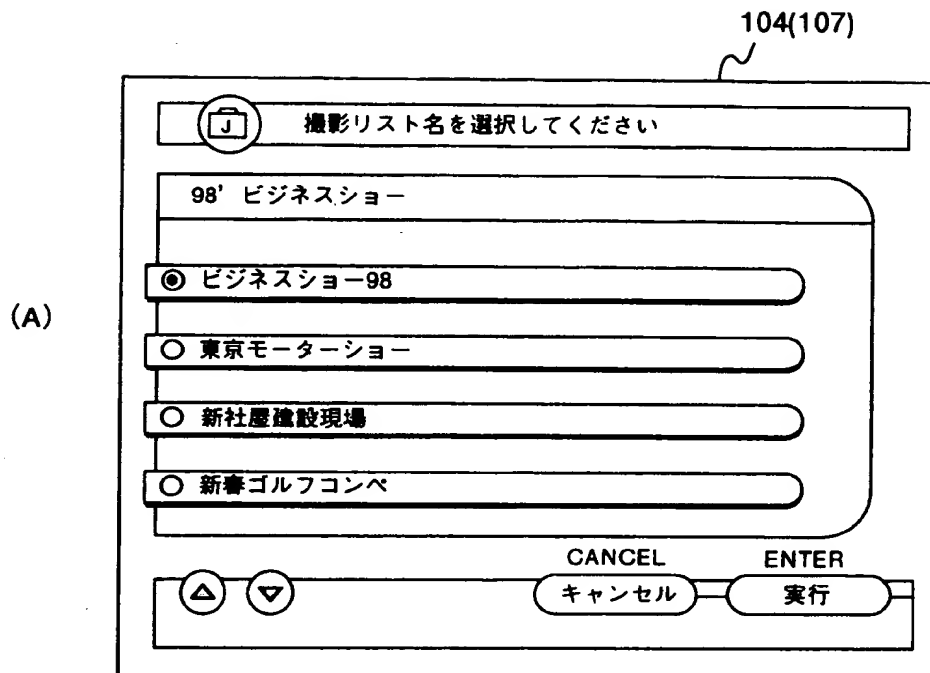
【図 5】



【図 6】



【図 7】



【図 8】

104(107)

☒ 操作を選択して下さい

☐ メール

☐ ダイレクト送信

☐ FAX

☒ Web

☐ FTPアップロード

ENTER
OK

【図 9】

104(107)

☒ 通信条件を選択して下さい

☒ ダイヤルアップ先 testnet東京

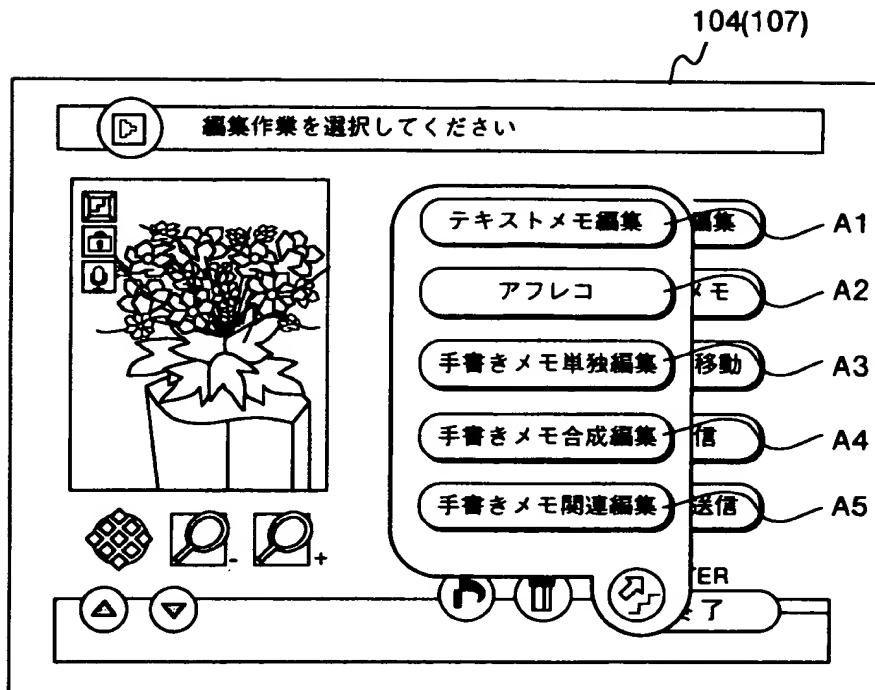
☐ 電話番号 03-XXXX-XXXX

☐ 外線発信番号

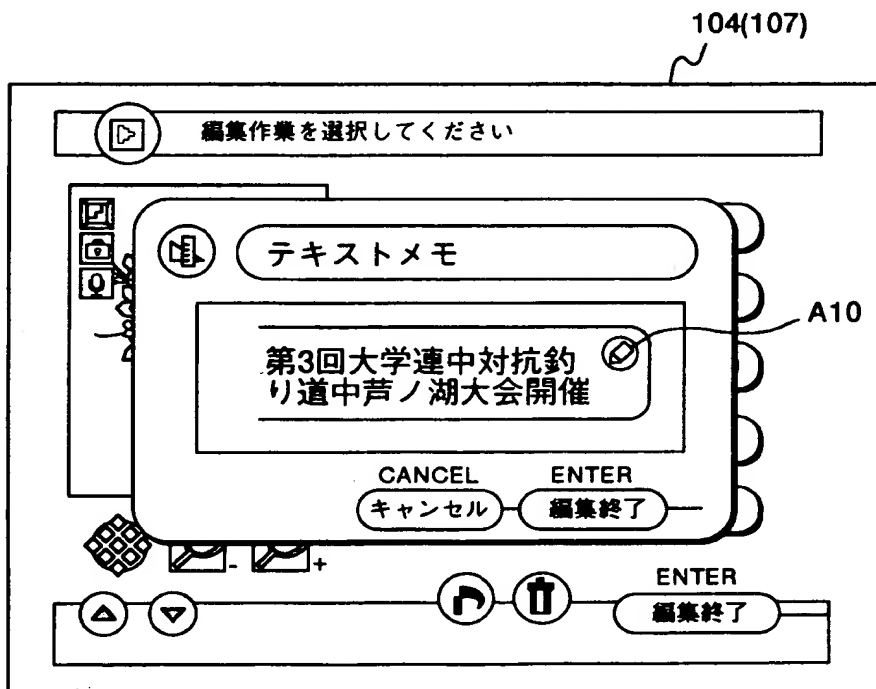
☐ モデム設定 ☐ トーン ☐ パルス

CANCEL ENTER
キャンセル 接続

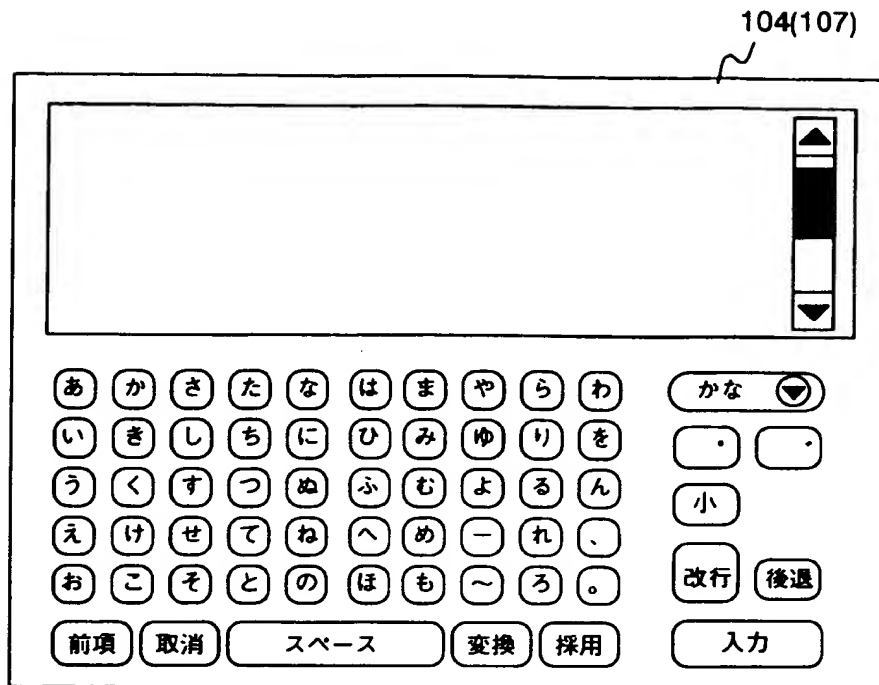
【図10】



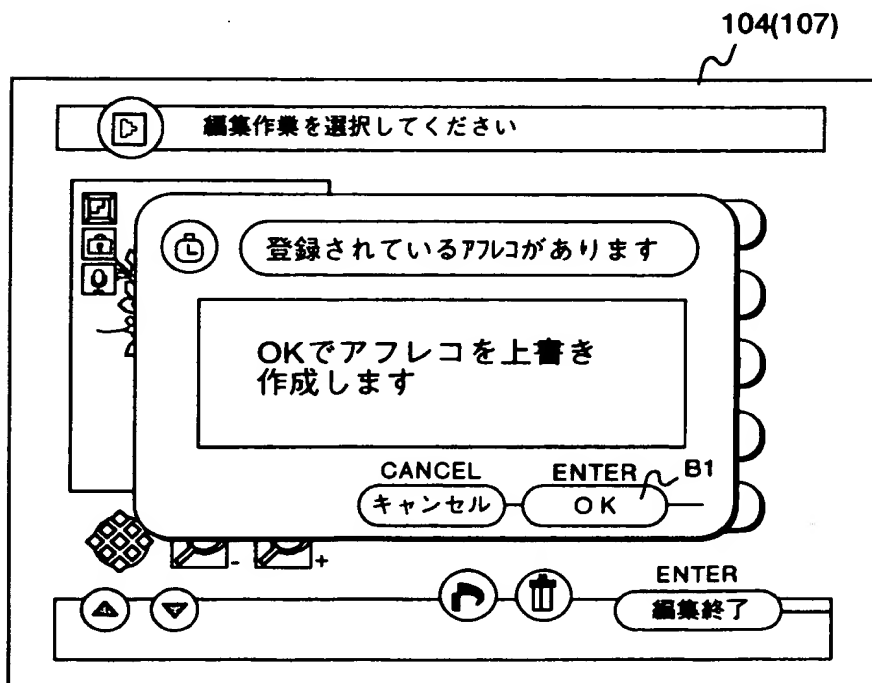
【図11】



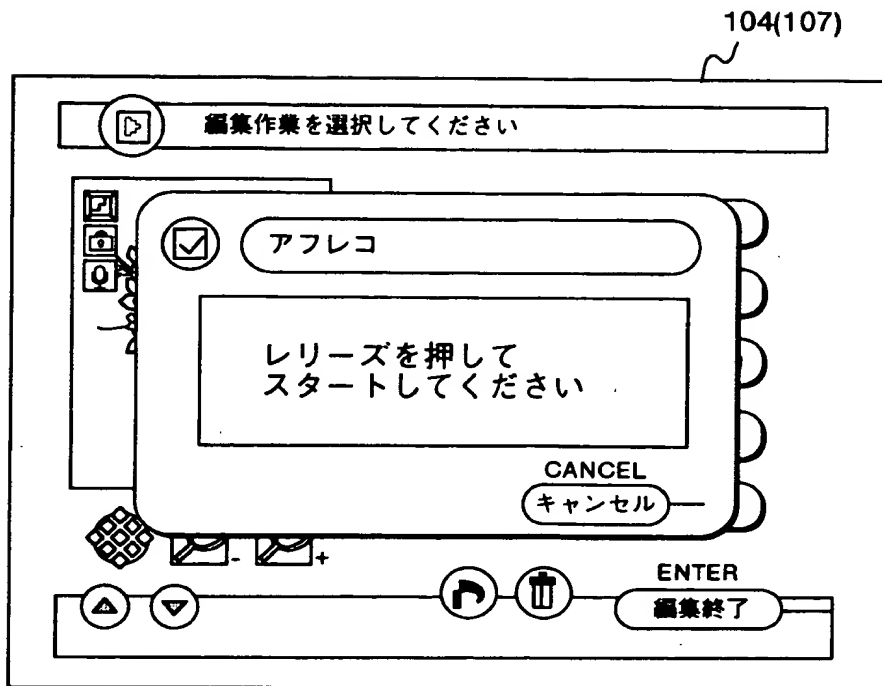
【図 12】



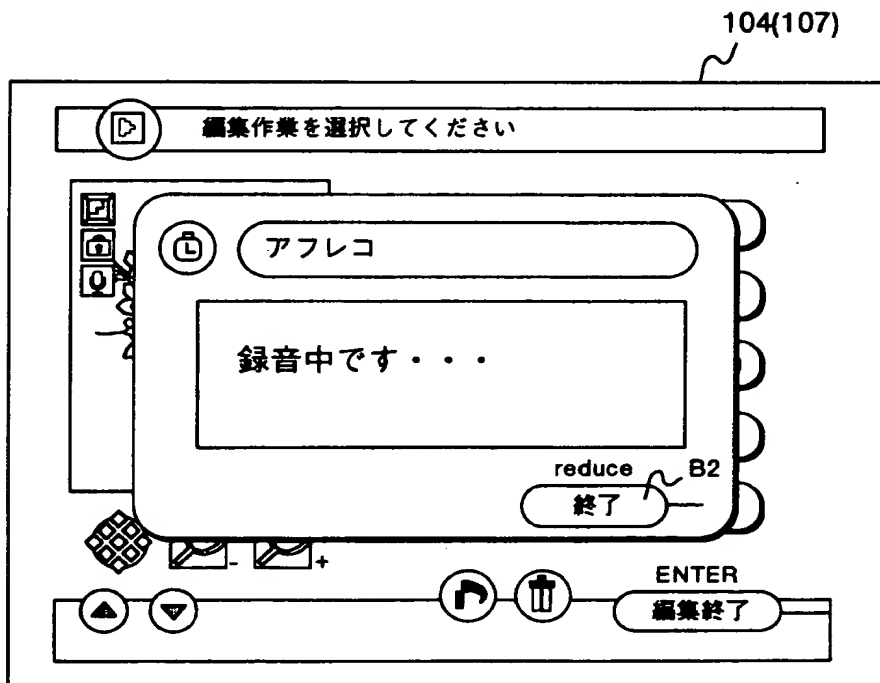
【図 13】



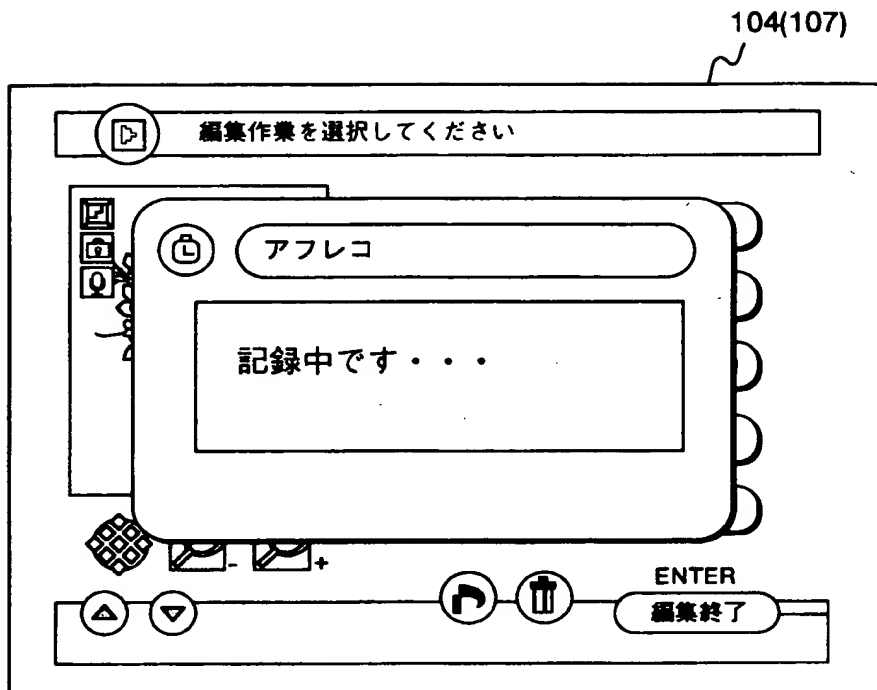
【図 14】



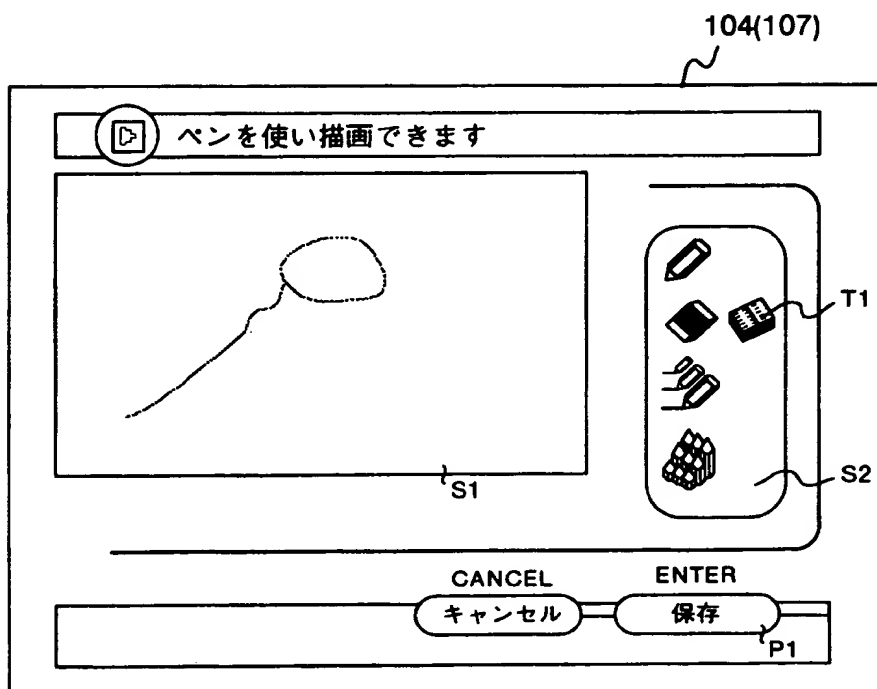
【図 15】



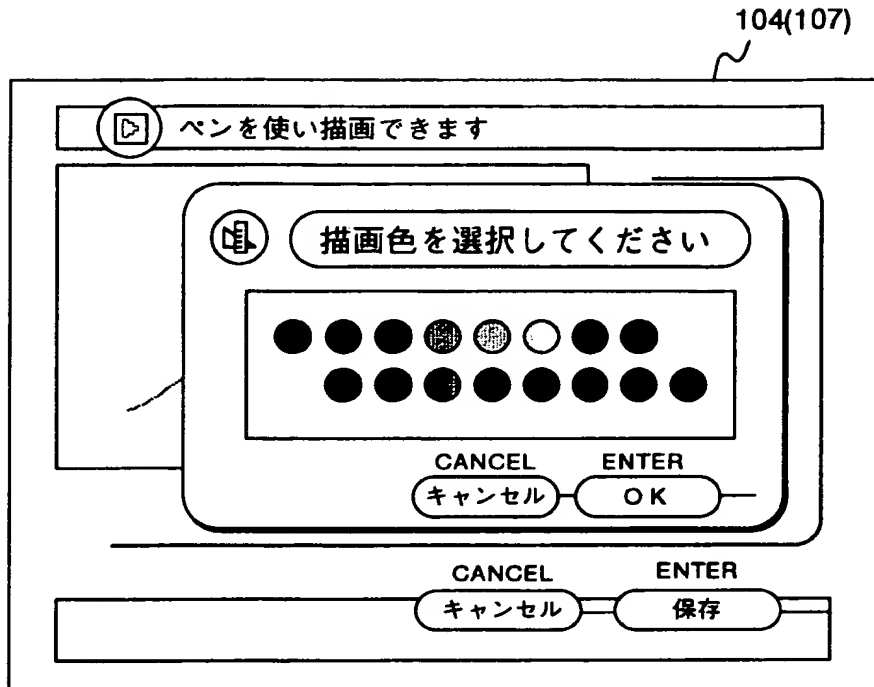
【図 16】



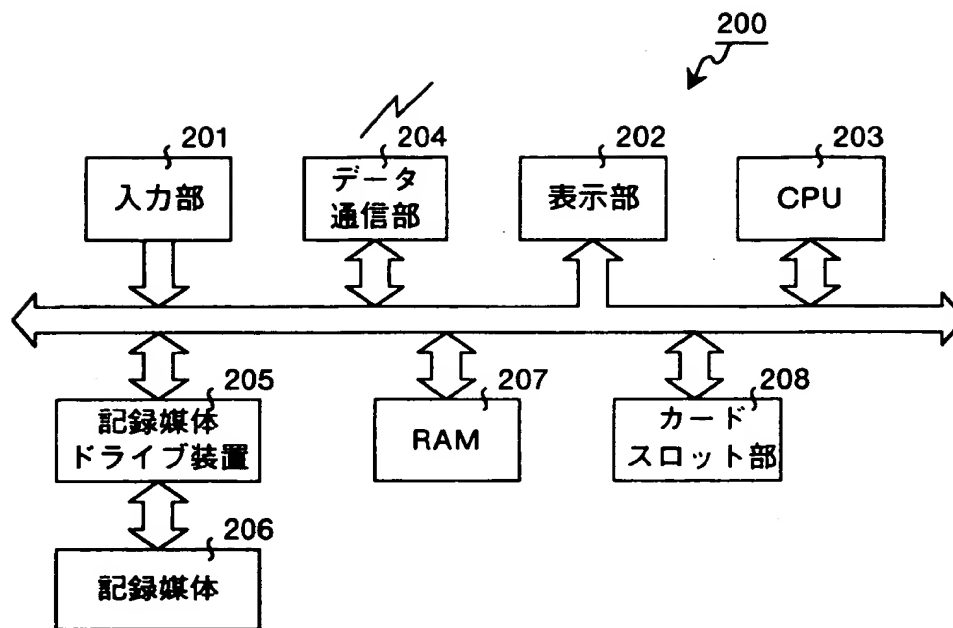
【図 17】



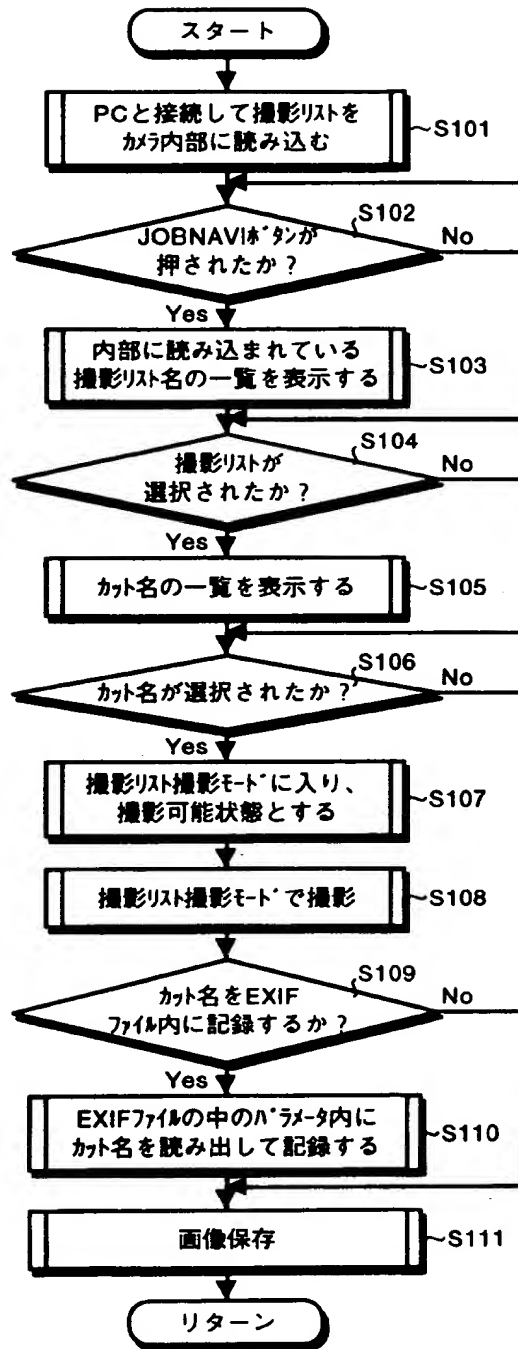
【図 18】



【図 19】



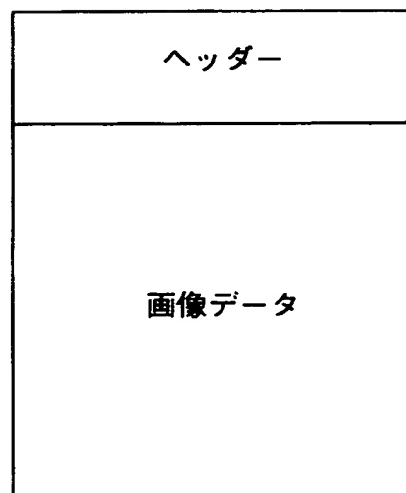
【図20】



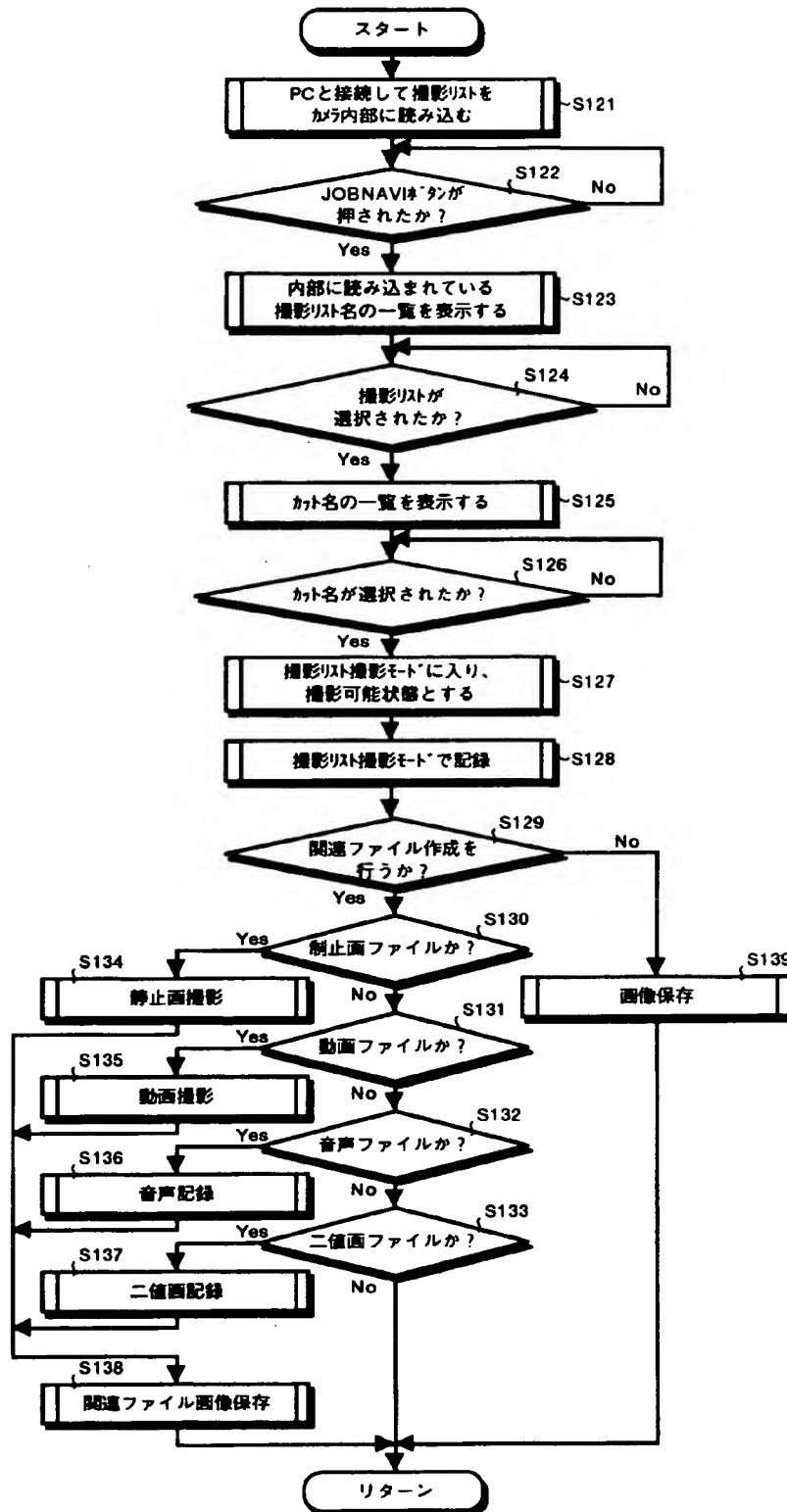
【図 2 1】

<pre>[LIST TITLE] title=カメラショウ' 99 [リコー] [キャモン] [セロックス] [カミオ] [ミノロタ] [ソニー] [コタック]</pre>

【図 2 2】



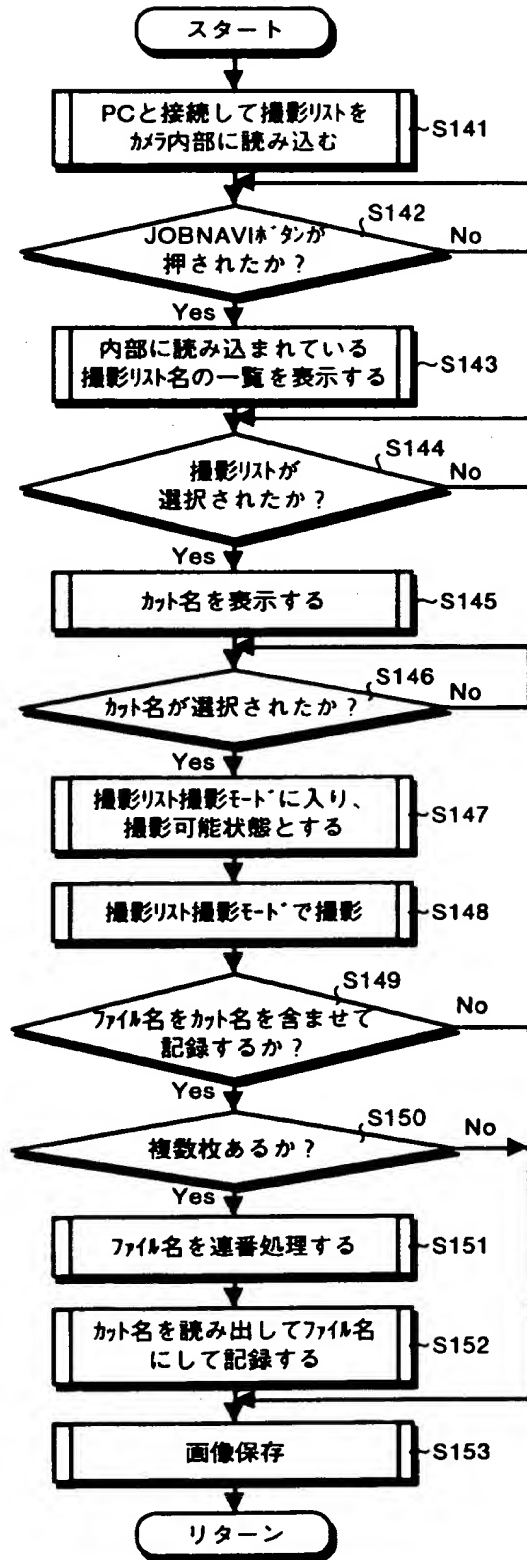
【図23】



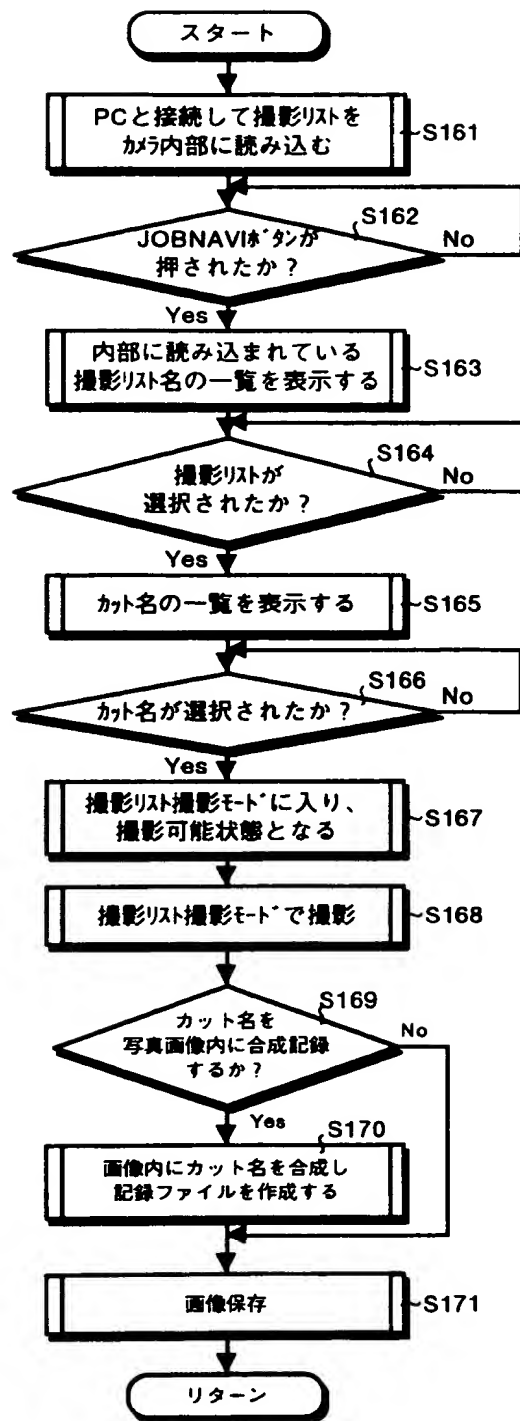
【図 2 4】

[LIST TITLE]
title=カメラショウ' 99
[リコー]
RIMG0001.JPG
RIMG0005.JPG
[キャモン]
[セロックス]
RIMG0002.JPG
[カミオ]
RIMG0003.JPG
[ミノロタ]
[ソニー]
[コタック]
RIMG0004.JPG

【図 25】

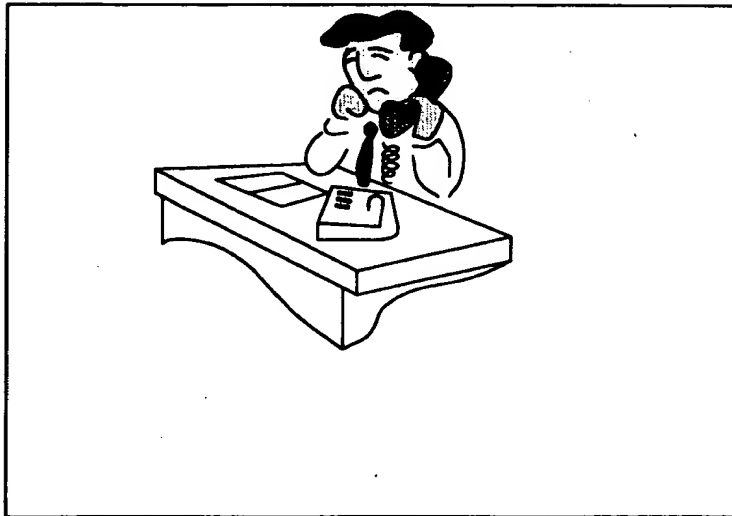


【図 26】

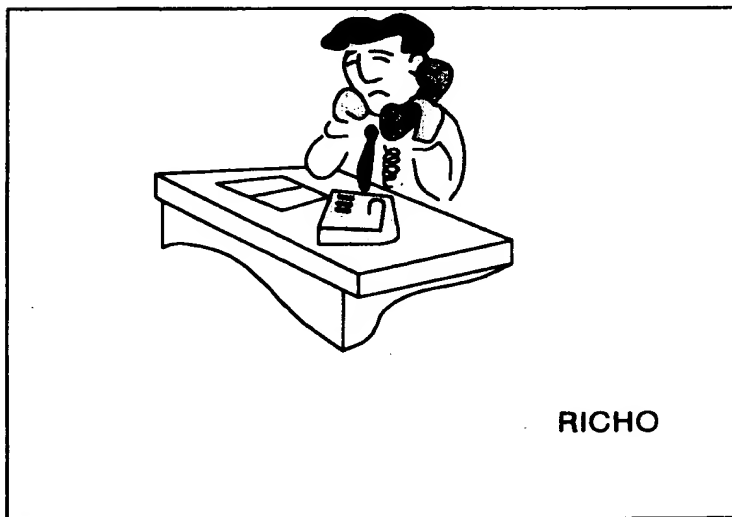


【図27】

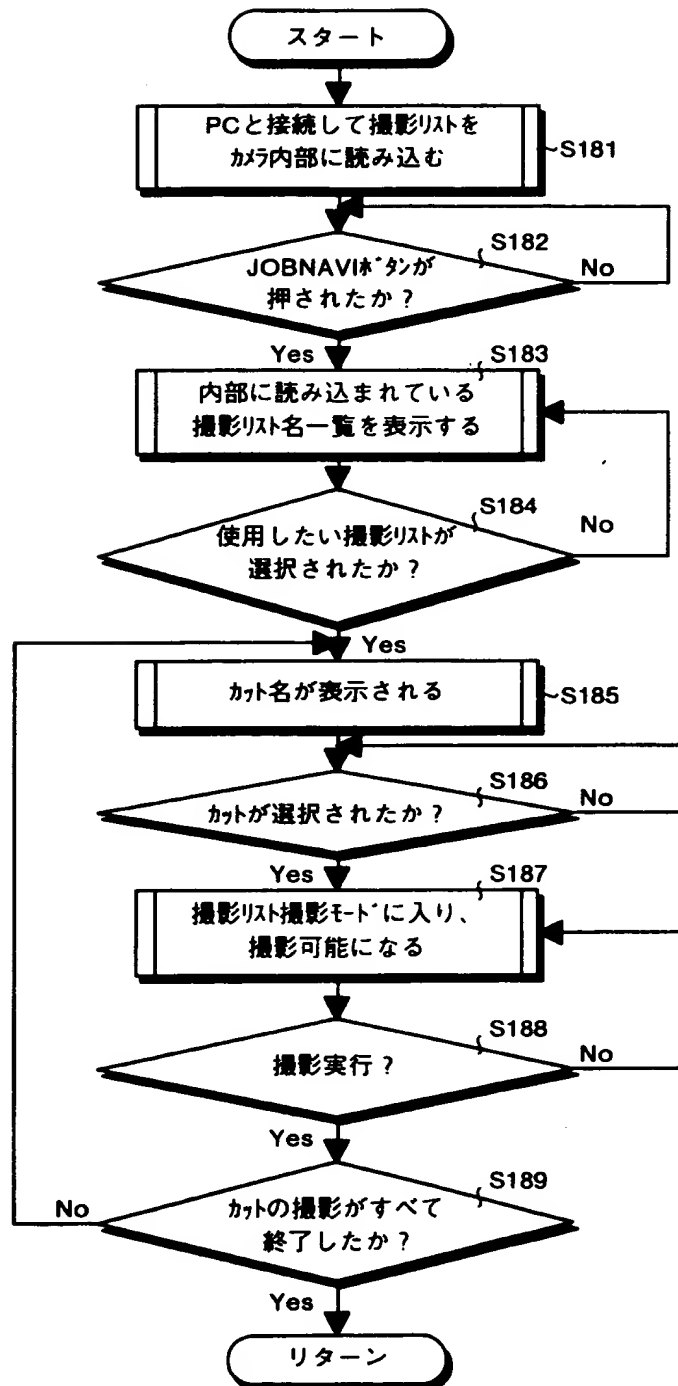
(A)



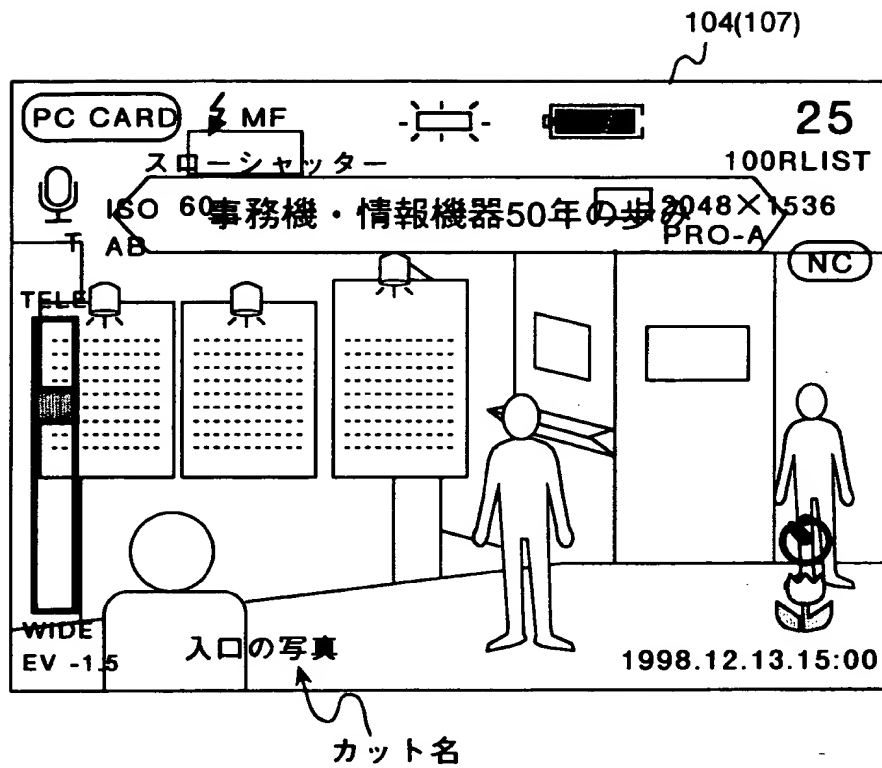
(B)



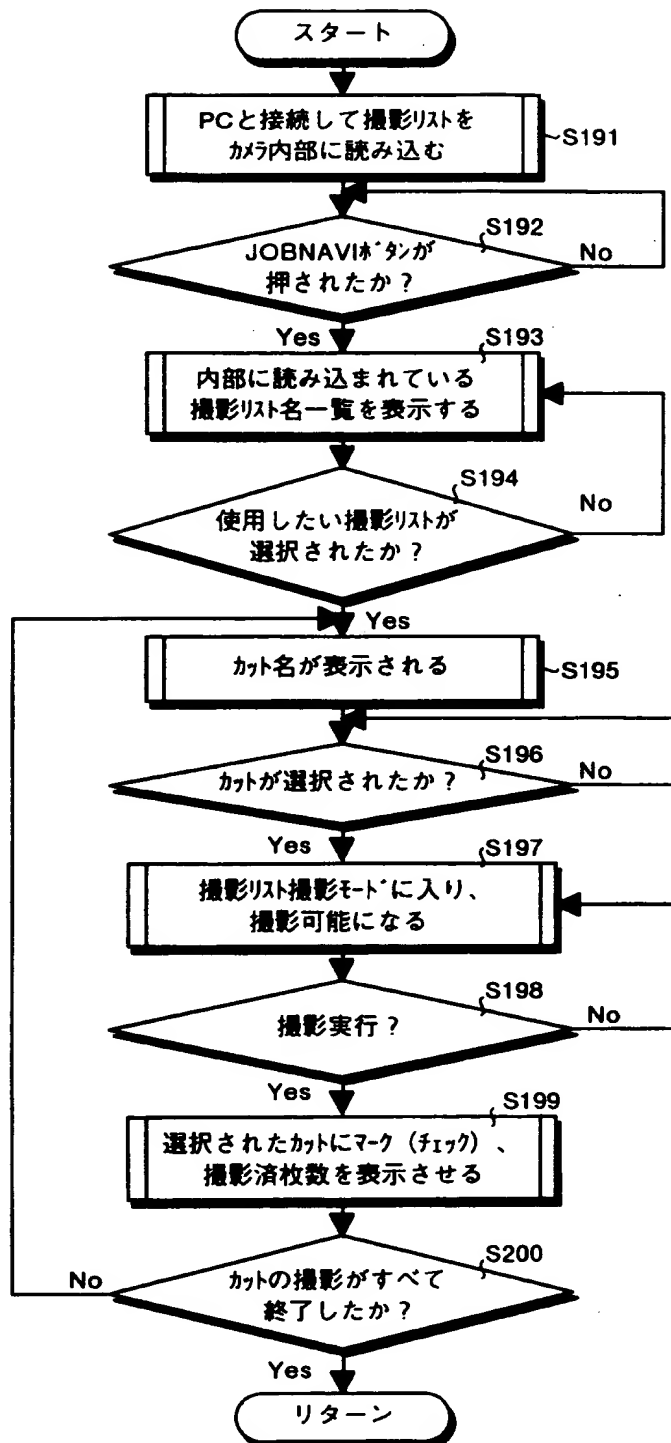
【図 28】



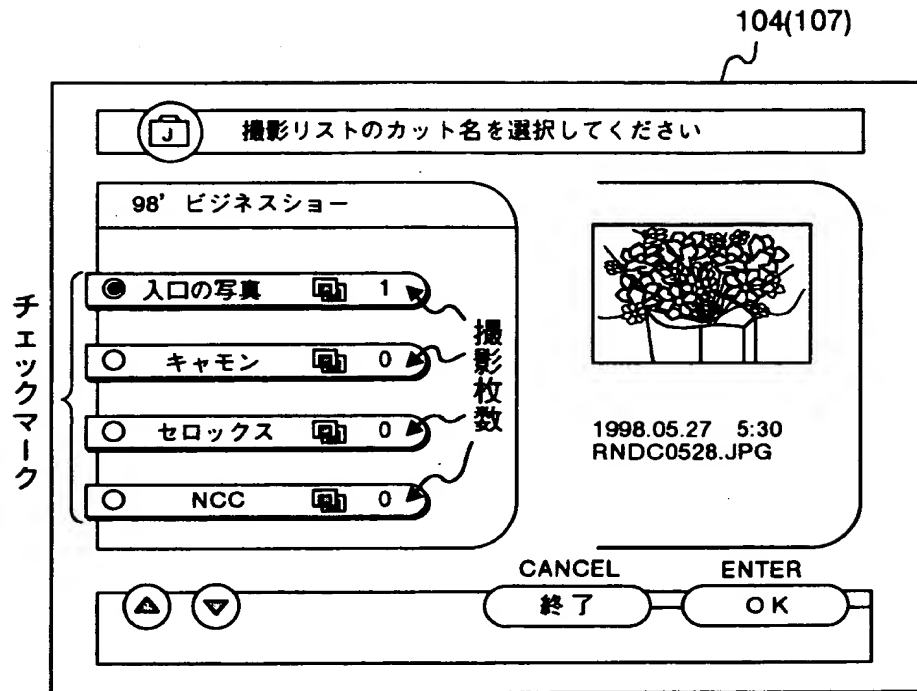
【図 29】



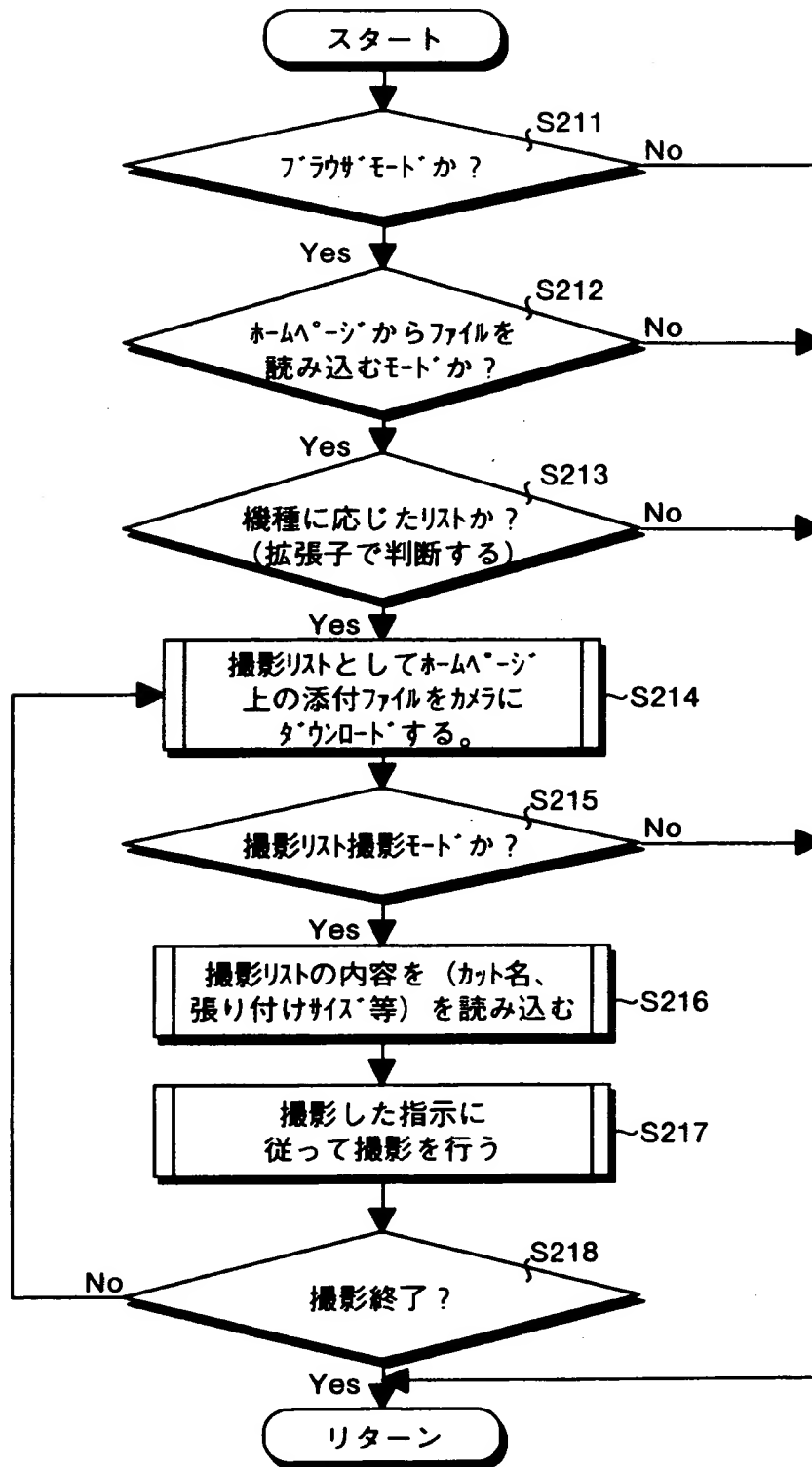
【図 30】



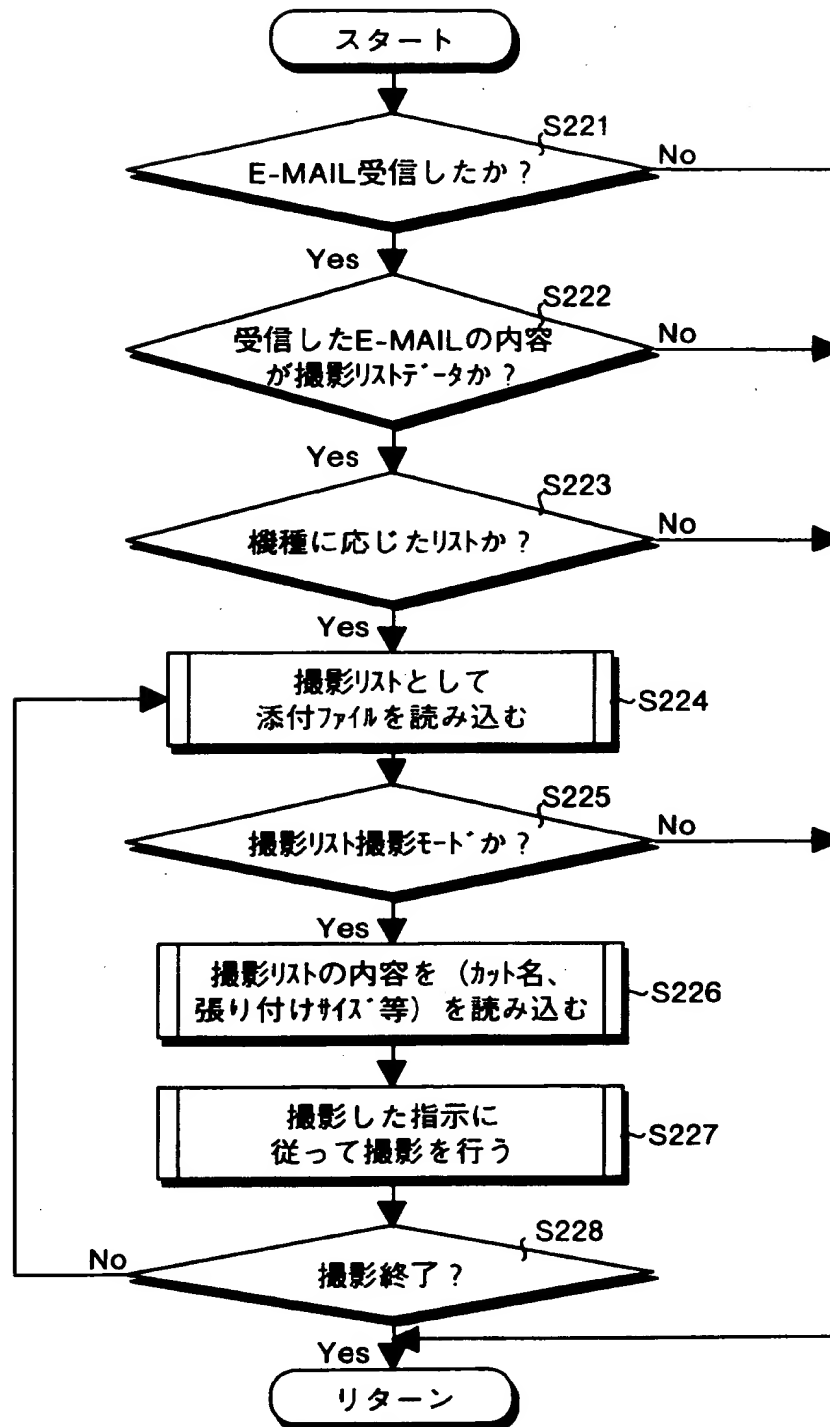
【図 3 1】



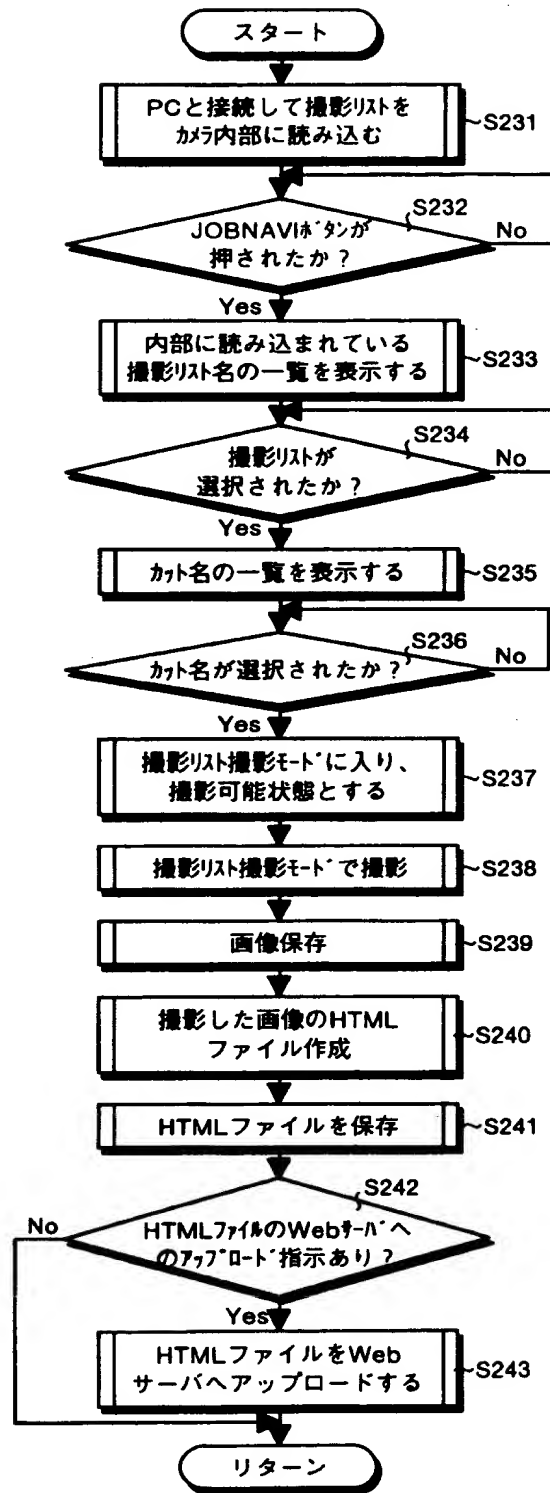
【図 32】



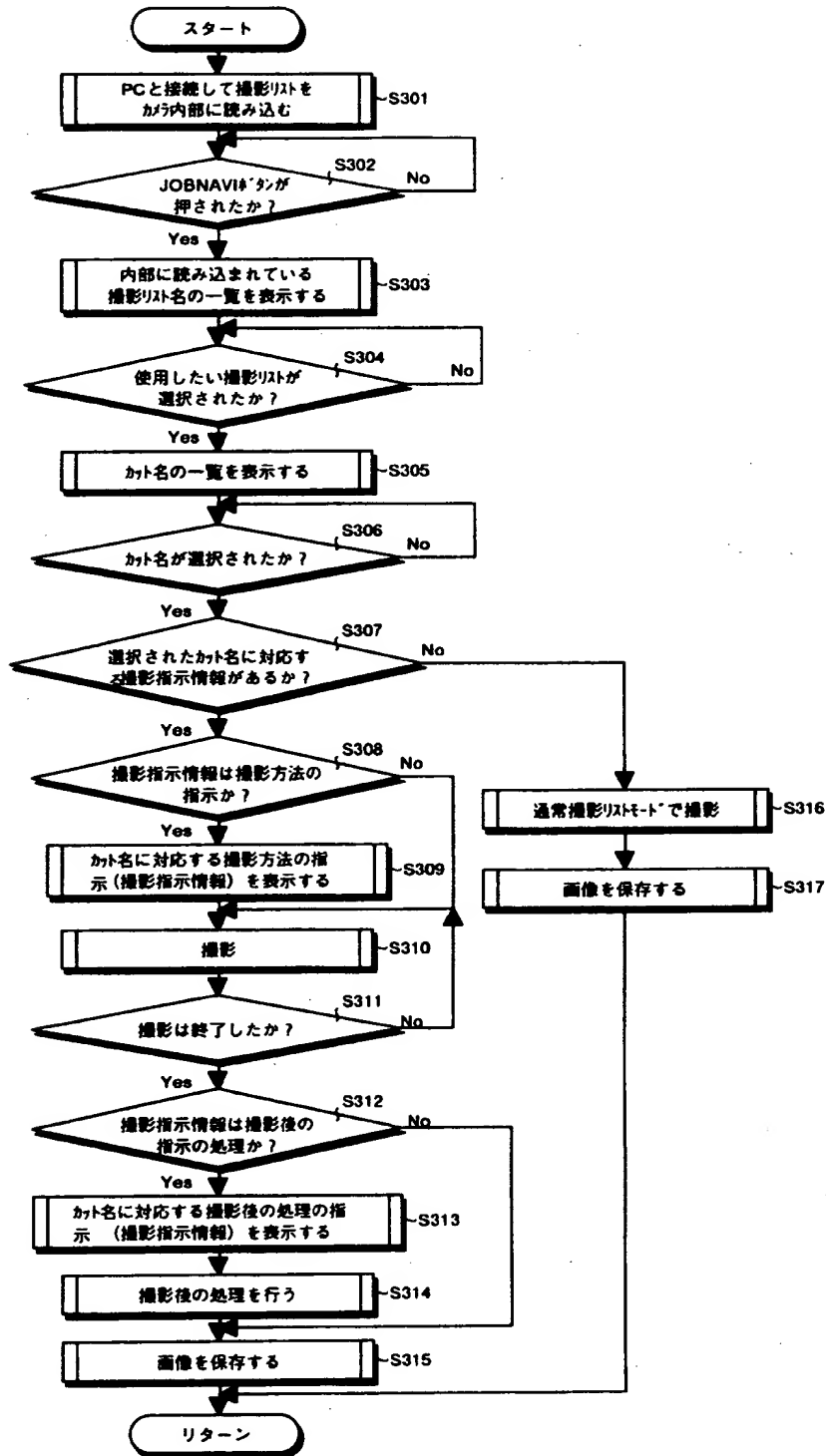
【図 33】



【図 34】



【図35】

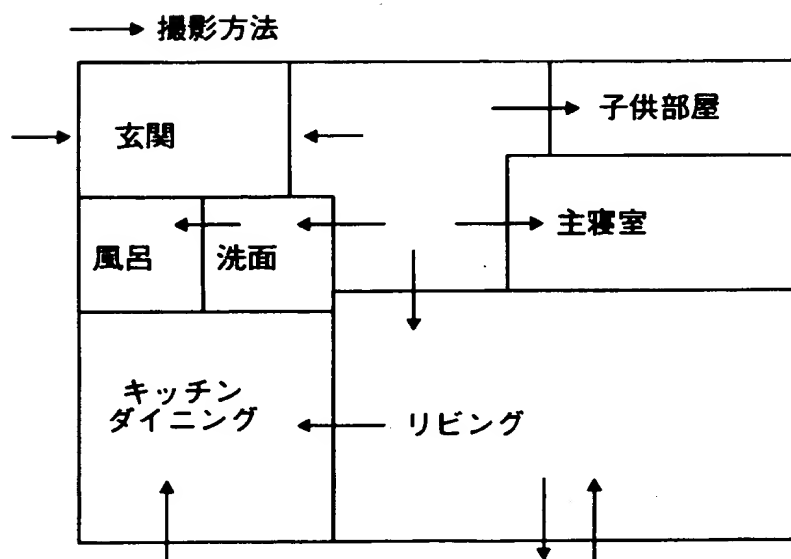


【図36】

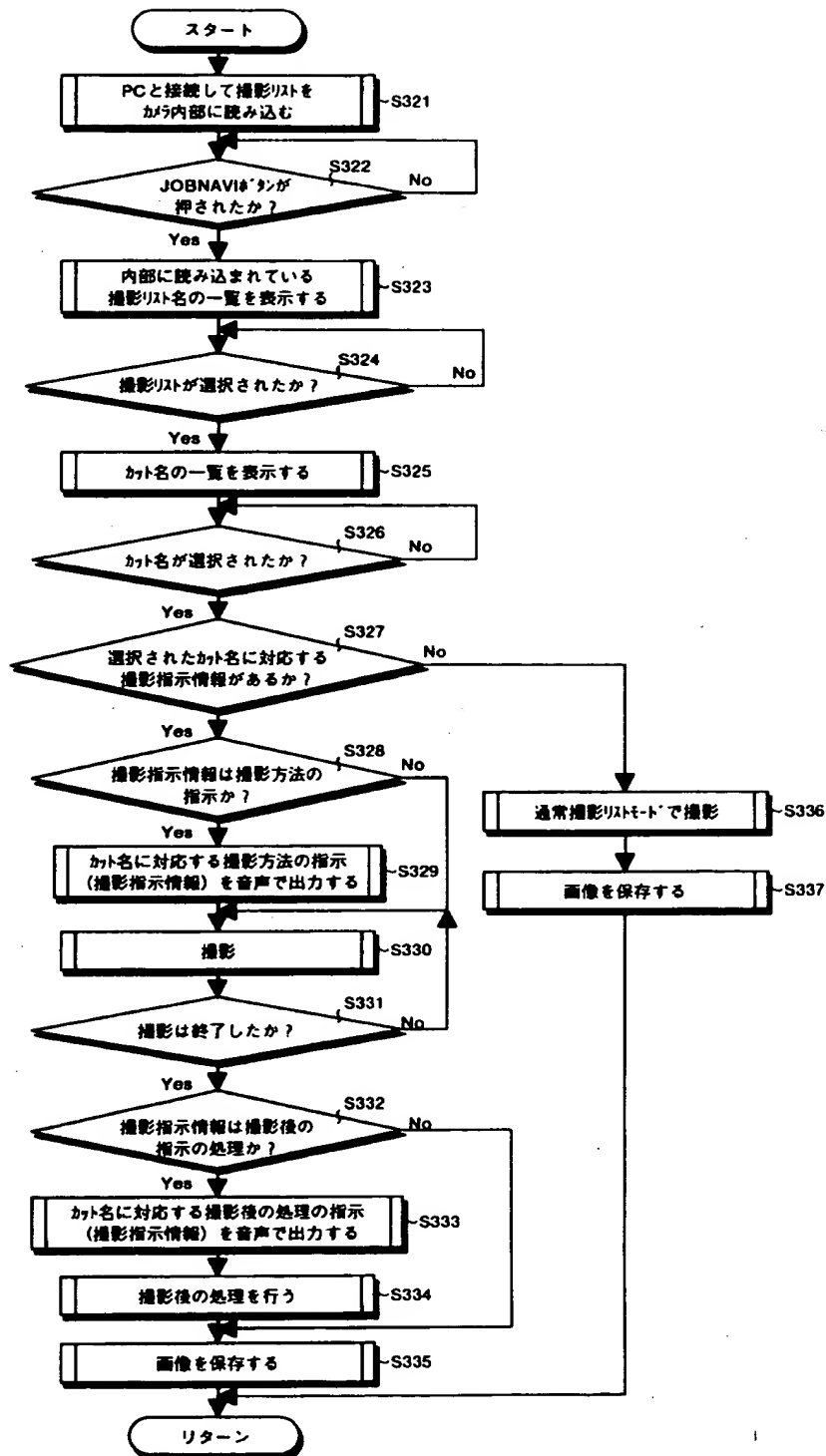
[バック1] /B/" 撮影者の指名をメモ情報として入力してください"

[バック2] /A/おしゃれな感じで撮影してください"

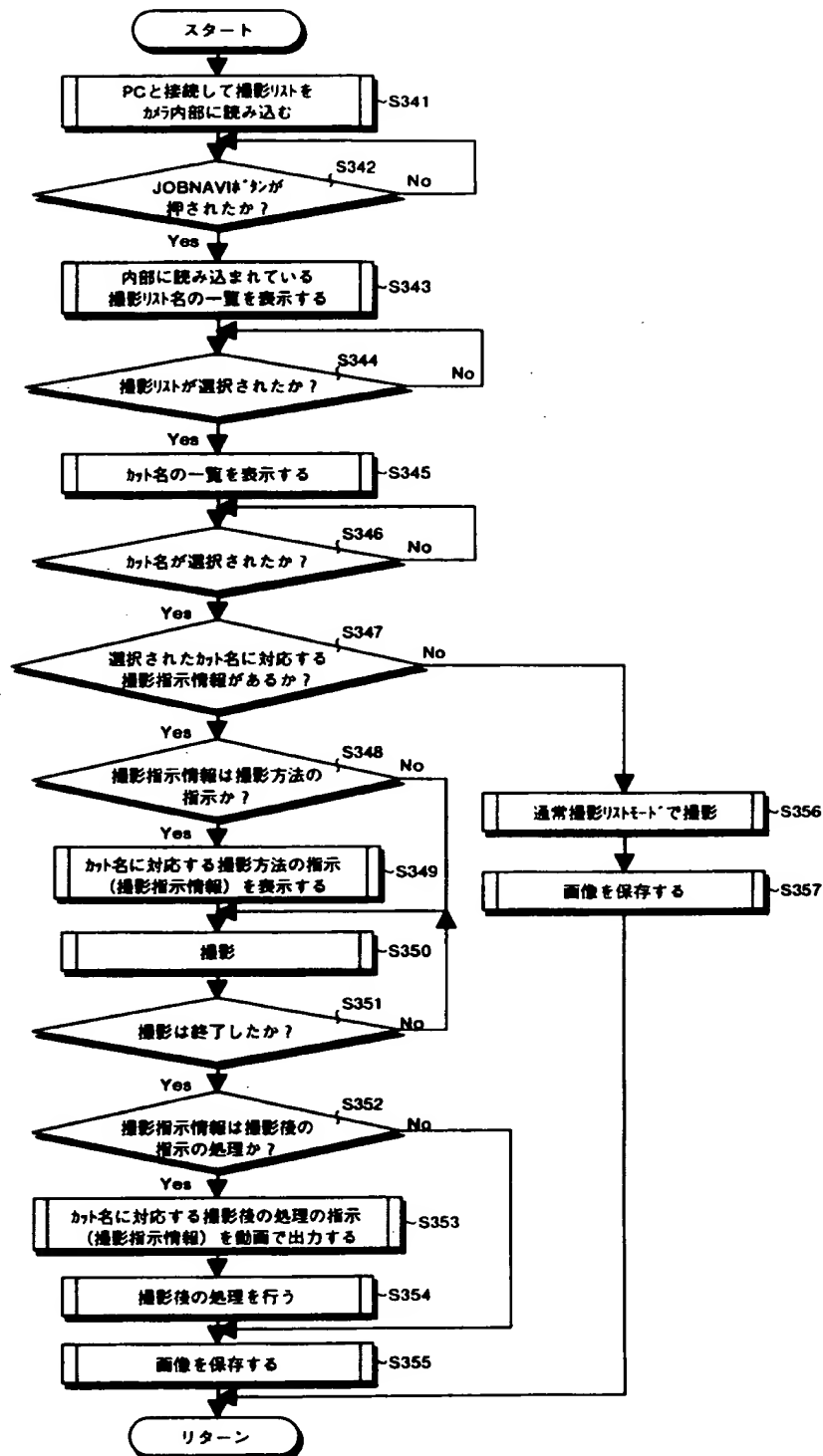
【図37】



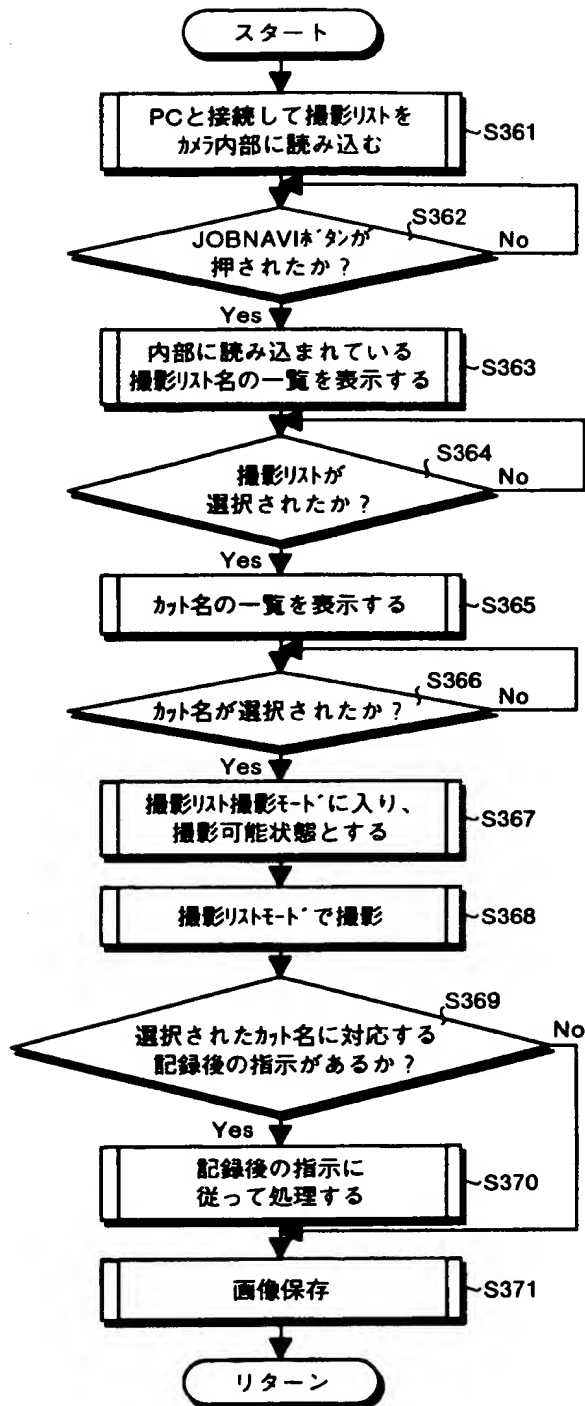
【図 38】



【図 39】



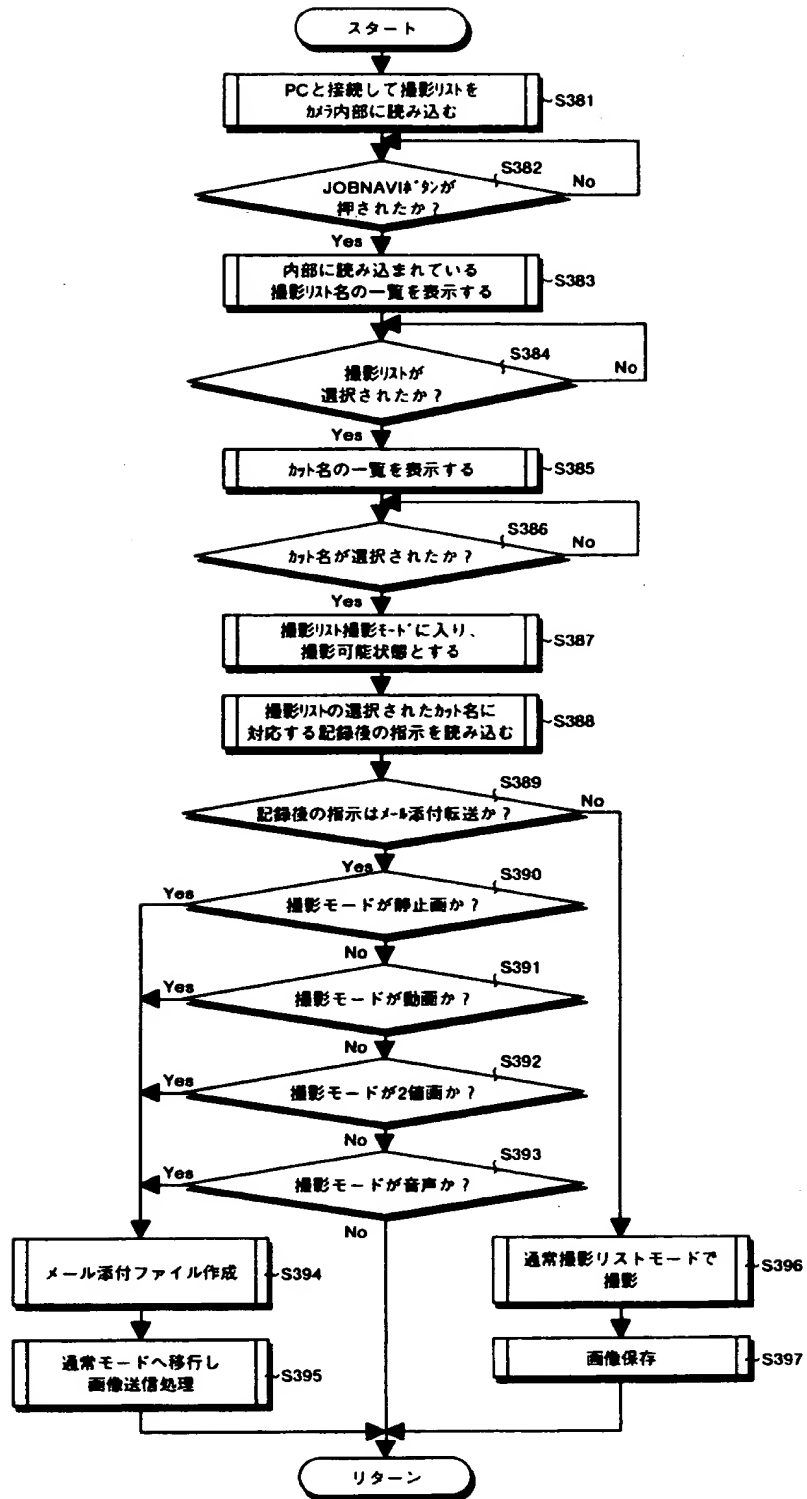
【図40】



【図 4 1】

Command	No
rename	3
paste	4
mail	6
mail thumbnail	7
mail resize	8
webupload	9
webupload send	10
report jobend	11
report mail jobend	12
report when	13
memo	14
memo mixed	15
memo*.wav	16
archive	17
save	18
stitch	19
adjuste	20
color	21
distortion	22
stamp data	30
stamp	31
pixels	32
pictures	33
exposure	34
speed	35
flash	36
size	37
ratio	38
secure	39
watermark	40
binarydata	41
movie	42
sound	43

【図 4 2】

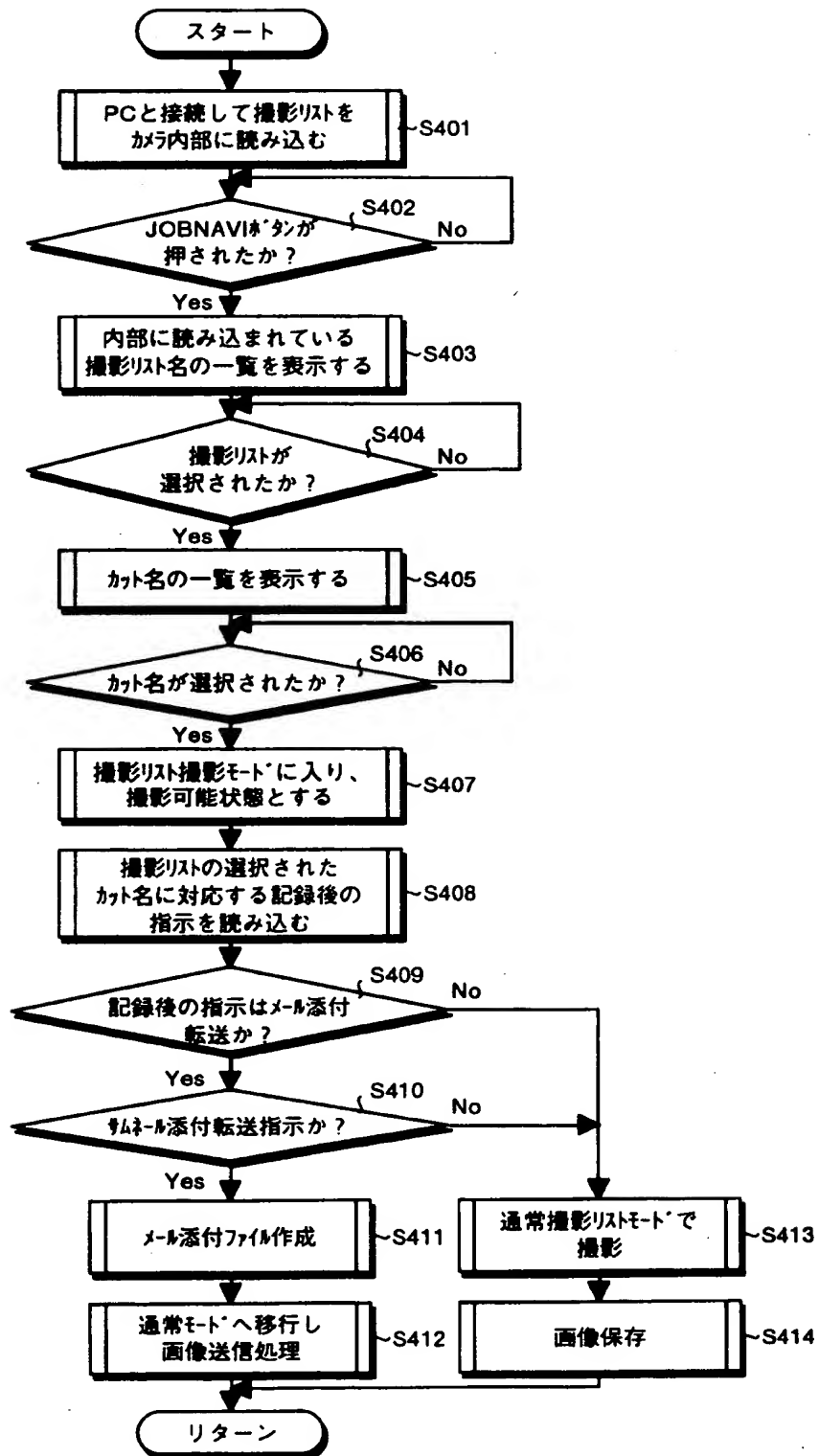


【図 4 3】

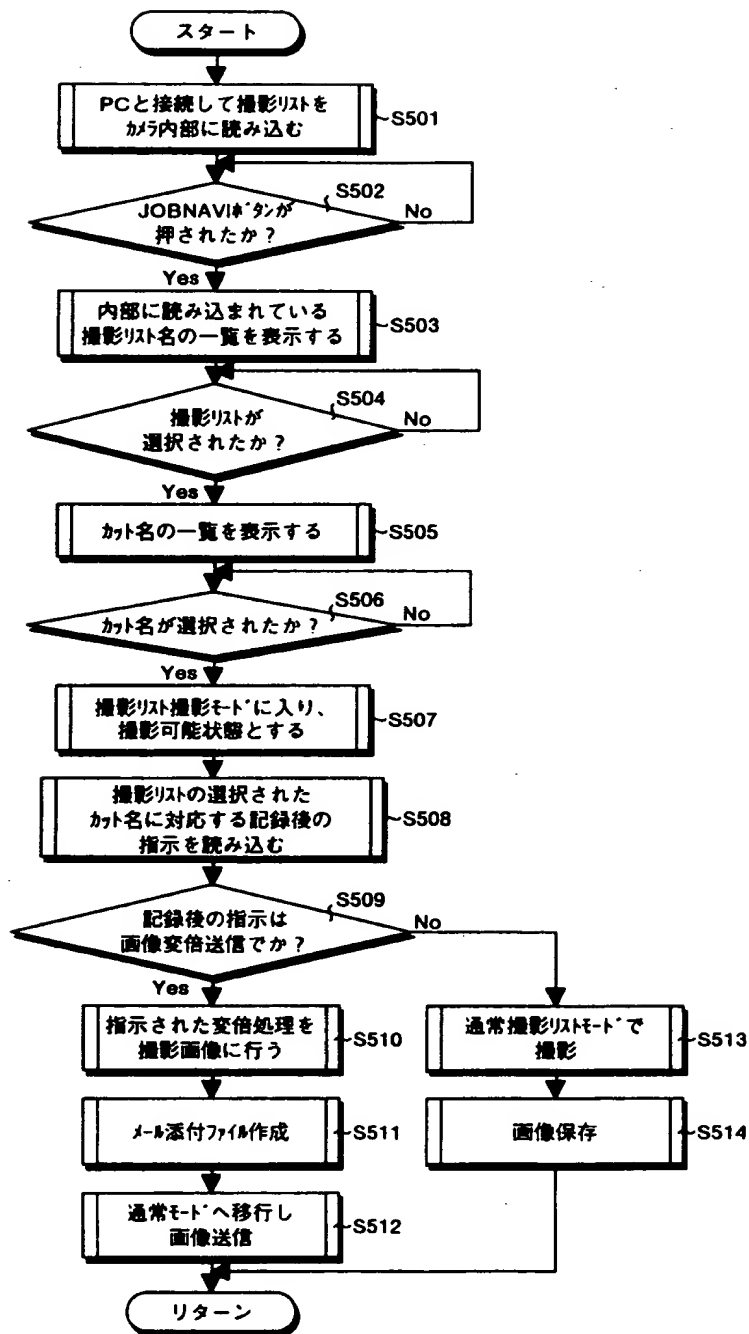
撮影の後処理として画像をメールで送るコマンドの例

```
mail <あて先>,<あて先>,...,<あて先>option
option:thumbnail サムネールを送る
      resize<サイズ> 指定したサイズに変倍して送る
      archive<ファイル名> 指定したファイル形式に変倍して送る
                           たとえば.LZH,.ZIP,.tar,.sit など
```

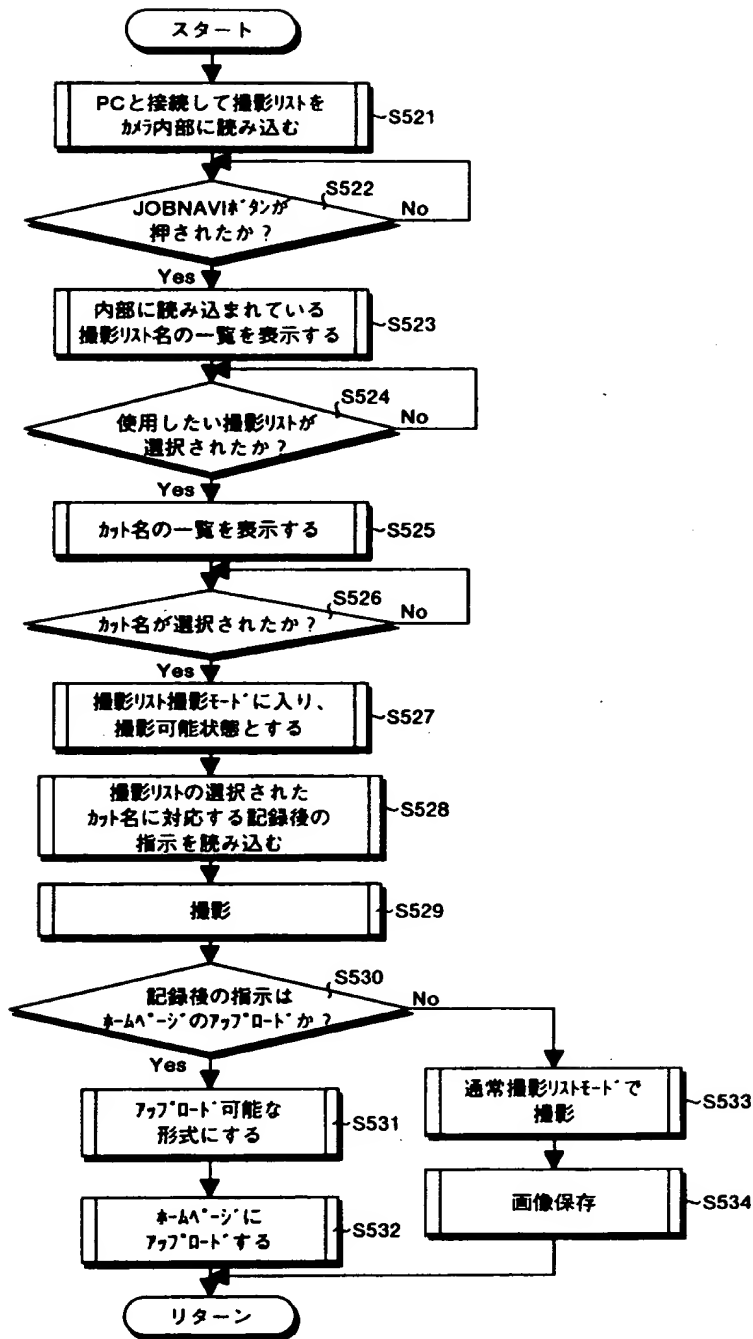

【図 4 4】



【図 45】



【図 46】

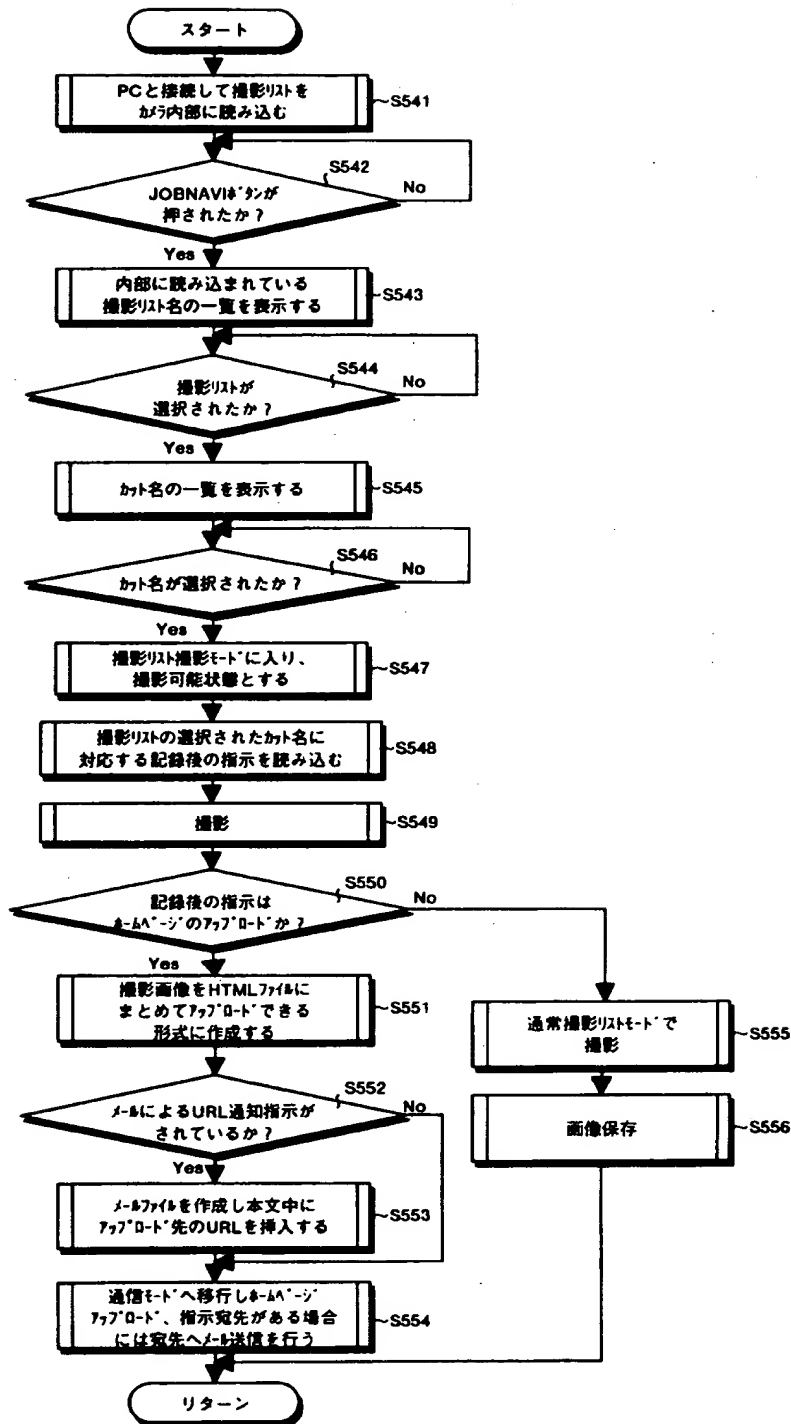


【図 4 7】

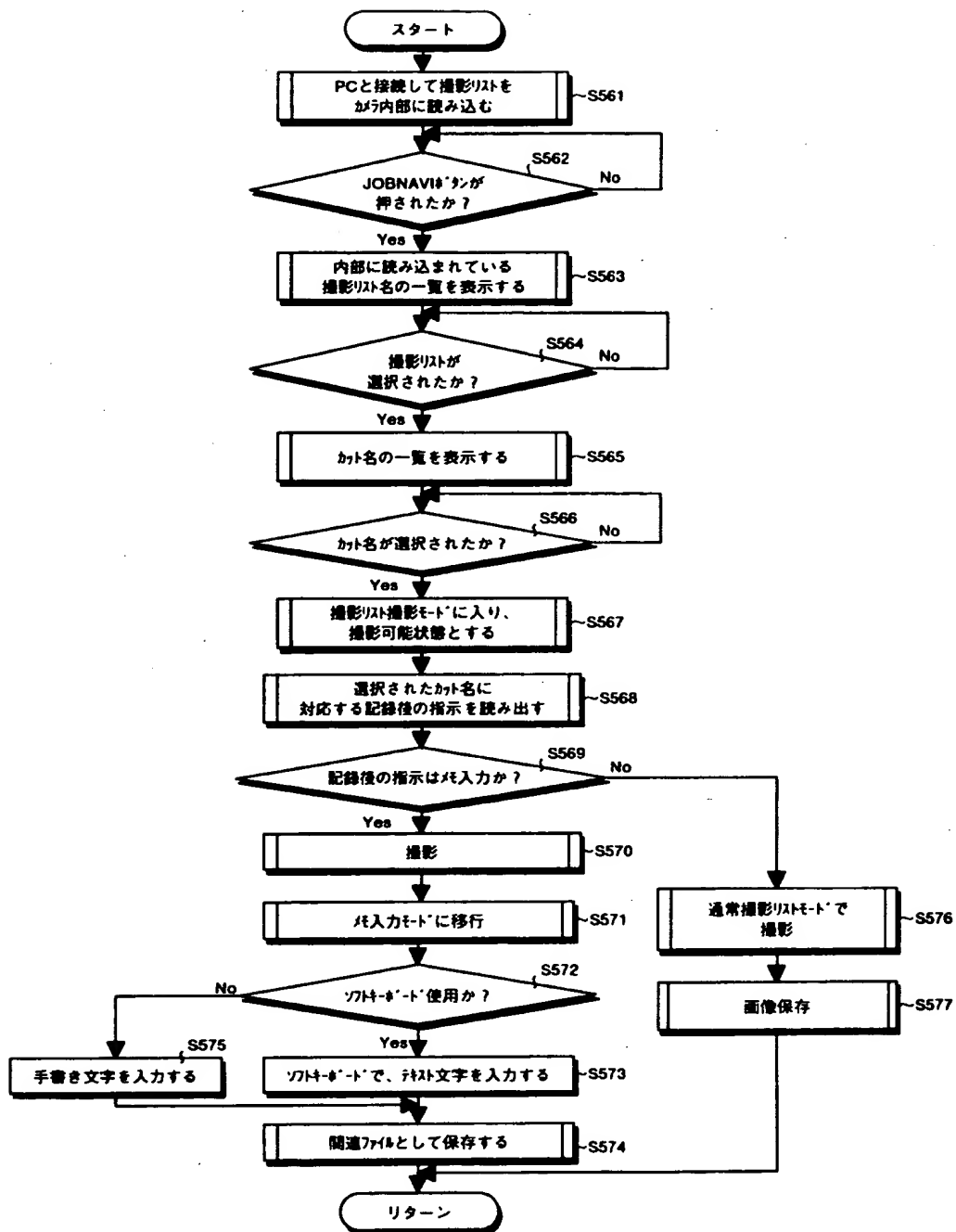
撮影の後処理として画像をWebサーバに
アップロードするコマンドの例

```
webupload <アップロード先アドレス>option
option:sendURL      アップロード先URLを通知するメールを
                     作る。(メールの草稿として保存)
resize<サイズ>      指定したサイズに変倍して送る
```

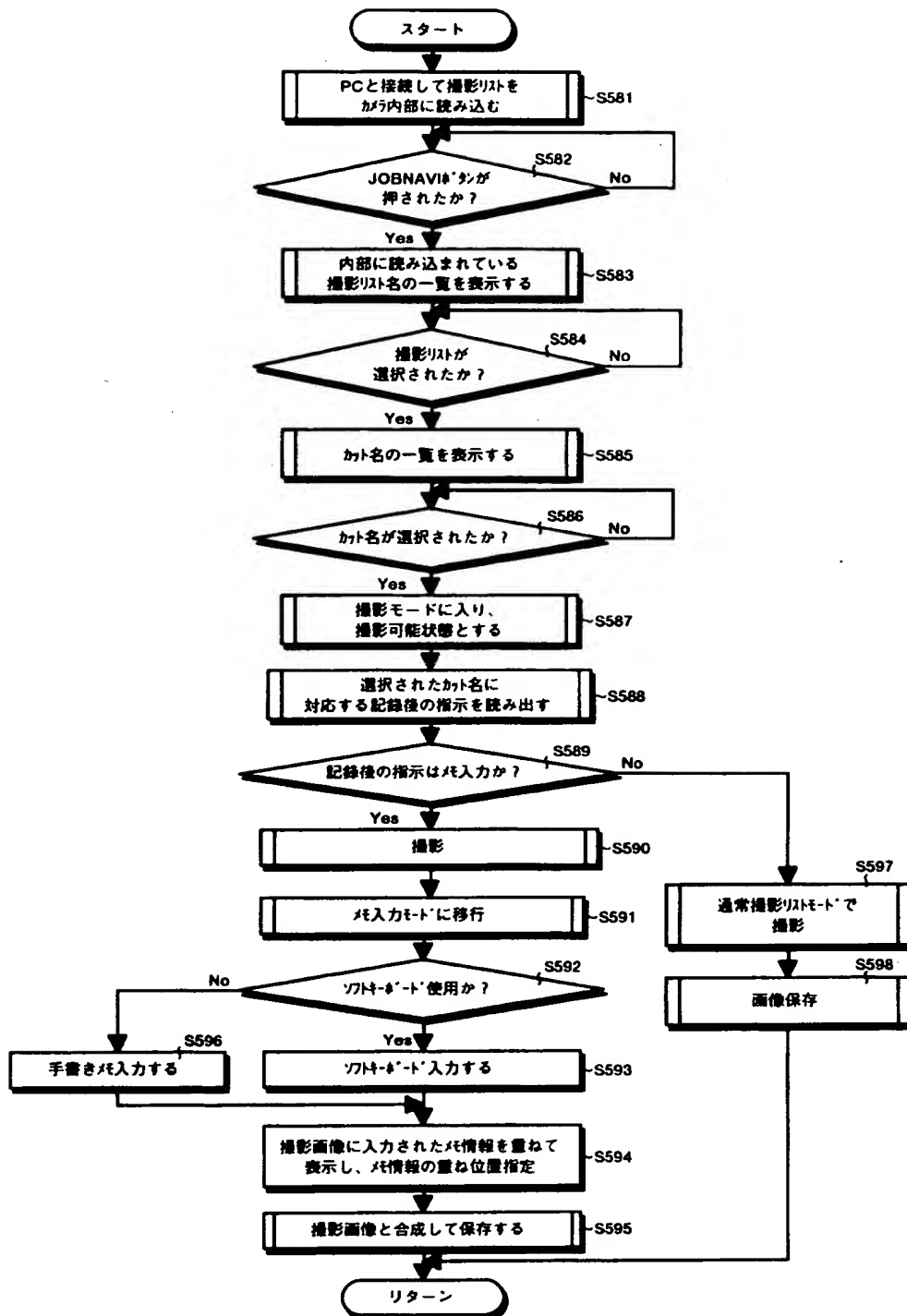
【図 48】



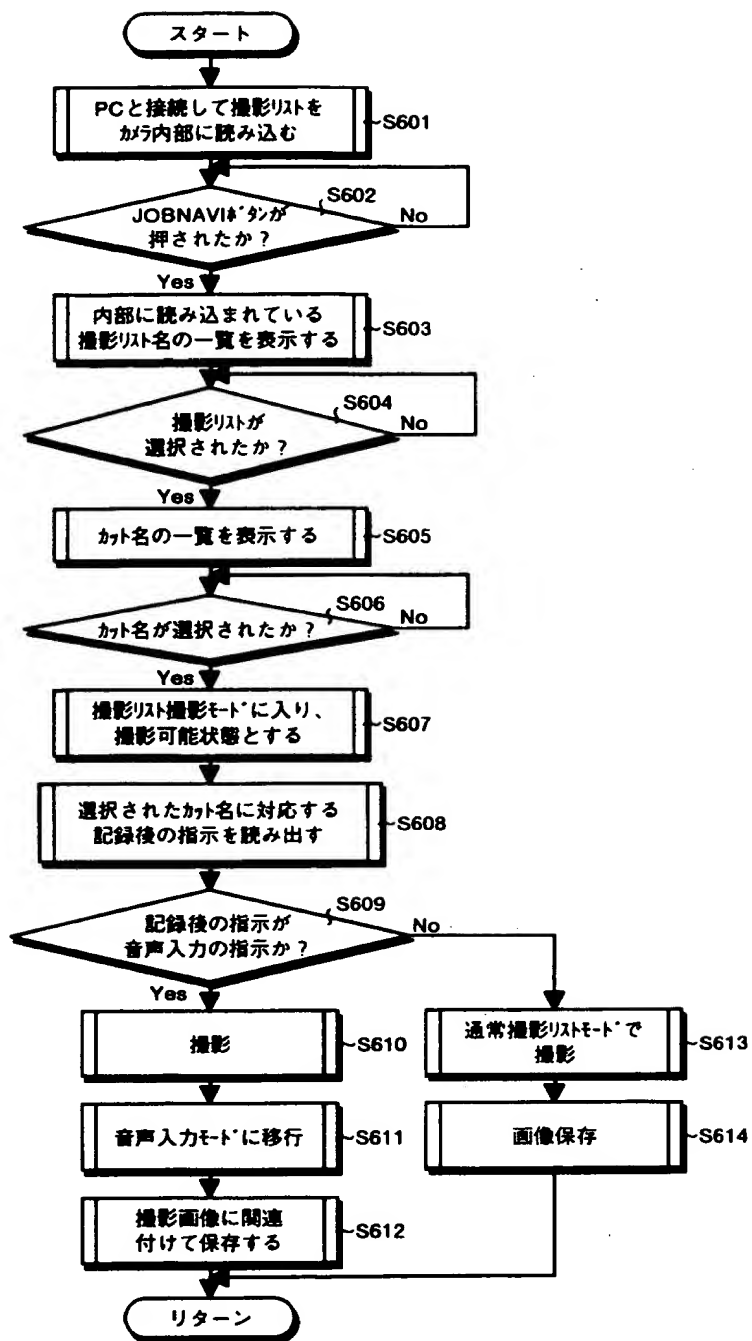
【図49】



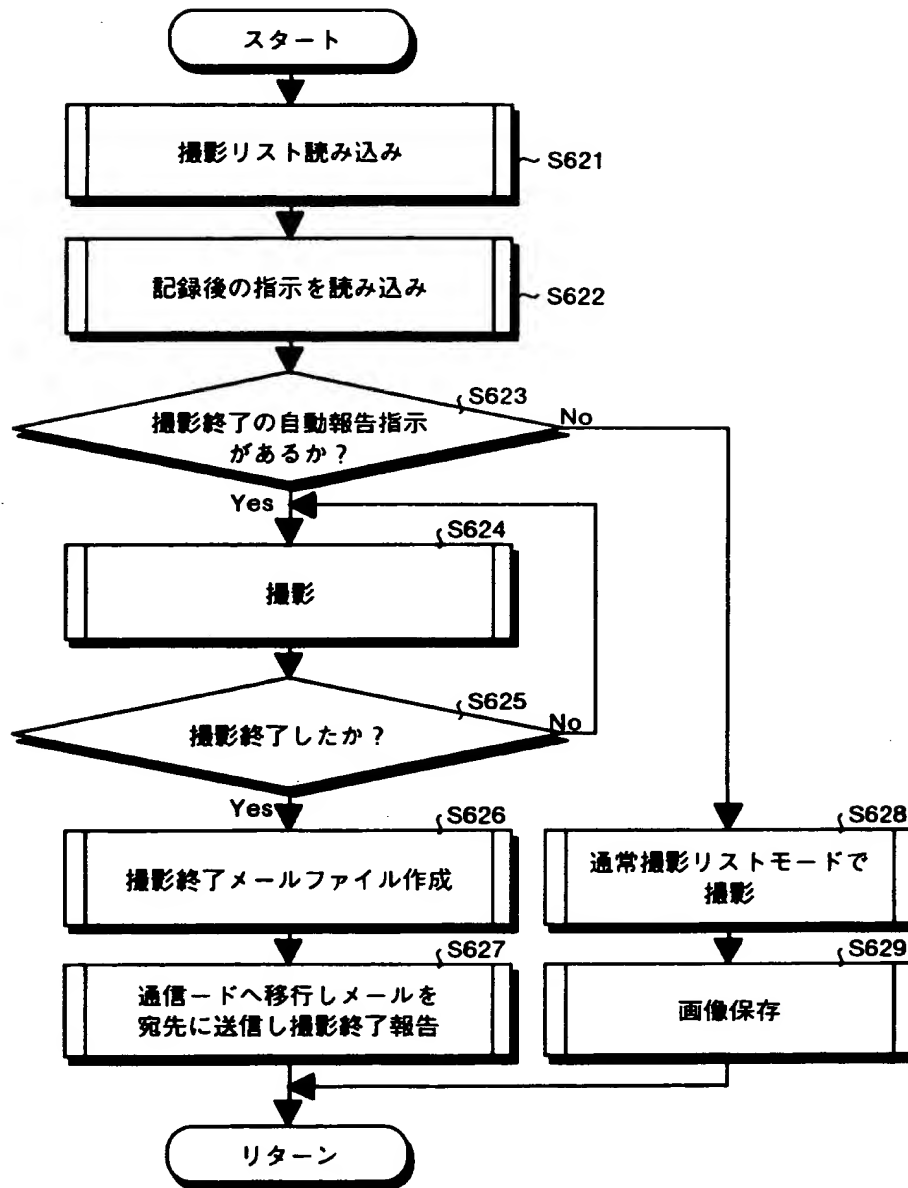
【図 50】



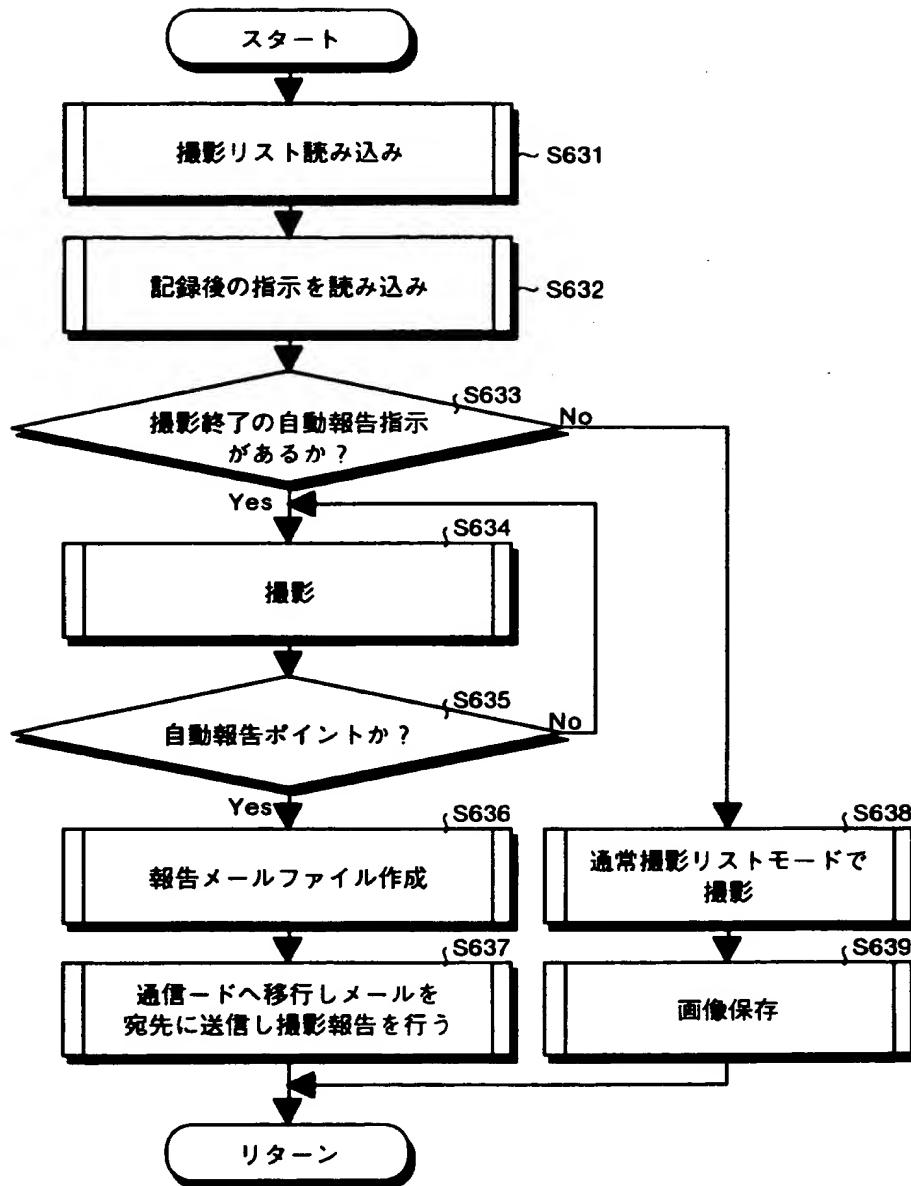
【図 51】



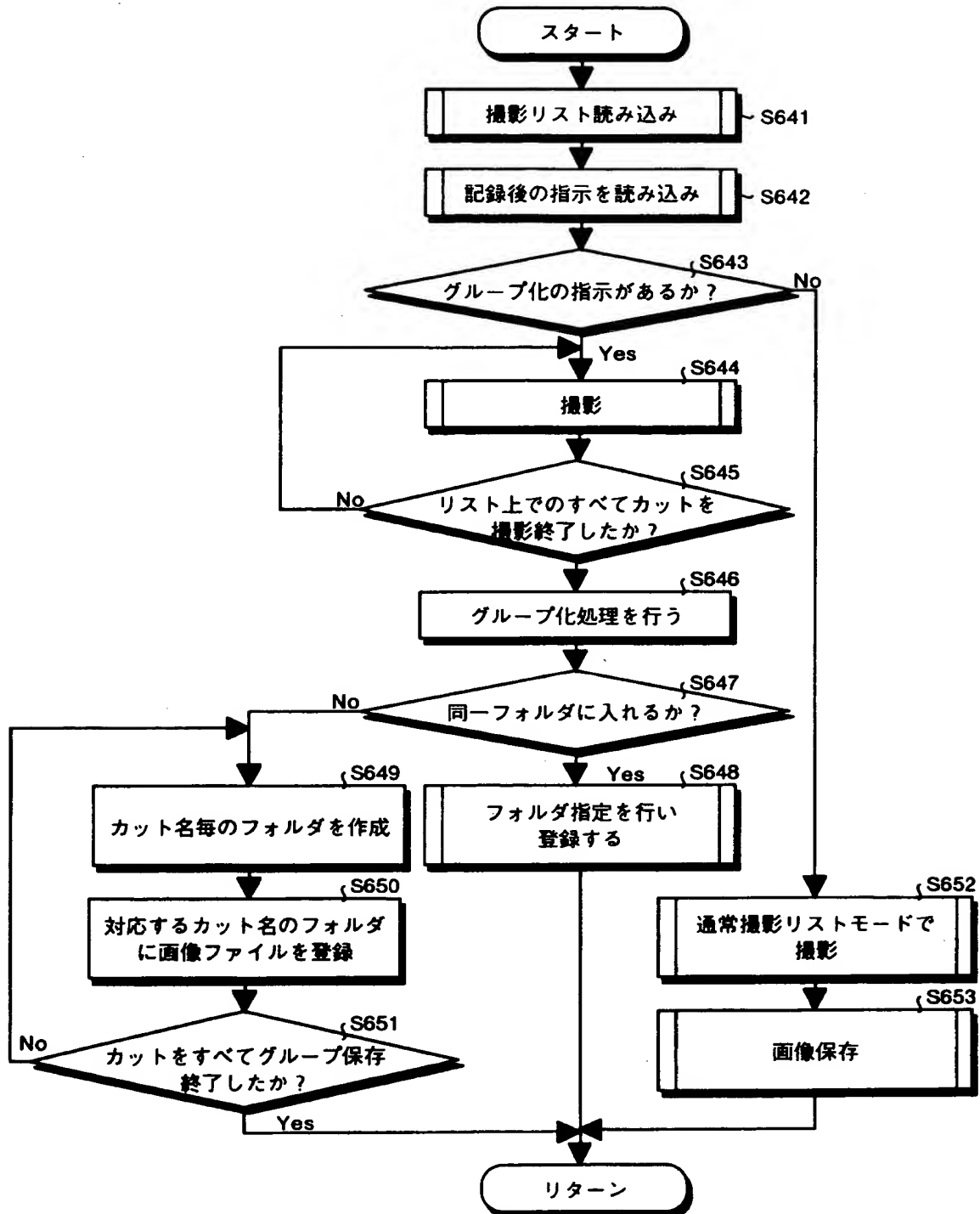
【図 5 2】



【図 53】



【図54】



【図55】

100RLIST (フォルダ名)

CAMERA_SHOW99.1st (撮影リスト名)

RIMG001.jpg

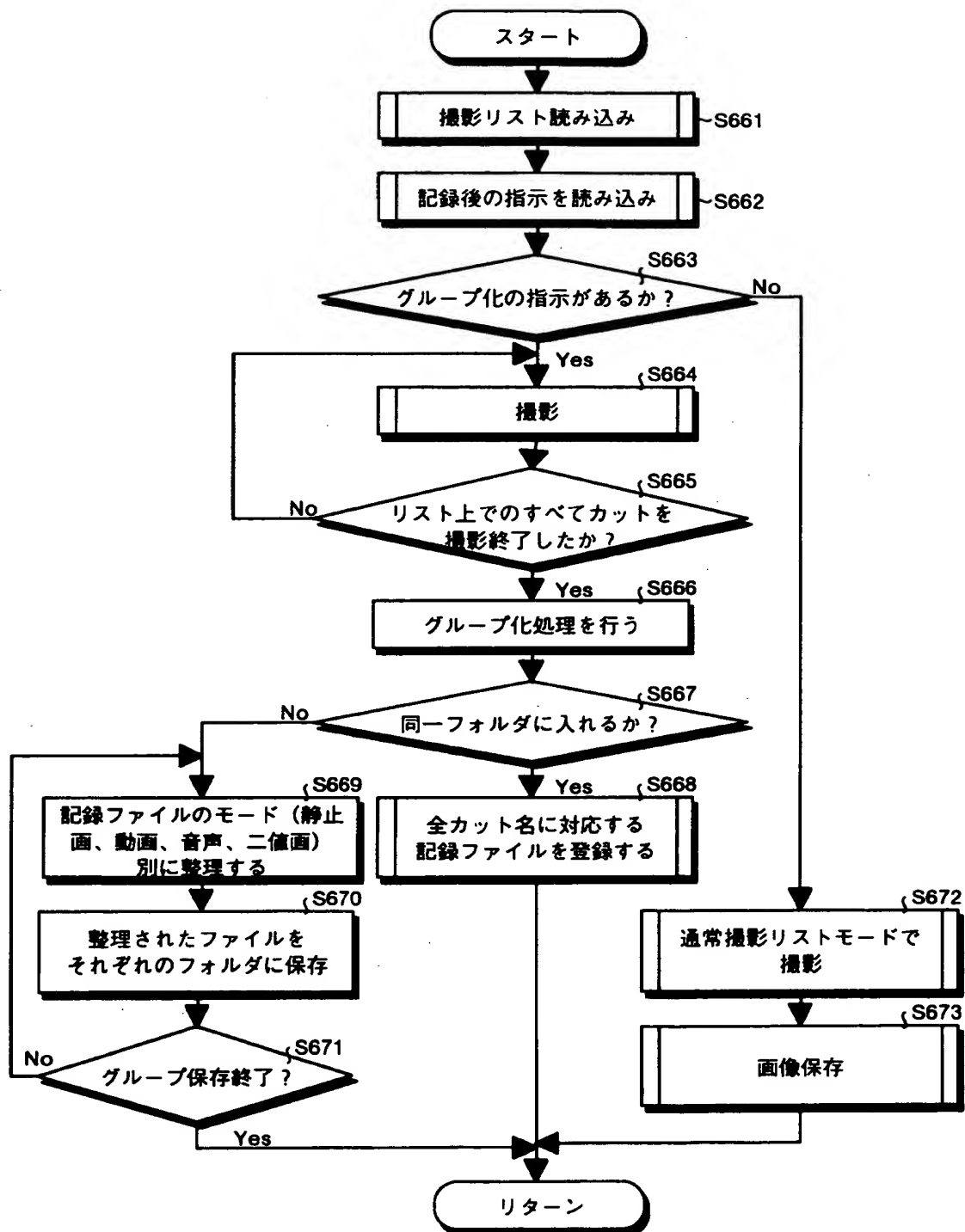
RIMG005.jpg

RIMG002.jpg

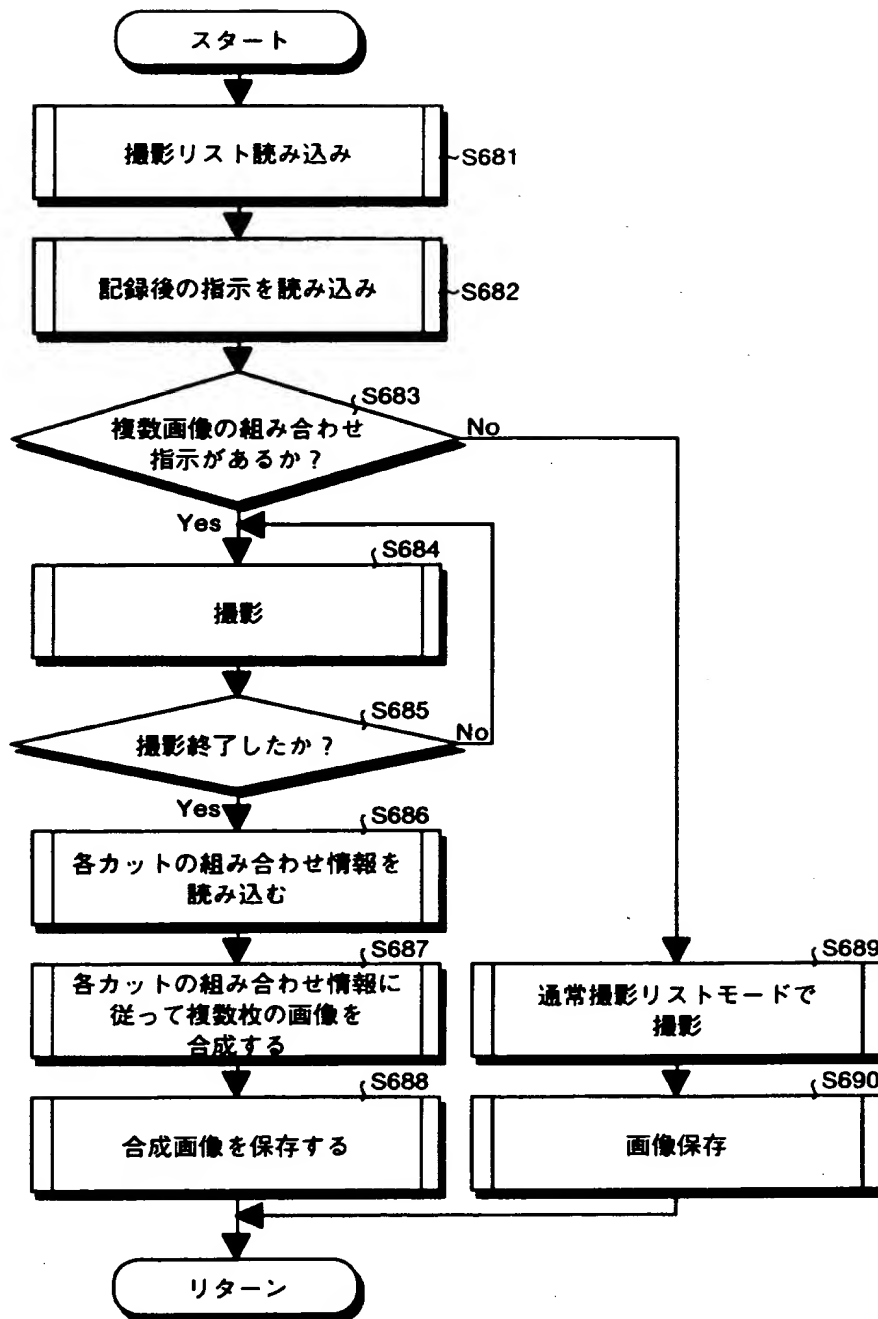
RIMG003.jpg

RIMG004.jpg

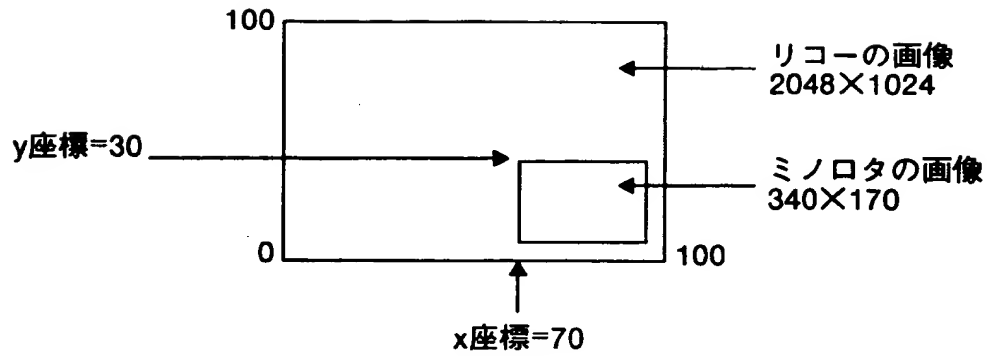
【図 56】



【図 57】



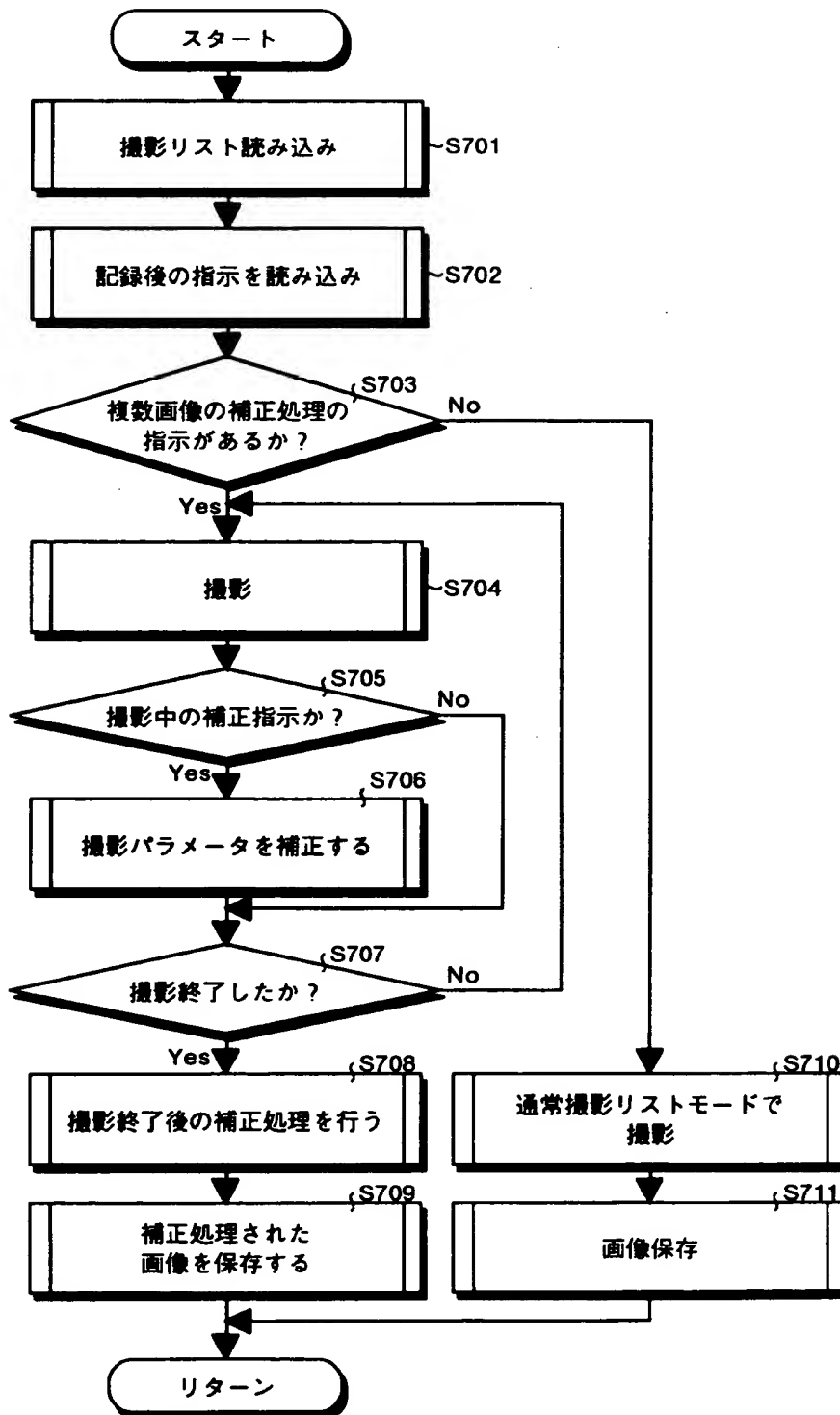
【図 5 8】



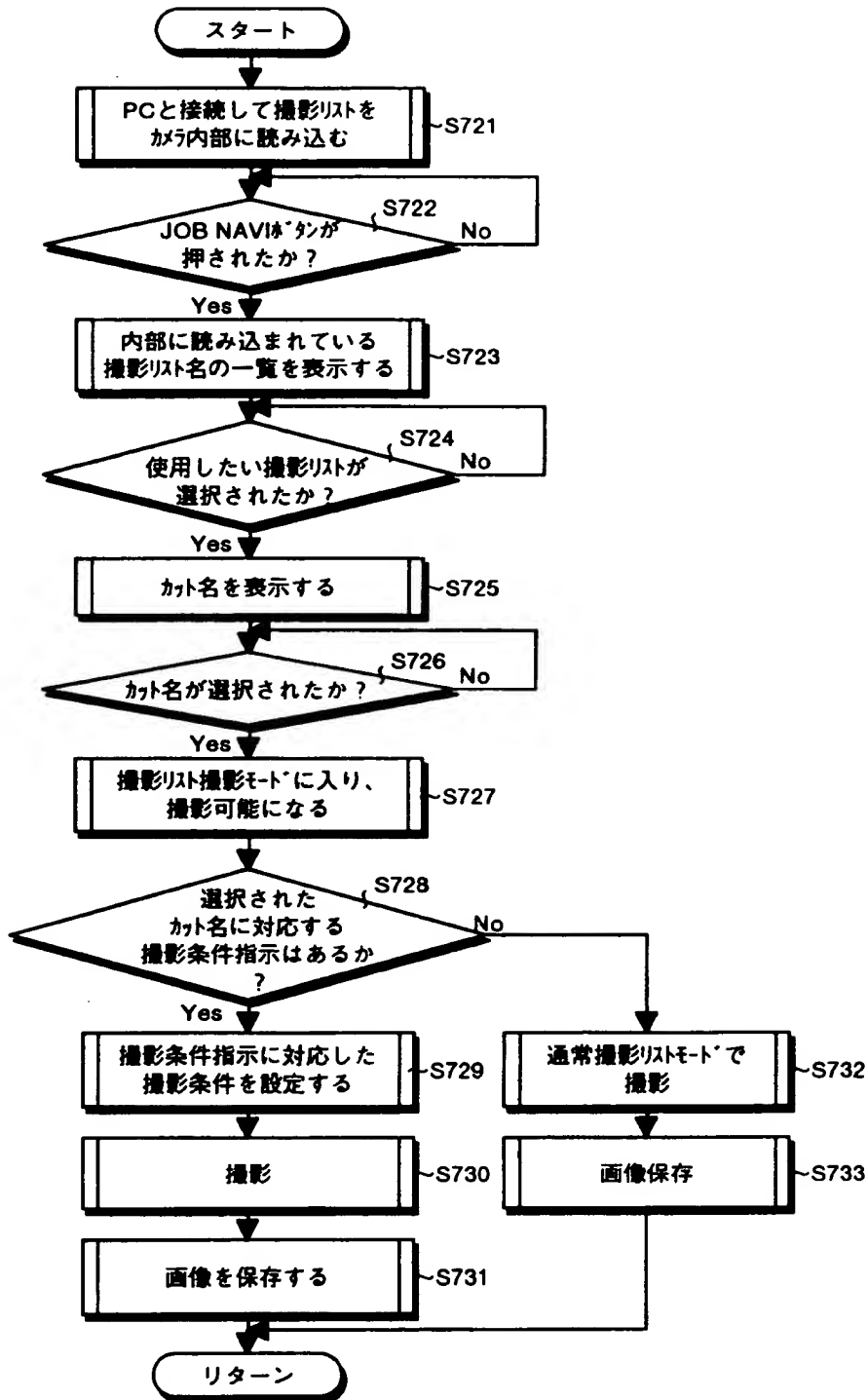
【図 5 9】

```
[LIST TITLE]
title=カメラショウ' 99
[リコー] /comp:((pair=a),(base=0))
[キャモン]
[セロックス]
[カミオ]
[ミノロタ] /comp:((pair=a),(base=1),(size=340x170),(position=70,30))
[ソミー]
[コタック]
```

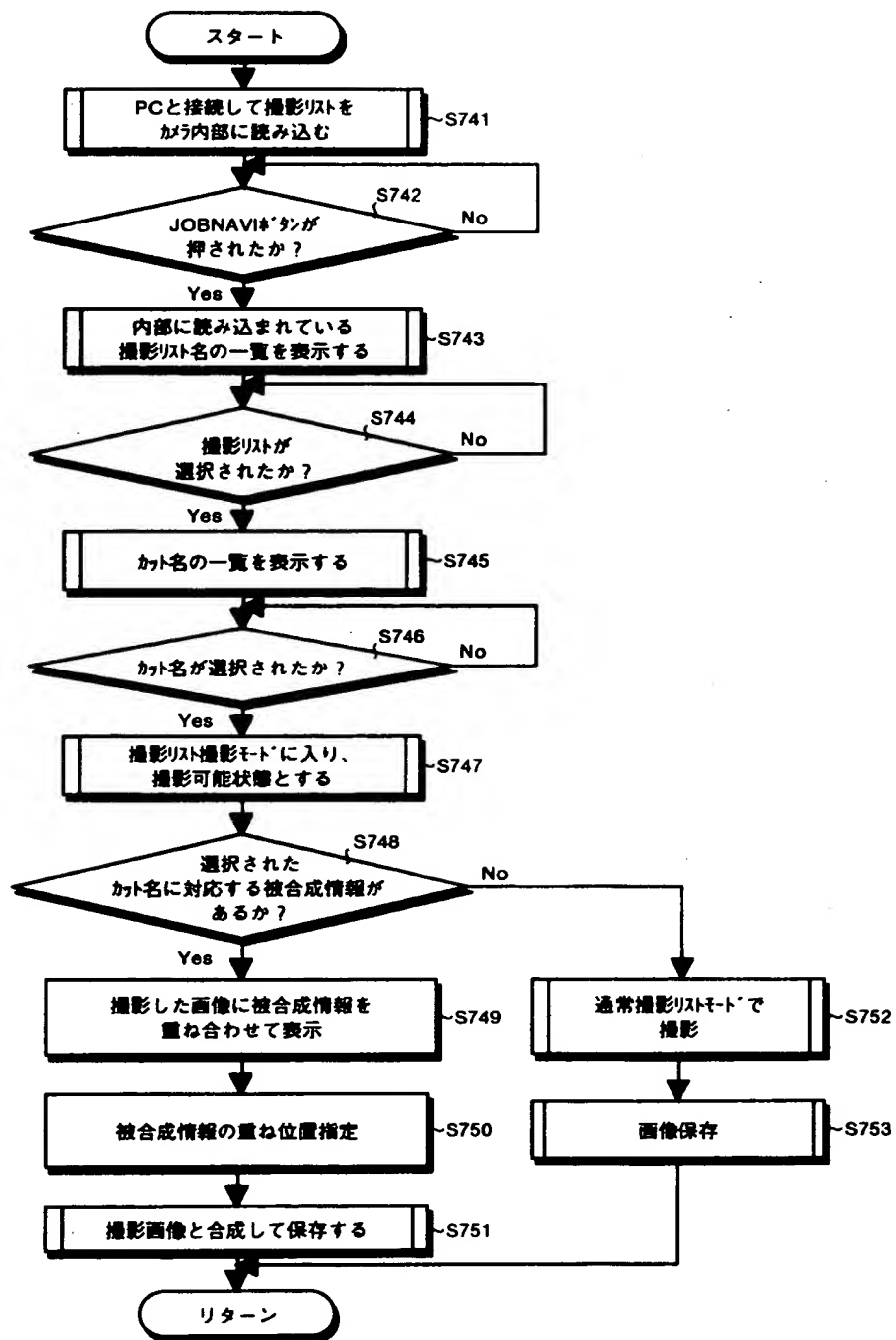
【図 6 0】



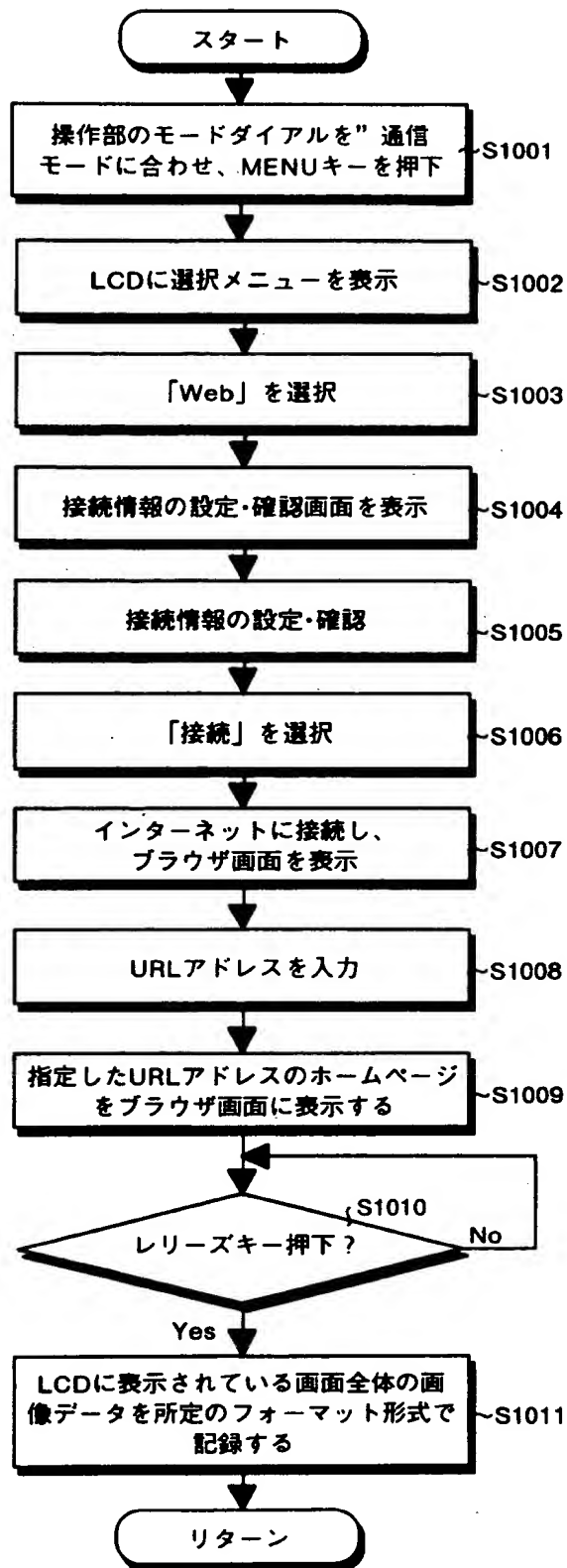
【図 61】



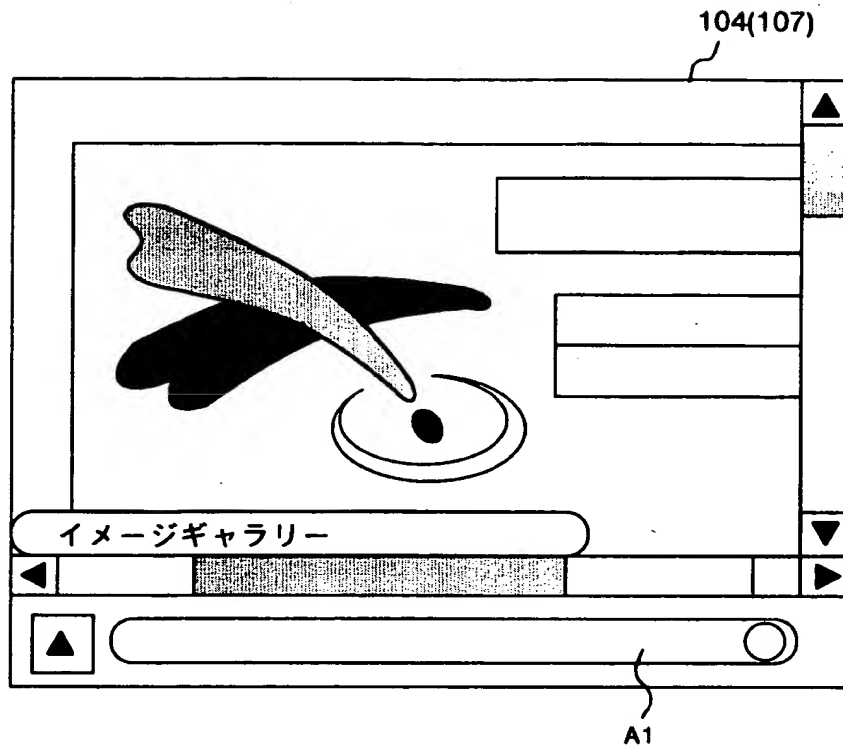
【図 62】



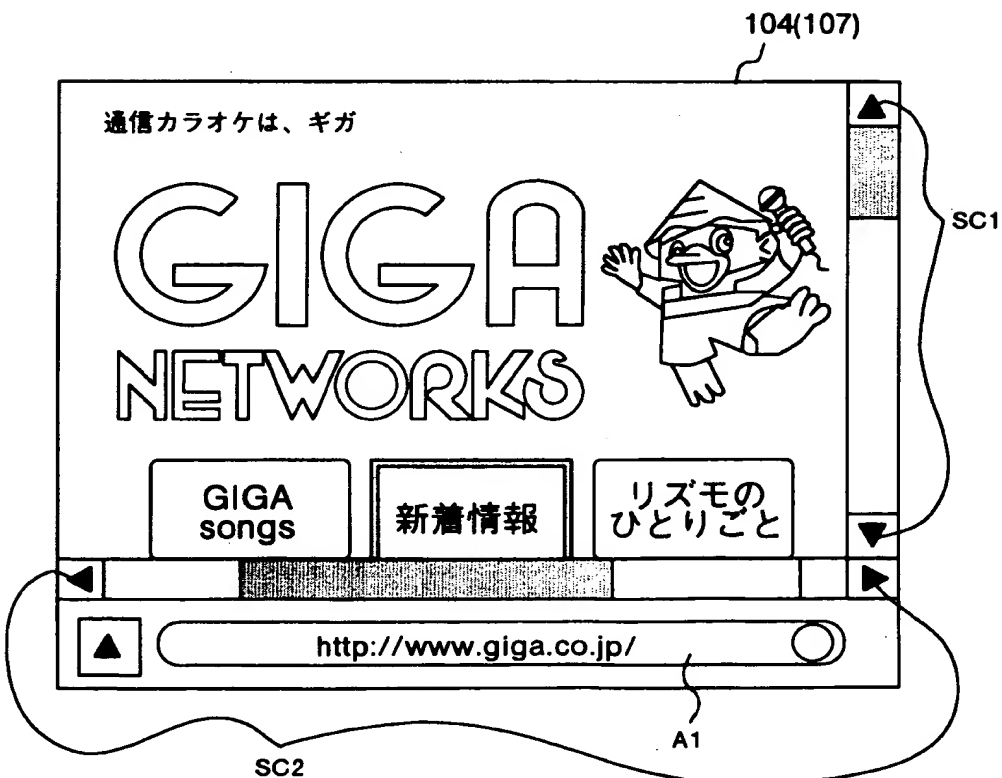
【図 63】



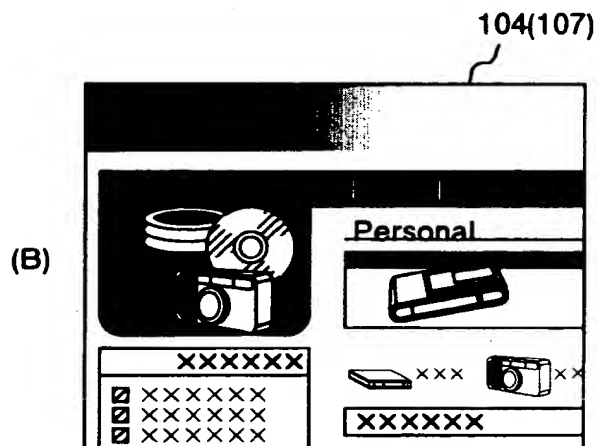
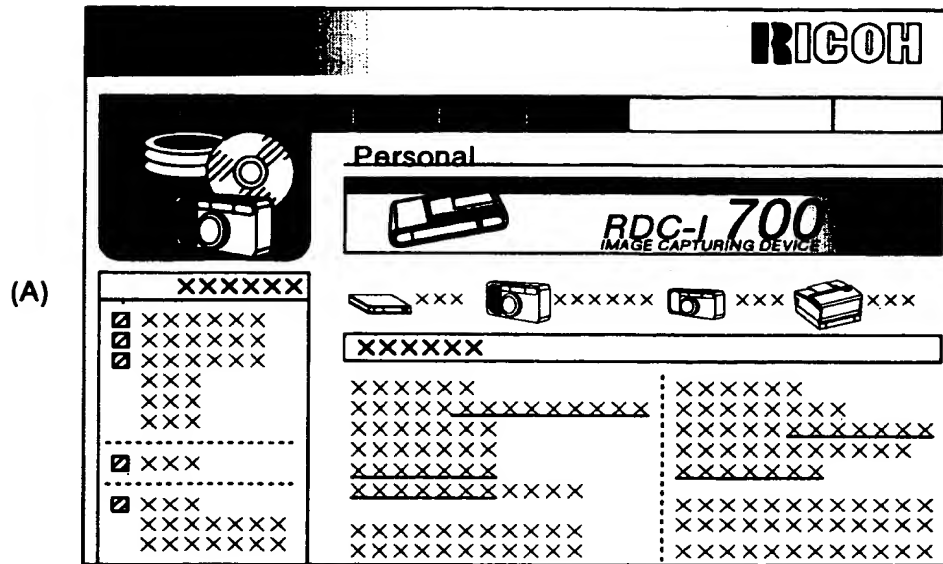
【図 6 4】



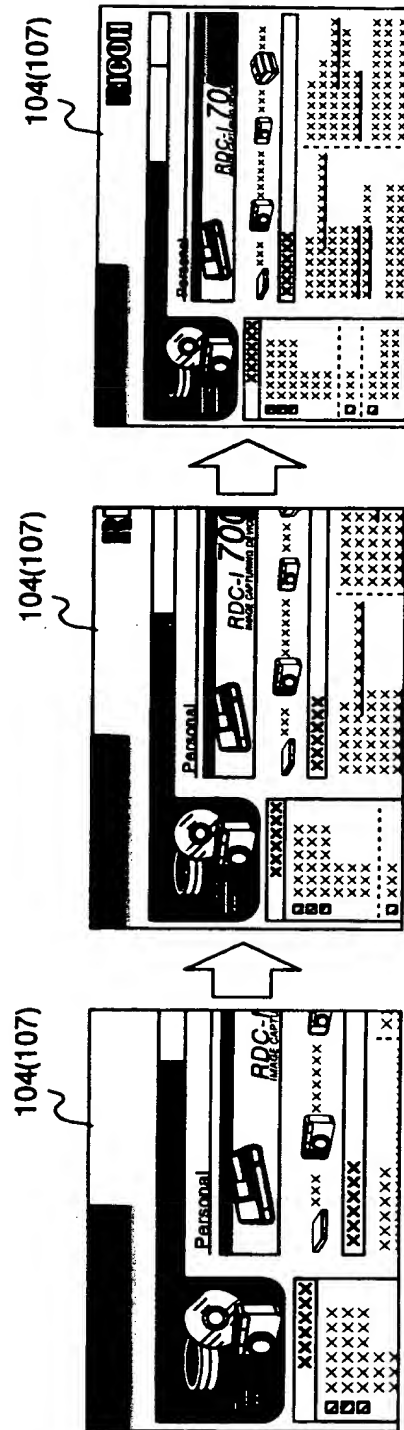
【図 6 5】



【图 6 6】

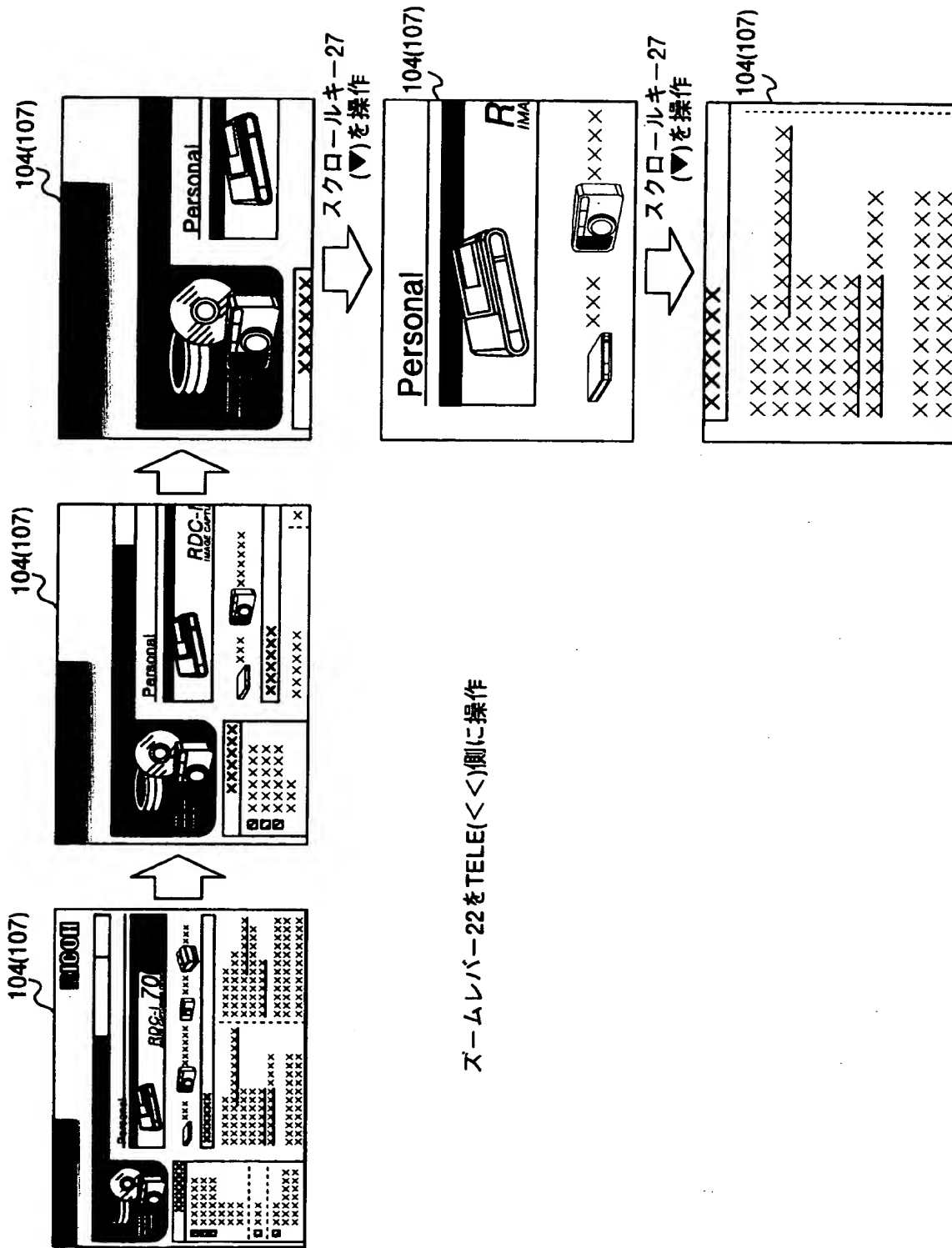


【図67】

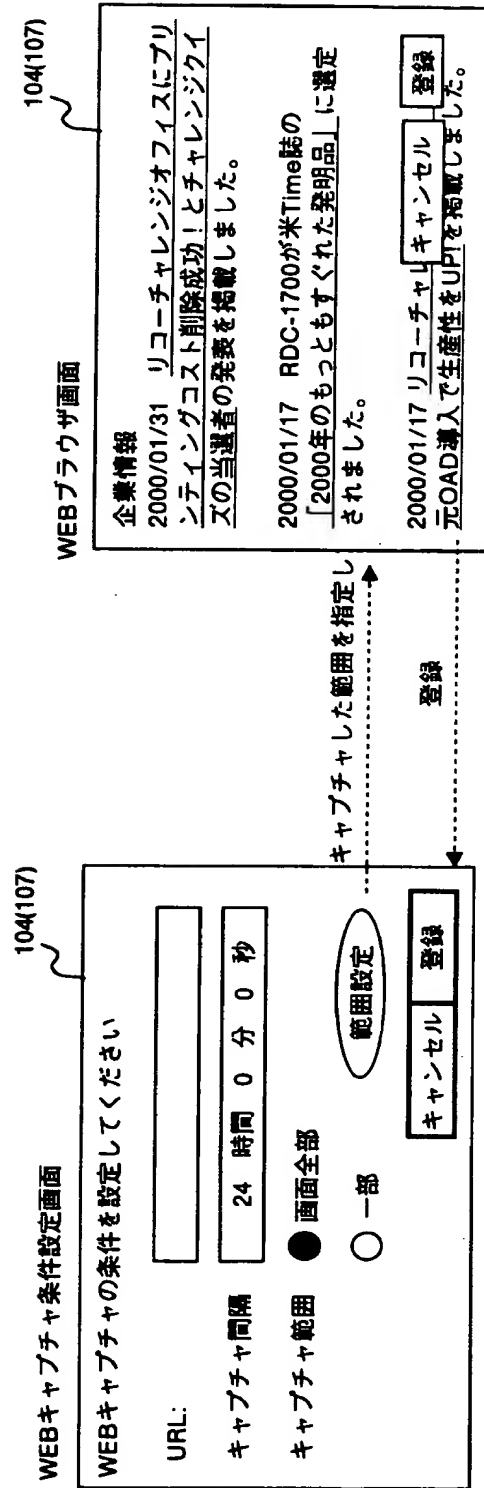


ズームレバー22をWIDE(<)側に操作

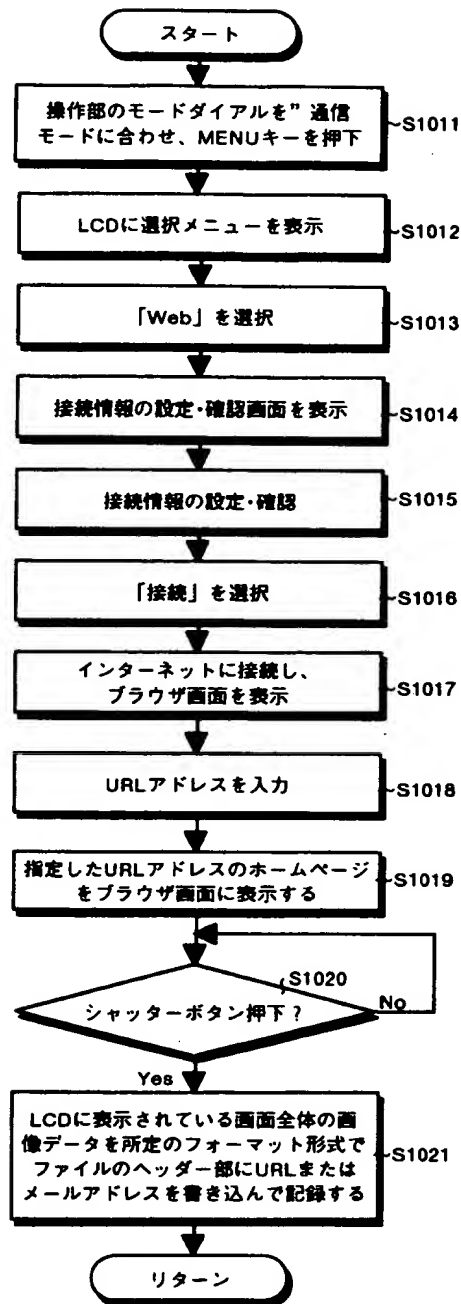
【図 68】



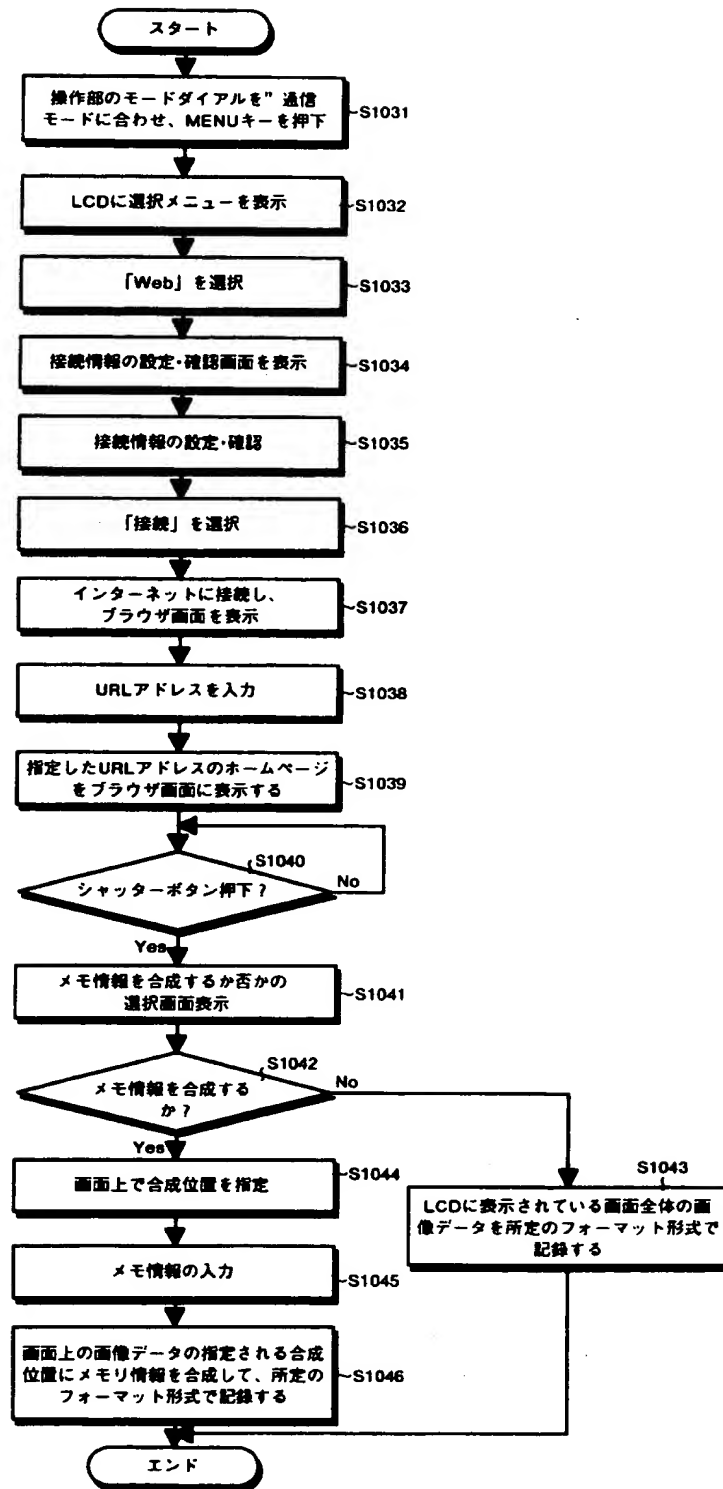
【図 69】



【図 70】



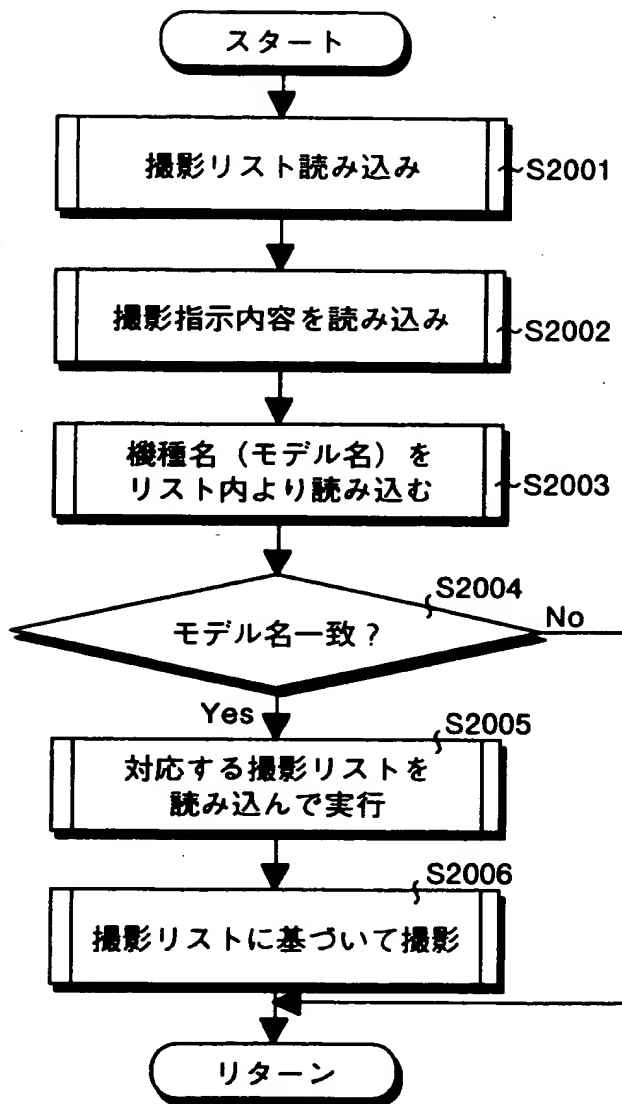
【図 71】



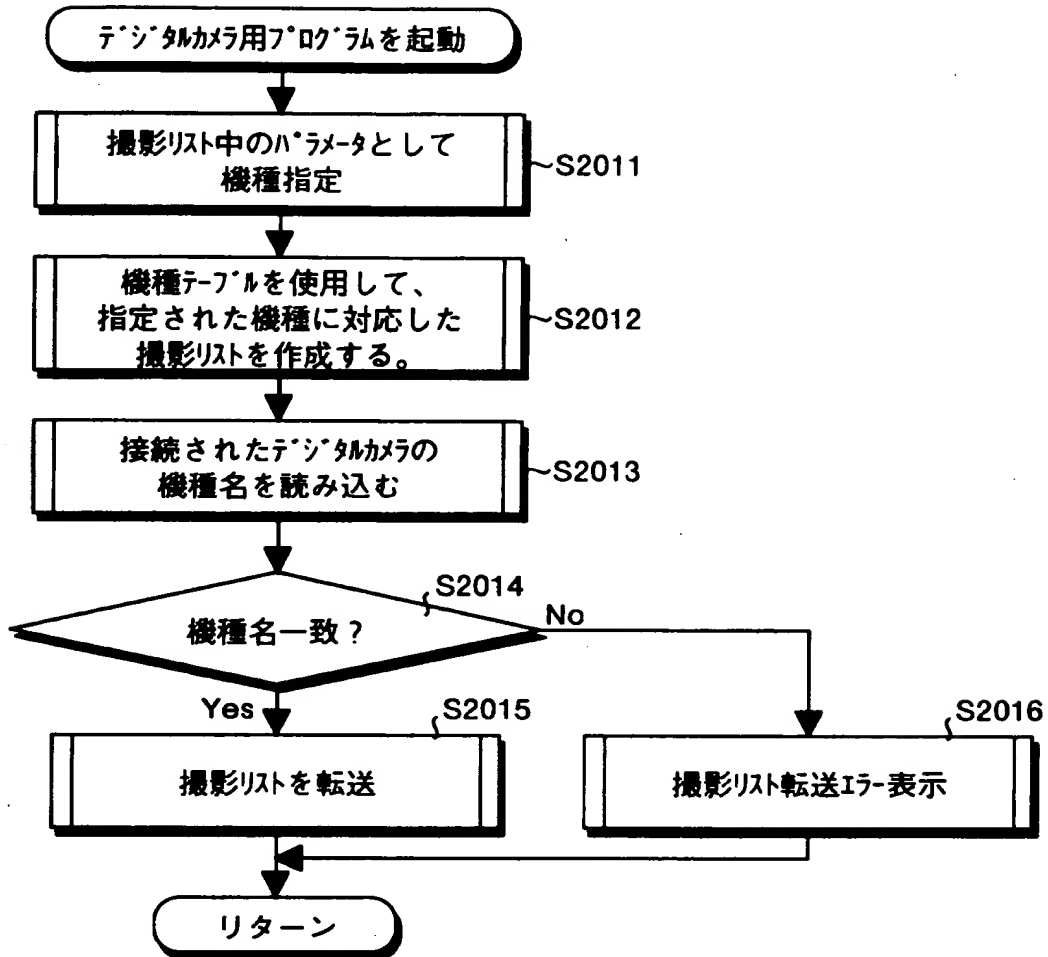
【図 7 2】



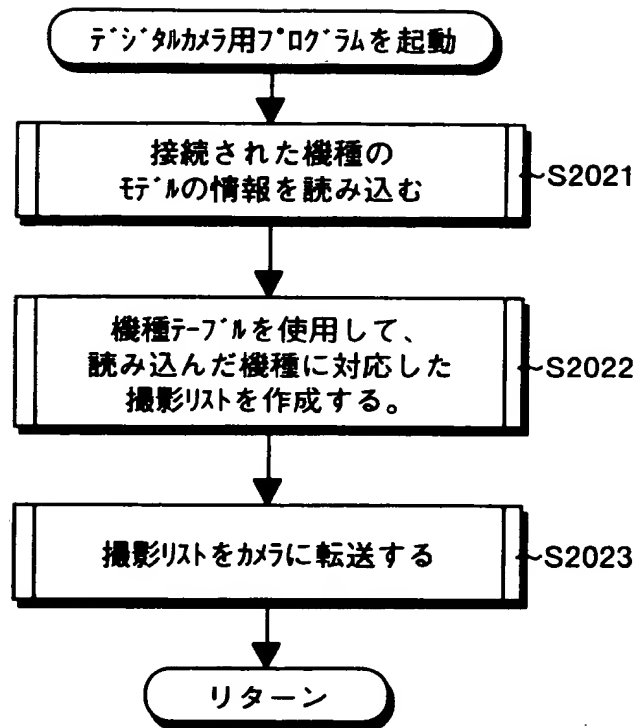
【図 7 3】



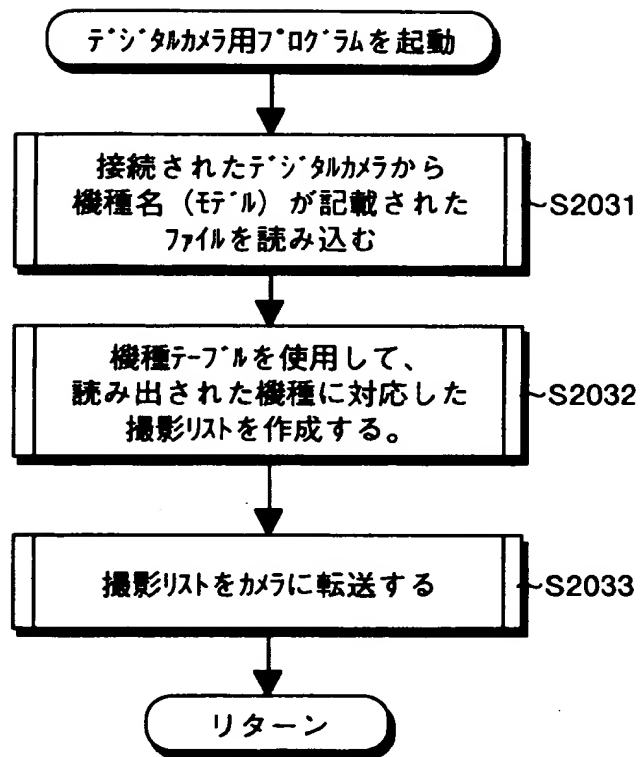
【図 7 4】



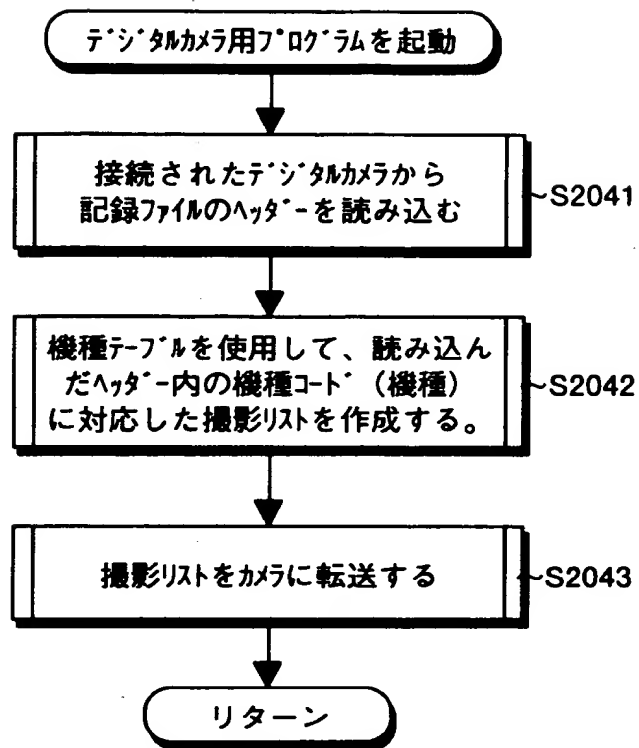
【図 7 5】



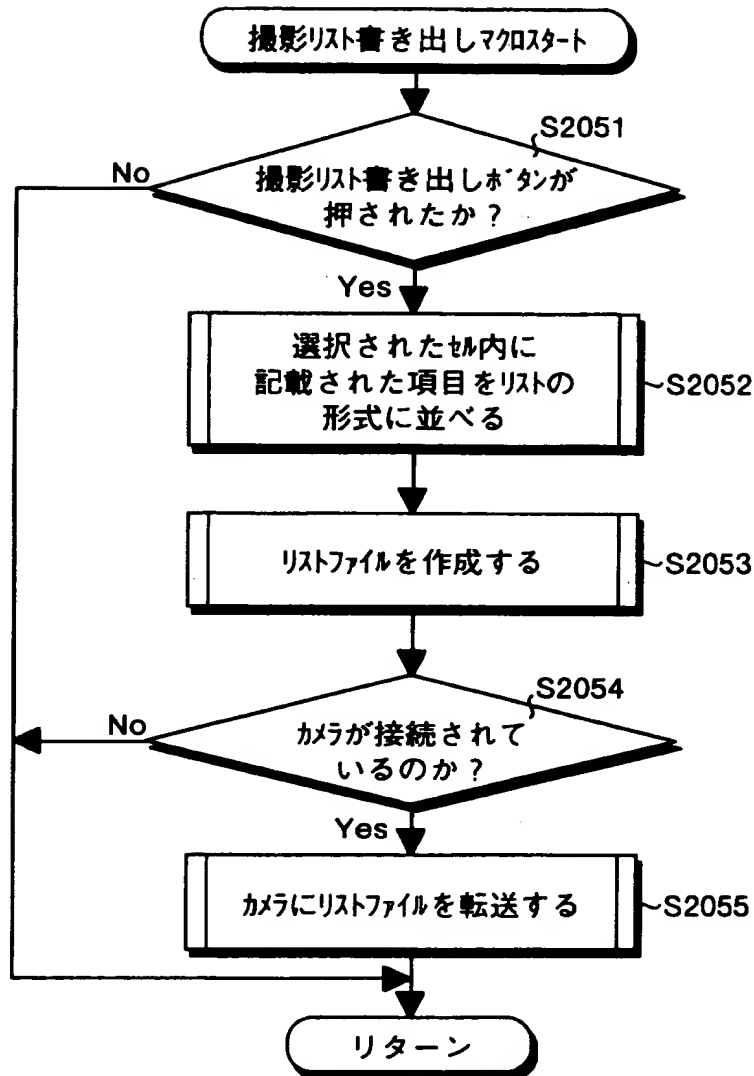
【図 7 6】



【図 7 7】



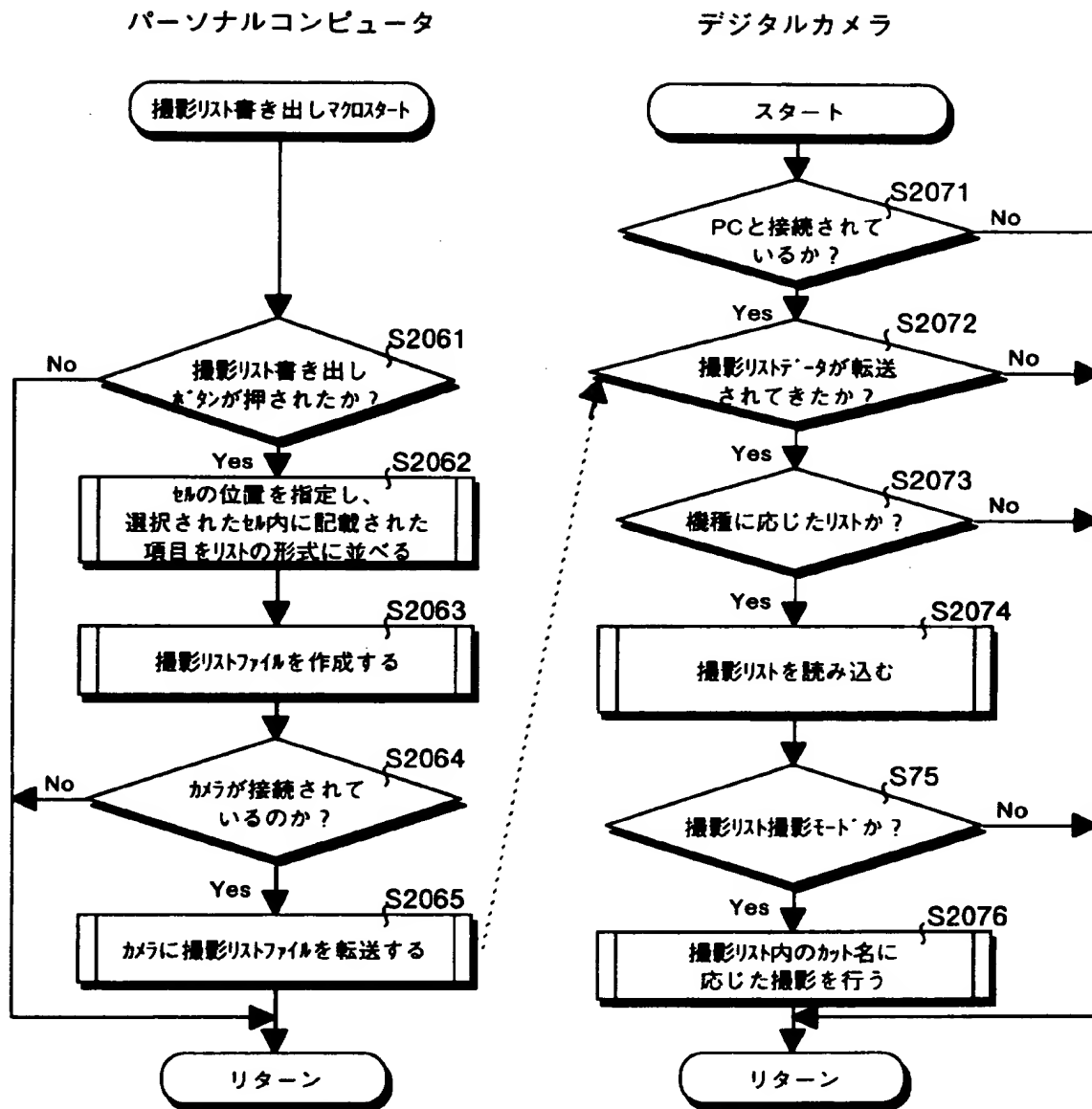
【図 7 8】



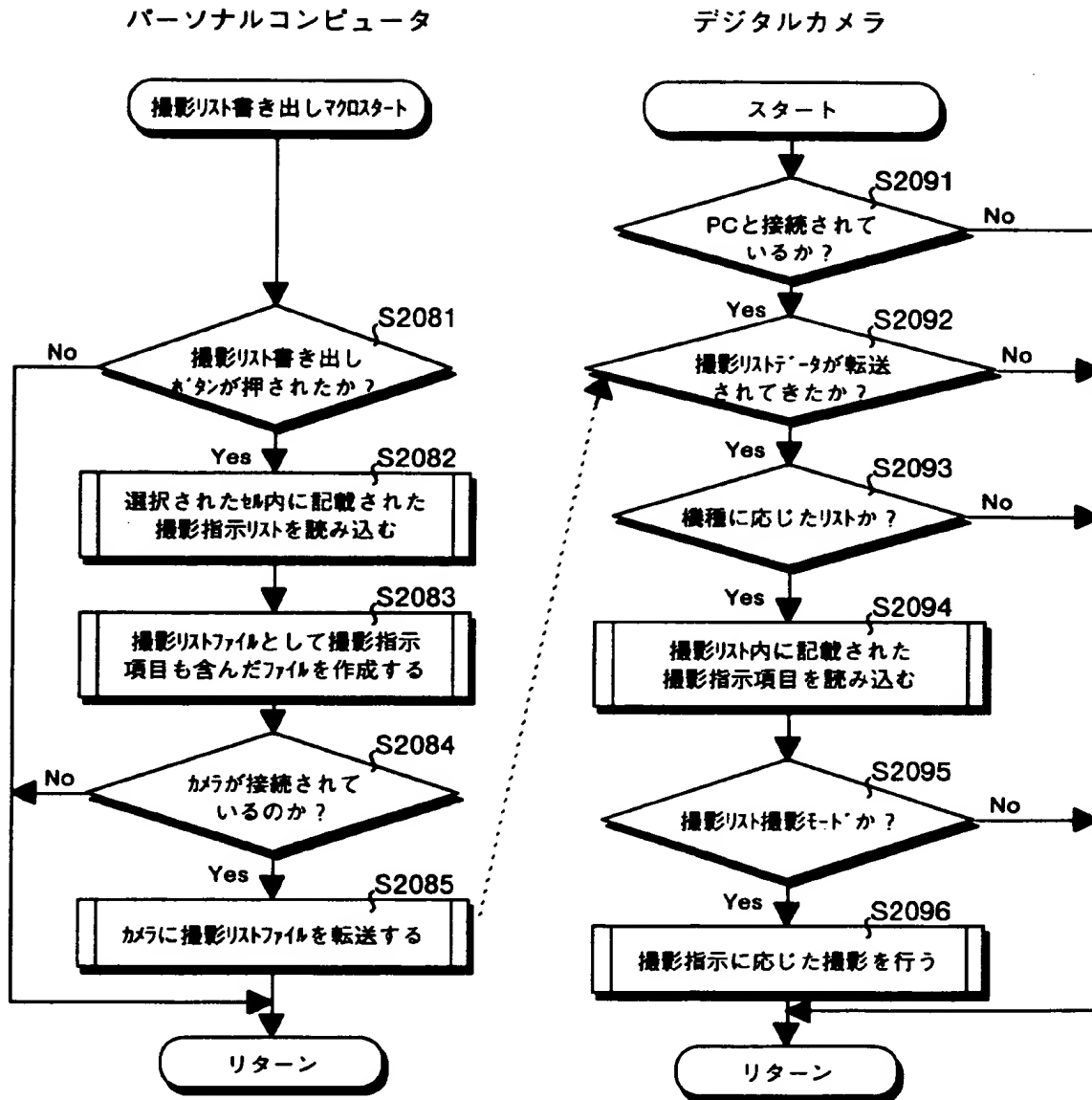
【図 7 9】

	A	B	C	D	E	
1						
2						
3		カット1				
4		カット2				
5		カット3				
6		カット4				
7		カット5				
8						

【図 80】



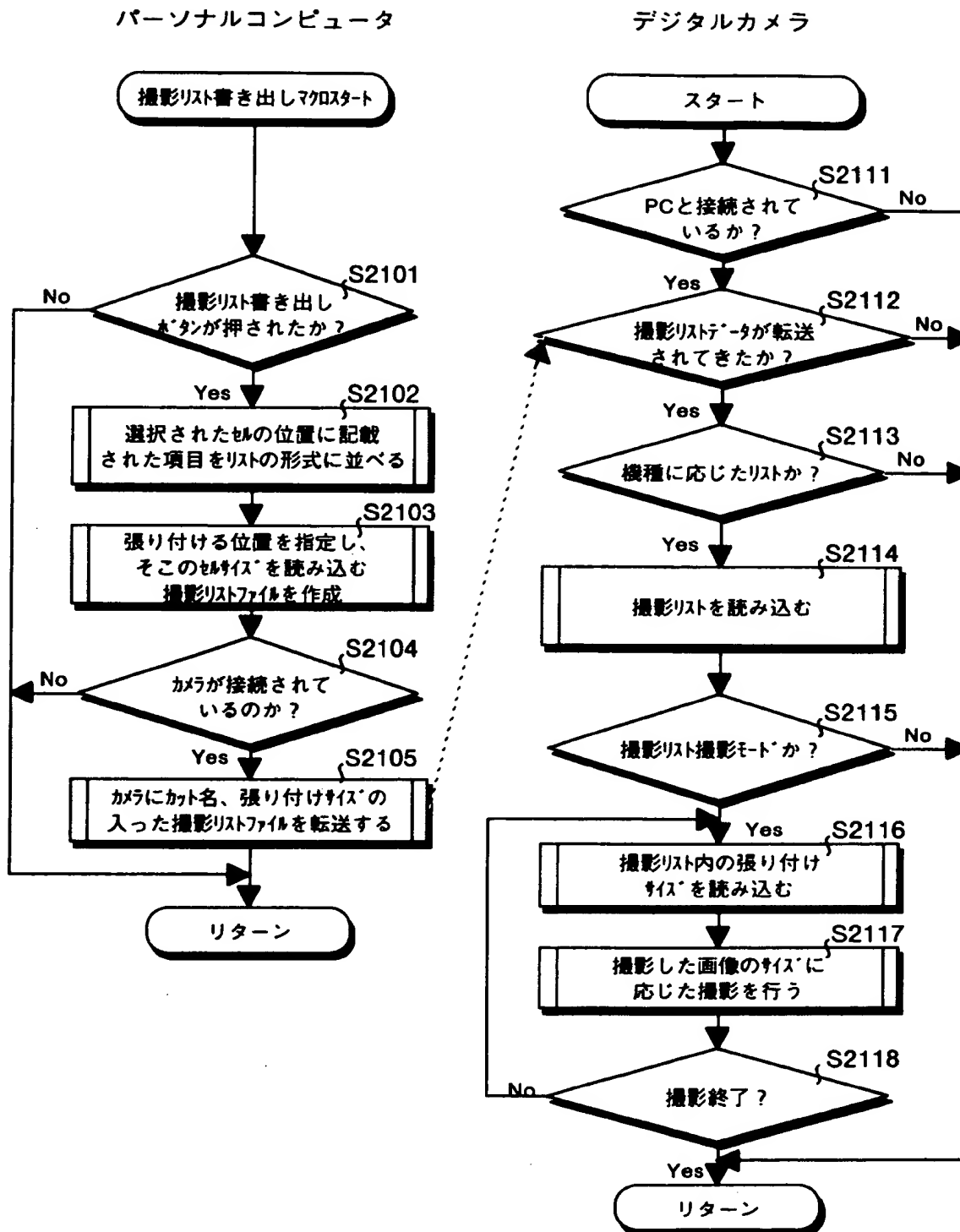
【図 81】



【図 8 2】

	A	B	C	D	E	
1						
2						
3		カット1	Aさんを撮影			
4		カット2	Bさんを撮影			
5		カット3	Cさんを撮影			
6		カット4	Dさんを撮影			
7		カット5	Eさんを撮影			
8						

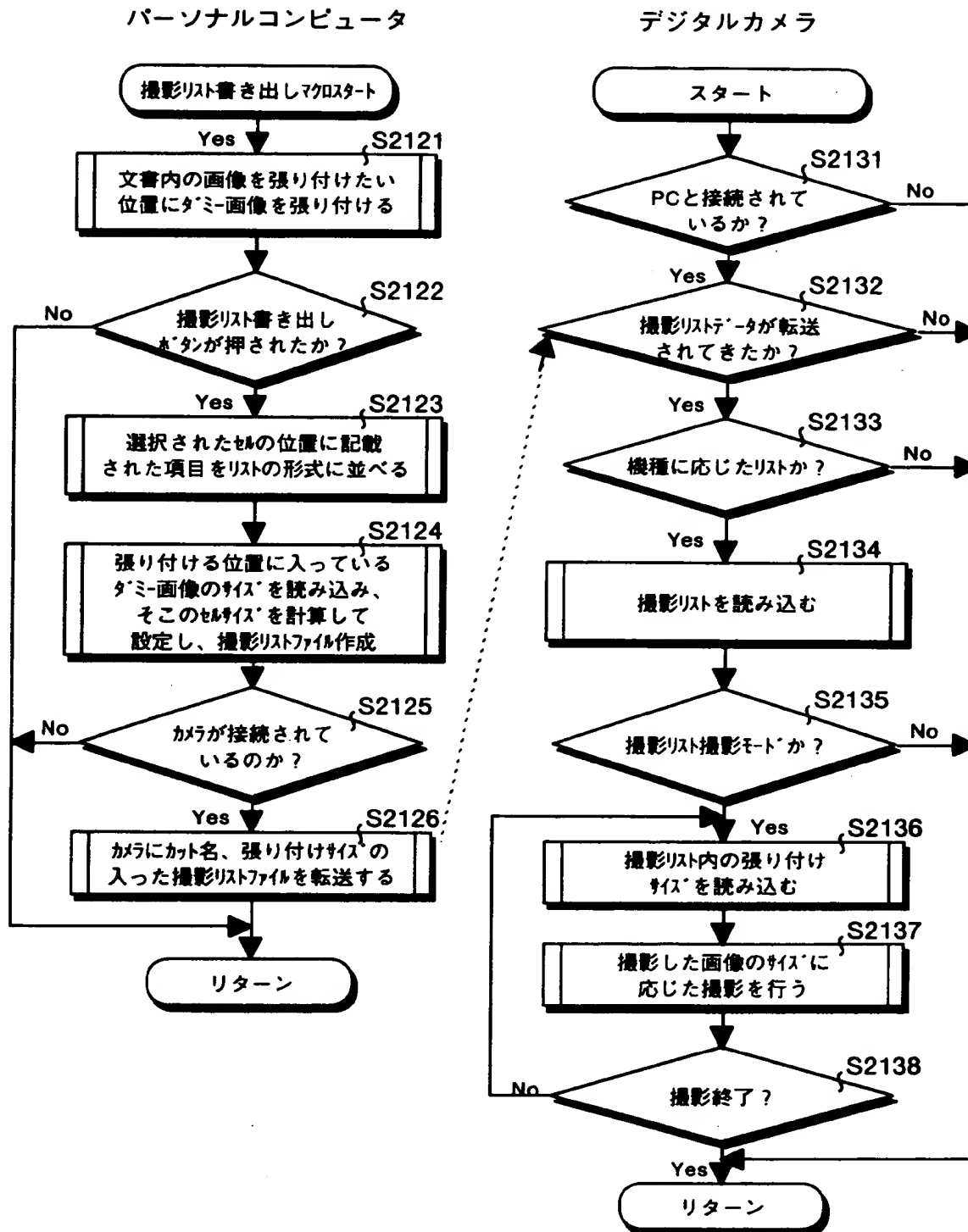
【図 83】



【図 8 4】

	A	B	C	D	
1					
2					
3					
4		カット1			
5		カット2			
6		カット3			
7		カット4			

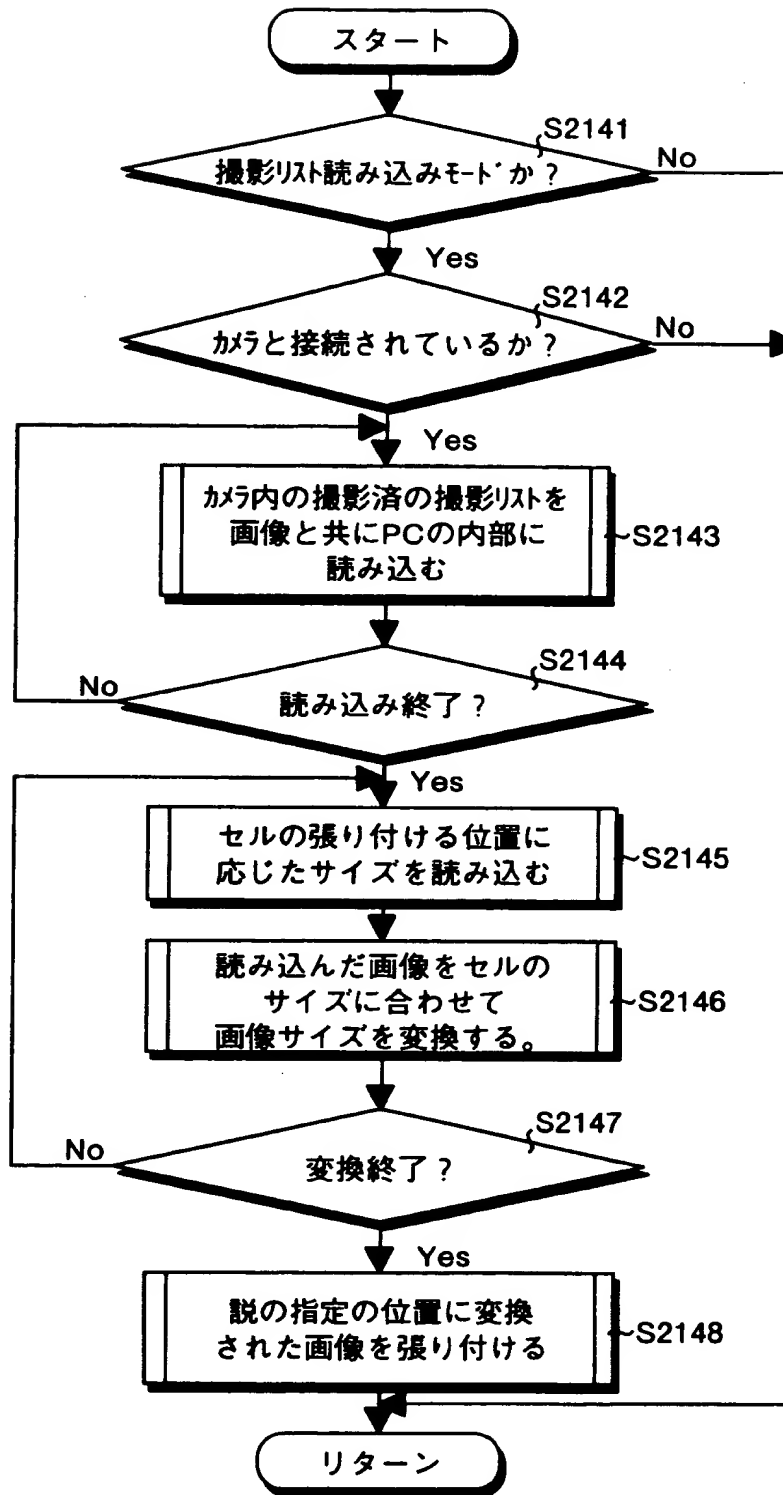
【図 85】



【図 86】

	A	B	C	D	
1					
2					
3					
4		カット1	ダミー画像1		
5		カット2	ダミー画像2		
6		カット3	ダミー画像3		
7		カット4	ダミー画像4		

【図 87】



【図 88】

	A	B	C	D	
1					
2					
3					
4		カット1	画像1		
5		カット2	画像2		
6		カット3	画像3		
7		カット4	画像4		

【図 89】

No.	商品名	撮影指示
1	バッグ	
2	バッグ	ブランドの「K」の文字がはっきり見えるように撮影
3	女性用ミニバッグ	軽くて、おしゃれな感じを出す
4	手提げバッグ	携帯電話を入れるポケットがあることがわかるように撮影
5	名刺入れ	2個ならべて、裏と表のデザインがわかるように
6	ペントレー	実際にペンをのせて撮影
7	札入	色違い3色をならべて撮影
8	ペンケース	大きさがわかるようにタバコを並べて撮影

【図 90】

機種テーブル

		機種コード		
機種能力項目		i 700	i 800	i 900
記録フォーマット	静止画	—	—	—
	2 値画	—	—	—
	動画	—	—	—
	音声	—	—	—
撮像素子		—	—	—
解像度	静止画	—	—	—
	2 値画	—	—	—
	動画	—	—	—
記録モード		—	—	—
記録枚数	静止画	—	—	—
記録時間	動画	—	—	—
	音声	—	—	—
レンズ		—	—	—
ズーム		3 倍	6 倍	3 倍
シャッター		—	—	—
撮影距離		—	—	—
ISO感度		—	—	—
ファインダー		—	—	—
フラッシュ		—	—	—
フォーカス		—	—	—
露出調節		—	—	—
露出補正		—	—	—
ホワイトバランス		—	—	—
セルフタイマー		—	—	—
液晶モニター		—	—	—
拡張スロット		—	—	—
入出力端子		—	—	—
ビデオ信号方式		—	—	—

— : は実際には
データが入っている

【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 必要な被写体の取り忘れや作業漏れを防止可能な画像入力装置を提供すること。

【解決手段】 デジタルカメラ 1 0 0 では、記録すべき被記録対象の 1 または複数のカット名を含む撮影リストを入力し、撮影リストに含まれるカット名を表示部 1 0 4 に表示し、撮影リストのカット名を確認しながら撮影を行う。

【選択図】 図 5

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000006747]

1. 変更年月日 1990年 8月24日
[変更理由] 新規登録
住 所 東京都大田区中馬込1丁目3番6号
氏 名 株式会社リコー